

横浜開港150周年記念事業の総括について

平成21年12月

横浜市開港150周年・創造都市事業本部

目 次

1	開催までの経緯	1
(1)	開港 150 周年に向けた横浜市の体制	1
(2)	横浜市における取組	1
(3)	市会の取組	3
(4)	財団法人横浜開港 150 周年協会の設立	4
(5)	財団法人横浜開港 150 周年協会における取組	4
	開港 150 周年記念事業の全体像	6
2	開港 150 周年記念事業の実施報告	8
(1)	横浜開港”ハッピーバースデー“プロジェクト	10
(2)	横浜の新たな顔づくり・まちづくり推進プロジェクト	21
(3)	市民力・地域力発揮プロジェクト	34
(4)	次世代育成・人材育成プロジェクト	67
(5)	さらなる国際的な発信力を高めていくための都市戦略の取組	70
(6)	横浜開港 150 周年記念テーマイベント「開国博 Y150」	73
3	開港 150 周年記念事業の各種効果	86
(1)	開港 150 周年記念事業の誘客効果	88
(2)	開港 150 周年記念事業の経済波及効果	106
(3)	開港 150 周年記念事業の市民力向上効果	126
(4)	開港 150 周年記念事業による横浜市のイメージ向上効果	149
4	開港 150 周年記念事業の総括	178
5	資料集	195
(1)	調査概要	195
(2)	関連データ等	199
(3)	開国博 Y150 関連資料	201
(4)	横浜開港 150 周年記念事業のあゆみ	204

1 開催までの経緯

(1) 開港 150 周年に向けた横浜市の体制

ア キックオフ

横浜市は、横浜プロモーション推進事業本部（当時）で開港 150 周年に向けた準備を行うことを決め、平成 16 年 6 月 2 日に関係局の運営責任職によるプロジェクトチームを作り、開港 150 周年記念事業に向けたスタートを切りました。

イ 専任組織の設置

平成 17 年 4 月 1 日、「開港 150 周年に向け、総合戦略の構築やイベントの開催支援のため」横浜プロモーション推進事業本部に開港 150 周年担当課長を置き、「横浜開港 150 周年～市政 120 周年～基本ビジョン」の策定に取り組みました。

平成 18 年 4 月には、開港 150 周年となる 2009 年を契機に創造都市横浜を一層発展させていくため、横浜プロモーション推進事業本部と文化芸術都市創造事業本部を改組し、「開港 150 周年・創造都市事業本部」を設置。「横浜開港 150 周年～市政 120 周年～基本計画」を策定し、横浜開港 150 周年推進協議会と連携しながら、「横浜開港 150 周年記念事業コアイベント実施計画」を策定しました。また、地元経済界など民間と行政が一体となった財団法人横浜開港 150 周年協会の設立支援を行ってきました。

ウ 庁内組織の確立

平成 17 年 7 月 8 日、「民が主役の開港 150 周年記念事業」を推進するとともに、それを契機に「チャンスあふれるまち横浜」の実現を図るため、開港 150 周年に関わる主要な方針の策定や庁内調整を行うことを目的とした「横浜開港 150 周年記念事業推進会議設置要綱」を制定しました。

同日、市長を議長とし、全局区事業本部長をメンバーとする第 1 回「開港 150 周年記念事業推進会議」を開催。効率的な事業の推進に必要な調整を行うため、関係部長で構成する「支援会議」と関係課長・係長からなる 2 つの部会（関連戦略事業検討部会、盛り上がり創出部会）を設置しました。

平成 20 年 2 月 7 日、開港 150 周年記念事業実施にあたり各区局事業本部間の調整が必要な緊急的な課題を解決するために、2 つのワーキングチーム（マザーポート事業調整、地域盛り上げ推進）を設置しました。

平成 20 年 7 月 18 日、全庁的に開港 150 周年記念事業を推進する体制を強化するため、「開港 150 周年記念事業推進会議」を改組し、副市長を本部長とする「開港 150 周年記念事業推進本部」を設置しました。区局事業本部を横断して対応しなければならない具体的な課題に対応するため、新たに 5 つの部会（マザーポート事業推進、危機管理、交通対策、接遇・儀典、開港 150 周年記念式典）を設置しました。

(2) 横浜市における取組

ア 「横浜開港 150 周年～市政 120 周年～基本ビジョン」

横浜市では、平成 21 年に迎える横浜開港 150 周年における記念事業の取組指針となる「横浜開港 150 周年～市政 120 周年～基本ビジョン」を平成 17 年 6 月 2 日に公

表しました。

その基本理念は、横浜開港 150 周年を契機に、港や先人たちが果たしてきた役割について改めて評価するとともに、「横浜ならではのフロンティア・スピリッツ」など、これまで培ってきた独創性や進取性といった、横浜の誇れるものを、改めて今日の横浜の様々な面に活かすことにより、次世代の横浜が、夢や希望を持てる、そしてチャンスあふれるまちであるための礎を築くということ、この節目となる記念すべき年を、365 万市民全体で盛大に祝福するとともに、これに共感する多くの市内外の人々にも一緒に祝っていただくこと、としました。

このような観点から、開港 150 周年を、5 つの契機としてとらえ、これらの実現をとおして、「チャンスあふれるまち横浜」を創造することをめざすとしてきました。

【5 つの契機（目標）】

- ① 港と先人の業績への感謝及び賞賛の契機
- ② 市民であることの一体感を醸成する契機
- ③ 次世代の横浜が夢や希望にあふれるまちであるための礎をつくり、再発展を図る契機
- ④ 「横浜らしさ・ならでは」へのこだわりと創造の契機
- ⑤ 集客力を高める絶好の契機

また、開港 150 周年記念事業のイメージ像として、「記念イベント」、「民の自主企画事業」、「横浜市の関連戦略事業」の 3 つの枠組みで構成され、「民が主役の開港 150 周年記念事業」を基本的な考え方として、各事業の具体化に向け取り組んでいくこととしました。

この中で、「記念イベント」のイメージ像として、

- ① 「来場者が港や船に楽しめるイベント」
- ② 「横浜発祥の出来事・モノにまつわるイベント」
- ③ 「日本初・世界初など国内外からの注目度が高いイベント」
- ④ 「来場者が自由に参加して楽しむことができるイベント」

という 4 つを示しました。

イ 「横浜開港 150 周年～市政 120 周年～基本計画」

「横浜開港 150 周年～市政 120 周年～基本ビジョン」の具体化を図る目的で、平成 18 年 6 月 2 日に「横浜開港 150 周年～市政 120 周年～基本計画」を公表しました。

基本計画では、開港 150 周年事業を、「横浜の新たな顔づくり・まちづくり推進プロジェクト」、「市民力・地域力発揮プロジェクト」、「次世代育成・人材育成プロジェクト」、「横浜開港“ハッピーバースデー”プロジェクト」の 4 つのプロジェクトとして推進していくことを示しました。

この中で、開港 150 周年記念イベントは、開港 150 周年記念式典とともに、祝祭として「横浜開港“ハッピーバースデー”プロジェクト」を構成する事業として位置づけられ、『ベイサイドステージ』と『ヒルサイドステージ』の 2 箇所で開催することを初めて示しました。

『ベイサイドステージ』では、みなとみらい地区・日本大通り・大さん橋・象の鼻地区・山下公園などの臨港エリアで、「港」と「歴史」をテーマに 2009 年の 4 月から 9 月にかけて開催することを、『ヒルサイドステージ』では、ズーラシア未整備地区で、「自然・環境」、「地域」、「共生」、「市民との協働による制作・運営」をテーマに平成 21 年 6 月から 8 月にかけて開催することを示しました。

その後、横浜市は平成 18 年 9 月 6 日に、開港 150 周年記念式典及び開港 150 周年記念イベントのプロデューサーを記者発表し、開港 150 周年記念式典のプロデューサーが宮本亜門氏、ベイサイドステージが日比野克彦氏、ヒルサイドステージが小川巧記氏に決定しました。

ウ 「横浜市中期計画」重点事業「横浜開港 150 周年記念式典及び記念イベント」

平成 18 年 12 月に発行された「横浜市中期計画」の重点事業として、開港 150 周年を、横浜の歴史や先人の業績を知る機会にするとともに、「チャンスあふれるまち」の創造に向けて動き出している横浜を発信するため、記念式典並びに記念イベントを開催し、市民とともに祝うことを掲載しました。

エ 「横浜開港 150 周年記念事業コアイベント実施計画」

基本計画で示した開港 150 周年記念イベントの開催概要を具体化するため、平成 19 年 5 月 22 日に「横浜開港 150 周年記念事業コアイベント実施計画」を公表しました。

この計画では、基本ビジョンに謳われた「5つの契機」を開催の趣旨とし、コミュニケーションの目標は、『来場者が魅力と活力にあふれる「チャンスあふれるまち 横浜」を感じることにし、全体テーマは「出航」としました。

実施概要と基本目標は次のとおりです。

- ・事業名称：横浜開港 150 周年記念コアイベント
- ・会 期：平成 21 年 5 月 1 日～9 月 27 日 150 日間
- ・会 場：[テーマステージ] みなとみらい 21 新港地区 8 街区
[ベイサイドステージ] パシフィコ横浜展示ホール、赤レンガ倉庫イベント広場、大さん橋ホール
[ヒルサイドステージ] 横浜動物園の森公園(ズーラシア未整備地区)
- ・主 催：財団法人横浜開港 150 周年協会・横浜市
- ・集客目標：500 万人以上（関連イベント含む）

この実施計画については、基本計画で示された 150 周年記念イベントの開催概要を具体化するため、横浜市が「横浜開港 150 周年記念事業コアイベント実施計画」を策定する事業者をプロポーザル方式で公募し、ベイサイドステージは(株)博報堂 JV、ヒルサイドステージは(株)アサツー ディ・ケイが受託しました。

(3) 市会の取組

ア 開港 150 周年事業推進特別委員会の設置

平成 17 年 5 月 30 日の横浜市会本会議において、「開港 150 周年事業推進特別委員会」の設置が決定し、同 6 月 28 日第 1 回委員会が開催されました。

- ◎平成 17 年度 委員会 4 回、視察 2 回
- ◎平成 18 年度 委員会 2 回、視察 2 回
- ◎平成 19 年度 委員会 3 回、視察 2 回
- ◎平成 20 年度 委員会 3 回、視察 2 回

開港 150 周年事業推進特別委員会委員名簿

役職	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
委員長	牧嶋 秀昭	横溝 義久	森 敏明	谷田部 孝一
副委員長	瀬之間 康浩	斉藤 達也	福田 進	佐藤 茂
副委員長	坂井 太 森 裕之(H18.4.13~)	米盛 裕子	高橋 正治	福島 直子
委員	清水 富雄	佐藤 祐文	田野井 一雄	斉藤 達也
委員	関 貞彦	関 貞彦	角田 宏子	藤代 耕一
委員	藤代 耕一	藤代 耕一	横山 正人	山下 正人
委員	横山 栄一	山田 一海	中尾 智一	飯田 助尚
委員	川辺 芳男	浅川 義治	谷地 伸次	川辺 芳男
委員	中島 憲五	飯沢 清人	大滝 正雄	大滝 正雄
委員	大滝 正雄	川辺 芳男	内田 重雄	今野 典人
委員	手塚 静江	加納 重雄	田中 紳一	若林 智子
委員	米盛 裕子	福島 直子	井上 さくら	関 美恵子
委員	大桑 正貴	井上 さくら	大桑 正貴	片桐 紀子

(4) 財団法人横浜開港 150 周年協会の設立

開港 150 周年記念イベントを実施する主体については、横浜市と横浜商工会議所が協議し、平成 15 年 11 月 20 日に横浜商工会議所内に「近代日本開国・横浜開港 150 周年記念事業推進協議会」が設立され、その後、この組織の再編・強化を図った「横浜開港 150 周年推進協議会」が平成 18 年 4 月 28 日に設立されました。

さらに、この組織を母体とした公益法人として、平成 19 年 2 月 27 日に『財団法人横浜開港 150 周年協会』が設立されました。この際、横浜市では、官民一体となって開港 150 周年記念事業を成功させるため、基本財産の出えん、事業費の補助、職員の派遣協力を行っていくこととしました。

設立の趣旨は、「横浜開港 150 周年（2009 年）を迎えるに当たり、横浜開港 150 周年記念に関する事業を実施し、及び支援することにより、神奈川県内市町村、開国 5 か国、開港 5 都市等との国際交流及び地域交流を深め、これまでの先人たちが積み上げてきた実績等を引き継ぐことで次世代の子どもたちを育成するとともに、観光施策を積極的に推進し、もって国際交流の促進及び地域の活性化に寄与することを目的とする」ものであり、市民・企業・行政が連携して記念事業を進めていくこととしました。

(5) 財団法人横浜開港 150 周年協会における取組

ア 横浜開港 150 周年記念テーマイベント「開国・開港 Y+150」の実施設計策定

平成 19 年 4 月 1 日から本格的な業務を開始した『財団法人横浜開港 150 周年協会』では、「横浜開港 150 周年記念事業コアイベント実施計画」を基本として、開港 150

周年記念イベントの具体化と運営準備を行うため、イベントの実施設計及び制作運営を委託する事業者を、プロポーザル方式により公募しました。

その後、各種業者選定の事務手続きを経て、平成19年7月19日に、ベイサイドステージについては(株)博報堂 JV、ヒルサイドステージについては(株)アサツー ディ・ケイが受託業者として決定されました。

平成19年10月11日には、開港150周年記念テーマイベントの概要を発表し、その後、平成20年3月、ベイサイドステージ及びヒルサイドステージの実施設計を策定し、平成20年5月に、理事会への報告を経て、「メインコンテンツ決定」の発表を行いました。

イ プロデューサーの決定

協会設立以前は、式典・テーマイベントに共通する事項については、宮本亜門氏・小川巧記氏・日比野克彦氏の3人のプロデューサーで打合せを行い、横浜市と協会に提案する形を採っていました。

各プロデューサーの役割については、市・協会・プロデューサーと協議し、式典に関することは、宮本亜門氏の専任事項とし、横浜開港150周年記念コアイベントに関することは、小川巧記氏と日比野克彦氏の専任事項としました。

協会では、横浜市が選任していた小川巧記氏・日比野克彦氏に、引き続き2009（平成21）年度までプロデュース業務を委託することとし、平成19年4月に契約を締結しました。

プロデューサーの業務内容は、小川巧記氏が総合プロデューサーとして総合的な演出・監修に関することを担当し、日比野克彦氏がアートプロデューサーとしてイベント全体のアートにかかる監修を担当されることとなりました。

ウ 開国博 Y150 の開幕準備

開港記念日の平成20年6月2日に、第1期前売り入場券の販売を開始し、105万7千枚を販売しました。12月1日から第2期前売り入場券の販売を開始し、1期、2期合計で121万5百枚を販売しました。

また協賛金獲得に向けて、平成19年10月に「事業説明会」を開催し、400社の企業が参加しました。その後、平成20年9月、12月、平成21年4月の3回にわたって協賛企業を発表し、計94社に協賛をいただきました。

運営体制の整備では、会場内で案内業務や環境美化活動などを行うボランティアの募集や研修、シャトルバス運行などの交通対策、イベント情報などの提供を行う情報センターの立ち上げなど、開幕に備えた運営面の準備を進めました。

また会場の整備では、開国博 Y150 のうち、ベイサイドエリアでは「はじまりの森」や「トゥモローパーク」などを、ヒルサイドエリアでは「竹の海原」などの整備を行いませんでした。

エ 開国博 Y150 の開催

4月17日から19日に、プレイイベントとして「ラ・マシン・スペクタクル」を開催しました。横浜の街を劇場として行われたスペクタクルは国内外から大きな注目を集め、3日間で62万人の観客を動員しました。

4月27日に開国博 Y150 全体の開幕を祝う開幕式を開催し、7月4日にヒルサイド会場の開会式を行いました。その後、総入場者数716万6,300人、有料入場者数123万9,325人を集めた開国博 Y150 は、9月28日大きな事故もなく無事閉幕しました。

「チャンスあふれるまち 横浜」

*5つの契機

- 1 港と先人の業績への感謝及び賞賛
- 2 市民であることの一休感の醸成
- 3 夢や希望にあふれるまちへの礎をつくり、その魅力を発信しながら再発展を図る
- 4 「横浜らしさ・ならでは」へのこだわりと創造
- 5 大きな盛り上がり創出とプロモーション活動強化による集客力向上

5つの契機を実現するための4つのプロジェクト

① 横浜開港「ハッピーバースデー」プロジェクト

祝祭

横浜開港150周年記念式典

- 2009(平成21)年5月31日(日) パシフィコ横浜国立大ホール
- ・セレモニー
 - ・宮本亜門オリジナルショー「ヴィジョン!ヨコハマ」



祝祭イベント

- ・H.I.S.2009年世界卓球選手権横浜大会
- ・日本大通りフラワーアートフェスティバル
- ・海のエジプト展～海底からよみがえる古代都市アレクサンドリアの至宝～
- ・海フェスタよこはま
- ・2009横浜国際トライアスロン大会
- ・大道芸 ・ザよこはまパレード ・横浜開港祭 など



横浜開港150周年記念テーマイベント「開国博Y150」

ベイサイド
エリア

みなとみらい21新港地区周辺
会期：2009(平成21)年4月28日(火)～9月27日(日)

ヒルサイド
エリア

よこはま動物園ズーラシア隣接地区
会期：2009(平成21)年7月4日(土)～9月27日(日)

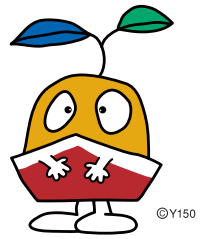
マザー
ポート
エリア

横浜駅周辺から山下・山手地区
会期：2009(平成21)年の年間を通じて展開

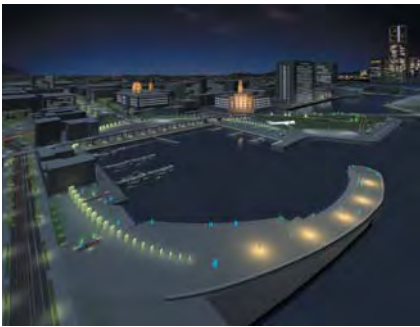
市民参加
イベント

横浜FUNプロジェクト/DO-RA-MA YOKOHAMA150/横浜・開港キャンドルカフェ150





まち みなと



② 横浜の新たな顔づくり・まちづくり推進プロジェクト

新たな顔づくり

- ・象の鼻地区再整備事業
- ・マリントワー再整備
- ・アメリカ山公園整備
- ・日本丸メモリアルパークリニューアル など

文化芸術創造都市形成

- ・ナショナルアートパーク構想
- ・ヨコハマ国際映像祭2009
- ・創造の担い手育成 など
- ・創造界隈形成

まちづくり

- ・横浜駅周辺大改造計画
- ・戸塚駅周辺地区整備
- ・市内米軍施設の返還と跡地利用の推進
- ・羽田空港の国際化 など

ひと



③ 市民力・地域力発揮プロジェクト

- ・文化芸術の持つ創造性を活かした地域づくり
- ・市民参加プラットフォーム推進委員会
- ・150万本植樹行動と150周年の森づくり
- ・開港150周年記念障害者スポーツ文化事業
- ・横浜18区紹介デー
- ・各区の取組
- ・マザーポートエリア
- ・地域や民間主体の取組 など

④ 次世代育成・人材育成プロジェクト

- ・小中一貫英語教育の推進
- ・横浜開港150周年記念副読本発行事業
- ・横浜サイエンスフロンティア高等学校の整備
- ・子育て家庭応援事業「ハマハグ」



開港150周年を迎え、さらなる国際的な発信力を高めていくための都市戦略の取組

- ・横浜クリエイティブシティ国際会議2009
- ・2009年シティネット横浜大会
- ・2010年日本APEC首脳会議の横浜開催の決定

2 開港 150 周年記念事業の実施報告

(1) 横浜開港”ハッピーバースデー”プロジェクト	10
ア 横浜開港 150 周年記念式典	10
イ 開港 150 周年記念 新春 安全安心フェスティバル	10
ウ 第 20 回全国「みどりの愛護」のつどい	11
エ H. I. S. 2009 年世界卓球選手権横浜大会	12
オ 日本大通りフラワーアートフェスティバル	13
カ 海のエジプト展～海底からよみがえる、古代都市アレクサンドリアの至宝～	14
キ 海フェスタよこはま	14
ク 2009 横浜国際トライアスロン大会等	15
ケ 関連集客イベント	17
コ 横浜グランドミュージアム	18
サ 横浜・神奈川デスティネーションキャンペーン	19
シ 野毛地区インフォメーションセンターオープン	20
(2) 横浜の新たな顔づくり ・まちづくり推進プロジェクト	21
ア 象の鼻地区再整備事業	21
イ マリインタワー再整備	22
ウ アメリカ山公園整備	23
エ 日本丸メモリアルパークリニューアル	24
オ ナショナルアートパーク構想	24
カ ヨコハマ国際映像祭 2009	25
キ 創造界限形成	26
ク 創造の担い手育成	27
ケ 横浜駅周辺大改造計画	29
コ みなとみらい 21 環境整備	29
サ 戸塚駅周辺地区整備	30
シ まちのバリアフリー推進	31
ス 市内米軍施設の返還と跡地利用の推進	31
セ 歴史的・文化的資産を活用した魅力ある公園づくり	31
ソ 羽田空港の国際化	32
タ 都心臨海部・インナーハーバー整備構想	33

(3) 市民力・地域力発揮プロジェクト 34

ア	クラシック・ヨコハマ推進事業	34
イ	文化芸術の創造性を活かした地域づくり	34
ウ	横浜あかりアーツコラボレーション 2009	35
エ	横浜アートサイト 2009	35
オ	市民参加プラットホーム推進委員会	36
カ	横浜開港の歴史を振り返る様々な記念出版	38
キ	横浜開港の歴史を体験できる様々な事業の実施	39
ク	150万本植樹行動と開港150周年の森づくり	42
ケ	「たまくすプロジェクト」樹勢回復記念植樹事業	42
コ	コラボレーションフォーラム横浜 2009	43
サ	開港5都市景観まちづくり会議 2009 横浜大会	44
シ	開港150周年記念障害者スポーツ文化事業	45
ス	横浜ライフデザインフェア 2009	45
セ	「はまっ子どうし」事業	46
ソ	横浜18区紹介デー	46
タ	各区の取組	47
チ	マザーポートエリア	62
ツ	地域や民間主体の取組	65

(4) 次世代育成・人材育成プロジェクト 67

ア	小中一貫英語教育の推進	67
イ	横浜開港150周年記念副読本発行事業	67
ウ	横浜サイエンスフロンティア高等学校の整備	68
エ	子育て家庭応援事業「ハマハグ」	69

(5) さらなる国際的な発信力を高めていくための 都市戦略の取組 70

ア	横浜クリエイティブシティ国際会議 2009	70
イ	2009年シティネット横浜大会	71
ウ	2010年日本APEC首脳会議の横浜開催の決定	72

(6) 横浜開港150周年記念テーマイベント 「開国博 Y150」 73

※ この実施報告は平成18年6月2日に公表された「横浜開港150周年～市政120周年～基本計画」に掲載された事業をもとに作成しており、民間主催の記念事業や地域で行われた記念事業の全てを掲載してはおりません。

(1) 横浜開港”ハッピーバースデー”プロジェクト

先人の業績や歴史を知る機会にするとともに、「チャンスあふれるまち」の創造に向けて、横浜全体がお祭ムードあふれるような、記念式典や記念イベントを多くの市民や企業とともに開催しました。

ア 横浜開港 150 周年記念式典

- ・ 開催日 平成 21 年 5 月 31 日 (日)
- ・ 会場 パシフィコ横浜国立大ホール
- ・ 参加者数 3,478 人

開港 150 周年を多くの市民とともに祝い、日本の近代化を牽引してきた横浜の歴史を再認識し、先人の業績に感謝するとともに、未来への希望を共有し、さらなる発展への契機とするため式典を開催しました。

式典当日には、天皇皇后両陛下の御臨席を仰いだことをはじめ、三権の長、開港 5 か国の大使、姉妹友好都市の首長など国内外から 1,690 人の来賓にお越しいただくとともに、御招待した 1,788 人の市民が出席し、パシフィコ横浜国立大ホールを会場に、開港 150 周年の節目にふさわしい大規模で格調の高い式典となりました。

第 2 部として式典のプロデューサーである演出家宮本亜門氏の作・演出による、オリジナルショー「ヴィジョン！ヨコハマ」が上演され、感動のフィナーレでは大ホールが満場の拍手に包まれました。

また、式典の様様をテレビ神奈川が同時中継し、多くの市民が自宅で感動を共有しました。

<ヴィジョン！ヨコハマ>

アンケートで寄せられた市民の「横浜に対する想い」をもとに練り上げられたシナリオに、歌・ダンス・パフォーマンスを織り込みながら、開港以来の横浜の歴史と、これから紡ぎ出していく未来を表現した、この日限りの特別なショーを上演しました。

ナビゲーターの谷原章介さん、飯島直子さんをはじめ、草笛光子さん、五大路子さんなど横浜ゆかりの俳優やタレントなど 9 人をメインキャストに迎え、オーディションで選考された約 500 人の市民が演技、合唱などでショーを盛り上げました。また、ラストシーンでは、横浜出身の人気デュオ「ゆず」が登場し、自身の作である開港 150 周年のテーマソング「みらい」を熱唱し、会場を感動でつつみました。



イ 開港 150 周年記念 新春 安全安心フェスティバル

～明るいヨコハマの未来に向かって新たな船出～

開港 150 周年を迎えた新春に、明るいヨコハマの未来に向かって新たな船出となるよう、その根底にある「安全・安心」について市民の皆さんと共に考え、実感できるよう、新しいスタイルの市民参加型イベントとして開催したものです。

- ・ 開催日 平成21年1月10日(土)
- ・ 会場 横浜赤レンガ倉庫 イベント広場
- ・ 参加者数 約20,000人

① オープニングセレモニー

(市長、局長、中丸雄一「RESCUE～特別高度救助隊」ドラマ出演者)

- ② 獅子舞(六ツ川大池囃子保存会)
- ③ 古式消防演技 木遣り・纏振り込み・はしご乗り(横浜市鳶工業連絡会)
- ④ 災害救助犬演技(NPO法人神奈川救助犬ネットワーク)
- ⑤ 人命救助ロボット展示(長岡科学技術大学・(株)プロジェクトアイ)
- ⑥ 地震防災教育(東京工業大学都市地震工学センター)
- ⑦ 緊急地震速報PR(横浜地方気象台)
- ⑧ TBSドラマ「RESCUE 特別高度救助隊」出演者によるトークショー
- ⑨ 新人消防職員演技・消防音楽隊演奏・救命連携活動演技・陸海空放水演技・特別高度救助部隊(スーパーレンジャー)展示・訓練
- ⑩ 安全・安心広報(住宅用火災警報器、横浜型新救急システム、こども安全の日、木造耐震化促進、消防団の活動、開国博Y150PR等)
- ⑪ 参加体験コーナー(震度体験、AED・救命処置訓練、はしご搭乗、ヘリ搭乗、防火衣試着、防災クイズラリー等)

横浜市鳶工業連合会の皆さんによる「はしご乗り」や消防隊・消防艇・消防ヘリコプターによる陸海空からの放水、特別高度救助部隊(スーパーレンジャー)の迫力ある訓練などを披露するとともに、震度体験や横浜型新救急システム「コールトリアージ」の紹介など、大勢の来場者を迎え、開催しました。

また、「KAT-TUN(カトゥーン)」の中丸雄一さんが登場し、本市の全面協力により撮影されたテレビドラマの紹介も行いました。

人命救助に日夜取り組む消防の仕事への理解とともに、地震などの災害に対する備えを家庭や地域で確認し、安全・安心を実感する機会となりました。



ウ 第20回全国「みどりの愛護」のつどい

- ・ 開催日 平成21年4月19日(日)
- ・ 会場 横浜動物の森公園(よこはま動物園ズーラシア隣接地区)
- ・ 来場者数 約1,500人

全国みどりの愛護団体関係者等が一堂に集い、広く都市緑化意識の高揚を図り、緑豊かな潤いのある住みよい環境づくりを推進するため、第20回全国「みどりの愛

護」のつどいを開催しました。

式典には、皇太子同妃両殿下の御臨席を仰ぎ、国土交通大臣、神奈川県知事、横浜市長、神奈川県議会議長、横浜市会議長をはじめとする方々が一堂に会しました。

式典では、開式の辞、国歌斉唱の後、国土交通大臣、神奈川県知事、横浜市長から主催者あいさつをいたしました。続いて、みどりの愛護活動事例紹介では、美しが丘公園愛護会会長、美しが丘小学校及び美しが丘中学校の生徒が、日ごろの活動発表を行いました。



次に、花と緑の愛護に顕著な功績のあった団体に対して国土交通大臣表彰を行い、さらに今回のつどい開催を記念して、神奈川県都市緑化功労者知事表彰、横浜市 150 万本植樹行動市長表彰を行いました。

表彰の後、皇太子殿下からは、「緑を守り、創り出していくには、多くの人々がその大切さを理解し、幅広く運動に参加することが重要」とのお言葉を賜りました。

最後に、タケカワユキヒデさん親子や赤い靴記念文化事業団の方々が歌う、今回のつどいの応援ソング「ビューティフルネームアゲイン」に乗せて、中山緑の少年団の方から誓いの言葉を宣言していただき、閉式の辞で幕を閉じました。

式典終了後の受賞団体代表御会釈やパネル展示御覧を経て、皇太子同妃両殿下には主催者及び各都道府県・政令市の受賞者代表の方々とご一緒に、記念植樹を行っていただきました。

神奈川県議会議長の開式の辞に続き、皇太子殿下にはシダレザクラを、皇太子妃殿下にはベニシダレザクラを、国土交通大臣はじめ神奈川県知事や横浜市長などにはオカメザクラとリョクガクバイを、その他の方々にはエゴノキ、ナツツバキ、ヤマボウシ、タブノキを植樹していただき、横浜市会議長の閉式の辞で記念植樹を終えました。

なお、このつどいと同時期に、神奈川県内の公園で開催された緑に関するイベントを関連イベントとして、広報等で連携を図り、つどいが開催された当日及び前日には、横浜動物の森公園内において「緑あるライフスタイルまつり」を開催し、緑を守り・つくり・育て・楽しむライフスタイルを紹介するイベントを行いました。

エ H. I. S. 2009 年世界卓球選手権横浜大会

- ・ 開催日 平成 21 年 4 月 28 日（火）～5 月 5 日（火・祝）
- ・ 会場 横浜アリーナ
- ・ 来場者数 64,829 人

国際卓球連盟が主催する世界最高峰の大会。団体戦と個人戦を隔年開催し、横浜大会では個人戦 5 種目（男女シングルス・男女ダブルス・混合ダブルス）を実施しました。

今大会には、145 の国と地域から男子 326



名、女子 218 名の選手が参加し、日本人選手では、男子ダブルスの岸川聖也選手、水谷隼選手のペアが、12 年振りに銅メダルを獲得いたしました。大会の総入場者数も 64,829 人にのぼり大盛況の大会となりました。

オ 日本大通りフラワーアートフェスティバル

- ・ 開催日 平成 21 年 5 月 2 日（土）～5 月 4 日（月・祝）
- ・ 会場 日本大通り（横浜公園交差点～港郵便局前交差点）
- ・ 参加人数 約 1,800 人（花絵制作関連）
- ・ 来場者数 約 52 万人

横浜開港の地である象の鼻地区から横浜公園に向かって一直線に伸びる日本大通りは、日本初の西洋式街路であり、銀杏並木や歴史的建造物に囲まれた美しい通りとして親しまれています。その大通りを花絵で飾り、楽しみながら横浜の歴史と道路の大切さを再認識してもらうため、日本大通りフラワーアートフェスティバルが開催されました。

車道部分をキャンバスに見立てて制作された花絵は、「横浜絵」10 枚と市民公募による「私の好きな横浜」10 枚、「ディズニーの仲間たち」1 枚の計 21 枚です。花絵には横浜市の花であり開港時に上陸したといわれるバラ 18 万本と、開港 5 都市の 1 つである新潟市で横浜市民 53 人が摘んできたチューリップ 6 万本、そして 9 色のカラーサンドが使用されました。花絵制作に集まった約 1,800 人の市民ボランティアたちは 5 月 2 日午前、パシフィコ横浜において花ほぐしを行い、午後「大通りでの作業を開始しました。通りを埋め尽くした市民ボランティアたちは、楽しみながらも真剣に花絵と向き合いました。

定期的にメンテナンスを行ったことで、常に緻密で美しい状態を保つことができ、道行く人々からは「きれい」という賛辞の言葉が飛び交いました。歩道上に設置された新潟市や協賛企業等の PR ブースでは、アグリクラフトの制作体験やミニハンギングバスケット教室も開催され、また夜間はライトアップにより、昼間とは一味違う幻想的な雰囲気に包まれました。

3 日間の来場者数は約 52 万人と、盛況のうちにイベントは終了しました。本イベント周知のために平成 20 年 11 月にはプレイベントが実施され、ボランティア募集においても定員をはるかに上回る応募が寄せられるなど、開催前から市民の関心が高く、また多くのマスコミに報道され、晴天にも恵まれたことが、50 万人を越す来場者数につながりました。



カ 海のエジプト展～海底からよみがえる、古代都市アレクサンドリアの至宝～

- ・ 開催日 平成21年6月27日(土)～9月23日(水・祝)
- ・ 会場 パシフィコ横浜 展示ホールD
- ・ 来場者数 約70万人

「海のエジプト展 ～海底からよみがえる、古代都市アレクサンドリアの至宝～」は、開港150周年記念事業として、6月27日から9月23日までの89日間にわたって開催されました。来場者は69万7,222人にのぼり、会場となったパシフィコ横浜で開催されたイベントの最多来場者数を記録しました。

本展は古代エジプトがテーマの大規模な国際巡回展で、ヨーロッパに続いて横浜でアジア初公開されました。クレオパトラの宮殿があったと言われるエジプト・アレクサンドリア沖の海底遺跡から発掘された、約5メートルものファラオなど3体の巨像やステラ(石碑)、金や宝石で彩られたアクセサリー、クレオパトラの横顔が彫られたコインなど、約490点すべてが日本初公開されたほか、日本独自のコンテンツとして、海底探査の疑似体験や再現された古代都市を空から見られるバーチャル体験シアターや古代の香りの再現展示、映像による発掘体験コーナーなども加わり、エンターテインメント性の高い展覧会として好評を博しました。また、本展を記念して、発掘者である海洋考古学者フランク・ゴディオ氏を招いたシンポジウムも開催されました。

なお、本展には、横浜市民1,500組(3,000名)が招待されるとともに、市内の小学4年生から中学3年生までの児童・生徒には料金が割引となるスペシャルリーフレットが配布され、多くの市民が来場しました。

横浜市は、開国博 Y150 やマザーポートエリアを紹介するブースを展覧会場に設置し、回遊性を高めました。



キ 海フェスタよこはま

- ・ 開催日 平成21年7月18日(土)～26日(日)
- ・ 会場 みなとみらい地区及び大さん橋周辺地区
- ・ 来場者数 約55万人

「海フェスタよこはま」は、「海の恩恵に感謝し、海洋国日本の繁栄を願う日」という「海の日」本来の意義を再認識し、海に親しむ環境づくりを進めることを目的として、みなとみらい地区や大さん橋周辺を中心に7月18日(土)から7月26日(日)までを集中期間として開催し、期間を通じて約55万人の方にご来場いただきました。

記念式典(7月23日)では、秋篠宮同妃両殿下のご臨席を仰ぎ、海事功労者表彰及び中学生海の絵画コンクール表彰等を行いました。

7月22日に行われた世界港湾セミナーでは、横浜港の姉妹港、友好港、貿易協力港6港に加え、昨年横浜で開催された第4回アフリカ開発会議（TICADIV）のフォローアップとしてアフリカ8か国の参加も得て、環境問題やコンテナターミナルの運営などの港湾の現代的課題についての議論が行われ、傍聴した市民とも活発に質疑が交わされました。最後に各港の参加者が「世界港湾セミナー2009宣言書」へ署名し、各港間の相互理解と連携の強化を確認しました。

また、期間中は開港150周年と「海フェスタよこはま」の開催をお祝いするために、帆船、調査船、砕氷艦、護衛艦など12隻の様々な船舶が、毎日のように一般公開を行いました。なかでも7月20日の「海の日」には、大型帆船3隻による総帆展帆を行い、18万人もの多くの皆様にお越しいただきました。

他にも、国や港湾関係団体が海や港のPRを行った海の総合展（7月18日～26日）では、直接海の生き物に触れることができるタッチングプールや葦船体験、操船シミュレーターなど、日頃接する機会の少ない様々な「海」に関する展示があり、子どもたちをはじめ来場者が海や港に親しみました。

6月に新しく完成した象の鼻パークでも、官公庁の音楽隊による海フェスタコンサート（7月25日、26日）やセグウェイの体験試乗（7月19日開催）を行なったほか、コンテナ展やみなと探検ツアーなど、多彩な催しを展開しました。

最終日には、来年の開催地である長崎市・五島市・新上五島町を代表して、田上長崎市長へ海フェスタフラッグを引継ぎました。

（参考URL）

<http://www.umifesta2009.jp/>



ク 2009 横浜国際トライアスロン大会等

（2009 トライアスロン世界選手権シリーズ横浜大会・世界キッズトライアスロン大会
・世界こどもスポーツサミット in 横浜）

- ・ 開催日 平成21年8月21日（金）～8月23日（日）
- ・ 会場 山下公園周辺等
- ・ 来場者数 約27万2千人

開港150周年記念するスポーツイベントとして、「2009横浜国際トライアスロン大会」、「世界キッズトライアスロン大会」、「世界こどもスポーツサミット in 横浜」の事業を実施しました。

（7） 2009 トライアスロン世界選手権シリーズ横浜大会

国際的なトライアスロン大会の最高グレードの「世界選手権シリーズ」の第7戦目の大会として開催しました。

- ① 開催日・参加者数 等
21の国から101人が参加

開催日	区分	年齢	参加者数
平成21年 8月22日(土)午前	ユース女子	16歳～19歳	7人
	エリート女子	18歳以上	29人
平成21年 8月23日(日)午前	ユース男子	16歳～19歳	23人
	エリート男子	18歳以上	42人
合 計			101人

② 開催場所

山下公園をスタート・フィニッシュ地点とし、関内・山下地区、赤レンガ倉庫周辺の横浜開港に縁のある特別コースで実施

(イ) 世界キッズトライアスロン大会

子ども達にスポーツを通じた国際交流の場を提供するために開催しました。

① 開催日時 平成21年8月23日(日) 13:00 から

② 開催場所

山下公園をスタート・フィニッシュ地点とし、山下ふ頭を自転車競技の会場とする特別コースで実施

③ 参加者数

13の国と地域から257人が参加(うち横浜市在住者は20人)

区分	年齢	参加者数		
		女子	男子	合計
キッズ1	6歳～9歳	31人	54人	85人
キッズ2	10歳～15歳	81人	91人	172人
合 計		112人	145人	257人

(ウ) 世界こどもスポーツサミット in 横浜

未来を担う国際性を持った青少年の人材育成の一環として、世界キッズトライアスロン大会に参加した海外からの子ども達と日本の子ども達とが参加して実施しました。

① テーマ

「フェアプレーの精神で、よりよい未来をつくろう！」
—私たちが、スポーツを通じてよりよい未来づくりのためにできること—

② 開催日時 平成21年8月21日(金) 10:00～16:15

③ 会 場 パシフィコ横浜 会議センター

④ 参加者数等

16の国と地域から927人が参加

区分	海外	国内	合計
子ども	89人	384人	473人
大人	33人	421人	454人
合 計	122人	805人	927人

⑤ 「世界こどもスポーツ横浜宣言」

日本及び海外の各代表キャプテン達が、「環境」「健康」「友情・平和」「努力・挑戦」「フェアプレー」の5つのテーマについて公開討論し、宣言文を発表しました。

⑥ 国際オリンピック委員会への訪問

この宣言文を世界中に広げていくことを目指し、平成21年9月22日に、子ども達の代表2名が国際オリンピック委員会本部（スイス・ローザンヌ）を訪問し、同委員会のジャック・ロゲ会長に手渡しました。



(エ) 大会を支えたボランティア

8月19日から24日までの6日間で、観客誘導、コース整理、スポーツサミットでの通訳等に延べ1,381名のボランティアの方々に協力いただきました。

ケ 関連集客イベント

(ア) 大道芸

	日程	会場	集客
野毛大道芸	4月25・26日	野毛地区	約18万2千人
ヨコハマ大道芸	4月18・19日	伊勢佐木、吉田町、馬車道	約107万人
みなとみらい21大道芸	4月18・19日	みなとみらい地区	約60万人

4月18日、19日には伊勢佐木町、馬車道、吉田町を会場としているヨコハマ大道芸と、みなとみらい地区を会場としている、みなとみらい21大道芸が、4月25日、26日には野毛地区を会場としている野毛大道芸が開催され、マジック、ダンス、パントマイム、ジャグリング、アクロバット芸など、多岐にわたる演目で、路上を歩きかう観客を魅了しました。

野毛大道芸では、開港150周年を記念し、「野毛に黒船来航」をテーマに海外からも芸人が参加しました。

(イ) ザよこはまパレード（国際仮装行列）

- ・ 開催日 平成21年5月3日（日）
- ・ 参加者 約39万人
- ・ 主催者 国際仮装行列実行委員会

開港150周年記念開催の今年は、「開港への道～出航（たびだち）のシンフォニー～」をテーマとし、開港から現在までの歴史を表現したパレードとなり、過去最多の39万人の観客を集めました。

パレード参加者数：4635人（78団体）

(ウ) 横浜開港祭

- ・ 開催日 平成21年6月1日・2日（5月31日前夜祭）
- ・ 参加者 約100万人
- ・ 主催者 横浜開港祭協議会

開港 150 周年記念となる今年は、～開港 150 周年！横浜市民で創る最大の祭典！！～と銘打ち、臨港パークを中心に、ステージイベントや、体験乗船会、模擬店の出展などがあり、中でも 6 月 2 日に開催される光と音・水と花火のショーが人気を集めました。

ステージイベントの中では、地元神奈川を拠点とする逗子育ちの 2 人組のアーティスト「キマグレン」のライブが開催され、横浜出身の 2 人組アーティスト「ゆず」がライブ中に特別出演するパフォーマンスもありました。

【開港祭での代表的な既存イベント】

- ・ 横浜市民コーラス ドリームオブハーモニー
制定 100 周年を迎える「横浜市歌」や「ゆず」による開港 150 周年テーマソング「みらい」などを、市民約 1500 名が合唱しました。
- ・ ビームスペクタクル in ハーバー
光と音・水と花火のショーが横浜港を美しく彩りました。

【開港 150 周年記念で開催された新規のイベント】

- ・ 「風の船～みらいへ～」
一般公募のカップル（家族・友人・恋人）150 組が、未来への願いをこめて風船を飛ばしました。
- ・ 「150 周年記念植樹」
一般公募のカップル（家族・友人・恋人）150 組が夫婦櫻 2 本を植樹しました。
- ・ 「タイムカプセル 50th」
一般公募のカップル（家族・友人・恋人）150 組が 50 年後、開港 200 年の横浜市民にメッセージカードを作成し、タイムカプセルに収めました。
- ・ ブルーインパルス展示飛行
航空自衛隊「ブルーインパルス」による華麗な飛行が披露されました。

コ 横浜グランドミュージアム

市内の美術館・博物館・資料館等が、各館で個性を発揮しつつ、開港 150 周年を記念した特別展の開催のほか、パンフレットの配布やホームページ、統一のフラッグの掲出による共同広報やスタンプラリー等により、各館が互いに連携・協力し、PR等を行うことで、今ある観光資源を活用した横浜の魅力と回遊性の向上を図りました。

横浜グランドミュージアム参加館数：100 館

（うち統一デザインのフラッグの設置：30 館）

- ① 「ミュージアムガイドブック」80,000 部の発行
- ② JRDC との連携
 - ・『DC ガイドブック』（50 万部）を全国主要駅に配布）に特集記事掲載
 - ・交通新聞社『別冊 旅の手帖 6 月号』（10 万部）にグランドミュージアム特集記事（2 ページ）を掲載
 - ・JR びゅう等旅行会社パンフレット（43 万部）に GM ガイドブックの紹介記事
 - ・JR「小さな旅」グランドミュージアム特集スタンプラリー企画

- ③ ホームページの作成（H20年度 計 14,812 ページビュー）
 - ・ミュージアムマップとミュージアム検索機能を付加
 - ・展覧会等イベント検索機能を付加
- ④ 横浜市北部エリアの13館園が自主的な独自のネットワークを形成し、共同PR、スタンプラリーを実施。

サ 横浜・神奈川デスティネーションキャンペーン

- ・開催日 平成21年6月1日（月）～8月31日（月）

横浜・神奈川デスティネーションキャンペーンでは、JR東日本をはじめとするJR6社と横浜市、横浜開港150周年協会、横浜観光コンベンション・ビューロー、近隣5都市、さらに観光関連事業者等が一体となって、横浜の観光資源を全国に集中的に宣伝し、観光客の誘客を図りました。

2009年（平成21年）の開港150周年という節目の年を好機ととらえ、横浜の持つ地域資源・特性を最大限に活かすとともに、新たな賑わいや魅力を創出し、開港150周年記念事業を核とした大規模集客プロモーションを展開するため、本キャンペーンに取り組みました。

キャンペーンの実施にあたっては、横浜観光のイメージアップを図り、多くの観光客誘致を実現し、横浜経済の活性化を図りました。

- (ア) テーマソングについて
横浜出身の歌手「ゆず」にテーマソングの制作を依頼し、「みらい」が完成
- (イ) 広報宣伝について
全国約3,000のJR駅等において掲出される広報印刷物を制作
- (ウ) 5枚連続のポスター
市内観光地を背景とした5種類のポスターを制作（6,000組）
- (エ) 観光ガイドブック
 - ・開国博Y150等のキャンペーン期間における観光情報を集約した冊子
 - ・発行部数 50万部（JR駅、びゅうプラザ、旅行代理店等向け）
 - ・簡易版 15万部（JR駅、びゅうプラザ、民鉄駅等）
- (オ) JRグループのメディア媒体による集中宣伝
JR駅構内や電車の車内広告、スポンサー番組での横浜特集やCM放映等
- (カ) 観光開発について
 - ① 旅行商品化促進対策
平成21年度上期の旅行商品化に向け、モデルコースを開発。全国の旅行代理店に対し、商品の造成を依頼
 - ② 事業誘発対策
市内観光事業者等に対して、キャンペーンを契機とした観光事業の開発を働きかけ
 - ③ 観光客の受入対策について
市民ボランティアガイドによる「まち歩き」のコース検討や、運営体制の整備等を実施
 - ④ 「ヨコハマまち歩き150事業」の実施（「開国博Y150」の開催期間）
ガイド付きの「まち歩き」ができる受入体制を整備。開国博Y150赤レン

ガ会場に「まち歩き総合ステーション」を設置

(キ) 開幕式典の実施

6月1日 オープニングセレモニー（JR桜木町駅前広場）

(ク) 誘客の促進対策

全国主要都市のJR駅構内において、横浜の観光PRイベントを実施

6/13・14 仙台、6/27・28 名古屋、7/4 千葉、7/5 新潟、

7/11 品川・渋谷・新宿・池袋



シ 野毛地区インフォメーションセンターオープン

- ・ 開設日 平成20年5月13日
- ・ 場所 中区桜木町駅前

平成20年5月13日にJR桜木町駅前（東横線桜木町駅舎跡地）にオープンし、桜木町を訪れる来街者を対象に、野毛地区周辺で行われる各種イベント情報や開港150周年記念事業の案内を行い、地域と横浜の魅力をアピールしました。



(2) 横浜の新たな顔づくり・まちづくり推進プロジェクト

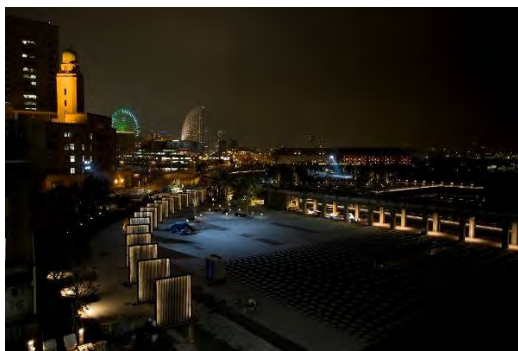
これまで蓄積されてきた横浜ならではの歴史的資産を活かしながら、新たな横浜の魅力づくりを進めました。みなとまちとして生まれ、発展してきた横浜の持つ個性をいっそう磨き、横浜港発祥の地の再整備や文化芸術の創造性を活かした都市づくりなど、次世代の横浜の再発展に向け、その基盤となるようなまちづくりに取り組みました。

《新たな顔づくり》

ア 象の鼻地区再整備事業

- ・ 平成 21 年 6 月 2 日（火）オープン

開港 150 周年記念事業として整備を進めてきた象の鼻パークは、開港記念日である 6 月 2 日にオープンしました。



■歴史と未来をつなぐ

安政 6 (1859) 年の開港時、横浜には 2 本の直線状の突堤（波止場）がつけられました。慶応 3 (1867) 年には東側の突堤が湾曲した形に変更されて防波堤となり、その形から「象の鼻」と呼ばれるようになりました。

象の鼻地区は、この東西の突堤に囲まれた水域に面し、みなとみらい 21 地区から山下公園へ続く「ウォーターフロント軸」と、横浜公園から大さん橋国際客船ターミナルへ続く「都市軸」とが交差する結節点に位置しています。

象の鼻パーク整備の基本理念は「時の港」です。横浜の歴史と未来をつなぐ象徴的な空間づくりに向け、開港の場としての歴史性を活かしながら、横浜の新時代を拓く文化・観光・交流の拠点となることを目指し整備を行いました。

■歴史性を活かして

パークの名前の由来である象の鼻防波堤は、明治中期の弓形に湾曲した形状に復元しています。更に、工事中に関東大震災で沈んだ明治期の防波堤の石積みが発見されたため、そのままの状態で開催しています。

開放的な広場「開港波止場」では、工事中に発見された「鉄軌道と転車台」が展示されています。また、象の鼻地区の歴史や港の遺構を紹介する解説板を設置し、横浜港発祥の地としての歴史性を表現しています。

■スクリーンパネルで港の夜景を演出

防波堤の曲線を活かして配置された「スクリーンパネル」は、地区全体にわたる大きなサークルを描き、開港の地としてのシンボル性を表現しています。スクリーンパネルは、夜間には照明施設として地区全体を美しく魅力的な夜景空間として演出します。

■港を見渡す「開港の丘」と文化観光交流の拠点「象の鼻テラス」

横浜港を見渡すことができる開港の丘の一角には、カフェを併設した休憩施設「象の鼻テラス」があります。テラスでは、海を眺めながら休憩することができるほか、アート作品の展示や音楽等のパフォーマンスの開催ができる文化観光交流の拠点としても活用しています。

■象の鼻パークのこれから

象の鼻地区は、ふるいものと新しいものとが共存し、横浜の新時代を拓く「時の港」象の鼻パークとして生まれ変わりました。未来の横浜の発展と共に、これからは多くの人々に愛され、親しまれる空間としていきます。

イ マリントワー再整備

- ・平成21年5月23日（土）グランドオープン

<みなと横浜のシンボルとして>

マリントワーは、開港100周年記念事業として、市民の発意により建設された“みなと横浜”のシンボルであり、昭和36年1月の開業以来、長い間市民に親しまれてきました。

マリントワーは、横浜港を一望でき、また中華街や元町・山手地区にも隣接していることから、多くの市民、観光客でにぎわい、平成3年には展望台への入場者数が年間約106万人に達するなど、集客性の高い施設でした。

しかし、みなとみらい21地区といった他の魅力ある地区の誕生や施設の老朽化などにより、入場者数が減少したことなどから、平成17年、当時の民間運営会社はマリントワーの営業終了を表明しました。

<再生事業への取組み>

経済観光局ではマリントワー建設の経緯等に鑑み、平成18年、開港150周年に向けてマリントワーを保存・再生する「マリントワー再生事業」として開港150周年記念事業に位置づけ、横浜の新たな顔づくり・街づくりの推進に取り組んできました。

平成19年にマリントワーを取得、平成20年3月から改修工事に着手し、平成21年3月末にしゅん工、5月23日にグランドオープンしました。

また、マリントワーの再生に当たっては、民間の企画力、経営資源を活用し、より魅力ある事業を継続的に実施するための運営事業者を公募。平成19年に事業者を決定し、提案内容の具体化に向け、改修工事と併せて協議を進めました。

<リニューアルの特長>

リニューアルの特長ですが、タワー建設から約50年が経過していることもあり、耐震補強や低層部のエレベーター設置といったバリアフリー対応など、遵法性の向上を図るとともに、内外装や設備を全面的に改修しました。

展望台は従前より広大なガラスサッシを採用し内装も新しくするなど、ダイナミックな港の風景を体感していただけるよう生まれ変わりました。またアトラクションとして、床の一部をガラス張りにしています。

塔体の色彩は、横浜博覧会を機に塗り替えた赤白のグラデーションでしたが、開港150周年に向け、新たに生まれ変わることを印象づけるために、鋼材で作られたタワーの形状を美しく見せ、街並みとも調和した色彩として、外側をシルバー、内

側をブラウンオーブにしています。また運営事業者がLEDを活用した照明装置を設置し、基本色の白色だけでなく、赤や青など様々な色でライトアップが可能となりました。

低層部の外装は、タワーが持つ円形の形状を活かし、山下公園側のガラスカーテンウォールが新しい表情をつくり出しています。

また、低層部の施設として、1階には気軽に立ち寄ることができるカジュアルなカフェレストラン、2階には横浜の文化や歴史、情報を紹介するスペース、3階には市民利用や各種コンベンションイベントなど多目的な利用が可能なマリントワーホールなどが設置されました。



<地域全体の活性化に向けて>

新生マリントワーの展望台には、オープンから4か月で18万人を超える方が来場しています。

開港の地である横浜の中でも山下公園周辺地域は、長きにわたり横浜観光の中心的役割を果たしてきた場所です。

この「新生マリントワー」が新たな観光交流拠点となり、施設そのものの集客力の高まりにより、地域のにぎわいを創出するとともに、市民、来街者の回遊性を向上し、地域全体の活性化を図ることができるものと考えています。

ウ アメリカ山公園整備

- ・平成21年8月7日（金）開園

アメリカ山公園は、横浜を代表する観光地である「港の見える丘公園」や「外国人墓地」、「山手西洋館」などのある山手地区と、独自のブランドを多く展開する商店街のある元町地区とを結ぶ場所に位置しています。しかし、この両地区の間は、急坂や急階段での行き来となるため、アクセスルートの改善が求められていました。

そこで、平成16年の都市公園法の改正により創出された立体都市公園制度を活用して、みなとみらい線「元町・中華街駅」駅舎の上部空間と、隣接する用地を公園として一体的に整備して、エスカレーターとエレベーターによりバリアフリー化されたルートを作るとともに都心部の緑地とオープンスペースを確保しました。また、今後予定される飲食店や物販店などの便益施設の設置とあわせて、観光客や地域の利便性を向上させ、元町・山手地区の活性化を図ることも目的としています。

具体的には以下の整備を行いました。

- ・既存駅舎を2階建てから4階建てに増築（公園施設）
- ・公園用地内に駅舎3F・4Fと一体となる地下建物を新築（公園施設）
- ・屋上部分を含め、全体を公園として整備

《アメリカ山公園概要》

- (1) 所在地 : 横浜市中区山手町 97 番地 1
- (2) 公園種別 : 風致公園
- (3) 公園面積 : 全体 5,520 m² (園地部分 4,630 m²、駅舎敷地部分 890 m²)
- (4) 建築面積 : 1,154 m²
- (5) 延べ床面積 : 3,954 m² (うち便益施設 3階 887 m²、4階 837 m²、計 1,724 m²)
- (6) 名称の由来 : 当該地は、明治期初頭の米国公使館ゆかりの土地であり、戦後は、米軍の施設用地として利用された等の歴史を持つことから、山手地区の「フランス山」「イタリア山」などと同様に「アメリカ山」と命名しました。
- (7) 整備スケジュール
建築工事 平成 19 年 6 月～平成 21 年 4 月
造園工事 平成 21 年 1 月～平成 21 年 8 月
一部開園 平成 21 年 8 月 7 日
- (8) 開園時間 午前 6 時～午後 11 時



エ 日本丸メモリアルパークリニューアル

- ・ 平成 21 年 4 月 24 日 (金) リニューアルオープン

横浜みなと博物館が誕生し、帆船日本丸がリニューアルオープンしました。

「横浜みなと博物館」は、横浜港をテーマにした初めての博物館として、常設展示の「横浜港の歴史ゾーン」では横浜港 150 年の歩みを、「横浜港の再発見ゾーン」では横浜港の仕組みや働きを紹介しています。

なかでも、横浜港をリアルに再現した臨場感あふれる操船シュミレーターなどは、お客様が参加し、体感しながら楽しめます。

また、帆船日本丸は、当時の姿をそのままにし、新たに現在の活動内容を紹介する映像や、航海時の乗組員のインタビュー映像が加わったほか、航海当時の船内の写真も展示しています。



《文化芸術創造都市形成》

オ ナショナルアートパーク構想

ナショナルアートパーク構想は、都心臨海部を今以上に市民に親しまれる場とするとともに、開港都市としての歴史や文化等の資源を生かしながら、文化芸術活動の積極的な誘導により新しい産業の育成や観光資源を発掘し、まちの魅力を高め、都市の活性化、横浜経済の発展を図る構想です。

都心臨海部の一定のエリアを国際的な文化観光交流ゾーンと設定し、文化芸術活動と連携してエリア整備を行うもので、ナショナルプロジェクトとして整備するこ

とが望まれています。都心部地域でのまちづくりとも連動し、横浜の資源、横浜らしさを生かし、世界に発信する発展的な魅力を付加する具体的なプロジェクトの成果も上がっています。

開港 150 周年を記念する象徴的な事業である象の鼻地区の再整備もその一つです。「象の鼻パーク」については、横浜港発祥の地であり、横浜の歴史と未来をつなぐ、賑わいや交流の場を生み出す空間として、プロポーザル方式により設計が進められ、平成 21 年 6 月にオープンしました。パーク内の「象の鼻テラス」では、カフェを併設したレストハウスとしての機能と合わせて、「文化観光交流拠点」として、横浜の歴史や文化芸術の展示・公演などを開催しています。

これまでに、象の鼻地区とみなとの歴史的な変遷を美しい映像とグラフィックスで辿る展覧会「文化交易 象の鼻 150 年史」や、象の鼻テラス内にあるカフェで使用するスツールを横浜の子供たちがフィンランドのアーティスト、カティア・トゥキアイネン氏と一緒に制作するワークショップ、また、横浜出身のダンサー安藤洋子氏によるスタンダード・新作フォークダンスをみんなで踊るプログラム「安藤洋子とダンスパーティー」など、質の高い文化芸術を展開し、創造都市としての魅力を発信しています。



カ ヨコハマ国際映像祭 2009

- ・ 開催日 平成 21 年 10 月 31 日（土）～11 月 29 日（日）
- ・ メイン会場 新港ピア、BankArt Studio NYK、東京藝術大学馬車道校舎
- ・ サテライト会場 野毛山動物園、黄金町バザール1の1スタジオ
- ・ 主催 横浜国際映像祭 2009 実行委員会

クリエイティブシティの取組を継続的に国内外に発信するとともに、「映像文化都市・横浜」の新たな取組として、メディアアート・CG・アニメーション・映画・写真など様々な映像を対象とした国際的な映像フェスティバル「ヨコハマ国際映像祭 2009」を開催しました。

(ア) ディレクター

住友文彦氏（元東京都現代美術館学芸員）

(イ) テーマ

CREAM (Creative for Arts and Media)

(ウ) 内容

- ・ 展示会（新港ピア、BankART Studio NYK）
- ・ 映像上映（東京藝術大学大学院映像研究科馬車道校他）
- ・ 関連イベント
- ・ フォーラム
- ・ その他屋外展示、パフォーマンス、公募コンペ等

キ 創造界隈形成

馬車道、日本大通り、桜木町・野毛を中心とした都心部の歴史的建造物や倉庫、空きオフィス等の地域資源を活用し、アーティストやクリエイターが創作・発表・滞在する創造界隈の形成を進めました。

(7) 創造界隈 ART WEEKS ～横浜で芸術まち歩き～

- ・ 開催日 平成21年9月1日(火)～9月29日(火)
- ・ 会場 ヨコハマ・クリエイティブシティ・センター、Bank ART Studio NYK、ZAIM、創造空間9001、急な坂スタジオ、野毛山動物園など横浜都心部の“関内”“関外”エリアに集積する建築家・デザイナー、アーティストなどのスタジオ約40か所 等々

『クリエイティブシティ・ヨコハマ』の取組として、横浜都心部の倉庫、空きビル、下町の一軒家などをコンバージョンし、アーティスト・クリエイターの皆さんに活用してもらう取組を進めており、日々新しい何かが生み出されている『創造界隈』が形成されてきています。この『創造界隈』の拠点を中心に、街中でさまざまなプロジェクトを展開しました。

★ 関内外 OPEN! 【9/4～9/6】

“関内”“関外”エリアに集積する建築家、デザイナー、アーティストなどのスタジオを期間限定で公開するプロジェクトで、約40の“民間”スタジオが参加。ヨコハマ・クリエイティブシティ・センターを総合案内窓口として、普段あまり馴染みのないクリエイターたちのスタジオを市民の方に開放する『オープンスタジオ』のほか、公開講座やさまざまな展示、街歩きを兼ねたガイドツアー、海から横浜を見る都市体験ツアー(ポートクルーズ)など、多彩なメニューを開催しました。

★ 集まれアートイニシアティブ part2 【9/4～9/5】

横浜の創造界隈を代表する『BankART Studio NYK』を会場に、国内外のアートイニシアティブ約50チームが一堂に会しての会議並びに活動を紹介する展示などを実施しました。

★ ZAIM ギャラリー ZAIM 【9/1～9/27】

『ZAIM』に入居するアーティスト&クリエイター33組のコラボレーションにより“ZAIM発”を発信。展示・パフォーマンス・音響空間・シンポジウムなどを実施しました。

★ Zoo Zoo Scene<ずうずうしい> 【9/25～9/27】

舞台芸術を中心とした創造活動の拠点『急な坂スタジオ』発。現代演劇の傑作・オールビーの「動物園物語」を、急な坂スタジオのレジデントアーティスト中野成樹が野毛山動物園内・ひだまり広場にて上演しました。

★ MIRRORBOWLER 【9/3～9/29】

ミラーボールを使って「宇宙と和式美」をテーマに光と反射の空間作品を作り出すアート集団「MIRRORBOWLER」が、旧東横線桜木町駅舎を活用したアートスペース『創造空間9001』を占拠しました。

(4) 黄金町バザール 2009

- ・ 開催日 平成21年9月1日(火)～9月27日(日)
- ・ 会場 日ノ出町～黄金町エリア

初黄・日ノ出町地区は、かつて違法飲食店が多数立地していましたが、数年に及ぶ地域、行政、警察等、多くの人たちの努力によって、大きく変化しました。そして、黄金町は現在、街の再生という新たなテーマに取り組んでいます。

「黄金町バザール 2009」は、地元を中心に発足した NPO 法人「黄金町エリアマネジメントセンター」によって企画・運営されています。「まちあるき」をテーマに、地域の人たちと入居アーティストが一体となって、アートイベント、ワークショップ、まちなみプランの展示等を行なうことにより、変わりつつある現在の街の姿を伝える仕掛けを展開しました。

▼会期中は土日祝日を中心にイベント・ワークショップを開催

▼参加：19組の入居アーティスト及び約10組のゲストアーティスト

ク 創造の担い手育成

文化芸術と社会をつなぐ市民や NPO 等の創造の担い手育成に取り組みました。

(7) アーティスト・クリエイターの創造的活動の支援・発信

★芸術創造活動推進事業

・横浜オペラ未来プロジェクト

オペラという分野で、制作過程や舞台裏を公開しつつ比較的安価な鑑賞機会を提供するとともに、新進の芸術家に積極的に発表の機会を提供し、優れた人材を海外のオーディション等に派遣する人材育成に取り組みました。

公演：平成 21 年 7 月 17 日（金）、
18 日（土）「フィガロの結婚」

（会場：横浜みなとみらいホール）



・横浜未来演劇人シアター

著名な演出家・脚本家等の助力を得て、横浜発の演劇の発信、人材育成を行うプロジェクトです。多数の公演を実施しながら、集客力の高い劇団として成長し、横浜発の人材の育成・発信において着実な成果を上げました。

公演：・平成 21 年 7 月 18 日（土）～20 日（月・祝）

「モダン太陽傳～汁屋餡掛～」(会場：横浜にぎわい座)

・平成 21 年 10 月 3 日（土）「新光電影館」、10 月 4 日（日）

「夢のマニマニ」(会場：それぞれスペース・オルタ)

★横浜音楽空間事業

ストリートミュージシャンへ活動の場を提供するとともに、地域と連携してまちの賑わいにも貢献するというコンセプトのもと、商店街から協賛を得た開催や、著作権団体とのコラボレート開催などにも取り組みました。

平成 21 年開催：

8 月 22 日（土）：伊勢佐木町 1・2 丁目商店街

9 月 23 日（水祝）：伊勢佐木町 1・2 丁目商店街、馬車道商店街

10 月 17 日（土）：伊勢佐木町 1・2 丁目商店街

11 月 7 日（土）～8 日（日）：パシフィコ横浜

(4) マザーポート・アート・フェスティバル 2009

「街からアートがあふれ出す！ アートは社会のソコヂカラ！」を合言葉に、様々なアートイベントをまちなかで展開しました。また、まちなかで気軽に文化芸術に触れ合える機会を提供しました。

【主なコンテンツ】

- ・「アーバン・オペラ YOKOHAMA」
平成 21 年 8 月 8 日（土）：ドックヤードガーデン
15 日（土）：横浜美術館グランドギャラリー
- ・「ラ・ベル・ザンカ 月夜、そして能の息吹」
平成 21 年 8 月 29 日（土）：元町ショッピングストリート
30 日（日）：グランモール公園
- ・開港 150 周年記念&開国博 Y150 スペシャルステージ
平成 21 年 8 月 27（木）～29 日（土）、
9 月 3 日（木）、19 日（土）、20 日（日）
：開国博 Y150 トゥモローパークステージ
- ・ストリートワイズ・オペラ「マイ・シークレット・ハート」
平成 21 年 9 月 5 日（土）～9 日（水）：赤レンガ倉庫 1 号館 3 階ホール
- ・「JAZZ meets JAPAN ジャズと邦楽の出会い 山下洋輔・山本邦山」
平成 21 年 9 月 13 日（日）：山下公園特設会場
- ・「都市の記憶 in 日本大通り ホッチポッチミュージックフェスティバル」
平成 21 年 9 月 5 日（土）、13 日（日）、26 日（土）、27 日（日）：
日本大通り周辺エリア
- ・「大地のジョイントパフォーマンス」
平成 21 年 10 月 3 日（土）：赤レンガ倉庫 1 号館 3 階ホール

《まちづくり》

ケ 横浜駅周辺大改造計画

横浜駅周辺大改造計画の策定につきましては、横浜駅周辺における概ね 20 年後のあるべき姿を、学識経験者や地元の協議会・事業者、関係行政機関などで構成される「横浜駅周辺大改造 計画づくり委員会」などで議論を重ね、「横浜の玄関口としてふさわしいまちづくり」の指針となり、行政と民間が連携して実現を図っていく計画として、開港 150 周年の本年、とりまとめを行いました。

大改造計画は、「まちの将来像」とその実現に向けた戦略及びまちづくりの進め方など、まちづくりの考え方を示した『まちづくりビジョン』、「まちの将来像」の実現に向けて重要となる基盤施設の整備を進めていくための基本的な方針となる、『基盤整備の基本方針』、民間と行政が協働して地区の魅力向上を図るため、建て替え等を行う際の基本的な考え方を示した『まちづくりガイドライン』の 3 部構成となっています。



とりまとめにあたっては、委員会での議論のほか、6 月には、「大改造計画素案」を多くの市民、駅利用者に知っていただき将来像と一緒に共有すべく、横浜駅周辺の魅力について再認識し、まちづくりへの機運の醸成をはかるためのシンポジウムを開催しました。

横浜駅周辺大改造計画シンポジウムー創造的大改革に向けてー

日 時：平成 21 年 6 月 14 日（日）13 時から 17 時
場 所：横浜新都市ホール（横浜新都市ビル（そごう）9F）
内 容：市長あいさつ、素案説明、パネルディスカッション、大学生トークセッション、市民アンケート等
来場者数 560 名

コ みなとみらい 21 環境整備

(7) 開港 150 周年記念植樹（150 万本植樹行動）

- 平成 21 年 2 月～3 月

開港 150 周年を契機に、みなとみらい 21 地区の緑化促進事業への取組を進めることとし、地区の玄関口となる桜木町駅前広場において、150 万本植樹行動の象徴となるシンボルツリーの植樹を実施しました。

実施にあたっては、民間との協同事業として取り組み、シンボルツリーの設置場所、樹種、本数等について横浜市が設計を行い、樹木の設置（植樹）



の整備、低木の配置等)については横浜農業協同組合女性部(JA横浜女性部)の施工により整備を行いました。

なお、今後の緑化活動への取組を継続するため、記念植樹を含む桜木町駅前広場周辺の清掃・美化活動等については、ハマロードサポーターとしてJA横浜女性部の協力をいただきます。

(イ) 動く歩道屋根ソーラーパネル設置

- ・ 施工期間：平成20年10月15日～21年3月6日

「環境モデル都市・横浜」は、『CO-DO30』に掲げる再生可能エネルギー10倍拡大に向け、太陽エネルギー率先導入の一環として、動く歩道の屋根にソーラーパネルを設置しました。更に発電量の表示板を設置し、環境への取組をPRすることにより、環境意識の醸成にも貢献しています。

動く歩道は平成元年の供用から20年が経過し、老朽化が進んでいました。今回ソーラーパネルを設置するにあたって、曲面の屋根に設置できる建材一体型を採用することによって屋根の補修も兼ねています。

年間発電量は約75,000kWhで、一般家庭21世帯分の年間消費量に相当します。発電した電力は、「動く歩道」の動力や照明等に使用しており、これにより「動く歩道」で使用する年間電気料金の約2割をまかなうことができます。

なお、地区内の事業者などから広く寄附を募るとともに、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)との共同研究費などを導入し、官民共同で整備しました。



サ 戸塚駅周辺地区整備

戸塚駅西口においては、道路や交通広場などの基盤施設及び区役所や区民文化センターなどの公益施設の整備を行うとともに、商業機能の強化を図るため、第二種市街地再開発事業を進めています。

本事業は、平成6年10月に都市計画決定を行い、平成9年3月の事業計画決定により、事業に着手しました。しかし、商業環境の変化や地価動向など事業を取り巻く状況の変化が予想以上に大きかったため、平成15年10月に計画を再検討することとし、平成16年3月に発表した再検討案を基に、計画の具体化を進めました。平成18年5月に都市計画変更、同年7月に事業計画変更を行い、平成19年2月に管理処分計画を決定しました。平成19年6月に仮設店舗をオープンし、10月に第1交通広場、12月に商業施設のうちの共同ビルに着工し、平成20年10月には個別ビルの工事に着手しました。

開港 150 周年にあたる平成 21 年は、さらなる魅力アップに向け、デザイン・環境・情報を三本柱とする「とつかトータルデザイン」の取組を推進するとともに、平成 22 年春の商業施設・第 1 交通広場完成に向けて、引き続き工事を着実に進めています。

平成 24 年度には、第 2 段階として公益施設（区役所・区民文化センター・第 2 交通広場など）が完成する予定です。



シ まちのバリアフリー推進

誰もが安心、安全に行動できる人にやさしい福祉のまちづくりを推進しました。

- 鉄道駅舎へのエレベーター、多目的トイレの設置
- ノンステップバスの導入促進
- 福祉のまちづくり条例に基づく、建築物等の新設、改修時におけるバリアフリー化整備の推進

ス 市内米軍施設の返還と跡地利用の推進

開港 150 周年を契機に、市内米軍施設の返還が促進されるよう、国への要請を行ってきました。そのような中で、平成 16 年 10 月に、日米合同委員会で返還の方針が合意されていた富岡倉庫地区の全面返還が平成 21 年 5 月 25 日に実現しました。

また、開港 150 周年記念事業として実施した、深谷通信所提案公募事業（アイデアコンペ）には、353 件の応募があり、国内外から様々なアイデアが寄せられました。今後、寄せられたアイデアを参考に、市民意見等を踏まえながら、跡地利用の具体化を進めていきます。

さらに、平成 17 年 12 月に返還された旧小柴貯油施設は、都市公園「開港 150 周年の森」としての整備を進めることとしており、平成 21 年 6 月及び 10 月に開催した植樹祭には、地元小学生をはじめとする約 800 人の参加者により約 11,200 本のドングリ等の苗が植えられました。



セ 歴史的・文化的資産を活用した魅力ある公園づくり ～野島公園「旧伊藤博文金沢別邸」復元～

- ・ 見学会 平成 21 年 1 月 21 日 平成 21 年 3 月 20 日 約 400 名
- ・ 体験学習会 平成 21 年 6 月 19 日 約 90 名
- ・ 完成記念式典 平成 21 年 10 月 31 日 約 70 名
- ・ 完成記念企画展 平成 21 年 11 月 1 日～11 月 29 日
- ・ 完成記念講演 平成 21 年 11 月 3 日 約 100 名

野島公園「旧伊藤博文金沢別邸」は、明治憲法草案と深く関わる金沢の地に愛着を抱いた伊藤博文公により、明治 31 年建築され、昭和 34 年に野島公園の施設として横浜市の所有になりました。

「金沢」の地が東京近郊の当時の別荘地であったことを物語る、明治期の田舎風の意匠を持つ海浜別邸建築のほぼ唯一の遺構であることから、平成 18 年に横浜市指定有形文化財に指定されており、建築的歴史的価値は極めて高いものと言えます。建物は 5 つの棟からなっており、居間棟、客間棟及び台所棟を修復復元するとともに、焼失していた玄関棟及び湯殿棟についても残っていた図面を基に復元しました。

復元工事中に見学会を 2 回開催し、約 400 名の市民が、普段見ることのできない茅葺き作業や木造建築の技法を作業に従事する職人から直接説明を受けるなどして、文化財に対する関心をより深めました。

また、体験学習会においては、金沢小学校 6 年生約 90 名に「土壁塗り」などの作業を体験してもらい、伝統的な工法、家屋の構造などを楽しく学んでもらいました。

10 月 31 日に完成記念式典を開催し、現在、一般公開しています。



ソ 羽田空港の国際化

羽田空港では、平成 22 年 10 月の供用開始を目指して 4 本目の滑走路となる「D 滑走路」(L=2,500m)を整備中です。また、これと並行して国際線ターミナル等の空港施設が集積する「国際線地区」も整備され、羽田空港から世界の主要都市へと国際定期便が就航する予定です。D 滑走路の供用開始後は、一日あたりの昼間発着便数が 405 便(平成 17 年 10 月現在)から、約 1.4 倍となる 557 便に増加し、このうち 40 便が国際定期便として運航されます。また、深夜早朝にも 40 便の国際定期便が運航され、羽田空港における国際定期便数は合計 80 便となります。これは、首都圏に発着する国際定期便の約 1/4 に相当する便数であり、供用開始後も国は国際化を推進するとしています。

横浜市では、この羽田空港の再拡張事業に対して 100 億円の無利子貸付を行うとともに、国に対して羽田空港における「真の国際化」を提案してきました。「真の国際化」とは、羽田空港からの定期国際便の望ましい就航範囲として、少なくとも ASEAN 諸国を含む東アジアの主要都市をカバーすべきとの考え方に基づくもので、国の「骨太の方針 2008」で示された就航距離である約 3,000km 圏域を大幅に上回る約 6,000km 圏域が視野に入っています。横浜市は「真の国際化」について、これまでも機会があるごとに国に対して提案を行いつつ、同じく国に対して無利子貸付を実施している神奈川県や川崎市と共に、再拡張事業が円滑に進捗するよう協力してきました。その努力が実を結び、平成 21 年 8 月現在までの航空交渉において、ソウル、釜山、北京、上海、香港、クアラルンプール、台北、シンガポールなどの東アジア主要都市への就航に加え、パリ、ロンドン、アムステルダム、ミュンヘンなどの欧米便まで設定され、羽田空港がより広い世界への玄関口として大きな役割を果たすための原動力となることができました。平成 21 年秋には、政権交代により羽田空港のハブ空港化構想が浮上してきましたが、現状では昼間時間帯は韓国や香港などの近距離便のみの設定となっており、今後も昼間時間帯を含めた ASEAN 諸国への就航が行われるよう、引き続き国に対して提案していきたいと考えています。

タ 都心臨海部・インナーハーバー整備構想

開港 150 周年を契機とし、次の 50 年を見据えて、横浜の過去のまちづくりを振り返り、未来を展望するとともに、長年のまちづくりにより都市の骨格が形成されてきた都心臨海部・インナーハーバーを横浜の象徴としてとらえ、新たなビジョンを策定していきます。

＜都心臨海部・インナーハーバー整備構想懇談会開催実績＞

第 1 回懇談会 平成 20 年 8 月 26 日

第 2 回懇談会 平成 20 年 12 月 18 日

第 3 回懇談会 平成 21 年 4 月 14 日

※懇談会では、過去のまちづくりを振り返り、整備構想の検討にあたっての着眼点や留意点などについて、幅広く意見交換しました。

平成 21 年 6 月に、「基本理念」や「都市構造」などの基本的な考え方を「都心臨海部・インナーハーバー整備構想（骨子案）」としてとりまとめました。

今後は検討委員会により、骨子案をもとに、提言としてとりまとめる予定です。

＜横浜市インナーハーバー検討委員会開催実績及び予定＞

第 1 回委員会 平成 21 年 7 月 30 日

第 2 回委員会 平成 21 年 11 月 27 日

第 3 回委員会 平成 22 年 3 月開催予定



(3) 市民力・地域力発揮プロジェクト

子どもから高齢者まで、また市民活動団体や企業など、多くの市民が力を発揮し、芸術やスポーツ、環境、福祉活動など多様な事業を展開しました。

市民レベルの交流や市内各地域の歴史や風土、個性を活かした地域への愛着を深める取り組みを市民とともに進めました。

《創造都市の地域展開》

ア クラシック・ヨコハマ推進事業

全日本学生音楽コンクール全国大会の横浜での開催をきっかけに始まったクラシック音楽の音楽祭「クラシック・ヨコハマ」は、今年3回目の開催となります。

人と人、地域と人の絆をより深めるイベントとするために、クラシック・ヨコハマの今年のテーマは、「音でつながるコミュニティー」。

市民には、身近な場所で、気軽に良質な音楽に親しむ機会を提供し、コンクール関係者には、若手演奏家を支援する街として、横浜での演奏機会を提供します。



11月26日～12月1日 第63回全日本学生音楽コンクール全国大会 in 横浜

11月21日～23日 みなとスペシャル3デイズ

11月8日～2010年1月17日 サロンコンサート・ブリッジ

11月～2010年1月 スクールコンサート

11月20日～2010年1月16日 ミュージアムコンサートシリーズ

12月13日 室内楽マラソンコンサート

12月26日 横山幸雄とエトワールたち

2010年1月23日 生きる～2010若い命を支えるコンサート

イ 文化芸術の創造性を活かした地域づくり

(瀬谷区)

三ツ境駅に隣接する三ツ境商店街は、経営者の高齢化が進み空き店舗が目立っているため、地域住民とのふれあいや賑わいづくりに繋がるきっかけを創出し、魅力ある商店街づくり及び商店街の活性化を図ることが期待されています。

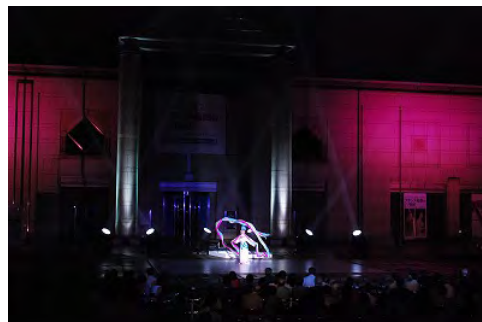
平成21年は横浜開港150周年・瀬谷区制40周年の年であり、これを記念し長屋門公園及び長屋門プロムナードで七夕灯籠祭りが開催されることとなりました。

このイベントを契機に、長屋門プロムナードに面する三ツ境商店街を活性化するため、文化芸術の創造性を活かした地域づくり事業として、七夕灯籠祭りの一環で長屋門公園において光と影を生かした手影絵パフォーマンスを実施することにより、長屋門公園に続く長屋門プロムナードに一層の賑わいをつくり、プロムナードに面する三ツ境商店街の活性化と地域住民とのふれあいを創出しました。

ウ 横浜あかりアーツコラボレーション 2009「春霞金港夢—Asian Dream—」

- ・ 開催日 平成21年6月14日(日)
- ・ 会場 横浜美術館前・グランモール公園特設会場
- ・ 出演 水木佑歌(日本舞踊「藤娘」から藤娘)、藤間恵都子(日本舞踊「水仙丹前」から若衆)、李美英(韓国舞踊「太平舞」から韓国の王女)、王潤菁(京劇「天女散花」から天女)、野村小三郎(某)
- ・ 照明・美術デザイン:石井幹子

永い歴史に培われてきた「古典芸能」と最先端技術に裏打ちされた「あかり」のコラボレーションによる新しい「都市型アート」。今年は、日中韓を代表する舞踊家によるオムニバス形式の新作舞踊劇を上演しました。



エ 横浜アートサイト 2009

- ・ 開催日 平成21年7月18日(土)～12月23日(水・祝)
- ・ 開催場所 栄区、緑区、金沢区、青葉区、都筑区、南区
- ・ 参加者数 約52,000人

都心臨海部における先進的なアート活動を全市的に展開し、市内のアートNPO等の団体が地域特性を活かして実施するアート活動を「アート発信の現場＝アートサイト」として位置付け、アート活動の発掘・育成とネットワーク化、各団体相互の連携を図ったうえで、全体を「横浜アートサイト2009」として開催し、一体的なプロモーションにより対外的な発信力を高めました。

【アートサイトの活動】

- 栄区: さかえ de つながるアート 2009
(日程) 7/18, 9/6, 10/11～12
(場所) 上郷・森の家、栄区内各地 (JR本郷台駅前広場ほか)
(アーティスト) 北川純ほか
- 緑区: 創造と森の声 2009 横浜の森美術展3
(日程) 8/23～10/3
(場所) 横浜動物の森公園予定地
(アーティスト) クリスチアン・ロスマン、アリ・カイズ、ヘディ・ハリヤント、パット・ホフィー、小宮伸二、安部大雅ほか
- 金沢区: 第11回金沢文庫芸術祭「こどもの未来は地球の未来」
(日程) 1 DAY イベント 9/20
街角アトラリー 10/1～11/30
(場所) 1 DAY イベント 海の公園
街角アトラリー 金沢区内および近郊各所
(アーティスト) ロコ・サトシ、アイヌ・アートプロジェクトほか

- 青葉区：A O B A + A R T 2009
 (日程) 10/10～11/3
 (場所) たまプラーザ駅周辺の住宅街(美しが丘)、公園、学校
 (アーティスト) 池田晶紀、小粥丈晴、森本美絵、江口宏志(ユトレヒト)
- 都筑区：都筑アートプロジェクト 2009 ニュータウン・ピクニック～遺跡をめぐるアート～
 (日程) 10/11～11/7
 (場所) 横浜市歴史博物館、大塚・歳勝土遺跡公園、都筑民家園
 (アーティスト) 今井紀彰、三宅光春、リンダ・デニス、岡本敦生、
 奥野美果、フランシス真悟、開発好明、文殊の知恵熱、
 塩谷良太ほか
- 南区：大岡川アートプロジェクト「光のぶろむなあと 2009」
 (日程) 12/19～23
 (場所) 南区蒔田公園、蒔田公園周辺の大岡川流域、高速道路高架橋、
 吉野町市民プラザほか
 (アーティスト) 中村敬、ビッグバンドNAZCA、ジェリクルーYほか

《市民イベントの展開》

オ 市民参加プラットフォーム推進委員会

開港 150 周年に、市民自らが参加し、様々な市民イベントの展開を応援する仕組みとして「Y150 市民参加プラットフォーム推進委員会」が設立されました。

「Y150 市民参加プラットフォーム推進委員会」では、市民が主役となった「横浜らしい、横浜ならではの」イベントを市内全域で展開することを目的に様々な事業を展開しました。

「Y150 市民参加プラットフォーム推進委員会」(委員長：作家・山崎洋子)

(7) 横浜のイベントをエコにするネットワーク

横浜で行われるイベントを、エコ・コンシャスな(環境に優しい)ものにし、“横浜のイベントではゴミを捨てる人がいない、環境への負荷をかけない”という文化をつくることを目的に様々な事業を実施しました。

- 横浜のイベントをエコにするガイドラインの作成
 イベント主催者向けのガイドラインを平成 20 年 12 月に作成し、Web サイト上 (<http://eco.yokohama150.jp/>) で公開しました。
- エコ活動を実践し、ノウハウを蓄積
 横浜開港祭でのエコアクション ・臨港パーク
 国際花火大会後の山下公園清掃活動 ・山下公園
 神奈川新聞花火大会でのみなとみらいクリーン大作戦・臨港パーク
 資源循環公社による区民まつりなどにおけるリユース食器導入 ほか
- 環境タウンミーティング ～イベントをエコにする～
 会場 赤レンガ倉庫 1 号館 3 階ホール
 日時 平成 21 年 5 月 13 日(水) 16:00～18:20
 参加人数 92 人
- ベイサイド市民協催「エコイベントでCSR」
 会場 赤レンガ倉庫 1 号館 3 階ホール
 日時 平成 21 年 9 月 10 日(木) 14 時～20 時
 参加人数 116 人(交流会には 30 人が参加)

- エコボラ講座…Y150 市民参加プラットフォーム推進委員会主催事業
会場 ヒルサイド Y150 つながりの森
日時 平成 21 年 9 月 12 日(土) 10 時～14 時
参加人数 15 人

(イ) 道志村間伐材・横浜の技プロジェクト

「道志村間伐材・横浜の技プロジェクト」は、横浜市の水源地である道志村の間伐材を活用して、開港時から伝承する「横浜家具」の技術に触れる「ものづくり」の体験を通じ、「自然」と「生活」のつながりと「横浜の歴史」を知ってもらうことを目的に、ベンチ作りのワークショップを実施しました。

ベンチは、「開国博 Y150」の会場へ設置し、開国博 Y150 会期終了後は、ベンチをお持ち帰りいただくこととしました。

- ・ 応募者数：166 名 内訳 一般公募 大人 17 名、小学生 7 名
学校参加 横浜市立鉄小学校 5・6 年生 51 名
横浜市立元街小学校 5 年生 91 名
- ・ ベンチ作りワークショップ
第 1 回 平成 21 年 2 月 19 日 (木)・20 日 (金) 9 時～15 時
第 2 回 平成 21 年 2 月 23 日 (月)・24 日 (火) 9 時～15 時
第 3 回 平成 21 年 3 月 7 日 (土)・8 日 (日) 10 時～16 時
第 4 回 平成 21 年 3 月 13 日 (土)・14 日 (日) 10 時～16 時

(ウ) 横浜地域 SNS「ハマっち！」

ICT の活用による効率的な市民イベント・プロジェクトや、コミュニティ活性化のための環境づくりを推進するために地域 SNS を構築しました。

- 横浜地域 SNS「ハマっち！」の機能
 - ①プロフィールの書き込み
 - ②トモダチの検索、追加
 - ③コミュニティへの参加
 - ④ハマっち！への招待
 - ⑤ハマっち！への書き込み（ブログ、コミュニティ、トモダチの紹介、動画投稿）
- アクセス・投稿実績（平成 21 年 9 月 30 日時点）
 - ①月間平均ユニークユーザー数：19,686 (AWStats より。平成 21 年 4 月～)
 - ②月間平均ページ：(同上) 962,227
 - ③ハマっち！の登録ユーザー数：2,910

(エ) 市民参加プラットフォーム窓口

2009 年の開港 150 周年に、参加したいという市民の方々に、開国博 Y150 の多様な市民参加の情報と参加の機会をワンストップで「わかりやすく」、「一元的に」提供する窓口を設けました。

- (財)横浜開港 150 周年協会事務所 1 階
- 業務内容
開国博 Y150 市民参加関連イベントの情報をイベントナビ等を使って積極的に提供・発信するとともに、市民からのボランティア等への参加問合せに、窓口や電話、Eメール等で対応しました。
- 受付（相談）期間・時間
平成 20 年 10 月 1 日～平成 21 年 9 月 27 日
午前 10 時～午後 5 時（月曜休み）

※平成 21 年 4 月 26 日（開国博 Y150 開幕前日）までは、土・日・祝日休み

● 受付（相談）体制

窓口・電話等での問い合わせ対応や市民参加事業間の連携を図るために、嘱託職員 2 名を公募・採用し、常駐しました。

● 受付（相談）件数

合計 1,629 件（月平均 136 件）

《歴史を学び、体験できる様々な事業の展開》

カ 横浜開港の歴史を振り返る様々な記念出版

横浜開港の歴史を振り返る様々な出版物が、市だけでなく民間など様々な機関から出版され、多くの市民が横浜や港の発展の歴史に触れる機会が提供されました。

(7) 横浜開港 150 周年記念出版 写真集「昭和の横浜」

昭和期を対象にした「横浜市史Ⅱ」（全 16 冊）の編集成果を引き継ぐ横浜市史資料室が、開港 150 周年を記念し、出版しました。

- ・ 発行者 横浜市行政運営調整局法制課
- ・ 発行日 平成 21 年 6 月 2 日
- ・ 発行部数 3,000 部
- ・ 定価 3,000 円

(4) 横浜開港 150 周年記念図書 横浜港物語～みなとびとの記～

横浜の原点というべき「港」に焦点を当て、その誕生からの歩みを写真や図書をふんだんに使って振り返るとともに、多くの困難を克服して現在の横浜の礎を築いた先人の業績やエピソードを紹介する記念図書を出版しました。

- ・ 発行者 横浜開港 150 周年記念図書刊行委員会
(社団法人横浜港振興協会内)
- ・ 発行日 平成 21 年 6 月 2 日
- ・ 発行部数 20,000 部
- ・ 定価 2,100 円

(ウ) 横浜開港物語 DVD

「開国博 Y150」で好評を得た横浜開港の歴史を開港時に活躍した人物を通して振り返る映像「横浜開港物語」を DVD 化し、多くの児童生徒及び横浜市民がこの映像を通じて横浜開港の歴史を学べるよう、(財)横浜開港 150 周年協会から横浜市立学校及び横浜市立図書館に寄贈されました。

- ・ 企画制作 財団法人横浜開港 150 周年協会
- ・ 寄贈日 平成 21 年 10 月 22 日
- ・ 寄贈先 横浜開港物語 DVD 合計 2,106 枚
(内訳)横浜市立学校 (513 校) ～各 4 枚
横浜市立図書館 (18 館) ～各 3 枚

(イ) 開港 150 周年記念 横浜 歴史と文化

原始・古代から現代にいたる横浜の歴史を、豊富なカラー図版とともに振り返る図書を発行しました。

- ・ 編集 財団法人横浜市ふるさと歴史財団
- ・ 刊行 平成 21 年 5 月
- ・ 定価 7,350 円

(オ) かながわの開港都市横浜 DVD

横浜開港前後から現在までの発展の歴史を振り返る映像を30分にまとめ、開国博 Y150 の会場内で上映されたほか、多くの児童生徒が学べるよう、神奈川県内の全小・中・高校や図書館に寄贈されました。

- ・ 発行 財団法人はまぎん産業文化振興財団
- ・ 発刊日 平成21年6月1日
- ・ 寄贈先 神奈川県内の小・中・高・特別支援学校 約1,750枚
神奈川県内の図書館等 34枚

(カ) そのほかの記念出版

- 開港150周年記念写真集 横濱みなとの唄「いまも百舟百千舟」
 - ・ 発行者 社団法人横浜港振興協会
 - ・ 発行 平成21年5月20日
- OLD but NEW～イセザキの未来につなぐ散歩道～
 - ・ 編集 伊勢佐木町1・2丁目地区商店街振興組合
「イセザキ歴史書をつくる会」
 - ・ 発行 神奈川新聞社
 - ・ 発行 平成21年7月1日
- 横濱元町古今史点描
 - ・ 編者 「横濱元町古今史点描」編纂委員会
 - ・ 著者 大澤秀人
 - ・ 発行 平成20年6月2日
- 聞き書き「横濱中華街物語」
 - ・ 語り 林兼正
 - ・ 聞き書き 小田豊二
- ノゲ劇場「野毛界限一」
 - ・ 野毛地区振興事業協同組合
- 横浜タイムトリップ・ガイド
 - ・ 編著者 横浜タイムトリップ・ガイド制作委員会
 - ・ 発行 平成20年9月27日
- ヨコハマ伊勢佐木町復活への道
 - ・ 著者 山田泰造
 - ・ 発行 平成21年7月8日

キ 横浜開港の歴史を体験できる様々な事業の実施

横浜開港の歴史をテーマとした展覧会や講座、公演などが市内各地で展開され、楽しみながら身近に横浜開港の歴史を体験できる機会が提供されました。

(7) 横浜開港150周年記念 横浜能楽堂特別企画公演・特別展 「海を渡った能装束」

日本から流出し、約120年前にドイツでオペレッタ「ミカド」の衣装に転用された江戸時代の能装束を里帰りさせ、修復の後に展示を行いました。また復元された装束を用い、能とオペレッタの公演を行いました。

[公演] 平成21年6月6日(土)・7日(日)

横浜能楽堂本舞台(能)、横浜市開港記念会館講堂(オペレッタ)

[展示] 平成21年5月1日(金)～6月7日(日)

横浜能楽堂二階展示廊

(イ) 横浜開港 150 周年記念展示

横浜開港資料館、横浜市歴史博物館、横浜都市発展記念館、横浜ユーラシア文化館などで、開港にちなんだ企画展や講座、講演会を開催しました。

● 横浜市歴史博物館

- ・ 海賊～室町・戦国時代の東京湾と横浜 4月4日(土)～5月10日(日)
- ・ 絵地図・浮世絵・写真等にみる幕末・近代の横浜
5月23日(土)～7月5日(日)、7月18日(土)～8月30日(日)
- ・ 博物館収蔵 都筑区・青葉区関係資料展
9月12日(土)～10月4日(日)
- ・ 陸の道と海の道の交差点～江戸時代の神奈川～
10月17日(土)～11月29日

● 横浜都市発展記念館

- ・ 横浜建築家列伝 4月25日(土)～8月30日(日)

● 横浜開港資料館

- ・ 横浜開港と宣教師～翻訳聖書の誕生 1月28日(水)～4月19日(日)
- ・ 港都横浜の誕生～新発見資料に見る近代化の原点
4月22日(水)～7月26日(日)
- ・ ハマの中華街 150年～多文化都市の果実
7月29日(水)～10月25日(日)
- ・ 近代を迎えた横浜の村々
10月28日(水)～12月27日(日)

● 横浜ユーラシア文化館

- ・ 東西交流の証～港が結ぶユーラシア・ネットワーク
9月19日(土)～22年1月11日(日)

(ウ) 横浜開港 150 周年記念 よこはま大学開港塾

開港以来世界への窓口として日本の発展に大きく貢献した横浜の歴史を振り返り、変化する国際社会の中で、横浜から未来の日本・世界を展望し、切り開くことを目的に横浜市内の大学が連携してリレー形式でシンポジウムを実施しました。

- ・ 第1回 横浜市立大学「横浜の課題と挑戦～開港 150 周年を迎えて」
- ・ 第2回 慶應義塾大学「西洋文明との出会い～開港地横浜の衝撃」
- ・ 第3回 桐蔭横浜大学「東洋と横浜Ⅰ～インドと横浜」
- ・ 第4回 神奈川大学「東洋と横浜Ⅱ～中国と横浜」
- ・ 第5回 神奈川大学「多極化時代の都市の競争優位」
- ・ 第6回 横浜国立大学「都市横浜の挑戦Ⅰ～クリエイティブシティ構想」
- ・ 第7回 東京都市大学「都市横浜の挑戦Ⅱ～環境モデル都市の挑戦」
- ・ 第8回 横浜商科大学「都市横浜の挑戦Ⅲ～国際観光コンベンション都市横浜の戦略」
- ・ 第9回 フェリス女学院大学「地域からの国際交流」
- ・ 第10回 横浜市立大学「横浜の課題と挑戦～大学からのメッセージ」

(イ) 横浜開港 150 周年記念・横浜美術館開館 20 周年記念「大・開港展」

開港の前後、国家の体制の大きな変革をはさんで、わが国の美術が、江戸時代から何を受け継ぎ、明治になって新たに何を生み出していったかを見る特別展を開催しました。

- ・ 会期 平成 21 年 9 月 19 日 (土) ～11 月 23 日 (月・祝)
- ・ 内容 第 1 章 徳川時代、第 2 章 開港の時代、第 3 章 明治時代

(オ) みんなでつくる横濱写真アルバム—市民が記録した 150 年—

横浜の歴史を記録した写真をウェブサイト「みんなでつくる横濱写真アルバム」に投稿、活用していただき、歴史や文化、経済や産業振興、地域の発展、市民の生活文化など、横浜を語る「写真」を通して、魅力ある郷土の共有財産づくりに貢献することを目的に実施されました。

- ・ 運営者 : 横浜写真アーカイブ実行委員会
(横浜商工会議所、横浜港振興協会、
横浜市、横浜開港 150 周年協会)
- ・ 公開期間 : 平成 19 年 4 月 1 日(日)～平成 21 年 10 月 31 日(土)
- ・ URL : <http://www.yokohama-album.jp/>
- ・ 写真投稿件数 : 5,947 枚
- ・ 投稿者数 : 229

《市民による人の輪と緑にあふれた街づくり》

ク 150万本植樹行動と開港150周年の森づくり

150万本植樹行動は、平成18年度から開港150周年の平成21年度までの4か年で、市民・事業者・行政が協働して150万本の植樹を目指すものです。

平成19年1月の市長による150万本植樹行動宣言を皮切りとして、市民には暮らしの中に緑を取り入れたライフスタイルを、事業者には緑や環境を大切にされた事業活動を、そして行政は公共施設の緑化による緑あふれる街づくりを、植樹という行動を通して実践してきました。

また、市民や事業者に積極的に行動へ参画していただくために、ロゴマークの制定やリーフレット・ホームページ等様々な広報媒体を活用してPRを展開するとともに、植樹や植樹行動のPRにご協力いただいた市民や事業者を登録し公表する制度を設けました。

20年度末の登録実績は、市民約5,600名、事業者約370社に及んでいます。

そして、18年度から20年度までの3か年の植樹実績は、約128万本となっており、21年度末までに目標としてきた150万本の植樹を達成する見込みです。

150万本植樹行動の一環であり、開港150周年の記念事業として実施している事業に、「開港150周年の森づくり」事業があります。

この事業は、緑豊かな自然環境を次世代に継承するため、市内各所で大小様々な森づくりを市民参加により行うものです。できるだけ多くの市民の方に森づくりに参加していただきたいということから、植樹だけでなく、タネを集め、苗木を育てるところから市民参加で取り組んできました。

樹木のタネとしては、横浜の里山に元々あった樹木であること、市内の樹林地や公園など身近な場所で容易に集められることからドングリを選びました。

平成18年にドングリ集めを公募で実施したところ、個人の方をはじめ、保育園・幼稚園、学校、企業、NPOなど延べ8,000人の方から25万粒のドングリが寄せられました。このうち約10万本が小学校や地元農家の方々の協力により苗木として育てられ、この苗木を活用して、10月末までに市内9か所で市民参加による森づくりを実施し、約14,000本の苗木を植栽しました。



ケ 「たまくすプロジェクト」樹勢回復記念植樹事業

ペリー上陸の図に描かれ、横浜開港のシンボルとなっている、横浜開港資料館中庭にある地域史跡、通称「たまくす」の木を後世まで伝え、残していくために、所管する財団法人横浜市ふるさと歴史財団・横浜開港資料館が中心となり、次の事業を行いました。

- ① 市民にたまくすの歴史を紹介し、市民に「育て親」として、たまくすの種を苗木にまで育てていただき、子孫を市内に植樹しました。
- ② 通称「たまくす」の木の樹勢が衰えているため、樹木医の診断により、土壌改良を行うことで、通称「たまくす」の木の樹勢を回復させました。

たまくすの育て親については、小学生から高齢者の方まで、家族ぐるみでご参加いただき、横浜開港とたまくすの歴史について、横浜横浜開港資料館の調査研究員により講座を開催し、種をお渡ししました。

その後、約2年間、育て親の方々の自宅で発芽から苗木までの育成をお願いし、年に数回、成長過程のご報告などを頂きながら、最終的には、合計100苗程度の苗木をご提供頂きました。

苗木は、平成21年6月11日・10月17日の2回に分けて、環境創造局の協力のもと、旧小柴貯油施設（米軍施設返還跡地）に植樹しました。

また、通称「たまくす」の木の樹勢を回復させるために、平成20年度中に横浜開港資料館中庭の土を入れ替え、瓦礫の除去、枝や根の養生を行うことで、たまくすの長寿命化を図りました。

土壌改良の効果もあり、先日の樹木医の診断でも、樹勢が回復傾向にあることが確認されました。



コ コラボレーションフォーラム横浜 2009

「開港150周年に向けた協働の都市づくり」を目指し、身近な地域の課題解決に向けた協働の取組を、多くの市民や行政で共有することにより、行政・市民双方の意識改革や相互理解を深め、市民の活動や本市の施策に活かしていくため、コラボレーションフォーラムを開催しました。

今年のコラボレーションフォーラムは、横浜ライフデザインフェア2009の会場内で開催することにより、団塊の世代等、新たな担い手として期待されている方々を対象に地域活動・社会貢献活動への参加を促すきっかけとなる内容で開催しました。

- ・ 実施日時：平成21年10月26日（月） 19：00～20：30
- ・ 場 所：横浜市市民活動支援センター4階研修室
（横浜ライフデザインフェア期間中、フェア会場にて開催）
- ・ 参加者：44名
- ・ テーマ：「地域がつながる“きっかけ”を探そう！」
- ・ プログラム
 - ① 追浜こみゅに亭&ワイナリーの事例紹介
「ワイン作りが地域のつながりに」
昌子住江さん（NPO 法人アクションおっぱま理事長、元関東学院大学工学部教授）
福島 仁さん（NPO 法人アクションおっぱま副理事長、協同組合追浜商盛會理事長）
 - ② 緑区地域子育て支援拠点 いっぼの事例紹介
「中学生の夏ボラが地域を変える」
松岡美子さん（NPO 法人グリーンママ理事長、緑区地域子育て支援拠点いっぼ施設長）
富岡克之さん（財団法人横浜市青少年育成協会総務企画部企画営業課）

③ 全体意見交換

「地域がつながる“きっかけ”を探そう！」をテーマに、地域の方が活動に参加するきっかけとなった事例として、ワインや中学生が地域をつなぐ要素となった事例を取り上げ、それぞれの地域が「ワイン」や「中学生」を通して、どのようにつながりを持っていったのか、その他にもある地域をつなぐ要素、きっかけを会場全体で探り、身近な地域のネットワークをどう作っていけばいいかなど参加者とともに考え実施しました。

サ 開港5都市景観まちづくり会議 2009 横浜大会

- ・ 開催日 平成21年9月11日(金)～9月13日(日)
- ・ 会場 横浜情報文化センターホール、NEWSハーバーほか
- ・ 参加者数 約220人

「開港5都市景観まちづくり会議」は、安政年間の日米修好通商条約によって開港場となった5都市(函館・新潟・横浜・神戸・長崎)で活動する市民団体等が、共通の歴史を持つことを縁に、景観まちづくりに関する交流・意見交換をする会です。第15回大会は、横浜で開催し、メインテーマを「150年の贈りもの～新たな旅立ちへ」とし、3日間にわたり、まち歩きやディスカッションを行いました。

1日目は、各都市代表者からの活動報告の後、海事広報艇「はまどり」に乗船し、海から横浜の街並みを見学。その後の基調講演では、作家の山崎洋子氏から「開港場横浜の華と陰」というテーマで、横浜の開港以来の歴史を支えた市民の活躍について、お話をいただきました。

2日目は、3つのグループに分かれ、午前中は街歩き、午後はテーマ別にディスカッションを行いました。

第1分科会は、「港の資産を生かして新たな魅力づくり」をテーマに、午前中はマリントワーや象の鼻など、最近完成した施設を見学、午後は開港資料館にて各都市の事例紹介と意見交換を行いました。

第2分科会は、「文化の香り豊かなモダンな街～個性を生かして街を元気にしよう～」をテーマに、午前中はBankartNYKや黄金町、伊勢佐木、馬車道を見学、午後は北仲 BRICKにて、商店街や中心市街地の活性化をテーマに、横浜の事例紹介の後、意見交換を行いました。

第3分科会は、「ハイカラ文化と市民の活動」をテーマに、午前中は山手地区の見学と、「ミッションスクールと女子の教育」についての講演、午後は中華街、元町を見学した後、市民参加によるまちづくりについて、事例紹介と意見交換を行いました。

いずれの分科会も、5都市の活動団体に行政関係者も加わり、活発な議論が行われました。

2日目の夜には、各都市代表者会議が開かれ、来年度の開催地が神戸市に決定しました。

最終日は、各分科会の実施報告、各都市代表者から今回の横浜大会について感想と意見をいただいた後、大会宣言を発表し、終了しました。



シ 開港 150 周年記念障害者スポーツ文化事業

(ア) 趣旨

開港 150 周年記念障害者スポーツ文化事業実行委員会では、障害者と健常者が一緒に楽しめるスポーツ・文化事業を、市民や団体など多くの市民の力と協働して、企画・実施しました。これらの事業を契機として、障害者スポーツ・文化のノーマライゼーションを促進することを目的としました。

(イ) 主な内容

- ・ヨット事業：横浜ベイサイドマリーナ、MM前面海域にてヨット乗艇会を開催しました。障害のある人も安心して乗れるヨット用の座位保持装置を開発し、ヨットハーバーのバリアフリー化、ボランティアの育成も行いました。
- ・ウオーキングイベント：みなとみらい 21 地区にて開催しました。
- ・グラウンドゴルフ大会：横浜みなとみらいスポーツパークにて実施しました。
- ・車いすバスケットボール体験会：横浜ラポールを中心に体験会・練習会を開催しました。平成 21 年 12 月には「High8 選手権大会」においてエキシビジョン・ゲームを実施予定です。
- ・アダプテッドエアロビクスダンス：横浜ラポールで、障害者のエアロビクスの体験会や発表会を開催しました。
- ・知的障害者サッカー：知的障害者サッカーチーム「横浜 F マリノス フトゥーロ」が日産スタジアムで、ナビスコカップ準決勝ゲームの前座試合を実施しました。プロ・スポーツと障害者スポーツの関わりを横浜から発信しました。
- ・字幕付演劇：聴覚障害者も共に楽しめるよう、字幕をつけた演劇を横浜ラポールで実施しました。
- ・コンサート鑑賞：障害者であり、プロのアーティストとして活躍するテノール歌手の新垣勉氏や和太鼓奏者の友野龍士氏によるコンサートを横浜ラポールにて開催しました。
- ・木のおもちゃ展：障害者地域作業所や特別支援学校等と協力して、木のおもちゃづくりのワークショップや展示会を実施しました。
- ・バリアフリーミュージカルコンサート：障害のある方もない方も、楽しむことができる舞台公演を行いました。
- ・「世界の仲間たち」写真展：JICA 横浜との協働事業として、市内の小中学校で、世界の子どもたちの写真展を行いました。
- ・「横濱いろはかるた」（手話の指文字や展示を付記）制作と原画巡回展示会：市民に、横浜をイメージするかるたの読み札を公募しました。絵札を切り絵画家が作成し、原画と読み札の巡回展を市内 8 箇所で開催しました。かるたは開港 150 周年オフィシャル・ショップ他で販売しました。

ス 横浜ライフデザインフェア 2009

本市の市民力発揮推進の一環として開催する「横浜ライフデザインフェア 2009」は、市民活動団体、企業、行政が一体となり、団塊の世代を中心とする幅広い市民に対し、セカンドステージの働き方、健康、趣味、地域・市民活動など、様々な提案を行い、新たな地域の担い手として活動をはじめのきっかけを提供することを目的として開催しました。

- ① サブテーマ：地域への扉をみつけよう～会社から社会へ～
- ② 開催期間：2009年10月24日（土）～11月1日（日）【9日間】
- ③ 開催場所：みなとみらいエリアの5会場（みらいチューブ、横浜市市民活動支援センター、ランドマークプラザ、クイーンズサークル、はまぎんホール）
- ④ 主催：横浜ライフデザインフェア実行委員会、横浜市
- ⑤ 入場料：無料
- ⑥ 出展者数：74団体（市民活動団体：34、企業：13、行政：27）
- ⑦ 参加者：21,302人

各会場では、市民活動団体・企業・行政によるパネル展示のほか、「団塊の世代フォーラム2009」をはじめとするステージイベントやセミナー、コンサート、ワークショップなど、多彩な提案が行われました。

セ 「はまっ子どうし」事業

平成19年5月、水道局では、横浜市のオフィシャルウォーター「はまっ子どうし」について、開港150周年記念ボトルを製造・販売しました。



《地域の魅力を高め、愛着を深める取組》

ソ 横浜18区紹介デー

18区には、歴史的な資産や伝統芸能、区民による芸術活動が行われる等、多様で魅力溢れる資源があります。

そこで、開港150周年記念テーマイベント「開国博Y150」の開催期間中に、開国博Y150の会場の一つである赤レンガ倉庫において、これらの地域の多様性を一堂に集め、パネル展やステージイベント、名産や物産等を紹介する「横浜18区紹介デー」を開催しました。

約12万人の来場者があり、各区の地域の特色をPRすることで、市域全体で開港150周年の盛り上げを図り、港だけではない横浜の魅力を内外に発信するとともに、普段港を訪れる機会のない方にも、開港の地である港の魅力に触れていただきました。



■屋外イベント広場

- ・日時：平成21年5月9日(土)～10日(日) 11:00～18:00
- ・会場：赤レンガ倉庫イベント広場A(海側)
- ・内容：各区ブースでの飲食、物販、ステージイベント
- ・入場者数：113,000人

■2階ギャラリー

- ・日時：平成21年5月9日(土)～13日(水)
11:00～20:00(13日は11:00～17:00)
- ・会場：赤レンガ倉庫1号館2階ギャラリー
- ・内容：各区ブースでのパネル展示
- ・入場者数：7,800人



■ 3階ホール

- ・日時：平成21年5月9日(土)、10日(日)、30日(土)、6月6日(土)、7日(日)、13日(土)、14日(日)、20日(土)、21日(日)
- ・会場：赤レンガ倉庫1号館3階ホール
- ・内容：各区で活動する団体によるステージイベント
入場者：5,000人

タ 各区の取り組み

市内18区において、開港150周年を祝うために各区ならではの個性的で元気あふれるイベントや記念事業のほか、周年事業などを協働で展開し、魅力を高め、愛着を深める様々な事業が展開されました。

区名		イベント名	開催時期	開催場所	開催内容	集客数 (H21年度)
鶴見	1	鶴見区民まつり支援事業 ・三ツ池公園フェスティバル ・つるみ臨海フェスティバル	5月16日 11月1日	三ツ池公園 入船公園	開港150周年をきっかけに、鶴見のふるさと意識を醸成し、区民相互の交流や親睦を深めました。	80,000
	2	鶴見区 開港150周年イベント	4~12月	区内	開港150周年をきっかけに、鶴見区を盛り上げるイベント	50,000
	3	鶴見川サマーフェスティバル	8月22日	鶴見川、佃野公園 周辺	打ち上げ花火で開港150周年をさらに盛り上げる。また、花火大会には、区外の方の集客が多く見込まれることから、区民相互の交流はもちろん、区を越えての交流や親睦を深めました。	45,000
神奈川	1	神奈川台場公園魅力アップ事業 (区局連携:環境創造局)	11~3月 (リニューアル 工事)	神奈川台場公園	平成20年度の神奈川台場公園における神奈川台場の発掘調査の結果及び概略設計を踏まえて、「神奈川台場」を生かした公園の詳細設計及び改修を行います。	—
	2	神奈川台場PR事業	2~3月 (設置工事)	神奈川台場公園	神奈川台場への理解や関心を深めるため、改修工事にあわせて、神奈川台場の当時の絵図や資料、遺構の状況写真などのパネル(屋外用サイン)により、公園内に常設掲示します。	—
	3	神奈川区資産「わが町 かながわ とっておき」活用事業	通年	区内史跡、施設、 各商店街等	H20年度に神奈川区の魅力資源として認定した神奈川区資産「わが町 かながわ とっておき」を、区民・事業者等との協働により、イベント実施等に活用し、区民の地域への関心を高め、さらなるまちの魅力アップに取り組みました。	—
	4	かながわ湊フェスタ	4月29日	環境創造局 神奈川区水再生 センター	神奈川区には800年前からの神奈川湊や、400年前から栄えた神奈川宿がありました。開港期に各国の領事館が置かれた寺や、海上警備のための台場など、横浜開港の舞台であった歴史史跡が多数残っています。開港150周年を契機に、これらの史跡を活用して神奈川区の歴史を学んだり、神奈川区の臨海部で海との関わりや環境問題などにも関心をもってもらえるような事業や、異文化に触れるための国際交流まつり等を行ないました。	5000
	5	かながわ区民力発揮プロジェクト	4月~	区内各所	地域の課題等を区民自らが解決するための取り組みに補助金等の支援を行う「かながわ区民力発揮プロジェクト」の対象を開港150周年を記念する事業にも拡大して支援しました。	—

	6	神奈川県民まつり事業	10月11日	反町公園 及び 神奈川県役所 別館1階	地域まつり事業は、地域住民で構成される実行委員会が主体となって企画運営を行うイベントで、ふるさと意識の醸成と地域の活性化に寄与する事業となっています。また、本年度は、開港150周年記念事業として位置づけを取り組みました。	67,000
	7	開港150周年記念特別企画 ヨコハマ大道芸ステージ ショー	10月10日	神奈川公会堂	横浜大道芸公演。大道芸人による子供から大人まで楽しめる笑いあり、驚きありの演技を披露。随所に開港150周年であることをPRする台詞などの演出を織り交ぜPRしました。	430
西	1	西区ふれんど ship	5月23日 8月15日	横浜美術館	開港150周年事業のプロデューサーの一人である日比野克彦氏の作成したダンボール船を横浜美術館に展示し、展示期間中、船をテーマにワークショップを展開。	60
	2	西区マザーポートクリーン アップ作戦	5月30日	横浜駅周辺 桜木町駅周辺	開港150周年記念事業の舞台となるマザーポートの清掃活動を行いました。	1150
	3	西区キャンドルアート	12月19日	グランモール公園 (横浜美術館前)	横浜開港150周年協会が開催するキャンドルカフェと連携して、区民に参加を呼びかけてキャンドルで、たねまるを表現したり、もったいない探偵団のエコキャンドルを点灯したり、子ども会によるメッセージシートの作成など、西区らしい演出を行いました。	1,500
	4	西区虫の音を聞く会	8月1日	掃部山公園	横浜開港は大老に就任した当時の彦根藩主「井伊直弼」の功績であり、その銅像が西区の掃部山公園にあります。西区虫の音を聞く会は、この公園で、「井伊直弼」ゆかりのお茶会等を行うお祭りで、ステージ及び万灯により、開港150周年のPRを行いました。	7,000
	5	詩情展	6月8日～14日	みなとみらいギャラリー	西区の詩情をテーマとした絵画・写真・書の展示と詩の発表会	1,000
	6	彦根・横浜友好交流事業	10月31日～ 11月3日	彦根市	横浜開港は大老に就任した当時の彦根藩主「井伊直弼」の功績であり、その銅像が西区の掃部山公園にあることから、これまで西区は彦根市と交流をしてきましたが、交流の輪をさらに深めるため、委員会メンバーが彦根市を訪問し、横浜のPRを行いました。	—
	7	西区民まつり	11月1日	戸部公園、西前小学校等	戸部公園・西前小学校・西区役所等で開催されるお祭りの中で、開港150周年事業をPRしました。	30,000
	8	平沼橋壁画事業	9月9日	平沼橋	開港150周年を記念し、軽井沢中学校及び岡野中学校生徒が壁画を作成し、平沼橋～岡野町歩道に掲出しました。	500
	9	みなとみらい盆踊り	8月21日 ～22日	臨港パーク	みなとみらい地区で盆踊り大会を開催し、地域住民の交流を深めました。	9,000
	10	ヨコハマカーニバル(彦根・ 横浜友好交流)	8月22日 ～23日	横浜駅西口周辺	ヨコハマカーニバルの会場周辺で彦根市の物産展やPRイベントを行いました。	156,500
	11	横浜かもんやま能	11月22日	横浜能楽堂	開港の立役者である井伊直弼ゆかりの能、狂言を上演し、パンフレット等により開港150周年をPRしました。	480
	12	西区ハマのウォーキングフ ェスティバル	12月6日	区内	西区の歴史、文化を再発見し、併せて健康増進を図るため区内を2つのコースに分けて歩きます。ゴールで開港150周年を祝う。	1,800
	13	西区民合唱祭	1月23日	県立音楽堂	西区で活動する合唱団によるジョイントコンサート。テーマは“にじ・ゆめ・みらい”とし、開港150周年の今後の区民交流、連帯を深める契機としました。	1,000
	14	西区歴史街道改訂	平成22年3月 末まで	—	西区内の史跡マップの改訂	—
中	1	吉田町アート&ジャズフェ スティバル	4月26日、27日	吉田町通り・福富 西公園	「アート市場」のほか、会場数箇所でジャズステージを展開。	30,000
	2	チューリップ・アート・プロム ナード	4月24日	山手の西洋館・公園	山手の西洋館と公園に、チューリップの花茎で、開港150周年にちなんだデザインの花絵パネルを作製・展示	20,000

3	マザーポートエリア クリーンアップ作戦	5月30日	中区内	マザーポートエリアのクリーンアップ	2,462
4	中区民ダンスフェスティバル	5月30日	関内ホール	中区民のダンスの発表会	800
5	ステンドグラス完成イベント	4月26日	開港記念会館	横浜開港に深いかかわりのある開港記念会館で市民と共に製作したステンドグラスの完成イベントを開催しました。	2,000
6	区役所 タイムスリップ150	6月1日～5日	中区役所	区職員が明治・大正時代などの時代衣装を身に着け、来庁者に開港150周年をアピールするとともに窓口案内しサービス向上を図りました。	—
7	横濱地図博覧会 2009 vol.1	6月2日～5日	大さん橋ホール	開港150周年にちなみ、横浜の歴史、生活文化に深く関わってきた様々な地図を、今昔交えて展示	—
8	象の鼻パーク トワイライトコンサート	6月3日～5日	創の鼻パーク	コンサート	1,000
9	中区開港ルネッサンス	6月6日・7日	日本大通り、象の鼻パーク	日本大通りタイムストリート、パレード、象の鼻ステージ	245,000
10	多文化フェスティバル	6月6日・7日	なか区民活動センター 日本大通り	多文化共生と共に、国内外からさまざまな人が訪れる横浜の中心地・中区で外国人が快適に滞在・活動し、活発な交流が行われる国際性豊かなまちづくりを進めました。	1,650
11	海を渡った能装束・オペレッタ「ミカド」	6月6日・7日	開港記念会館	オペレッタ	800
12	ジャックまるわかり講座	6月11日、18日、25日	開港記念会館	講演会	100
13	開港記念日記念イベント	6月2日	開港記念会館	開港記念日に関わるイベント(ジャックの塔にのぼってみよう、ステンドグラス教室)	500
14	中区童謡の会	6月12日	開港記念会館	開港150周年を記念する童謡コンサート	300
15	エンドレスドリーム ヨコハマの夜明け	6月1日～15日	大さん橋ホール	五大路子、企画・主演の料亭「富貴楼」お倉の物語	2,000
16	山手プロムナードコンサート	6月13日	山手聖公会	古楽器コンサート	200
17	花と器のハーモニー	6月13日～21日	山手西洋館	開港150周年を記念し、レトロ山手をテーマに開催	
18	開港記念会館一般公開	6月15日	開港記念会館	開港記念日に関わるイベント	500
19	開港から150周年 きものは語る いまむかし	6月19日～21日	開港記念会館	幕末からの服飾の展示、ファッションショー	1,200
20	朗読音楽ライブ 横浜夢語り	6月20日	開港記念会館	朗読コンサート、写真展	450
21	開港記念会館で楽しむバッハの市民音楽	6月21日	開港記念会館	古楽器コンサート	300
22	エディット・ピアフ愛の賛歌コンサート	6月26日	開港記念会館	愛を求める孤独な魂 歌うために生まれてきた一人の女 エディット・ピアフのドラマティックな生涯を歌い、語る音楽物語	442
23	日米交流セミナー	6月27日	開港記念会館	日米関係に関するシンポジウム	300
24	全国童謡サミット in よこはま	7月17日～18日	開港記念会館	講演会、コンサート	505
25	環シルクロード リレートークイベント 横濱、原三溪、インド～そして1枚の写真	7月19日	開港記念会館	農学博士の藤本実也がまとめた『原三溪翁伝』の稿本を読み解くリレートーク、新シルクロード光りのコンサート	300
26	音楽でたどる横浜とフェリス	7月20日	開港記念会館	開港当時から現代までの西洋音楽の系譜、横浜の歴史を、音楽学部教員・学生による演奏と大西教授によるレクチャーコンサートで迎える	400
27	山下会子どもフェスタ	7月26日	山下公園	子供向けイベント	900
28	中区まち・ひと音楽祭	8月18日	大さん橋ホール	中区内の施設を利用している団体、グループの発表会	1,200
29	NHKとの共同事業(ボイス・オブ・アスリート)	8月29日	開港記念会館	子供向けイベント	150
30	第29回YOKOHAMA本牧ジャズ祭	8月30日	本牧市民公園	野外のジャズコンサートの草分け的な存在であり、全国からファンの集まるこのジャズ祭で、開港150周年をアピールしました。	1,500

	31	黒船物見遊山 2009 横浜あきないまちウォーク ラリー	9月6日	市内4コース	大さん橋をゴールに市内4コースのウォーク ラリー	
	32	NHKとの共同事業(ラジオ 深夜便のつどい)	9月8日	開港記念会館	ラジオ公開番組	350
	33	横濱地図博覧会 2009 vol.2	9月22日～25 日	赤レンガ倉庫	開港150周年にちなみ、横浜の歴史、生活文 化に深く関わってきた様々な地図を、今昔交 えて展示	—
	34	文明開化ウォークラリー	10月11日	中区内	誰もが楽しく参加でき、文明開化発祥の地を 歩くウォークラリーを実施	362
	35	中区民祭り ハローよこは ま 2009	10月11日	根岸森林公園	区民の連帯意識を深め、区民相互の交流と 調和を図り、獨創性を活かした事業を展開。 今年は開港150周年記念イベントとして 位置づけ区民の総合発表会として展開するこ とにより、開港150周年を盛り上げました。	110,000
	36	開港150周年コンサート 「口琴～音のひろがり」	10月12日	開港記念会館	ヨーロッパ・アジアに広く分布する、世界一 小さな楽器である口琴のコンサート。日本にお いても江戸時代に人気を博し、幕末には幕府 が「風紀のためよろしからず」と禁止したほ ど。	
	37	横浜開港150周年記念舞 踊公演 インド古典舞踊パラタナティ ヤム	10月22日	県民小ホール	南インド古典舞踊パラタナティヤム『舞踊劇ラ ーマーヤナ』の舞踊劇と語りのコラボレーショ ン	
	38	中区民文化祭音楽祭	10月25日	開港記念会館	区民の器楽演奏の発表会。開港時から現在 までの音楽の歴史を織り交ぜた演奏会し、全 体合奏の「かもめの水兵さん」など開港150 周年をアピールしました。	350
	39	野毛大道芸オータムフェス ティバル	10月3日、4 日	野毛地区周辺	大道芸	110,000
	40	中区民文化祭区民の作品 展	11月7日～13 日	市民ギャラリー	区民の美術作品の発表会。開港150周年を 記念して、課題作品として海を取り上げ展示。	1,300
	41	09秋の収穫祭	10月31日・11 月1日	ヨコハマ NEWS ハ ーバー 日本大通り	「かながわワールド～あすの地球と子どもた ち～」を礎に地産地消をテーマとした「食」に ついて考える場を提供し、中区の地域振興に も寄与しました。	100,000
	42	横浜開港150周年/横浜リ ヨン姉妹都市提携50周年 記念 横浜・荷風・リヨン	11月29日	開港記念会館	1907年、横浜正金銀行の行員として『ふらん す物語』の舞台となるリヨンに降り立った若き 日の荷風。その荷風を通して、リヨンの魅力 に迫る。講師は法政大学教授の加太宏邦氏	400
	43	中区民文化祭合唱祭	12月6日	関内ホール	区民の合唱の発表会。	600
	44	横浜ハーバーライトファンタ ジー2009	12月22日・23 日	山下公園	キャンドルイベント	10,000
	45	中区民ミュージカル「象の 鼻のミケ」	1月24日	関内ホール	開港150周年を振り返り、開港当時のエピソ ードを盛り込んだロマン溢れるミュージカルの 上演。	1,000
南	1	みなみ商店街いきいき事業	4月～12月	南区内商店街 他	南区内の魅力を再発見する絵地図を作成し ました。商店街等と協力し150周年などを広 報PRしました。	2,000
	2	第34回南まつり	7月25日～26 日	蒔田公園	南区分相互の交流を深めるまつりを開催し、 まつりの特色である絵どうろうで、開港150 周年にちなんだ作品を展示しました。	50,000
	3	寺内タケシとブルージーン ズコンサート～開港150周 年記念イベント～	11月28日	南公会堂	区民が主体のみなみ区民文化振興事業実行 委員会が主催し実施。開港150周年を記念 し、曲目に市歌等を取り入れました。	550
	4	開港150周年記念誌「みな みの歴史探検」	8月	—	小学生を対象に、開港から現代までの南区 の歴史をふりかえる冊子を作成	—
	5	横浜開港150周年みなみ 探訪ウォーク	9月12日	横浜弘明寺商店 街さくら橋など		—
	6	南なんデー	10月4日	大岡健康プラザ	子どもから高齢者まで多くの区民が集まる健 康福祉まつりの会場で、開港150周年や横浜 の歴史についての展示やスタンブラリー等 を実施しました。	15,000

	7	第34回南区文化祭	10月31日～ 11月8日	南公会堂、大岡地区センター	ステージイベントや作品展示	4,500
港南	1	京急電鉄杯 第31回港南区健康ランニング大会	平成22年1月17日	野庭中学校	区内で毎年行うランニング大会。誰でも参加できるように、長短コースを設定して実施。	1,000
	2	こうなんストリートダンスコンテスト2010	平成22年3月	ひまわりの郷	高校生が主体的に進める恒例のダンスコンテスト。市内高校生を対象に実施。	500
	3	港南区綱引大会	11月22日	港南スポーツセンター	区体育指導員連絡協議会による綱引大会(新規イベント)	1,000
	4	講演会『地域で考える(介護)心豊かに安心して暮らせるまちへ』	9月26日	港南公会堂	タレントの小山明子氏による講演。民生委員活動のPRやアンケートもあわせて実施。	500
	5	港南区ひまわり管弦楽団第15回定期演奏会『第九演奏会』	9月21日	みなとみらいホール大ホール	区民公募のコーラスとひまわり管弦楽団のコラボレートによる第九コンサート	2,000
	6	区民文化祭	10月11日	公会堂・ひまわりの郷・福祉保健活動拠点	文化交流協会主催の各種文化芸術の祭典。複数の会場で様々な発表や展示を実施。	1,550
	7	港南区制40周年記念式典ひまわりカーニバルIN港南ふれあい公園	10月10日	港南ふれあい公園	区制40周年を記念する式典と、区民表彰	2,000
保土ヶ谷	1	たねまるイルミネーション	4月1日～6月13日	天王町スカイハイツ	天王町スカイハイツ(高層マンション)の壁面にLEDを使用した「たねまるイルミネーション」を点灯	近隣住民ほか不特定多数
	2	開港150周年ウォーキング	5月下旬～	(保土ヶ谷区を中心に周辺区を歩く、全7コース)	今年度、作成中の横浜開港と保土ヶ谷区の歴史を訪ねるマップによりウォーキングを実施。	400
	3	保土ヶ谷かるた	7月～	区内	開港150周年を機に保土ヶ谷の魅力・伝統・歴史を生かし、かるたを作成し、地域行事等でかるた大会を実施。	250
	4	ブルガリアン・コスミック・ヴォイセス合唱	7月2日	保土ヶ谷公会堂	保土ヶ谷区とソフィア市との都市間交流協定に基づき合唱団を招聘し開港150周年記念イベントとして開催	500
	5	ほどがやバンドバトル	9月19日	保土ヶ谷公会堂	開港150周年を盛り上げるため、高校生・大学生によるバンドイベントを区青少年指導員連絡協議会が開催。	370
	6	保土ヶ谷区手作り紙ヒコキ大会	7月5日	保土ヶ谷スポーツセンター	幼稚園児から大人までの保土ヶ谷区民を対象にした滞空時間を競う手作り紙ヒコキ大会を実施し、開港150周年をPRしました。	300
	7	たねまるモニュメント・花フェスタ	5月16日	へそ広場	保土ヶ谷花フェスタにおいて、来場者に協力してもらい「たねまるモニュメント」を作成。	1,000
	8	区民大合唱	4月～3月	区内ほか	区の歌並びに横浜にちなんだ楽曲をほどがや区の歌合唱団を中心に区内イベント等で開港150周年イベントとして実施。	10,000
	9	ほっしいーのわいわいフェスティバル	11月8日	星川地域ケアプラザ	大道芸、フリーマーケット、模擬店	2,000
	10	うすいまさと発達障害コンサートのつどい	12月17日	上菅田小学校	3人の発達障害児を持つシンガーソングライター、うすいまさとさんが贈る発達障害啓発ライブとトークメッセージイベント	800
旭	1	ズーラシア駅伝	2月14日	ズーラシア	駅伝競技を通じて健康増進を図るとともに基礎体力及び競技技術の向上を推進することを目的として、よこはま動物園ズーラシアを会場とした駅伝競走大会を開催しました。	1,200
	2	第1回あさひフォーラム	2月21日	旭公会堂	地域福祉保健計画の活動団体と区民活動団体の発表を同日に実施しました。第2回を平成22年2月に開催予定です。	350
	3	松本梨香とたねまるファミリーコンサート	3月22日	サンハート	旭区役所の協賛で、相鉄グループ開港150周年記念事業の一環として、アニメ「ポケットモンスター」シリーズの主人公サトシ役でおなじみの声優 松本梨香さんと開港150周年公式キャラクター「たねまる」のファミリーコンサートを開催しました。	300

4	春のあさひ いけばなと呈茶席	4月1日～17日	旭区役所1階特設会場	新年度の最初の記念イベントとして、区民の皆様が、自由にいけばなを鑑賞しながらお茶を楽しむことで、第20回全国「みどりの愛護」のつどいを歓迎し、記念年を祝いました。	350
5	リレー植樹	4月19日～	ズーラシア隣接地区	第20回全国「みどりの愛護」のつどいを契機に、地域の方々による植樹をリレー形式で進め、良好な環境作りに取り組む。各地区において植樹とともに、「区誕生40周年リレー植樹」などを表示したプレート、樹名板等を設置しました。 ◇5/9 シンボル植樹	1,100
6	旭あさがおいっぱい運動	4月～9月	区内各所	区内公共施設や区民の方々希望者に朝顔の種を配布し、区の花朝顔を広めます。また、横浜開港150周年・ズーラシア開園10周年記念共同企画として、ヒルサイド及びズーラシアにおいて、日比野克彦氏プロデュースによる朝顔苗植え・収穫等の特別イベントを行いました。	400
7	記念切手発行	6月	—	区内各所の四季折々の写真を切手シートにし、発行しました。 ◇1シート:80円切手10枚つづり1,200円×1,000シート	—
8	旭区民スポーツ祭	6月～11月	旭公会堂	6月から11月にかけて開催される区内19連合地区対抗のスポーツ祭を実施しました。11月には総合表彰式を行い、各種目で40周年記念賞を設けました。	11,000
9	プラチナ世代ペタンク大会	6月9日	南本宿公園	旭区誕生40周年記念とし、老人クラブ主催でペタンク大会を開催しました。	100
10	島山重忠公慰霊祭	6月22日	鶴ヶ峰本町 薬王寺	平安時代末期から鎌倉時代初期に活躍した武将でしたが、幕府の権力争いに巻き込まれ、鶴ヶ峰付近で討ち死にした島山重忠公をしのび慰霊祭を開催しました。	100
11	採れたて野菜フェア	7月4日ほか	区内各所	野菜の地産地消の奨励や食育を兼ね、区内農地での収穫体験、また区役所で試食及び直売を実施しました。	1,000
12	相鉄ジャストレイン	7月18日	特別運行電車 (二俣川～厚木往復)	旭ジャズまつりのPRも兼ね、記念事業、地域連携事業として実施。抽選により選ばれた市民を招待し、走る列車内で、ジャズライブ演奏を行いました。	100
13	ヒルサイド旭区デーステージ	7月20・21・22日	ヒルサイド	①旭ジャズまつりPRステージ:ジャズライブ演奏(20日) ②旭区民ミュージカル公開稽古&パフォーマンス:歌と踊りの披露(21日) ③竹と太陽のウェーブ:竹と太陽をテーマに三曲、インドネシア民族舞踊、ハワイアンフラダンスの披露(22日)	700
14	ジュニアボランティア育成事業	8月～12月	区内各所	区内小学校5.6年生(約200名)が「ジュニアボランティア」として、地域で行われるボランティア活動を体験することにより、地域福祉への理解と関心を深めました。	350
15	旭ジャズまつり	8月2日	こども自然公園野球場	今年20回目を迎える旭区の夏の風物詩。アマチュアステージとプロステージの2部構成で開催しました。	2,350
16	ベイサイド旭区デーステージ	8月8日	ベイサイド	区民ミュージカルPRパフォーマンス、ジャズライブステージ	300
17	プラチナ世代ゲートボール大会	9月15日	南本宿公園	旭区誕生40周年記念とし、老人クラブ主催でゲートボール大会を開催しました。	120
18	記念ウォーク	9月26日	ふるさと尾根道	グリーンロードおすすめコースを使ったヒルサイドまでのウォーキングなど、旭区の魅力を再発見するウォークを実施しました。	300

	19	旭記念コンサート	9月27日	旭公会堂	旭区に在住、活躍するプロの音楽家・小中学校・アマチュアの団体が集い記念演奏会を開催。	500
	20	あさひ安全安心フェア	9月30日	旭公会堂	功労者表彰やアトラクションを通じて、防犯・防災・交通安全に関する啓発を行います。	500
	21	旭区誕生40周年記念式典	10月17日	旭公会堂	旭区誕生40周年を記念して、区政の発展に貢献していただいた個人、団体等の方々に対して功績を称え、その労に感謝して表彰を行いました。	500
	22	旭区誕生40周年記念刊行物発行	10月17日	—	「ひと」や「まち」の魅力を再発見し、旭区の現在を次世代につなぐ架け橋となるような刊行物を発行しました。 ◇2,000部発行	—
	23	多世代学芸祭	10月17日	旭公会堂	こどもから高齢者までが参加し、お遊戯やダンス、合唱などを発表する学芸祭を開催しました。	500
	24	旭ふれあい区民まつり・健康フェア	10月17日、18日	旭公会堂ほか	区誕生40周年を記念し、2日間開催しました。	50,000
	25	対抗つなひき大会	10月18日	区民まつり会場	区内19連合地区対抗のつなひき大会を開催しました。	380
	26	区民ミュージカル「RISING SUN」	10月23日～25日	サンハート	公募により集まった区民(小1～シニア)約80名が、プロのレッスンを受け本格的なオリジナルミュージカルに挑みました。	1,500
	27	旭区民みんなのアトリエ	11月15日	旭公会堂	絵画・書道・水墨画・写真・いけばな・お茶といった芸術文化を、気軽に体験できるイベントを開催しました。	380
	28	プラチナ世代グラウンドゴルフ大会	11月27日	若葉台公園	旭区誕生40周年記念とし、老人クラブ主催でグラウンドゴルフ大会を開催します。	140
	29	旭区社会福祉大会	12月9日	旭公会堂		未定
磯子	1	第3回いそご蠟燭能	6月1日～9月30日	磯子公会堂杉田劇場区内希望小中学校	①第3回蠟燭能公演(7/4)開港150周年に華をそえる新作能「黒船」を企画②能楽パネル展(6月中旬)杉田劇場等で能面の展示を企画③能楽入門講座(6月)区内希望小中学校2校	4,454
	2	シンポジウム「もうひとつのミナト・ヨコハマ・・・根岸湾は飛行艇の海だった」	6月19日	杉田劇場	昭和15年に根岸地区鳳長埋立地の「大日本航空海洋部横浜支所」で大型飛行艇によるパラオ島ほか南洋諸島への日本初の海外定期航空便が始まりました。開拓者精神に溢れた乗員たちは島影を探りながら海上十数時間の困苦に耐え、またここで使用した飛行艇は戦後米国に渡り世界最優秀と評価されました。平和が続けば根岸からアメリカ行き、オーストラリア行き空路が誕生していたかもしれません。杉田の「日本飛行機」「石川島航空工業」も飛行艇・水上機や航空エンジンの生産で知られ、富岡の横浜海軍航空隊と合わせて根岸湾はまさに「飛行艇の海」でし	440
	3	N響メンバーによる磯子コンサート	6月20日	磯子公会堂	開港150周年を記念して、NHK交響楽団のメンバーによるクラシックコンサートを開催しました。港や海をイメージした曲目を演奏し、曲目や楽器の解説をするなど、単なる演奏会ではなく、初めてクラシックコンサートに訪れる区民でも楽しめる企画となりました。	420
	4	みんなでわいわい梅まつり Part II	7月1日～7日	杉田劇場 地域ケアプラザ他	その昔、観梅に来た人で賑わい、江戸の文化人の憧れだった梅の郷、杉田。多くの区民と梅について検証、体験してもらい、改めて地域の宝としての梅林復活に向けて梅と親しみました。 ①磯子と梅についてのパネル展示、梅製品の展示販売 ②梅干、梅ジュース等の体験教室 ③梅収穫体験 ④梅花飯をつくろう！梅料理教室 ⑤みんなでわいわい、梅まつり	650
	5	Y150 記念 磯子の夢・みんなの夢	7月1日～平成22年1月31日	夢たま 地域ケアプラザ等を予定	開港150周年のお祝いとして、地域が元気になるイベントや講座などを実施しました。 ・磯子ビデオフェスティバル ・夢に向かって、「夢宣言イベント」等を予定	450

	6	横浜開港 150 周年記念 汐見台夏まつり	8 月 22 日	汐見台商店街前広場	恒例の夏祭りイベントを開港 150 周年をテーマとして実施。(昨年はビンゴ大会とピエロショー)	600
	7	横浜開港 150 周年記念 第 3 回花火大会	8 月 23 日	岡村公園 野球場又は多目的広場	昨年、プレ開港 150 周年記念の下に、第 2 回花火大会を実施。過去 2 年とも非常に好評であり、今年も実施の希望が絶大である。また、花火は地元地域に限らず近隣区からの好評も得ている。地域の活性化・老若男女への憩いの時間の提供を目的に、今年も実施。尚、今後地域で行う大きな行事(賀詞交換会、梅まつり)に、同ロゴを使用。	1,000
	8	磯子まつり	4 月～11 月	日清オイリオグループ横浜磯子事業場、磯子区役所、杉田劇場など	日清オイリオまつり、磯子区健康づくりフェスタ、地区まつり等	48,978
金 沢	1	開港 150 周年記念サンドアート・フェス in 海の公園	9 月 20～23 日	海の公園	海の公園の砂浜を利用して、砂の造形を競った。(共催:臨海保全事業団)	5,000
	2	金沢まつり花火大会	8 月 22 日	海の公園	第 35 回金沢まつり花火大会(横浜開港 150 周年記念花火実施)	270,000
	3	金沢まつりいきいきフェスタ	10 月 17 日	海の公園	バサー・事業 PR コーナー、フリーマーケット、パレード等実施	155,000
	4	ペリー艦隊 小柴沖 碇泊記念碑	年内	海の公園	開港の契機となったペリーの来航を、開港 150 周年にあたり、金沢との関係を区民だけでなく、金沢を訪れる多くの市民に知ってもらうため、記念碑を設置する。	—
	5	ロイヤルウイング区民無料乗船	1 月 2 日～ 4 月 17 日	ロイヤルウイング	金沢区民を対象としたエンターテイメント・レストラン「ロイヤルウイング」クルージング無料乗船(飲食代は有料)。広報よこはま金沢区版(1月号)を提示すれば 5 名まで無料乗船可能。	5
	6	開港 150 周年記念クイズラリー (金沢七福神と同時開催)	1 月 10 日	横浜金沢七福神 及び横浜八景島	毎年観光協会で開催している横浜金沢七福神「御開扉」にあわせ開港 150 周年を記念して、クイズラリーを実施。(クイズカードを配り「開国博 Y150」の文字を完成させる。)	1,000
	7	開港 150 周年記念書き初め大会 (どんど焼きと同時開催)	1 月 17 日	海の公園	毎年観光協会で開催している「どんど焼き」にあわせ開港 150 周年を記念して、書き初め大会を実施。(書き初めの手本は「開国博 Y150」、「横浜開港 150 周年」他)	1,000
	8	旧川合玉堂邸イベント	3 月 7 日 5 月 2 日 10 月 3 日	旧川合玉堂別邸	旧川合玉堂別邸において「野点」や「音楽イベント」を実施する。(計 3 回)	1,215
	9	世界遺産ライトアップ(称名寺、富岡八幡宮)	①4 月 26 日 ～5 月 7 日 ほか	称名寺・富岡八幡宮	区内の称名寺・富岡八幡宮において夜間一定期間ライトアップを行い、区民の地域文化・歴史的遺産への関心、愛着を深める ①4 月 26 日(日)～5 月 7 日(木) ②12 月 28 日(月)～平成 22 年 1 月 3 日(日)…称名寺 * 大晦日は午後 5 時から翌朝まで ③11 月 5 日(木)～11 月 8 日(日)…富岡八幡宮	未定
	10	子育て講演会 「子どもが元気に育つ子育て支援てなかに？」	6 月 29 日	金沢公会堂	子育て支援の推進と充実のため講演会を開催。(講師:秦野 悦子氏(白百合女子大学児童文化学科発達心理学専攻教授) 内容:「子どもが元気に育つ子育て支援てなかに？」～最近気になることもたち・子どもの育ちとかかわり～)	143
	11	塩田による塩づくり	7 月 26 日	海の公園	金沢区の独自産業であった塩田による塩づくりを学び、体験し、文化伝承と地域愛着を図りました	85
	12	健康横浜 21 と食の安全 (健康づくり月間)	11 月 11 ～15 日	能見台イトーヨーカドー センターコート	健康づくりと食の安全パネル展示(5 日間)・野菜を使った料理の試食(1 日)等	1,500

	13	金沢区物忘れフォーラム・認知症講演会	11月27日	金沢公会堂	厚生労働省の「認知症を知り地域をつくる10ヶ年」キャンペーンに基づき、多くの区民のみなさんに、認知症について正しく理解していただき、認知症になっても安心して暮らせるまちをつかっていくことを目的として、認知症についての講演会や、関係者によるシンポジウム、区民の方々による寸劇、認知症サポーターの会「かなざわささえ隊」などの活動紹介、展示等。	400
	14	金沢文庫駅西口 歩行者空間整備事業	6月18日～14日	金沢文庫駅西口	金沢文庫駅西口歩行者空間整備事業の完成に伴い、開通式を実施。	—
	15	金沢区第38回ロードレース大会 第18回小学生駅伝大会	2月11日	海の公園・八景島	スポーツの普及・啓発、体力向上に寄与し、併せて区民の交流を図るため、区内在住・在勤・在学者を対象に小学生駅伝及びロードレース21種目を実施	1,812
	16	フォーラム KANAZAWA	3月7日	能見台地区センター	金沢区内の「街の先生」と生涯学習団体が一堂に会し、相互交流や区民との交流により、金沢区において生涯学習をはじめのきっかけ作りと生涯学習活動のネットワーク作りに寄与しました。	670
	17	称名寺薪能	5月3日	称名寺境内特設舞台	歴史的遺産である称名寺を舞台に区民と協働で薪能を実施。能『橋弁慶』 櫻間右陣ほか・狂言『附子』野村萬斎ほか	1,033
	18	区内木遣りと囃子の競演	5月16日	金沢公会堂	区内に伝わる木遣りと囃子が一堂に会し、開港150周年を祝賀しました。	500
	19	第21回金沢区区民文化祭	9月16～20日 10月18日～ 12月13日	金沢地区センター 金沢公会堂	公募による区民の作品展(絵画全般・写真・書道・文芸・手工芸)	未定
	20	アメリカン・アンカレッジ～横浜・金沢もうひとつの開港150周年～	4月28日～9月27日	横浜八景島、海の公園	◇開港、開国の紹介金沢区の紹介 ◇アンカレッジの紹介 ◇写真、パネル展 ◇環境保全体験、海のふれあい学習	30,258
	21	国史跡称名寺境内平橋・反橋完成記念渡り初め(教育委員会)	4月4日	称名寺境内反橋前広場	「武家の古都・鎌倉」世界遺産登録候補遺産である「称名寺境内」において、平成19年度から2ヶ年にわたり改修工事をすすめていた「平橋」「反橋」が完成したので渡り初めを行いました。	—
	22	「開港150周年の森づくり」植樹イベント(環境創造局)	6月11日 10月17日	旧小柴貯油施設	旧小柴貯油施設等において、開港150周年を記念し、150万本植樹行動の一環として、市民から寄せられた苗木を用いた植樹イベントを実施しました。	800
	23	旧伊藤博文別邸復元事業(環境創造局)	10月31日	野島公園内旧伊藤博文金沢別邸	野島公園内で現在復元された、旧伊藤博文金沢別邸の竣工に合わせて完成記念式典を行いました。	70
港北	1	記念式典	9月13日	公会堂	ステンドグラス竣工式や記念式典を開催	450
	2	区民提案記念事業	～12月20日	港北区内	アニバーサリー提案事業として、20年度公募により選定された実施団体への補助する。	—
	3	出張なんでも鑑定団	7月5日(収録)	公会堂	なんでも鑑定団を招致し、区内PRを行い区制70周年記念を盛り上げました。	600
	4	記念誌作成事業	～8月	港北区内	「鉄道に見る港北区の発展」をテーマにした記念誌を発刊し、配布しました。	—
	5	未来へつなごう!「光のメッセージ」製作事業	9月13日(除幕式)	新田地区センター	伝統文化を再認識し後世につなぐため、横浜マイスターの協力を得て区民の手でステンドグラスを製作し、区庁舎に設置しました。	630
	6	広報PR事業(キャラクター・ロゴ作成)	通年	港北区内	区版やタウンニュースなどの媒体を活用するとともに、キャラクターやロゴを利用し、啓発活動を行い、区制70周年の意識を高めます。	—
	7	ペットボトルロケット大会	9月5日	鶴見川樽町公園多目的広場	地域の青少年指導員による、ペットボトルロケット地区対抗戦や変り種ロケットの発表会を開催しました。	1,800
	8	ふるさと港北ふれあいまつり	10月17日	新横浜駅前公園少年野球場	ふるさと港北の意識高揚を図るイベント、「ふるさと港北ふれあいまつり」開催しました。	80,000

	9	地区健民祭	9月～10月	区内各地域	地区連合町内会単位で地域住民が自主的に開催する健民祭を開催しました。	1,500
	10	広報よこはま特別版 PR紙	—	港北区内	区版やタウンニュースなどの媒体を活用し、港北区制70周年・開港150周年記念事業を盛り上げました。	—
	11	フラッシュダンス事業	4月12日	菊名小学校体育館	公募で集まった中・高校生により結成されたダンスユニットが、プロの振付家の指導のもと、レッスンを積み重ね発表しました。	400
	12	中学生ジャズコンサート	5月9・10日	港北区内施設等	区内高校の吹奏楽部を中心に、ビッグバンドを結成し、プロのミュージシャンの指導のもと、ジャズ公演を開催	175
	13	フェスタ・ムジカレ(コーラス大会)	9月6日	公会堂など	港北芸術祭参加型事業である「港北区コーラスの集い」	500
	14	芸術文化振興事業	～12月13日	港北区内施設等	参加型事業やデーモン小暮、赤い靴など鑑賞型事業を実施します。	未定
	15	小机城址まつり	4月5日	小机城址	150年前の衣装を纏ったパレードとイベントを開催しました。	15,000
	16	大倉山観梅会	2月28日～3月1日	大倉山梅林	開港150周年記念ステージ、開港歴史パネル展、港北写真展	50,000
	17	福祉保健区民フォーラム	10月31日	公会堂	公会堂などで活動交流集会を実施し、区民や事業者等の福祉保健への活動意欲を維持するとともに、開港150周年・区制70周年を広報アピールし、区民意識を高めました。	1,500
	18	地産地消・区民フォーラム	～11月	公会堂など	「地産地消」をテーマとした区民フォーラムの開催や港北区の地産地消情報を集めた冊子を作成する。また、地場産物を使用した調理体験イベントを実施しました。	未定
	19	緑のカーテン事業	～12月	区内小学校など	地域や学校との協働により、ヒートアイランド対策のモデル的取組みとして校舎の壁面緑化を図る。	未定
	20	スポーツフェスティバル(ベタンク大会・グランドゴルフ等)	～8月30日	港北区内	港北区体育指導委員連絡協議会及び港北区体育協会への活動補助や区内スポーツ関係団体とのスポーツフェスティバルの共同開催などスポーツを通じて・区制70周年・開港150周年への機運を高めました。	500
	21	港北の観光写真コンクール	募集中～22年1月 表彰・展示 22年2月	港北区役所 地下鉄新横浜駅	港北区内の「梅」をテーマにした写真と、史跡や文化財等観光スポットをテーマにした写真のコンクールを行い、港北区の魅力を掘り起こしました。	未定
緑	1	区制40周年記念事業	10月3日	緑スポーツセンター —	幅広い層の区民参加による区制40周年記念式典を実施しました。	500
	2	廃食用油でゴミ収集車を走らせよう	10月18日	四季の森公園	①区内の〇〇地区で、廃食油を回収(区) ②回収油をプラントでディーゼル燃料化(委託) ③旧式ディーゼルのゴミ収集車で区内を試走(局)	未定
	3	「水と緑と花の回廊」	3～10月	【候補地】三保配水池(三保市民の森入口)[水道局]、梅田川沿い、長津田みなみ台西調整池、中山北緑道先	区制40周年記念植樹(150万本植樹行動)	未定
	4	緑区制40周年記念切手	5月	—	40周年を記念したオリジナルデザイン切手(80円切手)を1,000シート(10枚/シート)作成。	—
	5	区制40周年記念第1回「緑区ガーデニングコンテスト」	9月14日～18日	緑区役所1階エントランス及びロビー —	①「戸建て編」「マンション編」等に部門を分け、区民から写真を募集。表彰。②みどり愛護のつどいの会場において「ハンギングバスケット」展示。表彰。	未定
	6	緑区民ロードレース大会	3月1日	十日市場小・中学校周辺道路	区内でのフルマラソンはコース設定上無理なので、3～5キロ程度の短い距離を設定して、ロードレースを実施。	482

7	40周年記念メニューの発売	10月	—	商店街などを通じて公募した区内の飲食店に、はまなしといった緑区の地場の品物を使用するなどした記念メニューを作ってもらい、それらの紹介パンフレットを作成、記念メニューのコンテストを開催しました。	—
8	みんなの社会科見学！	8月21日 9月5日	区内	白山ハイテクパーク内の小野測器等の企業や三保地区にあるJ-SATの衛星管制センター、雪印の横浜チーズ工場、区内の神社仏閣など、日頃見ることができない場所の見学ツアーを開催する。また、見学の様子や協力企業の紹介等を記載したパンフレットも作成しました。	未定
9	区民まつり事業	10月18日	四季の森公園	ステージイベント：区民参加による踊り・音楽演奏等 サブイベント：ストラックアウト(開港歴史ボードの的当て)、こども動物園・ウォークラリー・大道芸等 各種出店：ミニ地下鉄運行、展示PR・模擬店・ゲーム等	66,000
10	緑区制40周年記念誌発行事業	5月	—	記念冊子の発行：3000部(1000部配付、2000部販売(500円))	—
11	区制40周年PR事業	6月	—	タウンニュースへの掲載	—
12	みどり多文化フェスタ	10月11日	十日市場地区センター	世界の歌や踊りや遊び、スタンパラリー、民族衣装の試着、物品販売やフリーマーケット。	1,000
13	緑区民音楽祭事業	6月21日 9月13日 12月6日	緑公会堂	区民が身近な場所で音楽に触れる機会を提供。	1,500
14	緑区コーラスのつどい事業	10月25日	緑公会堂	区内で活動しているコーラスグループが集まり、日ごろの練習の成果を披露し、交流を深める合同発表会。今年は、ゲストに女性デュオのふうりん、TBS こども音楽コンクールでの最優秀賞受賞実績もある玉川学園ハンドベル・クアアアをお迎えし、「横浜市歌」等を一緒に歌いました。	500
15	みどり区民アート展	10月27日～ 11月1日	緑公会堂	開港150周年にちなんだテーマで募集した特別展を、「みどり区民アート展」に合わせて開催しました。	1,000
16	創造と森の声2009	7月～10月	横浜動物の森公園	森の自然を生かした美術作品の公開製作・展示やワークショップを行ないます。	1,000
17	緑・芸術祭その他事業	6・10・12・3月	—	サークルミニギャラリー、緑・芸術祭企画運営委員会の委員会運営経費等、参加イベント募集・支援	未定
18	グリーンフェスタ in 八朔	5月10日	北八朔公園広場	ステージ発表や開港150周年パネル写真展、八朔特産品の販売、模擬店の出店	2,000
19	子ども達の夢の緑区づくり事業	平成22年3月	—	「夢みどり50プラン」の中で子ども達が描いた10年後の緑区を実現するために、どのような取り組みをすればよいかを、子ども会議のメンバーを中心に検討するとともに、実現可能なものから適宜取り組んでいきます。また、その取り組みを多くの区民にPRし広める場として、「夢みどりフェスタ」を開催。	未定
20	緑区G30・ストップ温暖化フェスタ'2010	平成22年3月	緑区市民活動支援センター、中山子どものはらっぱ	より良い環境を未来の子ども達に残せるよう、緑区が取り組んでいる「G30」ごみの減量と、地球温暖化防止の啓発や発表をするとともに、リユース食器を全面導入し、ごみが出ない環境に配慮したエコイベントを実施。	3,000
21	未来へつなぐまちの魅力アップ事業(緑区ガイドボランティア養成講座)	年度	—	緑区の「緑と水の回廊ルート」を案内する市民ボランティアを養成	—
22	未来へつなぐまちの魅力アップ事業(緑区の魅力PRツールの作成)	9月	—	区内の魅力スポットをめぐるルートの紹介や、歩いて楽しめる観光施設・おすすめスポット等の情報を盛り込んだPR誌の発行等	未定
23	未来へつなぐまちの魅力アップ事業(なかやま駅えきちか☆ステージの開催)	7月、9月、11月、2月	中山駅	グリーンライン中山駅構内を利用して、地域と協働で、区民参加型のイベント・音楽コンサート・ダンスなどのパフォーマンスを実施	未定

	24	暮らしの衛生推進事業	8月	—	食の安全・安心をテーマに講演会を実施(緑をたっぷり召し上がれ事業と共催)	—
	25	健康づくり講演会	10月3日	緑公会堂	健康づくりをテーマに講演会・パネルディスカッションを実施	未定
	26	緑をたっぷり召し上がれ事業	11月	—	野菜摂取量増加のため緑区で収穫される野菜を使った料理メニューを募集、優秀な作品に表彰するイベントを開催します。応募作品のレシピ集を発行し、有償配付しました。	—
	27	四季の森公園まつり	4月27日	四季の森公園	野外ステージ、模擬店、PRテント	20,000
	28	長津田ジャズまつり	11月14日	長津田駅	緑区出身のボーカルも参加する、18人のビッグバンドが出演。	520
	29	鴨居駅コン	9月20日	鴨居駅	鴨居駅コンコースを利用してコンサートを開催	300
	30	中山商協大盆踊り大会	8月29日			10,000
青葉	1	青葉区制15周年記念誌発行	11月	—	区内の各種店舗を紹介するタウンガイドを青葉区商店街連合会にて発行しました。ガイドには青葉区特集として青葉区の特徴、歴史等、区制15周年の記念となる内容を掲載しました。(50,000部)	—
	2	青葉区制15周年・横浜開港150周年記念 チューリップまつり事業	4月12日	横浜青葉スポーツ広場	横浜青葉スポーツ広場で色とりどりのチューリップ110,000本が咲き誇り、区民の皆様に、自然の素晴らしさを満喫していただくとともに、花摘みを体験していただく。子供向けイベントやフリーマーケットや、開港150周年ブースや花文字により区民への開港機運を高めました。	20,000
	3	横浜開港150周年・区制15周年記念 青葉区民まつり事業	11月3日	青葉区役所周辺	ふるさと意識の醸成と地域連帯を図るため「あおば区民まつり・健康フェスティバル」を開催。青葉区制15周年・横浜開港150周年記念イベントとして、ステージを設け、開港機運を高め、啓発等を大々的に行いました。	50,000
	4	150万本植樹	—	こどもの国国線	子どもの国線西側350mで小学生と植樹イベントを実施	—
	5	横浜北部美術公募展開催事業(あおばアートの風プロジェクト)	7月21日～8月2日	アートフォーラム あざみ野	地域における芸術文化活動振興の一環として、横浜北部地域(港北区、緑区、都筑区、青葉区)の市民が美術に親しみ創作する環境を醸成するため、横浜市民ギャラリーあざみ野との協働による公募展を開催。	3,000
	6	青葉区制15周年・横浜開港150周年記念「青葉音楽プロジェクト」事業	10月4日	こどもの国	平成21年(2009年)の周年事業として、区民の手による記念ミュージカルや、街角音楽祭など、音楽にあふれたまち青葉を象徴する「青葉音楽プロジェクト」事業に取り組みました。	10,000
	7	郷土の歴史を未来に生かす事業	10月～	—	平成21年(2009年)が横浜開港150周年・青葉区制15周年に当たるのを記念し、郷土の歴史を振り返り未来に生かすため、記念誌の作成や記念事業の実施に取り組みました。	2,000
	8	あおば音楽ひろば事業	年間を通じて	青葉区役所ほか	毎月1回区役所1回ホールで区内で活動している音楽家の演奏会を実施し、区民が気軽に音楽を楽しむ機会を提供。	2,500
	9	青葉音楽プロジェクト事業	10月4日 平成22年1月22日～24日	こどもの国 青葉公会堂	青葉音楽フェスティバル(10月)、青葉区小中学生ミュージカル開催(1月)	1,500
	10	タイムカプセル2009	～11月(受付)	区民まつり会場	親から子どもへの手紙を預かり、15年後の区制30周年に子どもたちに届けました。	—
	11	日本体育大学実演会区民招待	11月6日	ヨコハマアリーナ	日本体育大学で2年に一度開催している体操祭を区との共催事業として開催	1,000
	12	親子で行こうベイサイドエリア見学会	平成21年7月31日	横浜港およびベイサイドエリア	区民を横浜港および周辺施設に招待	80
	13	区制15周年記念式典	11月3日	青葉公会堂	区制15周年を節目の機会として、記念式典や伝統芸能を実践している団体を中心としたアトラクション等を実施	500
	14	あざみ野まつり	8月29日	小学校予定地(あざみ野1-15)	子どもの故郷意識を育み、地域住民相互のコミュニケーションを深めるため、体験型のまつりを実施。	20,000

都筑	1	区民まつり&アニバーサリーウィークウエルカムつづき	11月3日	センター南駅センター北駅みなきたウォーク	開港150周年とともに区制15周年にちなんだイベントを盛り込み、より多くの区民が楽しめる区民まつりとなりました。	150,000
	2	つづきウォーク&フェスタ	6月7日、11月23日	区内	区制15周年(11月)、開港150周年(6月)をテーマに親子で楽しめる催しを実施しました。つづき世界の市場と同時開催	3,000
	3	つづき世界の市場	6月7日	すきっぷ広場	在住外国人や外国人支援を行なっている日本人サポートボランティアによる各国の文化紹介を行ないました。つづきウォーク&フェスタと同時開催。	20,000
	4	都筑野菜の普及・促進	通年	都筑区役所	都筑区の特産である野菜を広く区民にPRするため、農家の協力を得て庁舎での直売会を開催。	—
	5	歴史的記録写真収集	随時	—	区内の風景写真・景観写真を広く収集・蓄積し、区の歴史的資料として保存・活用する。収集した写真をウェブページ等で広く紹介・周知する事によりふるさと意識の醸成を図る。	—
	6	記念植樹	11月	都筑区役所	区制15周年、開港150周年を記念し、区役所に「ローザ・つづき」を利用したバラガーデンを整備。	50
	7	都筑こどもエコ・フェスタ	11月14日	都筑公会堂 都筑区民ホール	区内保育園、小学校、中学校や区内立地企業等によるエコ活動の発表や展示、エコキャラクター大集合や白井貴子さんのトーク等を行ないました。	1800
	8	つづきジュニア編集局	随時	—	青少年が開港150周年や区制15周年関連行事などを取材し、区のホームページで記事を発信する事で、市政・区政への関心を高め、社会と関わることで人と人とのつながりの大切さを学ぶとともに、記念事業に関わることでふるさと意識の醸成を図りました。	40
	9	都筑区制15周年式典	11月7日	都筑区民ホール 都筑公会堂	区制15周年を記念し、記念式典を開催しました。 【第1部】 都筑区制功労者の表彰 中村礼子さんユニホーム寄贈式 スピーチ 【第2部】 記念コンサート(ダ・カーポ)	300
	10	つづきミュージックバトル	11月8日	都筑公会堂	中学生・高校生を対象にした音楽コンテストにおいて、音楽を通じた夢づくを支援しました。	570
	11	福祉農園	10月25日	JA横浜多目的広場	障害者と地域住民によるアトラクションといも堀体験	2,000
	12	都筑区民生委員児童委員協議会・都筑区制15周年記念講演会	11月14日	都筑公会堂	高齢者にとっての都筑区の魅力を語る。	500
	13	あったかハートつづき 安心・安全フェア	11月15日	すきっぷ広場	次世代の「つづきっ子」が夢や希望を持ち、都筑区が「安全・安心を実感できる街」となるよう、今後の消防の体制を区民にアピールしました。 ・ステージコーナー わんわん消防隊発足式、音楽隊演奏、救助演技、消防団寸劇等 ・体験コーナー 放水体験、煙体験、子どもレンジャー体験等 ・常設コーナー 車両展示、防災相談コーナー等	3,000
	14	区民の森(仮称)整備事業	11月23日	整備予定地	横浜市へ寄贈された約3,000㎡の樹林地を都筑区制15周年を記念する「区民の森(仮称)」として整備し、都市緑地として保全するため、関係者及び仲川小学校児童による植樹を行ないました。	63
戸塚	1	戸塚区制70周年記念式典	5月10日	戸塚公会堂	区民栄誉賞、区マスコットのデザイン・愛称優秀作品、70周年写真集優秀作品の表彰や区民オーケストラによる記念コンサートを行ないました。	500

	2	戸塚駅周辺魅力アップキャンペーン in 柏尾川	通年	戸塚小学校体育館・グランドおよび柏尾川河川敷	柏尾川の魅力を高め、皆が親しめるきれいな川にするための啓発イベントとして、展示やステージイベントを中心にを行います。	700
	3	戸塚フリーステージ	通年	戸塚駅東口遊歩スクエア(ペDESTリアンデッキ上)ほか	駅周辺の活性化のために、文化芸術イベントや子供とのふれあいイベントを行います。	20,000
	4	とつか夢結び応援事業～戸塚区制70周年・横浜開港150周年に向けた区民活動支援～	通年	区内各地	※補助金交付事業:戸塚区の魅力の再発見、創造、広報に関する事業や、区制70周年、開港150周年に関する事業等を行う区民組織等への補助金交付	—
	5	戸塚ふれあい区民まつり 戸塚ふれあい文化祭	11月3日 13～15日 21～23日	東戸塚小学校、戸塚公会堂、戸塚地区センター、戸塚図書館	区民まつりを開催しました。また、区民が日ごろの文化活動の成果を発表するとともに、文化活動を通じた地域住民との交流を図る文化祭を開催しました。	30,000
	6	戸塚っ子いきいきアートフェスティバル	8月、10月、1月	戸塚公会堂ほか	区内児童・生徒による音楽・美術の発表会を開催します。	1,600
	7	戸塚区民ゴスペルコンサート	11月28日	戸塚公会堂	公募により集まった市民クワイアーが、プロの指導を受けてゴスペルを練習の上、コンサート当日にプロのステージの一部に参加し、プロ・観客と一緒にゴスペルを歌いました。	500
	8	戸塚クラシックコンサート	10月17日、 平成22年3月	戸塚公会堂	オーディションによって選ばれた演奏家が10月と3月のコンサートに出演し、区民にクラシック音楽鑑賞の機会を提供します。	1,000
	9	とつかお結びフォーラム	6月27日	戸塚小学校	各分野で活躍する活動団体や企業などの交流イベントを行いました。	700
栄	1	キャンドルナイト in さかえ2009 夏	7月18日	本郷台駅前広場	地球温暖化防止等の啓発を目的に、「地球にやさしい広場」のシンボルイベントとしてキャンドルナイトを実施しました。	3,000
	2	横浜開港150周年記念栄区民絵画展	7月～	本郷中学校ファンケルギャラリー	昨年度に引き続き、「開国開港」をテーマに絵画を募集し、区民まつりやファンケルギャラリーに展示。区民まつりで表彰も行いました。	10,000
	3	横浜開港150周年栄区記念モニュメント製作事業「本郷台駅前に栄区の未来を描こう。」	7月～10月	本郷台駅前広場等	栄区内の小学生たちが、地球環境保護や未来の栄区をテーマに描いた150枚のタイルを本郷台駅前の花壇に設置・展示しました。	
	4	世界こどもスポーツサミット in 横浜	8月22日	上郷森の家	開港150周年を記念して、キッズを含めた国際トライアスロンを開催。参加する子どもたちが上郷森の家に宿泊するため、栄区の子どもたちと交流を図りました。	200
	5	栄区民まつり	10月31日	横浜市立本郷中学校	こどもから高齢者までの多くの区民が楽しみ、地域住民の「ふれあいの場」としての定着化と、幅広い区民の参加を推進するために、栄区連合町内会をはじめとする各種団体による実行委員会を組織し、区民による、区民のための「まつり」を行いました。	45,000
	6	夏休みコンサート	7月26日	栄公会堂	交響楽団による音楽を親子・家族で楽しむ機会を提供することにより、文化振興を図りました。	600
	7	栄区民芸術祭	10月11日～ 11月14日	栄公会堂 栄区民文化センター	栄区内で文化振興事業を目的として活動している個人、団体の技術の向上を支援するとともに、発表の場を作り、地域、文化交流のきっかけとしました。また、区民が音楽をはじめ、さまざまな芸術に触れる機会を増やし、栄区の文化振興の発展を図りました。	15,000
	8	横浜開港150周年記念区民プロデュース事業	7月～平成22年3月	栄公会堂他	区民の手によって企画された講座に、受講生として区民が参加します。	—
	9	各地区連合での盛り上げ事業	4月～	各地区	各地区連合自治会等で実施される記念事業の盛り上げに対して、のぼり旗や展示等により支援を行います。	—
泉	1	150記念ソフトボール大会	4月12日～5月31日	区内グラウンド	生涯スポーツであるソフトボールを通して、小学生からシニアまでの愛好者を対象に開港150周年記念大会を開催する。	7,000
	2	150記念自治体交流サッカー大会	7月25日～26日	神明台スポーツ広場	2002サッカーワールドカップ関連事業の一環として、同じ「泉区」という縁で、仙台市泉区を対戦相手として実施。	700

	3	150記念歴史パネル展	6月～	区内各施設	開港当時の泉区の歴史の変遷を地域が保有する資料や写真等の展示を通して開港と泉区の関りを再発見する。また、小学生を対象に泉区の歴史がひと目でわかるリーフレットを作成して配布。	3,000
	4	このよこはまにまさるあらめや	5月29日～30日	泉公会堂	舞踊発表会	600
	5	健康横浜21 野菜を多く食べよう	6月18日～19日	相鉄ローゼン	食育イベント	1,000
	6	150 いずみ盆踊り大会	7月23日	和泉遊水地	地域住民による納涼イベント	400
	7	150記念交通安全親子教室	7月29日	中田小学校	親子を対象とした150周年記念安全教室	300
	8	Y150 記念無線局開設	8月30日～31日	和泉遊水地	総務省より「8N1Y」というコールサインで特別局免許を取得。その開局式を挙げる。	80
	9	150記念 湘南の舞	9月19日	泉公会堂	舞踊発表会	700
	10	泉区横浜開港150周年記念中央イベント	11月3日	和泉遊水地	ステージショー、模擬店、体験コーナー	31,000
	11	150記念青少年フェスティバル	11月29日	和泉遊水地	ブルースバンドやマーチングバンド演奏、模擬店、昔あそび、紙ヒコーキ大会等	2,000
	12	150記念チャリティー芸能大会	12月5日	泉公会堂	カラオケと舞踊の披露	1,000
	13	150記念さわやかスポーツ大会	12月6日	和泉遊水地	区内30チームによるソフトバレー大会	100
	14	地区・団体開催イベント支援事業	通年	区内	区内の各地域において地区連合や各種団体が実施する150記念イベントに対して実行委員会が支援を行なう。	—
	15	150記念キャンドルナイト(主催:相模鉄道)	11月3日	和泉川地蔵原の水辺	キャンドル煌めく水辺での野外コンサートや家族で楽しめる飲食ブース等を開設。	15,000
	16	開港150周年の森記念植樹	11月16日	神明台処分地	神明台処分地において、開港150周年を記念し、150万本植樹行動の一環として、地元小学校が参加して、ドングリの苗を記念植樹しました。	250
	17	健康づくり活動フェア	11月11日～15日	イトーヨーカドー立場支店	身近な場所でお子様から大人まで体験できる健康チェックや野菜たっぷりメニューの紹介など	2,050
瀬谷	1	花いっぱい野外ギャラリー	3月14日～11月9日	瀬谷駅北口駅前広場	区民、事業者・団体等が協働で仮設花壇を設置し、区民ボランティアが花を育てます。横浜の西の玄関瀬谷駅を花で彩るとともに、様々な世代の人々・立場の人が交流することで地域活性化を図る。	900
	2	育苗モデル事業「花まるプロジェクト」	通年	瀬谷区橋戸3丁目(通称:育苗センター)	区民自ら花苗・苗木を育成して、地域に育苗のノウハウを伝承するとともに、花いっぱいの野外ギャラリー等に苗の供給を行う。	50
	3	瀬谷フェスティバル	11月1日	上瀬谷通信施設のはらっぱ	「セーフティせや」「エコ&健康」「やさしさ交流」を内容とする、「SEYAスタイル」の推進・区民への定着を図るとともに、瀬谷区制40周年・開港150周年をPR。	50,000
	4	せやキッズデイ	5月17日	二つ橋小学校	すべてのこどもたちが参加し交流できるイベント「せやキッズデイ」に、開港150周年区制40周年に関連するプログラムや展示ブース等を設け、お祝いの気運を高め、地域交流の活性化を図る。	3,000
	5	瀬谷区制40周年記念式典	10月3日	瀬谷公会堂	瀬谷区制40周年を記念して、多くの区民の皆さまとともに、区政40周年をお祝いしました。当日は、記念式典の他に、区内の小中学校、中学校による演奏会などを行ないました。	400
	6	スタンプラリー「せや魅力再発見！」	4月27日～平成22年3月31日	区内	区民に瀬谷区の魅力を再発見してもらうため、年間を通して様々な関連事業が対象となるスタンプラリーを実施。	10,000

チ マザーポートエリア

横浜駅周辺から山下・山手地区の都心臨海部で、開港 150 周年を契機に地域の魅力を高める取組を地域と連携して行うことにより、「おもてなし」の取組と回遊性を高める取組を行いました。各地域の商店街等が、新たな事業や他の地域との連携に取り組み、今後の継続に向けた機運も高まっており、都心臨海部の新たな魅力づくりにつながっています。

(7) 各商店街の取組

開港 150 周年を契機として多くの観光客が横浜に来るこのチャンスを集客に活かすため地元商店街が新たな取組を行いました。

事業名	団体名	開催日程	事業概要	開催地
開国博 Y150 開催記念 みなとみらい21タッチde ゲットMMさんぽ／プレ ゼントラリー&みなとみら い21クーポンブック	みなとみらい21SP推 進委員会	4/28 ～ 9/27	みなとみらいの参加各施設と、開国博 Y150 の 会場内、東急線渋谷駅にタッチポイントを設置 し、交通系ICカードや携帯電話を使用して、気 軽に参加できるキャンペーンとして、相互の集 客、回遊性の向上をはかりました。	みなとみらい21 地区／ランドマー クプラザ／クイ ーンズスクエア横浜 ／開国博 Y150 会 場 外8箇所
横浜開港 150 周年プレミ アム アイスクリーム発祥記念 イベント2009	馬車道商店街協同組 合	5/7 ～ 5/9	馬車道あいす街頭プレゼント、アイスクリーム 発祥記念「馬車道マルシェ」、馬車道寄席、馬 車道シアター「幕末あいすくりん伝説 房蔵くん がゆく」開港 150 周年馬車道オリジナルフラ グの掲出	馬車道通り、馬車 道広場、関内ホー ル
ファイヤードラゴン	横浜ドラゴンボートレ ース協議会	5/30	山下公園前の海上にて、かがり火を点けたド ラゴンボート「ファイヤードラゴン」のパフォー マンスを行うことで開港 150 周年を祝うとともに、 新たなる100年に向かって新生横浜の未来を 照らす灯りとして、横浜における港湾活性化と 海洋環境の向上をめざしました。	横浜港 山下公園 前海上、山下公園 内
横浜開港 150 周年記念Z ANGIRIヘアショー	Y150 ザンギリヘア ショー実行委員会	6/2	開港 150 周年を記念し西洋理髪処発祥の地が 横浜で、あることを広く周知し、理容・美容業の 発展に寄与するとともに、商店街の振興を行 いました。	JRAエクセル伊勢 佐木、イセザキ・モ ール1・2St .
横浜開港 150 周年記念 事業祝賀パレード	セントラルベイYMC 協議会(中華街発展 会、元町SS会、山下 公園通り会)(横浜開 港 150 周年記念事業 祝賀パレード実行委 員会)	6/20	地元関係団体が連携し、開港 150 周年のパレ ードを実施しました。 山下公園→横浜中華街→横浜元町→山下公 園通り→山下公園 をパレード行進する。	山下公園 横浜中華街 横浜元町 山下公園通り
中華街文化フェア～灯籠 會	横浜中華街発展会協 同組合	8/12 ～ 10/12	開港 150 周年を記念して、「多文化の共存」の 願いを込めた、中華街の「混合文化」を過去の 写真や大型ランタン(灯籠)を用いて紹介しま した。またシンポジウムを開催し、横浜開港の 歴史に携わってきた中国人の役割を再認識す るとともに、今後の中華街の在るべき姿を考え ました。	横浜中華街 横浜開港資料館
大通り公園納涼ガーデン まつり	横浜開港 150 周年記 念「大通り公園納涼ガ ーデンまつり」実行委員 会(中区第一地区中 部連合町内会、(財) 緑の協会、(財)YCV B、(財)造園協会、商 工会議所、市)	8/17 ～ 8/26	「空調に頼らず涼風の中で夏の夕を過ごす」を コンセプトに、再整備を進めている大通り公園 を、環境をテーマとして有効活用することによ り、環境にやさしい夏の過ごし方を提案すると ともに、地域の活性化と開港 150 周年の盛り 上げを図りました。	大通り公園 石の 広場周辺
第31回ヨコハマカーニバ ル	ヨコハマカーニバル実 行委員会	8/22 ～ 8/23	「ハマこい踊り」などを通して、横浜の文化の創 造に寄与すること及び、横浜市等と連携し開 港 150 周年記念事業の一環として、横浜の元 気を全国に発信することを目的として実施しま した。	Y150トゥモローパ ーク会場外

横浜開港 150 周年記念 キッズマーチングパレード	Y150 キッズマーチングパレード実行委員会	9/5	開港 150 周年を記念し、日本初のマーチングバンドといわれている関東学院や神奈川県警察音楽隊の地元、横浜で、未来の横浜を担う子ども達の盛大なパレードを実施し、商店街の振興を行いました。	イセザキ・モール1 ～7St .
親子そろってそば祭り	神奈川県麺類生活衛生同業組合、伊勢佐木、山手、南第一、南第二、磯子、金沢、保土ヶ谷、西、神奈川支部	9/6	市内商店街とそばや業界が開港 150 周年のにぎわいの中で活性化につながるイベントに参加して地域のはなやかさと各店舗の改革につなげました。「マザーポートエリア」内で回遊をしていただき賑やかさと楽しさを創出することを目的とし実施しました。	大さん橋大ホール
スローフードニッポン2009 国際スローフードウィーク in 横浜	スローフードニッポン実行委員会	10/16 ～ 11/1	開港 150 周年を記念して、ベイエリアの各所に舞台を設定して展開される、スローフードの国際的なイベント。スローフードをテーマに、マーケットやピクニック、エクスカッション(遠足)、映画祭、期間限定の特別ディナーなどおいしくて楽しいイベントを開催しました。	横浜市内各所
横浜開港 150 周年記念 ヨコハマ関外・大通り公園 ジャジーフェス「トライアル」	ヨコハマ関外・大通り公園ジャジーフェス実行委員会	10/24	近隣の町内会が声掛けあい、大通り公園をステージに、開港 150 周年を記念して、ジャズやブルースなどライト・ミュージック系の演奏ステージのほかアートなどとのコラボレーションや地元学校生徒との交流など、のびやかに気軽に楽しめる市民イベント広場の開設にトライアルしました。	JRAエクセル伊勢佐木、イセザキ・モール1・2St .
開港 150 周年記念 ガス灯の魅力PRイベント	馬車道商店街協同組合	10/31	・開港 150 周年を機に横浜の開港の歴史的資源であるガス灯を観光都市横浜として PR しました。 ・馬車道まつりの一環のガス灯点灯式や観光資源であるガス灯を効果的に活用しマザーポートエリアの回遊性・集客性を図るイベントを実施しました。	馬車道通り 馬車道広場 関内ホール
横浜開港 150 周年記念 元町ショッピングストリート Xmas イルミネーション	協同組合元町エスエス会	11/7 ～ 12/25	開港 150 周年を記念して、煌めくホワイトLEDイルミネーションを追加！スノーシャワーイルミネーションやLEDスポットライトの導入によってイルミネーションに動きを付加します。またストリートツリーはデザインを一新し20台がモール全体にとびきりの美しさを演出しました。元町に訪れるお客様のために素敵なホワイトクリスマスをプレゼントしました。	元町商店街

(イ) 横浜開港資料館ライトアップ・オープンカフェ事業

横浜の歴史を見つめてきた“開港場よこはま”のシンボルであり、たねまるのモデルにもなった横浜開港資料館中庭にある『たまぐす』と、横浜市指定文化財である『旧英国総領事館』をライトアップし中庭を夜間開放し、あわせて、喫茶室「Aujardin de Perry (ペリーの庭で)」も夜間営業を開始し、くつろぎある空間を提供しました。

<ライトアップ・中庭夜間開放>

平成 21 年 4 月 28 日～9 月 27 日

(ウ) 臨時案内拠点の設置

開国博 Y150 や横浜・神奈川デスティネーションキャンペーンによる観光客をお迎えし、マザーポートエリア内の回遊性を高めるために、臨時の観光案内拠点を設置し、周辺のイベントや観光情報等を発信しました。

「馬車道駅観光案内デスク」

所在地： みなとみらい線馬車道駅構内

設置期間： 4月28日(火)～9月27日(日)

業務内容： 開国博 Y150 に関する情報提供、会場周辺の観光案内

対応実績： 37,893 人

「伊勢佐木町観光案内デスク」

所在地： 旧横浜松坂屋本館 1 階

設置期間： 6月2日(火)～9月27日(日)

業務内容： 開国博 Y150 に関する情報提供、イセザキモールの店舗情報提供
周辺の観光案内

対応実績： 16,575 人

(I) 横浜ちよこっと観光インフォメーション

～コンビニエンスストア 3 社との連携～

財団法人横浜観光コンベンション・ビューローと横浜市で、開港 150 周年を契機に、観光やコンベンションで横浜を訪れる方の「顧客満足」を高めるため、平成 17 年 2 月から推進している民間観光案内所事業を拡充しました。

コンビニエンスストアほか参加事業者を増強し、特に開国博 Y150 で来訪されるお客様向けの案内情報を提供するため、マニュアルの作成および研修を実施し、観光のご案内、周辺の道案内、また観光客がトイレ利用できるよう協力をいただきました。

[参加事業者] 平成 17 年 2 月事業開始時 21 事業者 26 か所

→平成 21 年 5 月 1 日現在 87 事業者 182 か所

[内：参加コンビニエンスストア]

・スリーエフ：13 店舗 ・セブンイレブン：15 店舗 ・LAWSON：28 店舗。

(オ) ヨコハマまち歩き 150 (Y150 マザーポートまち歩きコース)

開国博 Y150 開催期間に合わせ、ボランティアガイドによる「まち歩き」ガイドツアーを実施しました。

・実施期間 21 年 4 月 27 日～9月27日 参加人数：1,675 人

【実施コース】

◎ JR 桜木町駅 ↔ 開国博 Y150 赤レンガ会場

・横浜魅惑のアート満喫コース [1 時間 2.5km コース]

・迫力満点、ヨコハマの産業遺産 [1 時間 2.3km コース]

・横浜トワイライト夜景コース [1 時間 2.3km コース]

◎ JR 関内駅 ↔ 開国博 Y150 赤レンガ会場

・横浜もののはじめコース [1 時間 1.9km コース]

・横浜レトロな建物コース [1 時間 2.1km コース]

・横浜トワイライト夜景コース [1 時間 2.3km コース]

◎ JR 石川町駅 ↔ 開国博 Y150 赤レンガ会場

・ニーハオ横浜中華街から港へ [1 時間 2.6km コース]

・ハイカラ元町・外国人居留地コース [1 時間 2.4km コース]

◎ JR 石川町駅 ↔ 元町ショッピングストリート

・あこがれ山手を逍遥コース [2 時間 3.9km コース]

(カ) マザーポートエリア クリーンアップ作戦

- ・実施日 21年5月30日(土)
- ・参加人数：3,612人

開港 150 周年を迎える横浜を訪れる多くの観光客をおもてなしの精神で迎えるため、横浜の顔とも言える、マザーポートエリアを美しく、過ごしやすい街にするべく、横浜を愛する市民ボランティアをはじめ、地元商店街・町内会、企業、高校等との協働で、5月30日「ごみゼロの日」にマザーポートエリアを一斉清掃しました。

地元商店街、町内会等の方には担当エリア内の清掃を実施していただき、一般の参加者には、マザーポートエリア内に観光名所を巡る 20 コースを設け、まち歩きを楽しみながら清掃活動を実施していただきました。

当日は、3歳～70歳まで幅広い年齢層の方々や、横浜総合高校が授業の一環として参加するなど、計 3,612 人が参加され、3,380kg のごみを集めました。

ツ 地域や民間主体の取組

基本計画で位置づけた事業以外にも、地域や民間が主体となり、多くの開港 150 周年記念事業が実施されました。こうした主体的な取組は、横浜市の魅力を外内に発信するとともに、地域力の向上に大きな力となりました。

(7) 150 円商店街

横浜市商店街連合会が主体となり、市内の多くの商店街が連携し、「150 円商店街」に取組みました。この取組は、次年度以降へも継続が決定しています。

- ① 主催 (社) 横浜市商店街総連合会
- ② 開催日 平成 21 年 6 月～平成 22 年 2 月までの偶数月第 2 土曜日
(6月13日、8月8日、10月10日、12月12日、2月13日)
- ③ 会場 開催商店街 各店舗店頭
 - ・開催商店街数：第 1 回 113 商店街、第 2 回 115 商店街、第 3 回 116 商店街
(※市商連加盟商店街数：317 商店街)
 - ・開催店舗数：第 1 回 参加 2,848 店/構成 4,949 店=57.5%、
第 2 回 参加 3,023 店/構成 5,230 店=57.8%
- ④ 内容 同一日に、市内商店街各店舗が一斉に、「開港 150 年」にちなんだ「150 円」の商品やサービスを店頭で陳列、販売を実施。同時に、「150 円」商品をお買いあげのお客様にポイントカードを発行し、開港 150 年にちなんだプレゼントが当たる抽選会を実施しました。

(イ) 外国人学校発表会 ～Y150 ベイサイド市民協催

県内には多くの外国人学校があります。横浜の開港と同時に外国人とともに外国の先進的な文化も入ってきました。開港 150 周年を機に県内の外国人学校が合同で、自慢の民族文化を披露しました。

- ① 主催 かながわ外国人ネットワーク
- ② 開催日 平成21年9月1日(火)
- ③ 会場 開国博 Y150 赤レンガ会場(赤レンガ倉庫1号館3階ホール)
- ④ 出演 エスコラ アカレア ブラジル(厚木市下川入)
 ホライゾンジャパンインターナショナルスクール(横浜市鶴見区)
 横浜インターナショナルクリスチャアカデミー(横浜市中区)
 神奈川朝鮮中高級学校(横浜市神奈川区)
 横浜朝鮮初級学校(横浜市神奈川区)
 川崎朝鮮初級学校(川崎市川崎区)
 南武朝鮮初級学校(川崎市高津区)
- ⑤ 出演者数 243人 来場者数 432人

(ウ) 開港 150 周年後援事業

横浜市開港 150 周年・創造都市事業本部及び財団法人横浜開港 150 周年協会では、数多くの民間主体の開港 150 周年記念事業に対して後援しました。

※開港 150 周年・創造都市事業本部と財団法人横浜開港 150 周年協会の後援の合計

ジャンル	19 年度 件数	19 年度 主なイベント
	20 年度 件数	20 年度 主なイベント
	21 年度 件数	21 年度 主なイベント
文化芸術	59	JAZZ BY THE SEA、横浜ジャズチャリティーコンサート、横浜レゲエ祭 2007、Asia Art Festival 2007、アートリンク他
	98	10,000 SAMBA!、サザンオールスターズ「真夏の大感謝祭」30 周年記念 LIVE、第 28 回 YOKOHAMA 本牧ジャズ祭他
	58	戸塚混声合唱団第 12 回演奏会、横浜スカーフ展、横浜市歌制定 100 周年を祝うコンサート、都響スペシャル「横浜公演」他
スポーツ	8	ヨコハマ・スポーツ・ワールド 2007、黒船物見遊山 2007、日産スタジアム駅伝大会他
	41	横浜開港記念特別ゲーム 2008、プロ野球オールスターゲーム 2008、「横浜港ポート天国」横濱開港 150 周年記念横浜 AA カップ他
	16	第 3 回 YSCC 横浜開港記念ミニサッカー大会、日米青少年ベースボールキャンプ 2009
歴史	10	近代水道創設 120 周年記念講演会、「日本近代漫画の始祖チャールズ・ワーグマンとジョルジュ・ビゴーが見た幕末・明治のニッポン」展他
	29	井伊直弼と開国 150 年祭歴史講演会 & 近江みちの国講座、ハワイ日系人歴史絵巻展、横浜開港 150 周年記念横浜開港と宣教師－翻訳聖書の誕生－他
	17	横浜開港 150 周年記念講演会「近代横浜を生きた女たち」、慶應義塾創立 150 年記念「福澤諭吉と神奈川」、横浜中華街 150 年 落地生根へ歳月他
その他イベント	46	国際花火大会、ワールドフェスタ インターナショナル ポートショー、イベント JAPAN 2008、横浜・開港キャンドルカフェ 2007、春の大道芸
	138	国際花火大会、横浜国際マリンエンターテイメントショー、世界こどもサミット in 横浜、第 9 回横浜健康散策他
	68	開港 150 周年祝賀パレード、〈地球環境と子供の未来を考える〉「氷山ルリの大航海」、DAYS 横浜国際フォトジャーナリズム・フェスティバル他
合計	588	

(4) 次世代育成・人材育成プロジェクト

横浜の将来を担う、国際性を持った人材、科学技術の振興や産業界の発展を導く人材を育てていくとともに、地域社会全体で子育てを応援するような仕組みづくりを行いました。

ア 小中一貫英語教育の推進

地域特性を活かした語学教育戦略を進めるために、国語教育を充実するとともに、小中学校で一貫した英語教育を推進し、国際都市・横浜の未来を担う人材をの育成に取り組みました。

○ 2009(平成21)年度中に、全小学校で「横浜国際コミュニケーション活動(Y I C A・Yokohama International Communication Activities)」を開始します。

○ 小学校のY I C Aの授業の中で、児童は、外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付け、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しみながら、コミュニケーション能力の素地を身に付けます。その素地が、中学校の外国語科におけるコミュニケーション能力の基礎を学ぶ学習につながり、将来、国際都市・横浜の未来を担う人材として育っていくことが期待されます。



○ コミュニケーション能力の育成及び国際理解教育の一層の推進を図るため、全小学校に、英語指導助手(A E T)を配置しました。

英語で外国の生活や文化を紹介する国際理解教室の中で、小学校段階に相応しい体験的な英語活動を取り入れながら、児童の国際性を養うために、全小学校に外国人非常勤講師(I U I)を派遣しました。

イ 横浜開港150周年記念副読本発行事業

～小学生用副読本『わたしたちの横浜』、中学生用副読本『わかるヨコハマ』～

(ア) 趣旨

横浜開港150周年を迎えるのを機に、横浜の子どもたちが、自分たちのふるさと「よこはま」の価値を確認する取組を教育委員会として企画しました。

進取の気質に満ちた優れた先人を輩出した都市、環境行動都市として今も具体的な行動に取り組む都市の一員としての自覚を育むための冊子とし、未来に前向きな展望をもった進取の気質に溢れた子どもの育成及び環境行動都市横浜の一員として自覚をもった行動ができる子どもの育成を図りました。

(イ) 実施内容

○ 民間とのタイアップ(かながわ検定協議会、横浜銀行の協賛)により、対象学年(小3～小6、中1～中3)への児童・生徒全員への個人配布を行いました。

○ 横浜が目指す子ども「公」「開」に示した子ども像の具現化に資する副読本を作成しました。

- 「横浜の時間」「社会科」「理科」等の副読本として活用できる内容構成を図りました。
- 中学生用は、「かながわ検定横浜ライセンス」公式ガイドブックとして、一般書籍として販売しました。（学校配付用と体裁が異なる）
- 小学生用副読本の編集委員会の構成は、横浜市教育委員会指導主事、横浜市立小学校長・副校長・教諭とし、外部識者による監修を依頼しました。
- 中学生用副読本の編集委員会の構成は、検定協議会が委嘱した有識者を中心に執筆し、市教委指導主事が監修しました。

(ウ) 反響・成果

- ・ 小学生用副読本は、これまでの各区版（モノクロ）に代わって、オールカラー、郷土横浜の歴史、社会、自然を網羅した多彩かつわかりやすい内容となり、配布後、市民の方からも購入したいという希望が多数寄せられています。（現在非売品）
- ・ 中学生用副読本は、平成 18 年度まで発行していた『横浜の歴史』を中心に、現代の横浜の社会、自然分野を加えたもので、郷土横浜を総合的に理解することのできる副読本で、大人でも読める多彩な内容であり、一般書店で購入することができます。
- ・ 小学生用、中学生用とも、社会科、理科、『横浜の時間』（総合的な学習の時間）の副読本として、学校の各授業において多方面に活用できるものとなりました。

ウ 横浜サイエンスフロンティア高等学校の整備

- ・ 平成 21 年 4 月 5 日 開校

横浜サイエンスフロンティア高等学校は、日本で初めて「サイエンス」の名のついた理数科の高等学校として、開港 150 周年の平成 21 年 4 月に横浜市鶴見区に開校し、1 年生 238 人が入学しました。

はまぎんこども宇宙科学館館長で東京大学名誉教授の和田昭允博士、ノーベル物理学賞受賞者で（財）平成基礎科学財団理事長の小柴昌俊博士、（財）神奈川科学技術アカデミー理事長で東京大学特別栄誉教授の藤嶋昭博士など 5 人の世界的な科学者が、スーパーアドバイザーとして、教育内容、教育方法の指導・助言、生徒への講義などを行っています。

また、研究機関、大学、企業の研究者、技術者の方々に、科学技術顧問として、出張講義や研究指導に御協力をいただくなど、先端科学技術の知識を活用して、世界で幅広く活躍する人間を育成することを教育理念として、学校での教育を行っています。



エ 子育て家庭応援事業「ハマハグ」

子育て家庭応援事業「ハマハグ」は、妊娠中の方や小学生以下の子どもがいる家庭の方が、協賛店や施設で登録証を見せると子育てを応援する様々なサービスが受けられます。市内 1,944 件の店舗・施設が協賛しています。(2009 年 12 月時点)

「ハマハグ」は、ヨコハマの「ハマ」と抱きしめるという意味の英語「hug (ハグ)」をつなげており、子ども達がたくさんの人にあたたく見守られて育ててほしいという気持ちが込められています。

イメージキャラクターは、子どもたちに人気のアンパンマンです。市内のお店・施設でぜひ、アンパンマンのステッカーを見つけて下さい。



©やなせ・F・N

● サービス内容

ちょっとした心配りから、設備・備品の無料提供、割引や優待などがあります。
(サービス内容の例)

ベビーカーのままでの入店への配慮、荷物一時預かり、離乳食メニュー・お子様メニューあり、授乳スペース設置、おむつ替え台設置、粉ミルク用のお湯提供、育児相談・育児情報の提供、おもちゃなどのプレゼント、ポイントサービス、宅配無料・割引 等

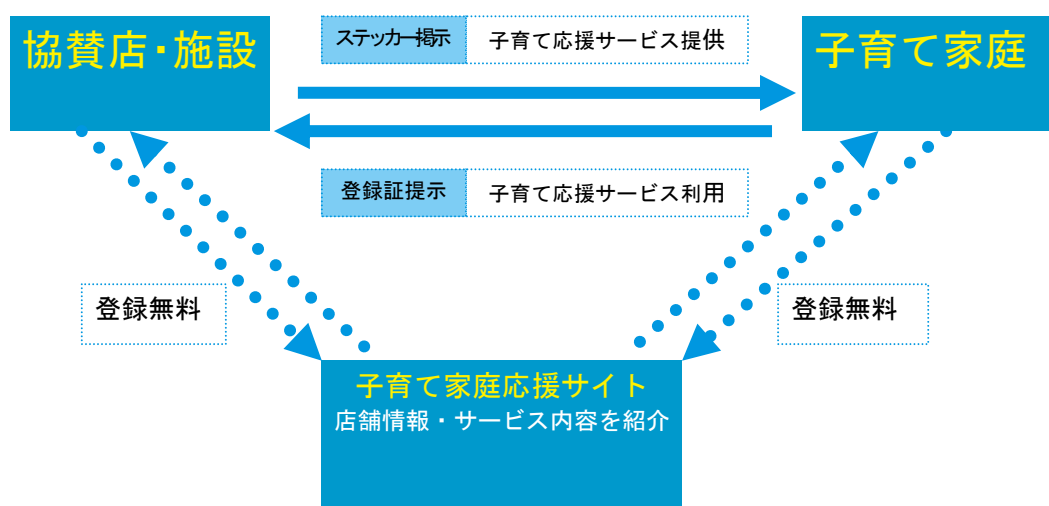
● 対象

- ・サービス利用者：小学生以下の子どもがいる家庭の方及び妊娠中の方
- ・サービス提供者：横浜市内に店舗・施設等を有する事業者

● 利用者登録方法

パソコンや携帯電話で、横浜市のホームページから申し込み

(検索キーワード「ハマハグ」) <http://www.hamahug.jp/kyosan.html>



(5) さらなる国際的な発信力を高めていくための都市戦略の取組

進取の気風と開放性に富んだ市民性を最大限に活かしながら、環境・経済・国際貢献などの分野の大型国際コンベンションを積極的に誘致・開催し、国際都市・横浜を世界に発信するとともに、より国際性豊かな都市へのステージアップにつなげる取組を行いました。

ア 横浜クリエイティブシティ国際会議 2009

横浜市がこれまで進めてきたクリエイティブシティ・ヨコハマの取組を国内外に発信するとともに、今後の創造都市の新たな方向性及び戦略を国内外の多様な参加者で検討する国際会議を開催しました。

- ・ 会議開催 平成 21 年 9 月 4 日（金）～9 月 6 日（日）
- ・ 会 場 関内ホール、横浜開港記念会館、ヨコハマ・クリエイティブシティ・センター他
- ・ 会議参加者 約 2,000 人

(ア) 会議テーマ

～創造性が都市を変える～

(イ) 趣旨

- ① 横浜市のこれまで 5 か年の創造都市の取組と、国内外諸都市の取組課題を踏まえて、創造都市の次の方向性、戦略を検討する。
- ② 国内外の市民、NPO、大学、行政など多様な創造の担い手による人材育成、まちづくり、経済の活性化をはかるネットワーク形成をはかる。
- ③ 創造都市横浜の取組を国内外に発信する。



(ウ) 構成

基調講演、パネルディスカッション（2回）、分科会（6回）、全体会議総括として横浜市長から「横浜宣言」を最終日に発表

(エ) パネリスト、コメンテーター等スピーカー

国内外 20 都市、68 人（海外からは 11 の国と地域から 17 人）

(オ) 主なパネリスト

ピーター・ホール氏（ロンドン大学パートレット校教授）

モンテ・カセム氏（立命館アジア太平洋大学学長）

青木保氏（前文化庁長官・青山学院大学大学院特任教授）、

伊東豊雄氏（建築家）

フォルカー・シュタイン氏（フランクフルト市副市長）

リン・チュン・チェ氏（台北市都市再開発本部本部長）

ローラン・トロンタン氏（リヨン広域行政区経済・創造産業顧問）

森源二氏（金沢市副市長）、篠田昭氏（新潟市長） ほか

(カ) 主な議論

- ・ 創造性はすべての都市にとってかけがえのない価値であり、それぞれの都市に生活する知恵と工夫により豊かな都市の個性を引き出すことが可能
- ・ 都市をとりまく環境の変化に対応した都市ビジョンを示し、都市における文化を生成する戦略を持つべき
- ・ 市民一人ひとりが創造性を持ち、市民・NPO・産業界が創造都市の主役となるべき
- ・ これらの行動を都市に対する愛着や自負につなげていくことが重要

(キ) 「横浜宣言」骨子

- ・ 開港の地である横浜都心臨海部の再生と、郊外部への展開
- ・ 横浜を、創造性を持った人々にとってチャンスのある街にしていく
- ・ 行政と市民やNPO・企業等との協働の新たな展開
- ・ アジアをはじめとする内外の都市との創造界隈拠点を中心とした交流、横浜から提案する創造都市を世界に発信する

イ 2009年シティネット横浜大会

- ・ 開催日 平成21年9月7日(月)～9月11日(金)
- ・ 会場 パシフィコ横浜会議センター、神奈川県民ホール
- ・ 参加者数 約2,000人

横浜市が会長都市を務める「シティネット(正式名称:アジア太平洋都市間協力ネットワーク)」の4年に一度の大会が横浜で開催されました。シティネットは、アジア太平洋地域の都市問題の改善・解決を目指す、都市・団体等の会員間の国際組織です。大会では、「未来のために都市が奏でるハーモニー」をテーマに、アジア太平洋地域54都市の代表やNGO、国連機関から多数の海外参加者を迎え、気候変動、防災、インフラ整備など都市が抱える様々な課題に対する一層の都市間協力の推進について議論を深めました。



9月8日の開会式では、シティネット会長・開催都市市長として林文子横浜市長が「開港150周年の記念の年に12年ぶりに横浜でシティネット大会を開催するのをうれしく思う」と国内外からの大会参加者を歓迎するスピーチを行いました。

開会式に続いて、作家C・W・ニコル氏の記念講演「都市・人・自然の共生」や末吉竹二郎氏をモデレータとする「アジア太平洋都市フォーラム『気候変動が都市を襲う』」が行われました。フォーラムでは温暖化など気候変動を背景に、都市と国際機関との協働、都市間ネットワークの可能性、市民のとるべき行動などのテーマ

で活発な議論が展開されました。フォーラムに参加した女優で国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）スペシャル・サポーターの菊川怜さんは、自身がアフリカの難民キャンプ等を訪問した経験から「気候変動問題を遠いところの問題ではなく、自分に直接関係する自らの問題と捉えていきたい」と述べました。

また、大会最終日に行われた公開セミナー「ヒマラヤから見た地球温暖化～地球のために今、できること」では、アルピニストの野口健さんが、エベレストでの清掃活動やヒマラヤの氷河が融解している現状を紹介されました。

公開プログラムにご参加いただいた多くの市民の方々に、地球規模で解決しなければならないより困難な課題に取り組む国際社会にどのように関わり、貢献していくことができるのか改めて考えていただく機会を提供するとともに、大会の開催を通じ、開港150周年を迎えた国際都市横浜を内外にアピールすることができました。

ウ 2010年日本APEC首脳会議の横浜開催の決定

横浜市では、平成20年6月から2010年に日本で開催されるAPEC（アジア太平洋経済協力）首脳会議の誘致活動を行ってきましたが、平成21年3月に横浜での開催が決定されました。

APEC首脳会議は、平成20年5月の第4回アフリカ開発会議に続く大型国際会議の開催となり、横浜の国際コンベンション都市としての地位を一層高めるとともに、世界に開かれた都市づくりの重要な一歩となります。

■ 会議開催時期

- ・ 最終高級実務者会合 平成22年11月7日～8日
- ・ 閣僚会議 平成22年11月10日～11日
- ・ 首脳会議 平成22年11月13日～14日

■ 参加国・地域

オーストラリア、ブルネイ、カナダ、チリ、中国、中国香港、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、メキシコ、ニュージーランド、パプアニューギニア、ペルー、フィリピン、ロシア、シンガポール、チャイニーズ・タイペイ、タイ、米国、ベトナム

■ APECの概要

APECはアジア太平洋地域の持続可能な成長と世界経済の成長への貢献という理念のもと、域内21の国・地域が参加する経済フォーラム。世界全体の人口の約4割、世界全体のGDPの約5割を占めるAPECは、世界最大の地域協力といえます。

■ これまでの取組

- ・ 平成21年7月17日 「2010年APEC横浜開催推進協議会」設立
行政・経済界・国際機関など計44団体（会長：横浜市長）
- ・ 平成21年11月13日 2010年日本APEC横浜 開催1年前セレモニー実施

(6) 横浜開港 150 周年記念テーマイベント「開国博 Y150」

ア 開催概要

■事業名称	横浜開港150周年記念テーマイベント「開国・開港Y150」
■愛称	開国博Y150
■主催	財団法人横浜開港150周年協会
■総来場者数	716万6,300人
・うち有料入場者数	123万9,325人 (ベイサイドエリア111万3,403人、ヒルサイドエリア12万5,922人)
・うちプレイベント	62万人
■総合プロデューサー	小川巧記(オガワ タクノリ)
■アートプロデューサー	日比野克彦(ヒビノ カツヒコ)

会場

B ベイサイドエリア 会期：2009年4月28日(火)～9月27日(日)10:00～22:00

※象の鼻会場は6月2日12:00～オープン

日本初登場となる、フランスの巨大スペクタクルアート劇団「ラ・マシシ」によるパフォーマンスや、日本を代表する映像作家・岩井俊二氏がプロデュースする新感覚SFファンタジー「BATON」の上映、開国・開港をテーマとした歴史体験やエンターテイメントイベント、ライブ、パフォーマンス、国際交流、市民協催イベントなど、ベイサイドエリア（横浜・赤レンガ倉庫周辺ほか）では、さまざまなプログラムを実施しました。

H ヒルサイドエリア 会期：2009年7月4日(土)～9月27日(日)9:30～17:30

※但し、8月の毎週土日及び9月19日から27日の9日間は、9:30～20:30

ヒルサイドエリアの会場となるよこはま動物園ズーラシア隣接地区では、横浜で伐採した竹で作った竹の海原等を会場に、市民自らが中心となって企画出展をする〈市民創発プロジェクト〉を展開しました。自然あふれる会場で、トークショー、ワークショップ、パフォーマンスなど、さまざまな参加体験ができるプログラムを実施しました。

M マザーポートエリア 会期：2009年の年間を通じて展開

横浜駅周辺から山下・山手地区でお馴染みの人気スポットを中心としたマザーポートエリアでは、周辺地域と密接に結びついた横浜ならではの魅力をお楽しみいただくため、横浜市民お薦め情報を盛り込んだ エリア内回遊ルートマップ「たねまるマップ」の発行などを行いました。

イ ベイサイドエリア概要

新港地区から山下公園一带の「ベイサイドエリア」は、メインとなる3つの有料会場と4つの周遊会場（無料会場）で構成。有料入場施設は、新港地区に近接して3施設が設置され、また周遊会場として、赤レンガ倉庫から山下公園にかけて、4つの会場が設けられました。来場者は、横浜ならではの海と港、歴史的建造物などの景観を楽しみながら、有料入場施設と周遊会場を自由に回遊し、体験型展示、大型シアター、催事、市民参加型イベント、夜間演出、飲食、ショッピングなどを、楽しむことができる会場構成としました。



1 Y150はじまりの森
(新港地区8街区)

ENEOS ラ・マシ
横浜ものがたり
ENEOS 未来のエネルギー館
ENEOS ナイトピクニック
黒船レストラン



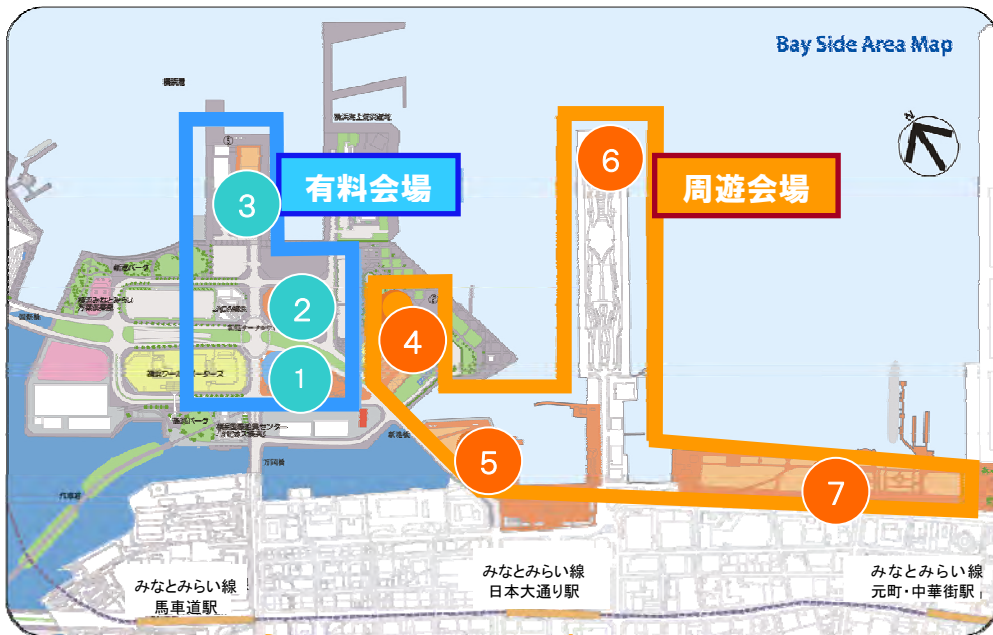
2

Y150トモローパーク
(新港地区7街区)
未来シアター「BATON」
トモローパークステージ
アースバルーン「HOME」



3

NISSAN Y150ドリームフロント
& スーパーハイビジョンシアター
(新港ふ頭)
NISSAN Y150ドリームフロント
スーパーハイビジョンシアター



4

赤レンガ会場(広場・1号館)
《開国・開港の街》
開港5ヶ国・5都市 常設展示
ワールドマーケット、都市交流広場
ワールドグルメ、公式記念品ショップ
ベイサイド市民協催
横浜18区紹介デー
横浜へつながる絹の道展(期間限定)



5

象の鼻会場
黒船トリックアート
灯台アートワーク



6

大さん橋会場
横浜FUNEプロジェクト
ベイサイド市民協催



7

山下公園会場
黒船来航イベント



© HTB-T2019

(7) Y150 はじまりの森

① ラ・マシンパフォーマンス

クリエイティブシティ構想を掲げ、創造都市ネットワークを拡大し、さらなる国際交流、芸術創造をめざす横浜が、フランスのナント市との連携を図り、スペクタクルアート劇団「ラ・マシン」を日本ではじめて招聘しました。

ベイサイドエリア 4 日間のプレイベントに続き、153 日間のイベントを展開しました。



- ・ 公演：1日5回実施（11時、13時、15時、17時、19時）
- ・ 延べ公演回数：756回
- ・ 公演時間：1回20分 延べ252時間の公演時間

② 横浜ものがたり

開港からの歴史をひもとく体験型の歴史ゾーンとして設置しました。

- ・ 展示構成：ペリー応接所再現セット、150年年表、横浜開港物語シアター、はじめてワンダーランド

③ その他のコンテンツ

- ・ ENEOS 未来のエネルギー館
- ・ たまくすの学び舎
- ・ ENEOS ナイトピクニック
- ・ 黒船レストラン（フードコート）
- ・ 横浜ショーケース（タカナシ乳業、崎陽軒、ありあけ本館、KOHKA）
- ・ たねまる公式記念品ショップ
- ・ FUJIFILM フォトブース
- ・ 黒船トリックアート（6月2日～）
- ・ ラ・マシン搭乗体験（5月30日～）
- ・ スペシャルナイトプログラム（6月12日～毎週金・土）
- ・ フェイスペインティング（5月23日～毎週土日祝）

(4) Y150 トゥモローパーク

① 未来シアター

近未来アニメーション「BATON(バトン)」を上映するテント型シアター。「BATON(バトン)」はエピソード①～③の3話を会期を分けて上映しました。

- ・ 上映回数：3,109回
- ・ 1日の上映回数：20回
- ・ エピソード① 4月28日（火）～5月30日（土）
- ・ エピソード② 5月31日（日）～7月2日（木）
- ・ エピソード②+夜間エピソード③ 7月3日（金）～7月10日（金）
- ・ エピソード③, ②交互上映 7月11日（土）～9月27日（日）

② トゥモローパークステージ

一般応募による出演のほか各区の区民デーや地元メディアとのタイアップなどのステージプログラムを開催しました。

- ・ 出演者総組数：481組（うち区民デー42組）
- ・ たねまるショー第1話：
4月28日（火）～7月25日（土）
- ・ たねまるショー第2話：
7月26日（日）～9月27日（日）

③ アースパルーン「HOME」

宇宙飛行士向井千秋氏監修の地球環境をテーマとした映像ストーリーを上映しました。

- ・ 上映時間 1日4回
(19時25分、20時00分、
20時35分、21時10分)
- ・ 上映回数 計611回上映
(8月7日のみ1回上映中止)



④ その他の展示・コンテンツ

- ・ スリーエフ Y150 店
- ・ キッズボート (7月18日(土)～8月31日(月))
- ・ 大道芸 (実施日数112日間)
- ・ たねまるグリーティング
- ・ FMヨコハマ サテライトスタジオ「STUDIO SEAGULL Y150」

(ウ) NISSAN Y150 ドリームフロント&スーパーハイビジョンシアター

① スーパーハイビジョンシアター

世界最精細映像と37個のスピーカーを立体的に配置したマルチ音響による映像を上映しました。

- ・ 上映回数 4,667回

② 日産パビリオン

『横浜発、「地球への思いやり活動」を世界へ』をテーマに、これからの未来を創る子どもたちへのメッセージを映像等で発信しました。

- ・ 展示内容：PIVO LAB. (ピボ・ラボ)
- ・ コトバパーク

③ ドリームシップ

- ・ 宙(そら)の船(協力：JAXA 宇宙航空研究開発機構)(8月1日～)
再使用型ロケット実験機の展示やロケット発射映像等の上映
- ・ 海の船(協力：JAMSTEC 海洋研究開発機構)
しんかい6500の模型展示等
- ・ アートの船(横浜 FUNE プロジェクト)
横浜港の歴史を彩る実在の船をモチーフに製作したダンボールの船等

(I) 周遊会場

① 赤レンガ会場「開国・開港の街」

- ・ 開港5カ国・5都市常設展&企画展、都市交流広場、ワールドマーケット、ワールドワイン、ヨコハマグッズ「横濱001」ショップ、マザーポートエリアコーナー、「Y150 まちあるきステーション」「ワールドグルメレストラン」

② 象の鼻会場（6月2日～）

- ・ 黒船トリックアート（6月2日～）
カート・ウェナー氏による黒船・サスケハナ号のトリックアート
- ・ 灯台アートワーク（8月5日～9月27日）
応募デザイン数 101点
象の鼻会場制作・展示入選 10点
ドリームフロント会場展示 2点
- ・ 「種は船」展示（9月12日～26日）
- ・ 「出航」イベント（9月26日）
「Y150 横浜丸」進水式、「出航」セレモニー、歓迎式セレモニー

④ ベイサイド市民協催

多様な市民（個人、NGO・NPO等各種団体）が、それぞれの活動を多彩な手法で表現する展示やステージイベントを展開しました。

- ・ 開催期間 4月28日（火）～9月27日（日）のうち75日間
[内訳]赤レンガ倉庫2階スペース 59日間
赤レンガ倉庫3階ホール 43日間
大さん橋ホール 14日間
- ・ 開催者 140団体（参加者実数7,511人、延べ人数11,047人）

⑤ 横浜 FUNE プロジェクト

横浜（港）の歴史を彩ってきた実際の船をモチーフにダンボールの「FUNE（船）」を、市民参加型のワークショップで150艘制作し、会期中2回に分けて、ベイサイドエリア大さん橋会場で展示しました。



- ・ ワークショップ（FUNES作り）
期間 平成19年6月16日（土）～平成21年8月30日（日）〔807日〕
会場 横浜市内の127会場（横浜市内の市民利用施設や中学校など）
延べ参加人数 18,248人
- ・ 展示イベント 35日間
会期 <第1期航海> 平成21年4月28日（火）～5月26日（火）
<第2期航海> 平成21年9月22日（火・祝）～9月27日（日）
会場 大さん橋ホール

⑥ 黒船来航イベント

黒船「観光丸」を誘致し、乗船体験ツアーや夜間ライトアップなどを行い、山下公園を会場に、マザーポートエリアの賑わい創出を行いました。

- ・ 黒船ウエルカムイベント 5月2日(土) 山下公園内
- ・ 乗船プログラム 黒船体験ツアー
 - 5月3日(日)～10日(日) 7,770人乗船
 - 6月13日(土)～26日(金) 14,144人乗船
 - 8月3日(月)～9日(日) 8,882人乗船
- ・ 黒船一般公開
 - 7月3日(金)～16日(木) 17,276人乗船
- ・ 夜間ライトアップ 山下公園沖
 - 5月2日(土)～10日(日)
 - 6月13日(土)～26日(金)
 - 8月3日(月)～9日(日)



⑦ 船舶一般公開

横浜港サンクスプロジェクト事業として様々な船舶の乗船体験等を通じて、港の重要性や海の大切さについて理解を深める各種プログラムを展開しました。

開国博 Y150 期間中の来航船舶

- ・ 公開実施 延べ40日 計127,177人

保有団体名	船舶名	日程	開催場所	乗船人数
海洋研究開発機構	よこすか(潜水艇含)	6月13日(土)	新港ふ頭5号	4,002人
	なつしま(潜水艇含)	8月22日(土)	新港ふ頭5号	1,321人
	かいよう	9月12日(土)13日(日)	新港ふ頭8号	8,137人
	かいいい(潜水艇含)	9月12日(土)13日(日)	新港ふ頭5号	6,307人
	白鳳丸	9月27日(日)	新港ふ頭5号	4,295人
防衛省 海上自衛隊	護衛艦ひゅうが	9月6日(日)	大さん橋ふ頭	10,321人
	妙高軍帆船クワウテモック	5月28日(木)～6月5日(金)	新港ふ頭5号	30,181人
	護衛艦しらゆき	5月28日(木)～6月5日(金)	新港ふ頭8号	40,006人
	コロンビア軍帆船グロリア	7月4日(日)～7日(火)	新港ふ頭5号	4,556人
	護衛艦しらゆき	7月3日(土)～7日(火)	新港ふ頭8号	14,956人
東海大学	望星丸	6月4日(木)～7日(日)	大さん橋ふ頭	3,095人

⑧ 「絹の道都市間交流連携」

開港により横浜港から絹やお茶を輸出し、逆に横浜港から多くの西洋文明が日本に流入した歴史的な役割を学び、都市間の交流・連携の発展に資するため、関係都市と連携した絹の道展等を開催しました。

- ・ 赤レンガ広場テント内での物産展等
 - i 山梨(5/25～5/31) ii 相模原・八王子・町田(6/1～6/7)
 - iii 群馬・埼玉(6/8～6/14) iv 長野(6/15～6/21) v 横浜(6/22～6/28)
- ・ 赤レンガ1号館・横浜へつながる絹の道展
 - i 協賛企業(5/25～5/31) ii 相模原・八王子・町田(6/1～6/7)
 - iii 群馬(6/8～6/14) iv 長野(6/15～6/21) v 埼玉(6/22～6/28)
 - vi 山梨(6/29～7/5) vii 横浜市(7/6～7/12)

ウ ヒルサイドエリア概要

「ヒルサイドエリア」では、公募で集まった市民スタッフが中心になって創っていく「Y150つながりの森」を展開しました。「私からはじめるこれからの150年」をテーマに、市民の手で作り上げていく市民参加型の「市民創発プロジェクト」では、180以上の様々なプログラムが86日間にわたって展開されました。



【Y150つながりの森】

会場の中心には、竹の大屋根「竹の海原」。それを取り巻くように樹木や花壇などに囲まれたいくつもの広場を設け、地形と緑豊かな里山の風景を生かして、棚田や段々畑を作り、横浜の原風景を再現しました。

市民創発プロジェクト

ヒルサイドエリアのメインコンテンツ。「私からはじめるこれからの150年」をテーマに公募で集まった市民スタッフ自らが企画・出展を考え手がけ創り上げた180以上の「市民創発プログラム」を「竹の海原」や屋外の広場などの会場各所で実施しました。

自然や環境、共生などをテーマにワークショップやトークショー、パフォーマンスなど、見るだけでなく、対話して、参加して、体験ができる様々なプログラムを実施しました。

【プログラムの主なテーマ】

- | | | |
|--------|-------|-------|
| ・アート | ・福祉 | ・自分発見 |
| ・クラブ | ・交流 | ・教育 |
| ・ものづくり | ・国際理解 | ・スポーツ |
| ・文化 | ・伝統 | |
| ・環境 | ・歴史 | |
| ・自然 | ・シニア | |
| ・食 | ・若者 | |
| ・地域 | ・子ども | |
| ・まちづくり | ・遊び | |
| ・共生 | ・健康 | |



歴史や文化を学び、語り、楽しめる身近な場。アートや地域文化などのほか、つくって遊べる体験型もあり、様々なメッセージ性に彩られた多種多様なプログラムを発信しました。

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| ◆次世代とつながろう | ◆生き物とつながろう |
| ・秘密基地をつくらう | ・ぞうさん(糞)からのメッセージ |
| ・150年後の子どもたちへ、など | ・鯨の背中、など |
| ◆自然とつながろう | ◆みんなとつながろう |
| ・つながりの森の棚田で稲作体験 | ・世界と話そう、夏休みの子供達へ |
| ・横浜発 はなぐるま・花車で街角を飾ろう、など | ・私も変わろう、変わるプロジェクト |
| | ・視覚障害者のダンス・サークルメレンゲ、など |

(7) 市民創発プロジェクト

「私からはじめるこれからの150年」をテーマに公募で集まった市民スタッフ自らが企画・出展を考え、手がけ、創り上げた180以上の「市民創発プログラム」を「竹の海原」や屋外の広場などの会場各所で実施しました。

- ・ 応募者数 308 人
- ・ リーダー数 127 人
- ・ メンバー実数 10,168 人
- ・ 参加出演人数 17,928 人
- ・ プロジェクト数 182 プロジェクト

※ ヒルサイドエリアのメイン会場となる竹の海原製作のため、市内の竹林から市民参加で伐採を行う「竹の海原製作プロジェクト」を会期前に実施しました。
・ 参加者数 700 人

(4) 主催者コンテンツ

① つながりのダイアローグ

様々な関係＝「つながり」を創造する多分野のゲストによるトークを中心としたステージを実施しました。

- ・ 実施回数 47 回
- ・ 主な出演者（敬称略）
C. W. ニコル（作家、環境保護活動家）、白井貴子（ミュージシャン）、堀江謙一（海洋冒険家）、別所哲也（俳優）山口もえ（タレント）ほか

② ヒルサイドに巨大バッタあらわる

全長 50mの巨大バッタと劇団唐ゼミ☆と公募により集まった市民メンバーで構成される「飛蝗隊」による野外パフォーマンスを実施しました。

- ・ 実施日 全 15 日

③ セグウェイに乗ってヒルサイド体験

次世代の移動手段セグウェイに乗ってヒルサイド会場を観覧するツアーと試乗会を実施しました。

- ・ 実施日 全 13 日

④ Memorial Rebirth in ヒルサイド

1 分間に最大 1 万個のシャボン玉を発生させるマシン 50 台を使ったパフォーマンスを実施しました。

- ・ 実施日 全 6 日

⑤ 竹燈籠

市内から伐採した竹を使用し、3,000 本の竹燈籠を展示しました。

- ・ 実施日 全 6 日

⑥ 御柱祭 in ヒルサイド

信州・諏訪大社最大の行事、7年に1度の御柱祭をヒルサイドの会場で実施しました。

- ・ 実施日 9月23日（木）

(ウ) その他のコンテンツ

- ・ よこはま環境体験楽習展[横浜市環境創造局]
- ・ かみなり大王ごろごろ[横浜市環境創造局]
- ・ 座間の大凧
- ・ 旭区誕生 40 周年記念ヒルサイドステージ
- ・ 緑区制 40 周年記念緑区ステージ



エ マザーポートエリア概要

マザーポートエリア

Y150と横浜の街が一体となり来場者を迎えると同時に、イベントを契機とした集客力の向上や、横浜の街をPRする各種プランを展開

マザーポートエリア(横浜駅周辺～山下・山手地区)では、開港150周年の2009年に横浜を訪れる市内外からの来場者が、「開国博Y150」と同時に、横浜の街全体を楽しめる様々なプランを、行政・商店街・企業・市民が協働で考案、実施しました。

2009年1月から、地元横浜市民のお薦めスポット情報なども盛り込んだ、横浜の魅力を再発見できるエリア内回遊ルートマップ「たねまるマップ」を作成・配布するとともに、「開国博Y150」やエリア内観光の情報が入手できる多機能情報ステーション「たねまるポット」を設置しました。

【エリア内回遊ルートマップ「たねまるマップ」(3回発行)】

横浜市民おすすめのマザーポート内回遊コースや情報が満載、情報ステーション「たねまるポット」や市内各所で無料配布。



▲エリア内回遊ルートマップ「たねまるマップvol. 2」

▼「たねまるポット」



【情報ステーション「たねまるポット」】

マザーポートエリア内の回遊の目印として商店街、施設、観光スポットなど24ヶ所に設置。「たねまるマップ」や周辺情報チラシの配布、会期中は「たねまるスタンプラリー」のスタンプ台として活用。

●2009年1月17日(土)～9月27日(日) 16ヶ所

ザ・ダイヤモンド一番街広場インフォメーション(横浜駅西口)／地下街ポルティンフォメーション(横浜駅東口)／マリノスタウンオフィシャルショップ／横浜美術館／クイーンズスクエア横浜／野毛地区インフォメーションセンター／BankART1929(アイランドタワー)／野毛山動物園／ちえるる野毛／関内ホール／なか区民活動センター(ZAIM別館)／横浜市開港記念会館／横浜開港資料館／横浜港大さん橋客船ターミナル／China Town80／山手234番館

●2009年4月28日(火)～9月27日(日)

帆船日本丸／ベイサイドエリア会場内 ほか

オ 市民参加事業

開国博 Y150 では、市民に来場していただくだけでなく、自ら企画した事業を実施していただいたり、ボランティアとしてお手伝いいただいたりするなど、多様な市民参加に取り組みました。

具体的には、

- ヒルサイド市民創発やベイサイド市民協催での事業の企画・出展・出演
- 会場運営ボランティアとしての来場者の誘導案内や環境美化活動など
- 横浜 F U N E プロジェクトのワークショップへの参加

など、10 事業で実人数で約 3 万 4 千人、延べ人数で約 9 万人の方々に参加いただきました。

事業別参加者数

[単位：人]

事業名	実人数	延べ人数	実人数の積算
会場運営ボランティア	2,587	16,484	実人数：参加登録者数
ベイサイド市民協催	7,511	11,047	140 団体参加者数+18 区紹介デー
ヒルサイド市民創発	10,868	18,628	182 プロジェクト ID 発行数+竹伐採イベント参加者
横浜 F U N E プロジェクト	8,000	18,248	パスポート発行部数
DORAMA YOKOHAMA 150	500	18,674	活動登録者数
横濱・開港キャンドルカフェ	208	208	ボランティア登録者数
マザーポート	615	615	
道志村間伐材プロジェクト	166	339	プラットフォーム推進委員会事業
イベントをエコにするネットワーク	750	750	プラットフォーム推進委員会事業
地域 SNS 「ハマっち！」	2,800	2,800	プラットフォーム推進委員会事業
合計	34,005	87,793	

また、このほかにも、有料会場内で各区の区民デーを設け、横浜の様々な地域の特色や魅力をステージイベント等で情報発信しました。

・13 日間 合計 838 人

カ Y150 教育プログラム

「開国博 Y150」を教育プログラムの一環とし、校外学習として活用してもらうため、「Y150 教育プログラム推奨ツアー」を作成し、各コースに組み込まれる周辺施設を手配し、「歴史・港」、「環境・科学技術」、「生命・アート」、「経済・国際」の計 38 コースを設定しました。

教育プログラムに参加した学校は 549 校 210,878 名となりました。横浜市立学校は、ほぼ全ての学校が参加しました。

教育プログラム参加実績

		横浜市立	町田市立	相模原市立	八王子市立	横浜市内私学	合計
小学校	校数	345	12	3	8	2	370
	人数	130,620	1,144	342	588	604	133,298
中学校	校数	144		4	3	4	155
	人数	67,291		512	336	1,094	69,233
高等学校	校数	10				5	15
	人数	6,291				1,732	8,023
特別支援学校	校数	9					9
	人数	324					324
校数計		508	12	7	11	11	549
人数計		204,526	1,144	854	924	3,430	210,878

キ 広報宣伝活動

(財)横浜開港150周年協会では、平成19年度より「開国博Y150」の広報宣伝活動を開始し、各種媒体への広告の掲出を行うほか、広報事務局を設置し、各種メディアへの取材誘致等を行いました。

その結果メディアへの掲載数は6,871件、広告媒体に換算すると約110億円に相当する効果がありました。

【メディア掲載数】

	20年度	21年度	合計
新聞・フリーペーパー	2,128	2,987	5,115
雑誌	259	478	737
テレビ	232	321	553
ラジオ	34	90	124
WEB	28	238	266
その他	17	59	76
合計	2,698	4,173	6,871

【広告媒体換算金額】

(千円)

	20年度	21年度	合計
新聞(フリーペーパー含)	922,268	1,502,533	2,424,801
雑誌	104,061	340,730	444,791
テレビ	937,441	5,191,985	6,129,426
ラジオ	90,213	365,234	455,447
WEB	32,151	177,497	209,648
交通広告	454,905	633,815	1,088,720
その他	17,395	244,887	262,282
合計	2,558,434	8,456,681	11,015,115

※ 算定期間は本格的に広報・宣伝活動を開始した平成20年4月から「開国博Y150」が閉幕した平成21年9月まで。

ク 協賛金

協賛金獲得に関しては、平成20年秋のリーマンショックに端を発した世界同時不況の影響を受けた厳しい経済状況下で、目標を上回る協賛金を獲得することができました。

- ・ オフィシャル・パートナー(特別協賛参加) : 2社
 - ・ オフィシャル・スポンサー(一般協賛参加A) : 6社
 - ・ スポンサー(一般協賛参加B) : 32社
 - ・ サポーター(事業協力参加) : 54社
- 合計 94社

ケ 有料入場者数

(7) 入場者実績

入場者数内訳

単位：人

入場者数	有料入場者数(単位:人)		
累計	累計		
		ベイサイド	ヒルサイド
7,166,300	1,239,325	1,113,403	125,922

有料会場入場者数内訳

単位：人

	ベイ	ヒル	小計	備考
一般	892,423	95,836	988,259	
教育プログラム (横浜市立校のみ)	183,412	21,114	204,526	児童、生徒
	10,400	1,241	11,641	引率教員
招待券等	27,168	7,731	34,899	協賛企業等
	1,113,403	125,922	1,239,325	

(イ) 有料入場者数

有料入場者数が 124 万人に止まった理由を特定することは困難ですが、次のような様々な要因が推測されます。

- ① 市街地における既存の土地利用状況をそのまま活かし、広域的にイベントを行うという都市型の分散会場方式で実施したことから、コンテンツが分散し来場者のスムーズな移動が不自由であったことで一体感に欠けたこと。
- ② 有料入場者数 500 万人の見込を発表した時点では、全会場（ベイサイド 6 会場、ヒルサイド 1 会場）を有料と想定していましたが、大さん橋会場や赤レンガ会場などは、会場施設側と調整の結果、既存のイベントの利用を優先し通期で利用できないこととなり、無料会場とせざるを得ず、最終的にベイサイドエリアでは有料会場 3 箇所と無料会場 4 箇所になったこと。
- ③ 分散会場方式のコンセプトを尊重し、無料会場でのコンテンツの充実も図ったため、来場者が既存の魅力ある観光スポットで展開した無料会場で満足されてしまったこと。
- ④ 多大な経費がかかることや、景観への配慮から有料会場全体を周囲から隔絶する目隠し等を設置できなかったため、有料会場で展開した主要なコンテンツの一部（くも・バルーン）が会場の外から一部観覧できる状況となり、有料会場への来場動機が抑制される一因となったこと。

- ⑤ 限られた予算のなかで、安全、安心のイベントを目指して、既存市街地に広域に展開する無料会場や都市型・分散会場に応じた安全対策への投資も行ったため、有料会場への投資を抑制する必要が生じ、コンテンツの魅力が乏しくなったこと。
- ⑥ 会場構成の変更によりコンテンツの決定が遅れ、主要なコンテンツの発表前（平成 20 年 6 月 2 日）に前売券販売開始となったことなどにより、企業・個人の購買意欲を鈍らせたこと。
- ⑦ 前売入場券の販売を開始（平成 20 年 6 月 2 日）した以降、世界的な景気低迷（平成 20 年 9 月 15 日 リーマンブラザースの倒産）が発生し、消費者の感覚が変化したこと。
- ⑧ 開会前日（平成 21 年 4 月 27 日）に世界保健機関（WHO）が新型インフルエンザの警戒レベルをフェイズ 4 に引き上げたため、感染を恐れ混雑している集客施設へ出かける人が少なくなったこと。
- ⑨ 会期前半は週末ごとに天候が悪化するという悪循環が続き、外出を控えた人が多かったこと。

（※「会場計画の変遷」「企画内容の変遷」は、巻末資料 P201～P203 参照）

3 開港 150 周年記念事業の各種効果

(1) 開港 150 周年記念事業の誘客効果	88
(1-1) 開港 150 周年記念事業の誘客効果	88
ア 観光入込客数の増減	88
イ 観光案内所の取扱実績	90
ウ 公共交通機関の利用者数	91
エ 公共駐車場の駐車台数	93
(1-2) 開港 150 周年記念事業による周遊効果	94
ア JR デスティネーションキャンペーンによる周遊効果	94
イ ヨコハマまち歩き 150	95
ウ 市内施設等の取組	96
エ 開国博 Y150 割引チケットの利用による周遊効果	96
オ 開国博 Y150 来場者の周遊分析	97
カ 来街者の交通手段別の周遊分析	100
(2) 開港 150 周年記念事業の経済波及効果	106
(2-1) 開港 150 周年記念事業による経済波及効果	106
ア 「開国博 Y150」開催による経済波及効果	107
イ 「開国博 Y150」を除く主な開港 150 周年記念事業開催による経済波及効果	108
(2-2) 観光関連施設(観光・宿泊・商業施設等)対象アンケートによる効果検証	111
ア 分野別にみる開港 150 周年の影響	114
(2-3) 商店街ヒアリング	117
(2-4) 150 円商店街	123
(3) 開港 150 周年記念事業の市民力向上効果	126
(3-1) 市民参加者の人数	126
ア 市民参加プロジェクトの活動参加人数	126
(3-2) 市民参加プロジェクト参加者の評価・感想	128
ア 市民参加プロジェクト参加者へのアンケート結果	128
イ 市民参加プロジェクト参加者へのグループインタビュー	133
(3-3) 来街者の開港 150 周年記念事業評価	135
ア マザーポートエリアを訪れた市民の開港 150 周年記念事業に対する評価	135
イ 子どもの開港 150 周年記念事業に対する評価	138
(3-4) 市民の開港 150 周年記念事業への評価	139
ア ヨコハマ e アンケート	139
イ よこはま大学開港塾アンケート	145

(4) 開港 150 周年記念事業による横浜市のイメージ向上効果・・・・・・・・・・ 149

(4-1) 開港 150 周年記念事業の認知度	149
ア 「横浜開港 150 周年」「開国博 Y150」の認知度	149
イ 開港 150 周年記念事業の各事業の認知度	150
(4-2) 開国博 Y150 にかかるメディア露出調査	152
(4-3) 横浜市のイメージ	153
ア 横浜市のイメージ	153
(4-4) マザーポートエリア来街者にみる横浜のイメージ変化	157
(4-5) 開国博 Y150 の来場者による評価	160
ア 開国博 Y150 への来場者	161
イ 開国博 Y150 への修学旅行等での学校団体来場者数	161
ウ ベイサイドエリア（有料会場）来場者による評価・感想	162
エ ヒルサイドエリア（有料会場）来場者による評価・感想	166
オ 子どもの評価・感想	170

(※各調査の概要については巻末資料 P195～P198 参照)

(1) 開港 150 周年記念事業の誘客効果

2009 年の横浜では、開港 150 周年記念事業として、開国博 Y150 をはじめ多くの記念イベントが開催されたほか、象の鼻パーク整備やマリンタワーのリニューアルオープンなど、開港 150 周年にあわせた観光施設の新設が相次ぎました。また JR のデスティネーション・キャンペーン (JRDC) など、県外からの観光誘致も積極的に行われました。これらの効果があり、多くの人々がマザーポートエリアを中心に横浜を訪れました。

観光客の大幅な増加は、観光案内所の取扱実績が前年同月比約 1.2 倍、臨時観光案内デスクの利用件数が 5.4 万件に上るなどといったデータからも、読み取ることができます。みなとみらい線や市営地下鉄、バス等の利用客数、駐車場利用台数等にも顕著な増加が見られました。

横浜市の観光入込客数調査 (中間・暫定値) を見ると、2009 年 1 月から 9 月の観光施設等の観光入込客数 (日帰り客) の増加は市内全体で約 9.3%、最も効果の大きかった山下・関内・伊勢佐木町地区では約 35.5%増の誘客効果が観測されました。

また開国博 Y150 来場者の周遊行動を分析したところ、来場者の約 9 割が、行き帰りに別の観光スポット等を訪れており、マザーポートエリアへの新たな周遊を誘発していることが確認できました。

(1-1) 開港 150 周年記念事業の誘客効果

ア 観光入込客数の増減

■ 観光施設は山下・関内・伊勢佐木町地区で前年比 35.5%増

横浜市の観光入込客数調査 (2009/10/29 現在中間・暫定値) により、1 月～9 月の観光施設について利用者数の増減を比較したところ、「山下・関内・伊勢佐木町地区」で前年比 35.5%増、「みなとみらい・桜木町地区」で 13.3%増など、マザーポートエリアを中心に観光施設の入込客数は大幅に増加し、上記 2 エリアで 133 万人の増加となりました。

観光施設は「磯子・金沢地区」が前年比で▲2.4%と減少しているものの、市全域では 9.4%増となっており、観光施設と観光交通機関をあわせた、市内全体の観光入込客数 (日帰り客) は 175 万人の増となりました。これらは、新規観光施設のオープンなど、開港 150 周年にあわせた新たな取組も寄与しているものと考えられます。

一方、宿泊施設は各地区とも前年を下回り、市内全体では▲4.4%、14 万人減となりましたが、観光入込客数全体では 7.3%の増となりました。

さらに、同調査について特に観光客の多い 7～9 月期で前年度と比較してみると、横浜市観光入込客数は全体で 11.8%増、記念事業が多く開催されたマザーポートエリア内では、観光施設を中心に大幅な増加がみられたことが分かります。

横浜市観光入込客数調査

<1～9月期>

施設種別コード	大地区名	施設数	09年1～9月	08年1～9月	08→09	
					増減	増減率
観光施設	鶴見周辺	10	621,552	580,053	41,499	7.2%
	みなとみらい・桜木町	12	4,826,682	4,259,296	567,386	13.3%
	山下・関内・伊勢佐木町	14	2,907,817	2,145,364	762,453	35.5%
	山手・本牧・根岸	21	1,112,242	1,034,737	77,505	7.5%
	磯子・金沢	8	5,601,051	5,739,968	-138,917	-2.4%
	その他	18	3,939,757	3,620,805	318,952	8.8%
	観光施設小計	83	19,009,101	17,380,223	1,628,878	9.4%
観光交通機関	観光交通機関	11	1,526,360	1,401,057	125,303	8.9%
観光施設等(日帰り客)計		94	20,535,461	18,781,280	1,754,181	9.3%
宿泊施設	鶴見周辺	11	194,072	210,518	-16,446	-7.8%
	みなとみらい・桜木町	9	987,996	1,013,821	-25,825	-2.5%
	山下・関内・伊勢佐木町	24	887,740	940,122	-52,382	-5.6%
	山手・本牧・根岸	2	10,633	10,900	-267	-2.4%
	磯子・金沢	6	70,386	86,132	-15,746	-18.3%
	その他	27	896,032	926,720	-30,688	-3.3%
	宿泊施設(宿泊者)計	79	3,046,859	3,188,213	-141,354	-4.4%
総計		173	23,582,320	21,969,493	1,612,827	7.3%

<7～9月期>

施設種別コード	大地区名	施設数	09年7～9月	08年7～9月	08→09	
					増減	増減率
観光施設	鶴見周辺	10	279,259	263,316	15,943	6.1%
	みなとみらい・桜木町	13	2,726,148	2,501,758	224,390	9.0%
	山下・関内・伊勢佐木町	14	1,186,309	772,645	413,664	53.5%
	山手・本牧・根岸	21	334,130	284,993	49,137	17.2%
	磯子・金沢	8	2,670,339	2,551,450	118,889	4.7%
	その他	17	1,376,785	1,186,646	190,139	16.0%
	観光施設小計	83	8,572,970	7,560,808	1,012,162	13.4%
観光交通機関	観光交通機関	11	638,433	544,626	93,807	17.2%
観光施設等(日帰り客)計		94	9,211,403	8,105,434	1,105,969	13.6%
宿泊施設	鶴見周辺	11	67,110	74,146	-7,036	-9.5%
	みなとみらい・桜木町	10	384,989	381,708	3,281	0.9%
	山下・関内・伊勢佐木町	27	349,690	346,750	2,940	0.8%
	山手・本牧・根岸	2	3,749	3,678	71	1.9%
	磯子・金沢	6	26,698	32,524	-5,826	-17.9%
	その他	29	379,167	378,068	1,099	0.3%
	宿泊施設(宿泊者)計	85	1,211,403	1,216,874	-5,471	-0.4%
総計		179	10,422,806	9,322,308	1,100,498	11.8%

* 観光イベント参加者数については、集計中のため除いた。

* (出典) 横浜市観光入込客数調査

1～9月分は2009/10/26現在集計・2009年回答施設の合計、7～9月分は2009/10/26現在集計・2009年回答施設の合計と比較した。中間・暫定値のため、最終確定値とは異なる

イ 観光案内所の取扱実績

■臨時観光案内デスクを 5.4 万人が利用

開国博 Y150 の開催にあわせ、臨時観光案内デスクを馬車道駅（4月28日）と伊勢佐木町（6月2日）に設置しました。9月27日までの対応実績は馬車道駅が 37,893 件で、伊勢佐木町が 16,575 件、合計 54,468 件と、多くの観光客に利用されました。

(単位:人)

	馬車道駅	伊勢佐木町
設置期間	4月28日～9月27日	6月2日～9月27日
4月	640	
5月	9,280	
6月	2,400	3,427
7月	6,302	3,109
8月	7,827	5,133
9月	11,444	4,906
合計	37,893	16,575

(出典) (財) 横浜観光コンベンション・ビューロー経営部まとめ (2009.9.29)

■横浜観光案内所の取扱実績が大幅に増加

市内に設置している横浜観光案内所の取扱実績を見ると、4月から9月までの6ヶ月間で横浜駅が 188,249 件、桜木町駅が 144,158 件であり、前年同月比で見ると横浜駅で4月 142%、5月 155%、6月 130%、桜木町駅で4月 140%、5月 135%、6月 146%、7月 151%など、大幅な取扱実績の増加が確認できました。

取扱実績【横浜駅】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
平成19年	26,516	27,296	25,586	28,840	32,314	29,408	169,960
平成20年	20,859	21,302	22,074	27,014	33,402	28,682	153,333
平成21年	29,681	32,990	28,785	30,831	34,178	31,784	188,249
前年同月比: 19⇒20	79%	78%	86%	94%	103%	98%	90%
前年同月比: 20⇒21	142%	155%	130%	114%	102%	111%	123%

*平成20年2月移転

取扱実績【桜木町駅】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
平成19年	19,110	21,144	17,802	17,509	24,777	17,934	118,276
平成20年	17,012	18,279	15,131	15,689	19,789	18,452	104,352
平成21年	23,773	24,586	22,090	23,722	26,151	23,836	144,158
前年同月比: 19⇒20	89%	86%	85%	90%	80%	103%	88%
前年同月比: 20⇒21	140%	135%	146%	151%	132%	129%	138%

*平成21年5月移転

(出典) (財) 横浜観光コンベンション・ビューロー経営部まとめ (2009.9.29)

ウ 公共交通機関の利用者数

開国博 Y150 の開催期間中、馬車道駅、日本大通り駅、桜木町駅を中心に、鉄道の乗降客数の増加がみられました。また同期間中、100 円バスや観光エリアを走る「あかいくつ」など、バスの利用増も確認されました。

■みなとみらい線では馬車道駅、日本大通り駅を中心に乗降客数が増加

みなとみらい線の平成 21 年 4 月～9 月について 1 日平均の乗降客数を前年同月と比較してみると、馬車道駅で 9.5%増、日本大通り駅で 7.4%増など、開国博 Y150 の会場付近のエリアで乗降客数の増加が顕著に見られました。

また、横浜駅やみなとみらい駅、元町・中華街駅でも 5%以上の増加が見られました。

【みなとみらい線】1 日平均乗降客数

	平成20年 4月～9月 (1日平均)	平成21年 4月～9月 (1日平均)	増減
総 数	161,647	171,992	106.4%
横浜	155,164	164,640	106.1%
新高島	6,253	6,230	99.6%
みなとみらい	55,845	59,864	107.2%
馬車道	31,733	34,733	109.5%
日本大通り	20,852	22,389	107.4%
元町・中華街	53,448	56,127	105.0%

(出典)横浜高速鉄道(株)まどめ

■市営地下鉄では桜木町駅と中山駅で乗車人数が増加

平成 20 年度と平成 21 年度の乗車人数の公表数値の算定方法が異なるため、単純に比較はできませんが、市営地下鉄各駅の平成 21 年 4 月～9 月の合計乗車人数を前年同期と比較すると、桜木町駅が 12.8%増で、横浜駅が 4.2%増、関内駅が 3.1%増となりました。

ヒルサイドエリア(有料会場)へのアクセスである中山駅は 21.3%増と増加しています。なお、グリーンライン(横浜市高速鉄道 4 号線)中山駅～日吉駅の開通は平成 20 年 3 月 30 日であり、開通後の比較ではありますが、グリーンラインの利用客数が増加傾向にあることから、開通の影響も含まれていると考えられます。

【市営地下鉄】乗車人数

	平成20年 4月～9月 (合計)	平成21年 4月～9月 (合計)	増減
横浜駅	11,599,253	12,086,272	104.2%
桜木町駅	2,574,908	2,905,299	112.8%
関内駅	4,243,261	4,375,648	103.1%
新横浜駅	6,060,716	5,985,823	98.8%
中山駅	1,521,092	1,844,567	121.3%

注1) 全て速報値であり、決算値とは異なる場合がある

注2) 中山駅のあるグリーンラインは、平成20年3月30日開業

注3) 平成21年度は有人改札の通過人員について実通過人数の計測値に変更
(出典)横浜市交通局まとめ(速報値)

■市営バスは「100円バス」や「あかいくつ」「みなとぶらりチケット」の利用が増加

市営バスの利用客数では、100円バスの利用が前年同期比で48.2%の利用増、あかいくつの利用が前年同期比で13.0%の利用増など、増加が見られました。

また、MM21地区から山下公園周辺・中華街や伊勢佐木町・元町までを網羅した、地下鉄・市営バスの一泊乗り放題券である「みなとぶらりチケット(ワイド)」の販売数も72.5%増と発券枚数を伸ばしています。

【市営バス】利用実績

	平成20年 4月～9月 (合計)	平成21年 4月～9月 (合計)	増減
あかいくつ	388,036	474,670	122.3%
横濱ベイサイドライン	8,435	9,958	118.1%
100円バス	47,522	70,430	148.2%
みなとぶらりチケット(ワイ	8,182	14,114	172.5%

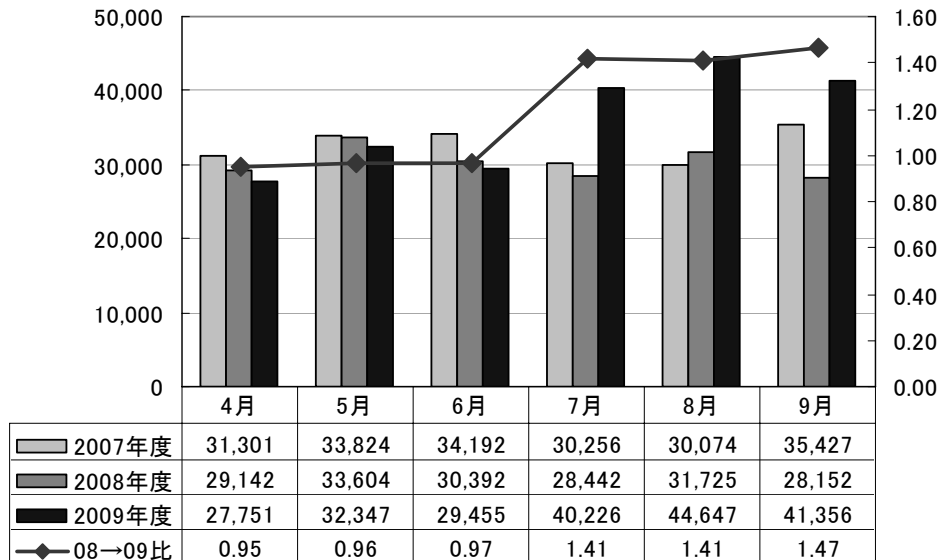
注1) あかいくつの実績は速報値。また、全体に決算値とは異なる場合がある

(出典)横浜市交通局まとめ(速報値)

エ 公共駐車場の駐車台数

■みなとみらい公共駐車場: 9月は前年同月比で約1.5倍

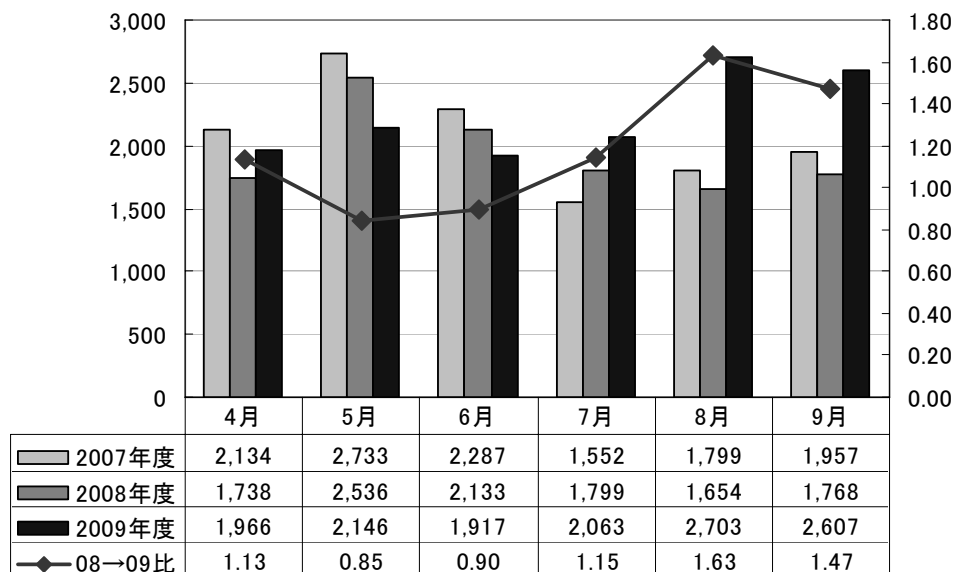
みなとみらい公共駐車場の利用台数は、4～6月はほぼ前年、前々年と比べ微減で推移していましたが、7月、8月、9月は前年同月比で約1.4倍と増加しました。



(出典) パシフィコ横浜事業部まとめ (2009.10.23)

■臨港パーク公共駐車場: 8月は前年同月比で約1.6倍

臨港パーク公共駐車場の利用台数は、5月、6月は前年割れをしているものの、8月は前年同月比で1.63倍、9月で1.47倍と大幅に利用台数は増加しました。



(出典) パシフィコ横浜事業部まとめ (2009.10.23)

(1-2) 開港 150 周年記念事業による周遊効果

ア JR デスティネーションキャンペーンによる周遊効果

JR による「横浜・神奈川デスティネーションキャンペーン」(JRDC) は、平成 21 年 6 月 1 日～8 月 31 日の 3 ヶ月間、はじめての都市型 DC として実施されました。イベント列車の運行のほか、様々な旅行商品等が売り出され、びゅう旅行商品売上は前年比 177.7%の実績があがっています。また関連イベントの参加者やびゅう旅行商品の予約実績、JR 関連店舗来店者は約 39 万人となりました。

また同期間、近距離きっぷの販売実績は、横浜駅で 100.6%、桜木町駅で 109.4%と増加しました。

主要駅の近距離きっぷ販売実績前年比(2009 年 6 月 1 日～8 月 31 日)

【横浜市内 10 駅】

【近隣 5 都市 5 駅】

駅名	前年比	駅名	前年比	駅名	前年比
横浜	100.6%	根岸	98.6%	川崎	99.5%
桜木町	109.4%	磯子	98.9%	藤沢	99.8%
関内	99.6%	新杉田	103.0%	鎌倉	98.6%
石川町	102.9%	中山	101.7%	横須賀	102.9%
山手	101.7%	新横浜	99.0%	小田原	98.2%
		10 駅合計	101.5%	15 駅合計	100.8%

* 横浜支社内近距離きっぷ販売実績 前年比 100.1%

* 数値は、2009 ヨコハマ観光プロモーション推進協議会・東日本旅客鉄道株式会社横浜支社の発表による

イ ヨコハマまち歩き 150

■延べ2,760人が参加

横浜の魅力を全国に発信し、観光客の大量誘客をめざす「横浜・神奈川 destinations キャンペーン」の一環として、2009 ヨコハマ観光プロモーション推進協議会では、横浜ボランティアガイド協議会と協働し、観光客や市民が、ガイド付きのまち歩きを楽しめる「ヨコハマまち歩き 150」を実施しました。

参加人数は延べ2,760人となっており、参加者アンケート結果からは、40～70代、女性、友達同士の参加が多い傾向が読み取れました。

また県外からの参加が約半数と多く、首都圏以外の遠方からの参加も多く見られました。2010年以降も継続していく予定で、横浜の新しい観光資源として期待されます。

コース	エリア	日程	コース	参加人数(延べ)
Y150 マザー ポート まち歩き コース	桜木町 駅	4月28日(火)～ 9月27日(日)	横浜魅惑のアート満喫	282
			迫力満点、ヨコハマの産業遺産	148
			横浜トワイライト夜景コース	51
	関内駅	4月28日(火)～ 9月27日(日)	横浜もののはじめコース	397
			横浜レトロな建物コース	167
			横浜三塔物語コース	6
			横浜トワイライト夜景コース	120
	石川町 駅	4月28日(火)～ 9月27日(日)	ニーハオ横浜中華街から港へ	135
			ハイカラ元町・外国人居留地コース	129
			中華街までてくてく	2
			あこがれ山手を逍遥コース	238
				1,675
達人 まち歩き コース		5月2日(土)	横浜開港知られざる秘話を語る	35
		5月30日(土)	君は本当の中華街を知っているか？	32
		6月27日(土)	横浜の街づくりは明治のころからアーティスティック	34
		7月25日(土)	ミナトヨコハマ Swing Swing Swing	21
		8月22日(土)	横浜山手居領地ハイカラストリート	34
		9月26日(土)	横浜150年タイムトリップへようこそ	32
				188
ヨコハマ まち歩き コース	中区	6月16日(火) 8月1日(土) 9月2日(水)	山手ロマンの道	41
			もののはじめの道から横浜三塔・中華街	62
			新しい町みなどみらい21から大さん橋へ	28
	西区	5月28日(木) 7月20日(月・祝) 7月7日(火)	野毛三山	20
			横浜開港と横浜道	77
			横浜下町の伊勢佐木と野毛	72
	金沢区	4月28日(火) 5月20日(水) 6月6日(土)	金沢歴史の道と牡丹	25
			塩の道と横浜の大名	21
			富岡旧海岸線と別荘地跡	12
	鶴見区	5月9日(土) 6月13日(土) 9月12日(土)		14
			開国(横浜開港)のキッカケのルーツを探る	18
				2
	神奈川 区	5月19日(火) 6月12日(金) 7月1日(水)	「神奈川宿」～開港時の領事館跡をめぐる～	4
			「ヘボン博士の足跡」～日本の近代化に貢献したヘボン博士の横浜での活動拠点を辿る～	8
			「神奈川区のポートサイドと台場跡」～開港前白砂青松だった神奈川宿の海辺のいまを歩く～	0
	保土ヶ谷 区	4月26日(日) 7月5日(日) 9月27日(日)	保土ヶ谷道	50
			保土ヶ谷宿から神奈川宿へ	84
			旧東海道・保土ヶ谷宿を巡る	65
			横浜の田園風景舞岡	71
	戸塚区	5月14日(木) 6月10日(水)	東海道戸塚宿を歩く	89
大わらじ道を歩く			80	
				843
Y150 ファミリー ウォーキン グ	関内～ 馬車道	9月18日(金) 9月20日(日)	よこはま・福澤諭吉の歴史散歩	54
				54
延べ参加者数 合計				2,760

(出典) (財) 横浜観光コンベンション・ビューロー 経営部まとめ

ウ 市内施設等の取組

■開港 150 周年にあわせ、観光・宿泊・商業施設が独自の取組で効果

開港 150 周年にあわせ、独自プランを設定した施設が多く見られました。「開港 150 周年効果調査」のアンケートによると、施設全体では 1～6 月期で 52%、7～9 月期の 48%が、独自の取組を行ったと回答しました。観光施設では特別展が多く、横浜 FUNE プロジェクトへの協力やパネル展示など、開国博 Y150 との連携も見られました。宿泊施設では開国博 Y150 チケット付宿泊プランが多く実施されました。商業施設では特別装飾や開国博チケット提示による割引などが実施されました。

また商店街でも、特別セールやイベント等に取り組んだとの声が聞かれました。

エ 開国博 Y150 割引チケットの利用による周遊効果

■「開国博 Y150」入場券での割引・優待施設サービスの実施

「開国博 Y150」では、周辺施設の協力により、開国博 Y150 チケット提示によるマザーポートエリア内での優待サービスを実施しました。

■割引施設利用者数は 12 万人超

優待割引サービスを利用した人は、集計対象施設で計 125,987 人でした。ランドマークタワーのスカイガーデンでは 3.2 万人、よこはまコスモワールドでは 2.5 万人が利用するなど、多くの施設で優待割引サービスが利用され、開国博 Y150 来場者の周遊が見られました。

施設名	会期中(9月27日まで)
帆船日本丸・横浜みなと博物館	8,559
三菱みなとみらい技術館	10,632
シルク博物館	935
日本新聞博物館	704
日本郵船歴史博物館	1,129
日本郵船氷川丸	※
横浜ランドマークタワー69F展望フロアスカイガーデン	32,000
ロイヤルウイング	790
よこはまコスモワールド	25,327
マリンシャトル(観光船)	249
シーバス(海上交通船)	6,447
神奈川県立歴史博物館	13,458
横浜美術館	1,019
横浜開港資料館	5,310
横浜人形の家	1,147
横浜マリンタワー	15,234
新横浜ラーメン博物館	3,000
横浜F・マリノス	47
	125,987

*新横浜ラーメン博物館、横浜 F.マリノスは、ベイヒル対象。日本郵船氷川丸は対象数が多いため集計せず

(出典) (財) 横浜開港 150 周年協会まとめ

オ 開国博 Y150 来場者の周遊分析

■ 開国博 Y150 ベイサイドエリア(有料会場)への行きか帰りのどちらかで、周辺エリアへ立ち寄り行動をした人は 88.9%で、平均 2.7 地点を周遊

来街者アンケートの中で、開国博 Y150 ベイサイドエリア（有料会場）来場者にアンケート（n=207）を行い、会場へ来るまでに立ち寄った地点や、帰りに立ち寄る予定について調査しました。その結果、開国博 Y150 会場への行きか帰りのどちらかで立ち寄り行動をした人は 88.9%であり、圧倒的多数の来場者が周遊行動をとっていることが明らかになりました。

また、立ち寄り行動をした人の平均的な周遊地点数は 2.7 地点でした。

この調査結果を参考に、開国博 Y150 をきっかけとして、地域への観光客の周遊行動がどのように引き起こされたか、試算しました。

仮に開国博 Y150 ベイサイドエリア（有料会場）入場者数 111 万 3,403 人が同様の周遊行動をとったと仮定すると、開国博 Y150 ベイサイドエリア（有料会場）の来場者のうち、延べ 267 万人が来場にあわせてマザーポートエリアを周遊したと推計できます。

行きか帰りのどちらかで 立ち寄り行動をした人 の割合 … 88.9%	Y150による周遊は のべ 267万人
立ち寄り行動をした人の 平均的な立ち寄り地点数 … 2.7地点	

(出典)「来街者アンケート」

※マザーポートエリア n=1148 のうち開国博 Y150 ベイサイドエリア（有料会場）の 207 人を対象に集計
※調査時期は 9 月の土日という条件であり、必ずしも全期間の傾向を示すものではなく、数値はあくまで参考値となります。

(注)267 万人の計算方法について

『開国博 Y150 ベイサイドエリア（有料会場）』の回答者 207 人の中で、駅や駐車場から開国博 Y150 ベイサイドエリア（有料会場）に直行し、会場を出た後も駅や駐車場に直行した人（どこにも立ち寄りをしなかった人）は 23 人（11.1%）でした。

その他の 184 人（88.9%）は開国博 Y150 ベイサイドエリア（有料会場）訪問の前後にどこかに立ち寄っており、その 184 人が駅や駐車場と開国博 Y150 ベイサイドエリア（有料会場）以外で立ち寄った地点数は 494 地点でした。494 地点を 184 人で割った 2.7 が平均的な周遊地点数と考えられます。

$$111 \text{ 万 } 3,403 \text{ 人} \times 88.9\% \times 2.7 \text{ 地点} = 267 \text{ 万人}$$

■開国博 Y150 ベイサイドエリア(有料会場)の直前・直後の周遊地点

開国博 Y150 ベイサイドエリア(有料会場) 来場者へのアンケート (n=207) から来場者の行動を見ると、駅などから開国博 Y150 ベイサイドエリア(有料会場)へ直接訪問した人が 61.4%で、開国博 Y150 ベイサイドエリア(有料会場) から直接帰宅する人は 31.4%となっており、行きよりも帰りに何ヶ所か周遊する行動が中心であることが読み取れます。

行き帰りのどこかで赤レンガ倉庫に立ち寄ったと回答した人は 42.0%であり、その割合を開国博 Y150 ベイサイドエリア(有料会場) 入場者数 111 万人 3403 人に換算すると 46.7 万人相当と推計されます。同様に横浜中華街には 13.5% (15.0 万人相当) が開国博 Y150 をきっかけに周遊したと推計されます。

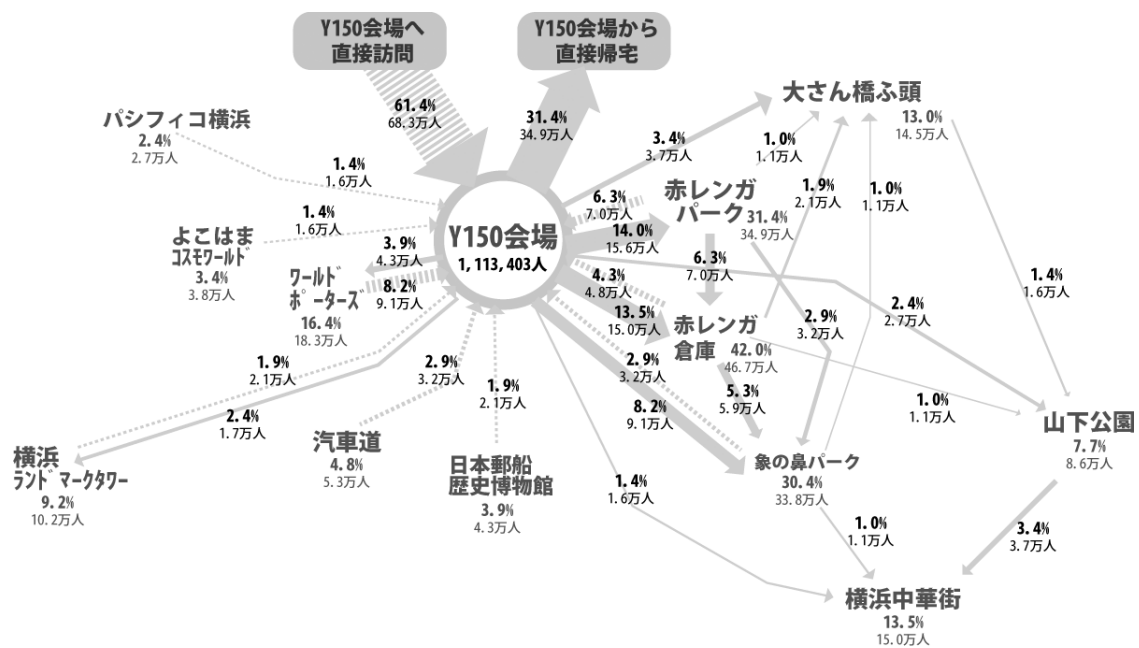
なお、開国博 Y150 ベイサイドエリア(有料会場) の直前の立ち寄りでは、ワールドポーターズが 8.2%で最も多く、次いで赤レンガパーク 6.3%、赤レンガ倉庫 4.3%となっています。また、開国博 Y150 ベイサイドエリア(有料会場) の次に訪問する地点としては赤レンガパークが 14.0%で最も多く、次いで赤レンガ倉庫 13.5%、象の鼻パーク 8.2%と続いています。

赤レンガパークや赤レンガ倉庫など会場周辺へは確実に周遊されており、効果が確認されました。また、象の鼻パークや大さん橋ふ頭、山下公園まで足を伸ばした周遊行動についても確認されました。さらに、横浜中華街や横浜ランドマークタワーなどある程度距離がある地点にも周遊の動きがあったことが示されました。

※矢印にかかる数値 (%) は地点間の主な人の動きを表す。

※地点名の下に記載している括弧つきの数値 (%) は開国博 Y150 ベイサイドエリア(有料会場) の直前・直後に関わらず、当日の行動のどこかで立ち寄られた人数の合計。

※小規模な動きや訪問数の少なかった地点を割愛しているため、矢印にかかる%の合計と地点訪問割合の%は合致しない。



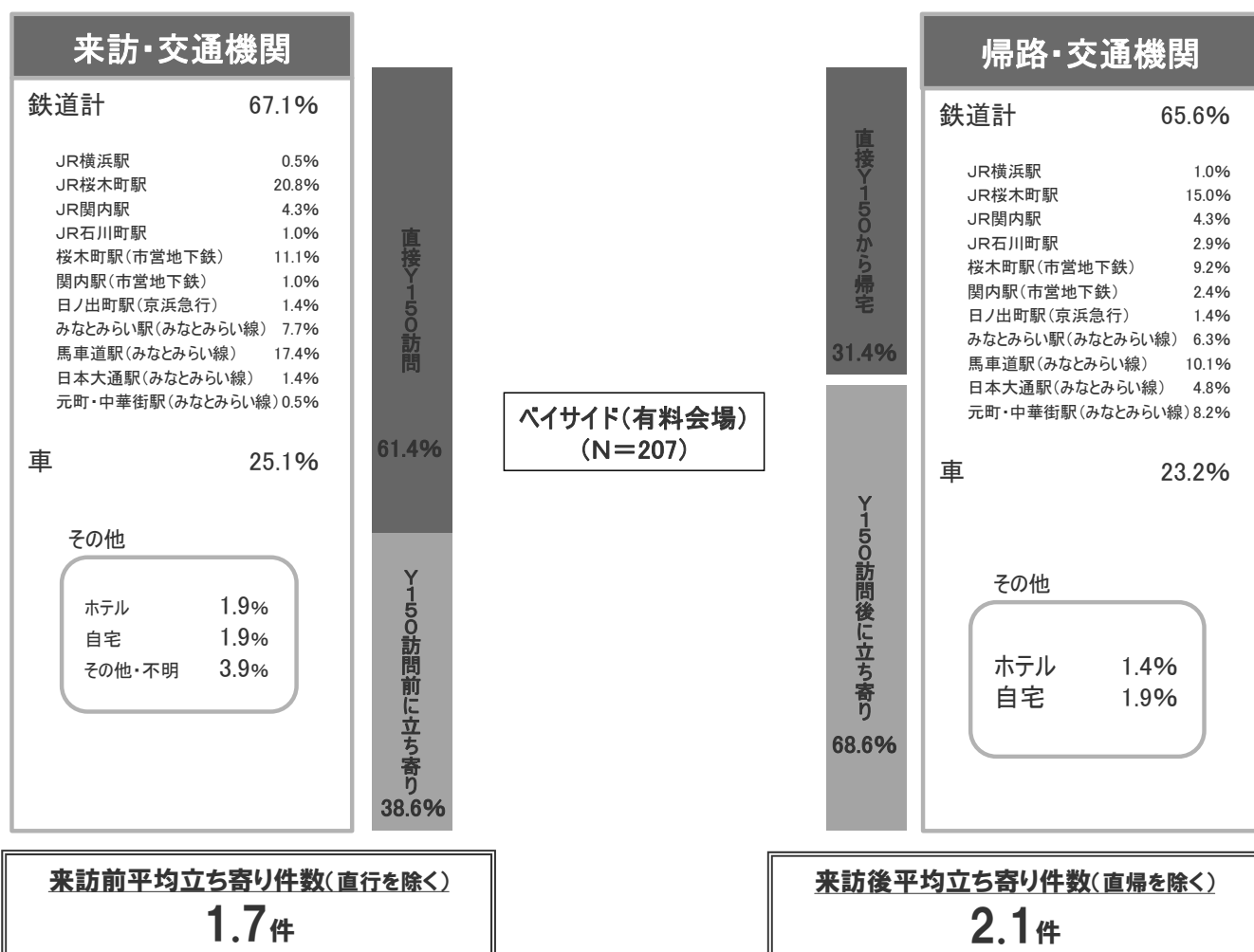
(出典)「来街者アンケート」

※マザーポートエリア n=1148 のうち開国博 Y150 ベイサイドエリア(有料会場) の 207 人を対象に集計

■ 開国博 Y150 ベイサイドエリア(有料会場) 来場者の来街交通手段

開国博 Y150 ベイサイドエリア(有料会場)の来場者の交通手段は、鉄道が 67.1%、車が 25.1%でした。鉄道の中でも JR 桜木町駅の利用が最も多く、市営地下鉄の桜木町を合わせると全来場者数の 3 割程度と推計できます。次に馬車道駅の利用が多い傾向が見られました。

周遊行動に関しては、開国博 Y150 ベイサイドエリア(有料会場)を訪問する前に立ち寄りをした割合が 38.6%で平均立ち寄り件数は 1.7 件。帰りの立ち寄りは 68.6%で平均 2.1 件となりました。これらのことから、周遊は開国博 Y150 ベイサイドエリア(有料会場)を見終わった後が多い傾向があること、また、帰りに使用する駅は来訪時よりも分散しており、関内や元町・中華街方面の利用割合が増加することも分かりました。



(出典)「来街者アンケート」

※マザーポートエリア n=1148 のうち開国博 Y150 ベイサイドエリア(有料会場)の 207 人を対象に集計

カ 来街者の交通手段別の周遊分析

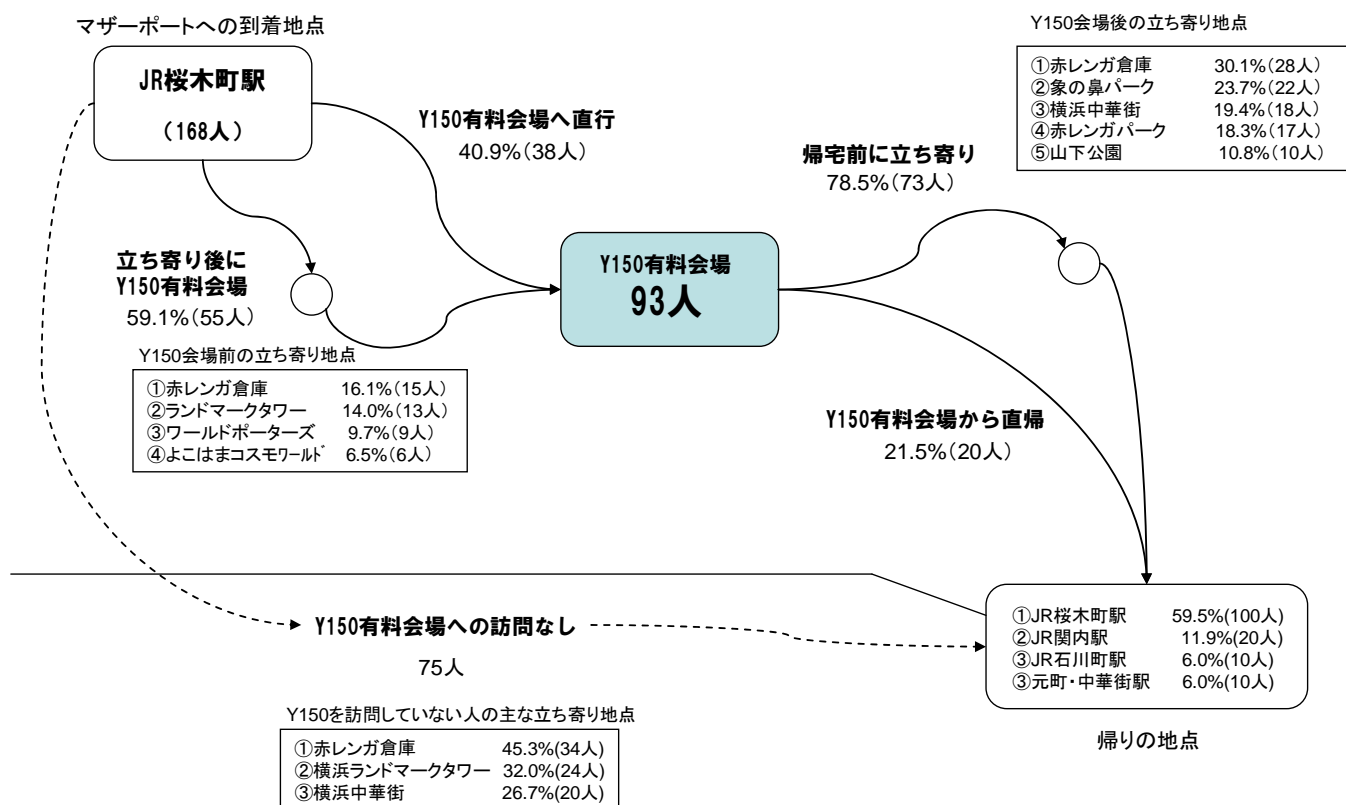
9月12日、13日に実施した「来街者アンケート」の結果を用い、マザーポートを訪問した際の交通手段別で周遊行動分析を実施しました。(サンプル数が少ない地点は分析から除外しました)

■「JR 桜木町駅」からマザーポートエリアに来た人の周遊行動

JR 桜木町駅からマザーポートエリアを訪れ、開国博 Y150 ベイサイドエリア (有料会場) を訪問した人は168人中93人で、その93人中55人 (訪問者の59.1%) が立ち寄り後に開国博 Y150 有料会場を訪れていました。主な立ち寄り地点としては赤レンガ倉庫、ランドマークタワーなどとなりました。また、93人中73人 (訪問者の78.5%) は開国博 Y150 ベイサイドエリア (有料会場) を出てから帰るまでに立ち寄り行動をしていました。また主な立ち寄り地点としては赤レンガ倉庫や象の鼻パーク、横浜中華街、赤レンガパーク、山下公園等となっていました。

一方、開国博 Y150 ベイサイドエリア (有料会場) を訪問しなかった人は赤レンガ倉庫や横浜ランドマークタワー、横浜中華街を周遊する傾向がありました。

マザーポート来街者の6割が到着時と同じ JR 桜木町から帰っている一方で、関内や中華街、石川町方面を経由して帰る人は3割程度となっていました。



(出典)「来街者アンケート」

※マザーポートエリア n=1148 のうち JR 桜木町駅が出発地点の168人で集計

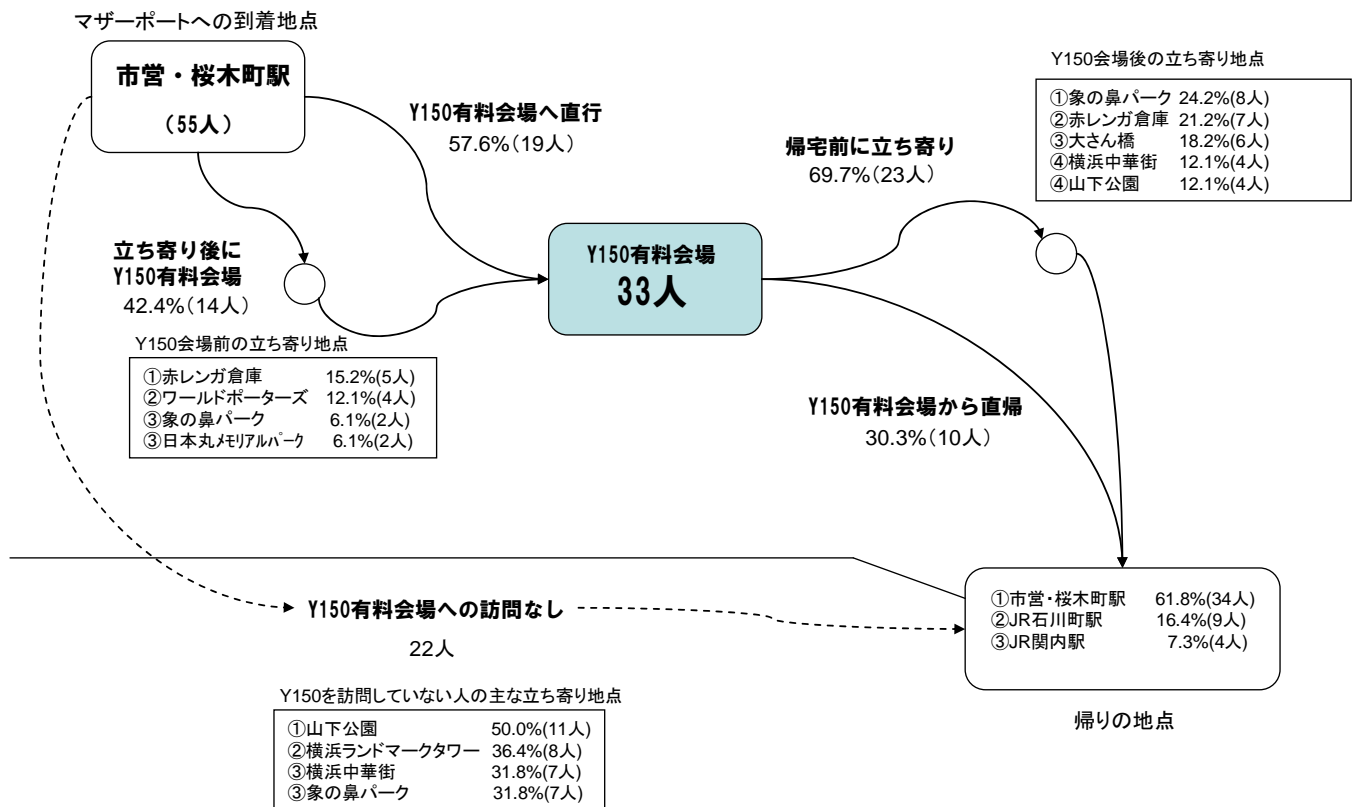
■「市営地下鉄・桜木町駅」からマザーポートエリアに来た人の周遊行動

市営地下鉄の桜木町駅からマザーポートエリアを訪れ、開国博 Y150 ベイサイドエリア（有料会場）を訪問した人は 55 人中 33 人で、その 33 人中 14 人（訪問者の 42.4%）が立ち寄り後に開国博 Y150 ベイサイドエリア（有料会場）を訪問していました。主な立ち寄り地点としては赤レンガ倉庫等でした。

また、33 人中 23 人（訪問者の 69.7%）が開国博 Y150 ベイサイドエリア（有料会場）を出てから帰るまでに立ち寄りをしていました。主な立ち寄り地点としては象の鼻パークや赤レンガ倉庫、大さん橋などになっていました。

一方、開国博 Y150 ベイサイドエリア（有料会場）を訪問しなかった人は山下公園や横浜ランドマークタワー、横浜中華街等を周遊していました。

概ね、JR 桜木町からの来街者と同様の周遊行動が見られました。



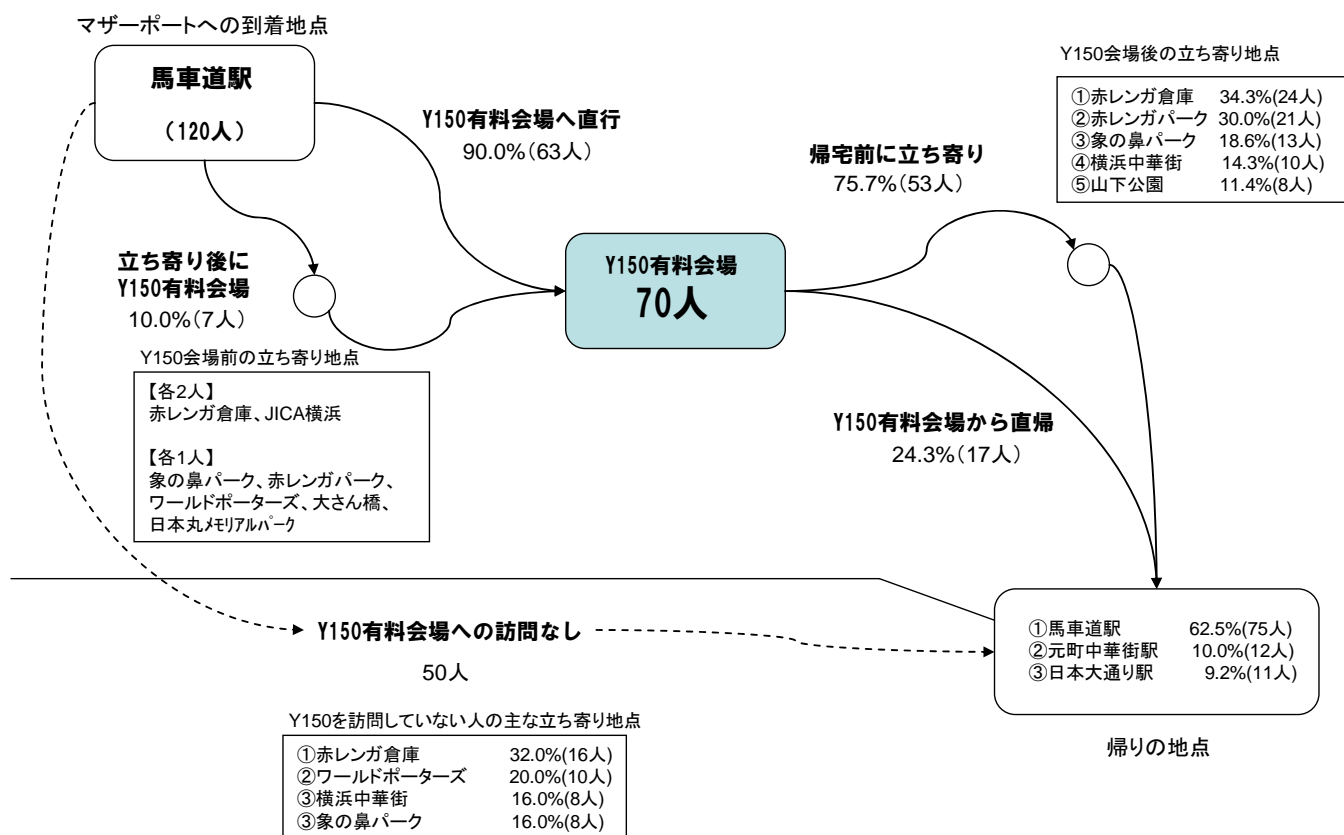
(出典)「来街者アンケート」

※マザーポートエリア n=1148 のうち市営桜木町駅が出発地点の 55 人で集計

■「みなとみらい線・馬車道駅」からマザーポートエリアに来た人の周遊行動

馬車道駅からマザーポートエリアを訪れ、開国博 Y150 ベイサイドエリア（有料会場）を訪問した人は120人中70人で、その70人中7人（10.0%）が立ち寄り後に開国博 Y150 ベイサイドエリア（有料会場）を訪れているものの、大多数の人は直接開国博 Y150 ベイサイドエリア（有料会場）に足を運んでいました。

帰りでは、70人中53人（75.7%）が立ち寄り行動をしていました。主な立ち寄り地点としては赤レンガ倉庫や赤レンガパーク、象の鼻パーク、横浜中華街、山下公園などとなっていました。



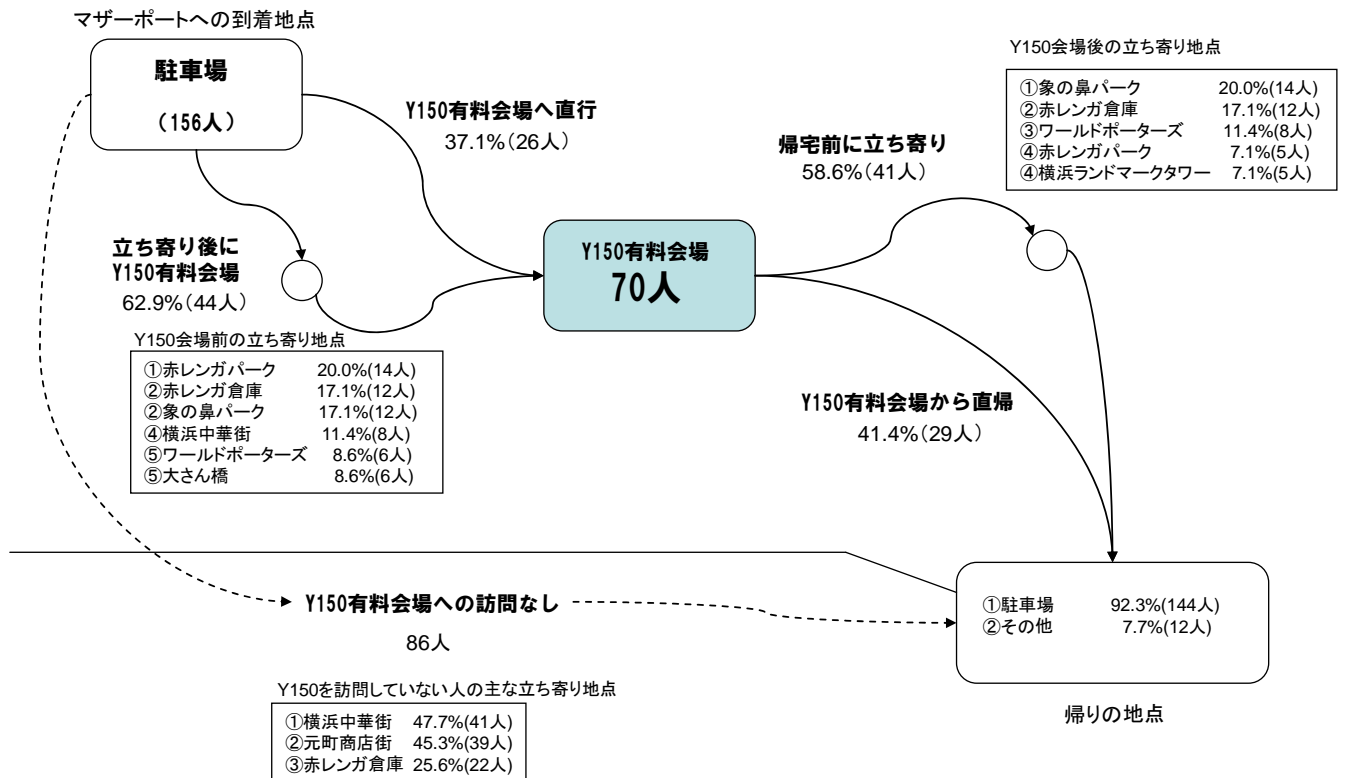
(出典)「来街者アンケート」

※マザーポートエリア n=1148 のうち馬車道駅が出発地点の120人で集計

■クルマでマザーポートエリアに来た人の周遊行動

クルマでマザーポートエリアを訪れ、出発地点が駐車場と回答した人は 156 人で、開国博 Y150 ベイサイドエリア（有料会場）を訪れたのはそのうち 70 人でした。70 人中 44 人（62.9%）が立ち寄り後に開国博 Y150 有料会場を訪問。70 人中 41 人（58.6%）は帰りに立ち寄りをしていました。

立ち寄り地点としては赤レンガ倉庫、赤レンガパーク、象の鼻パークが中心ですが、横浜中華街、大さん橋、ランドマークタワー、ワールドポーターズなどにも周遊が見られました。



(出典)「来街者アンケート」

※マザーポートエリア n=1148 のうち駐車場が出発地点の 156 人で集計

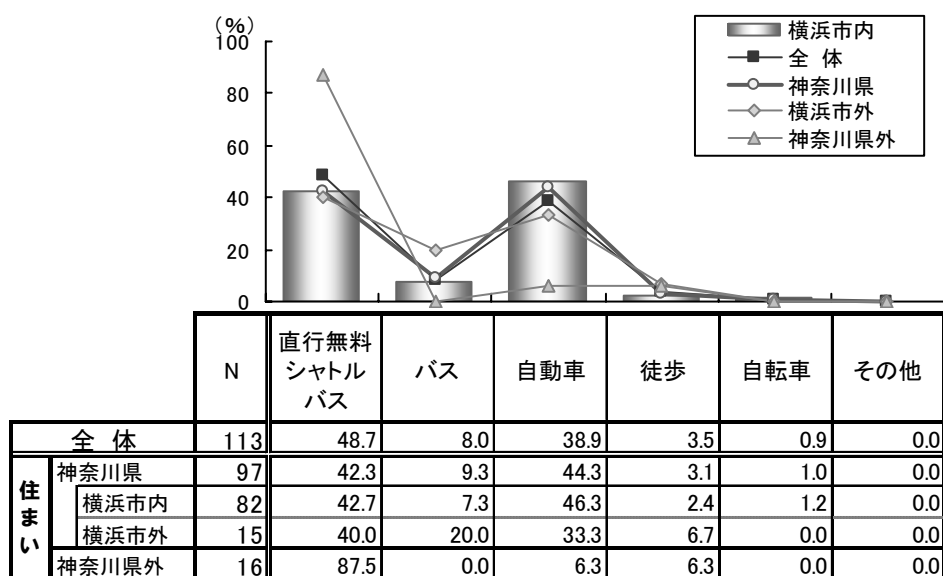
■開国博 Y150 ヒルサイドエリア(有料会場)への交通手段は「直行無料シャトルバス」が 48.7%で最多

開国博 Y150 ヒルサイドエリア（有料会場）への交通手段は、全体では「直行無料シャトルバス」が 48.7%で最も多く、ついで自動車 38.9%となっていました。

なお、市内在住者では自動車が 46.3%で最も高く、シャトルバスと逆転していますが、傾向としてはそう大きな差は見られませんでした。

また、シャトルバス利用者は中山駅と鶴ヶ峰駅でおよそ半々に分かれており、乗車駅と降車駅は同じであるケースがほとんどでした。

Q. 今日こちらを訪問された交通手段は何ですか？



Q. 直行無料シャトルバスをご利用の場合は、乗車・降車予定駅をお答え下さい。

中山駅 → 中山駅	43.6%
中山駅 → 鶴ヶ峰駅	3.6%
鶴ヶ峰駅 → 鶴ヶ峰駅	50.9%
不明	1.8%

(出典)「来街者アンケート」

※開国博 Y150 ヒルサイドエリア（有料会場）n=113人

■よこはま動物園(ズーラシア)

開国博 Y150 ヒルサイドエリア(有料会場)に隣接するよこはま動物園(ズーラシア)の入園者数は、ヒルサイドエリア開催中の7月～9月、前年比約62%増の約41万人と大幅に増加しました。同時期、他の市立動物園(野毛山・金沢)の入園者数は前年比で約48%の増加率と、動物園全体として入場者数が好調な中でも、よこはま動物園の増加率は、他を上回っていることが分かります。

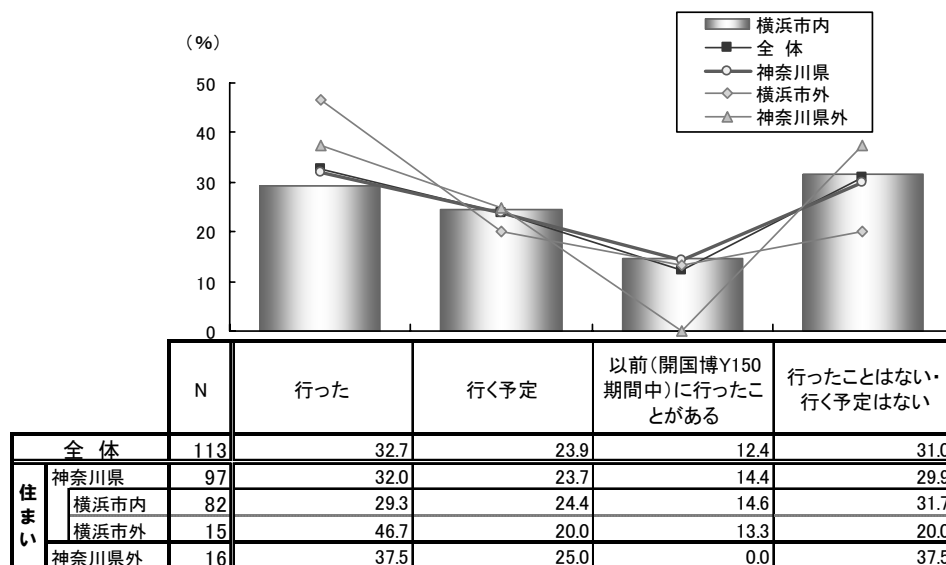
開国博来場者対象のアンケート結果では、ヒルサイド来場の前後に「行った」「行く予定」あわせて56.6%が、開国博 Y150 と合わせてズーラシアにも周遊していることが確認され、相乗効果を生んだものと考えられます。

よこはま動物園(ズーラシア)の入園者数

2009年7～9月	2008年7～9月	増減
411,270人	253,393人	157,877人 62.3%増

(出典)横浜市環境創造局まとめ

Q.今回、ヒルサイドエリアを訪れたついでとして、「よこはま動物園ズーラシア」に行かれましたか？



(出典)「来街者アンケート」

※開国博 Y150 ヒルサイドエリア(有料会場) n=113人

(2) 開港 150 周年記念事業の経済波及効果

2009 年は、前年からの急激な景気後退のなかで極めて厳しい状況にあり、雇用情勢の悪化や給与の減少等の形で家計にも影響し、消費マインドは低調に推移しました。特に観光需要は、新型インフルエンザの流行という不運も重なり、主要旅行業者の取扱額が前年を 1 割～2 割程度下回って推移するなど総じて減退を余儀なくされました。

そのような厳しい経済情勢の下、市内では年明け前後から集客イベントや新たな観光施設の整備など、様々な開港 150 周年記念事業が展開されました。

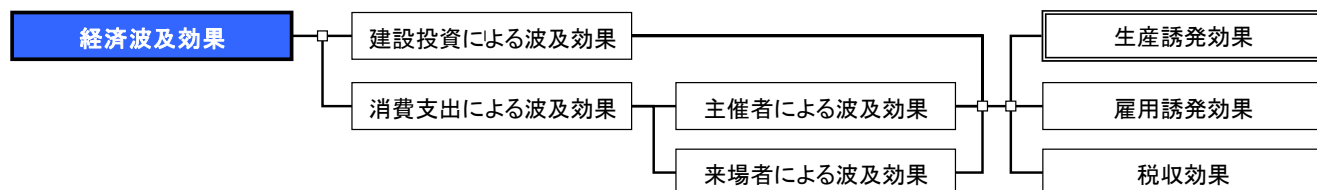
そこで、開国博 Y150 を含め、主な開港 150 周年記念事業による市内への経済波及効果の推計を行ったところ、約 622 億円（(株) 浜銀総合研究所推計）という結果となりました。うち開国博 Y150 による波及効果額はプレイベントを含め約 407 億円と推計されました。これは、2008 年 3 月（株）浜銀総合研究所推計による当初予想約 548 億円という規模には届かなかったものの、本年の厳しい経済状況のなか、マザーポートエリアを中心に、部分的ではあれ、一定の下支え効果を果たしたものと考えられます。実際、商店街や商業施設に行ったヒアリングでは、“客単価の落ち込みにより、売上げ面では期待していたレベルに届かなかった”との意見が多く聞かれたものの、“来街者や利用者は増えた”という感想を持たれています。

その中で、“開国博 Y150 や JRDC などの記念事業は景気悪化のマイナスを和らげた”と評価する声も聞かれる結果となりました。

(2-1) 開港 150 周年記念事業による経済波及効果

イベントの実施や、施設等整備による経済波及効果(生産誘発効果)について推計を行いました。また、あわせて市税及び雇用誘発数の推計も行いました。

■経済波及効果の考え方

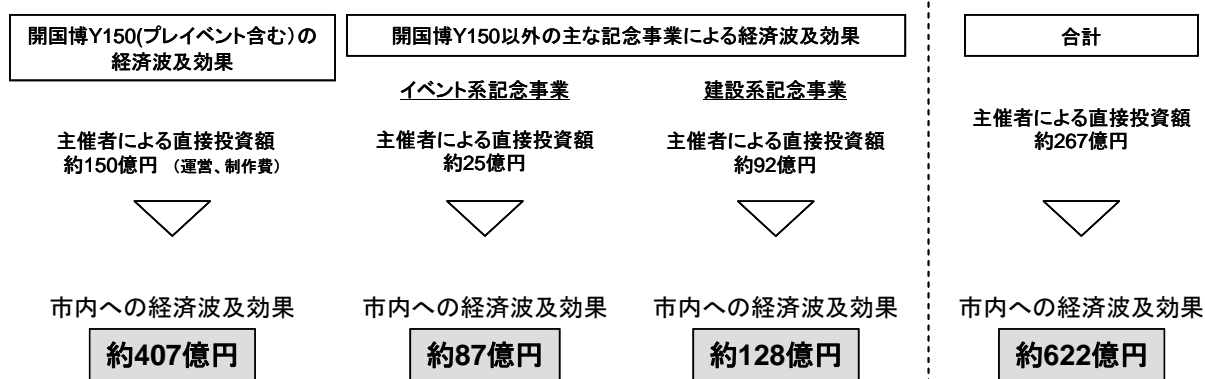


※主催者による波及効果には企画費、制作費、設営費、運営費等が含まれます。

■記念事業全体の経済波及効果

開国博 Y150 を含む主な開港 150 周年記念事業による市内経済への波及効果の把握を試みたところ、主な記念事業全体で約 622 億円、うち開国博 Y150 開催による波及効果額はプレイベントを含め約 407 億円と推計されました。

なお開国博 Y150 については横浜開港 150 周年協会が、それ以外の主な開港 150 周年記念事業については横浜市が、推計を行いました。



(注) 端数処理のため合計値と内訳の合計が合わないことがある。

ア 「開国博 Y150」開催による経済波及効果

横浜開港 150 周年協会によると、「開国博 Y150」開催による経済波及効果は、来場者消費による経済波及効果が 248 億円、イベント運営にかかる支出による効果は 141 億円で、「開国博 Y150」本体としては 389 億円、それに「ラ・マシン」プレイベントによる効果 18 億円を合わせて、407 億円の経済波及効果となりました。

また、「開国博 Y150」及びプレイベント実施による雇用誘発数（事業実施による生産誘発額が横浜市内において生み出す労働需要を人数換算したもの）は約 3,700 人、個人市民税・法人市民税の税収効果は約 5 億円となりました。

参考：開国博 Y150 イベント概要

- ・ 4月28日～9月27日 ベイサイドエリア
- 7月4日～9月27日 ヒルサイドエリア
- ・ 来場者数 716万6,300人
 - うち有料入場者数 123万9,325人
 - （ベイサイドエリア 111万3,403人）
 - （ヒルサイドエリア 12万5,922人）
 - うちプレイベント動員数 62万人

「開国博 Y150」による経済波及効果の推計結果(プレイベント除く)

(単位：億円)

	来場者消費	運営、制作	合計
需要発生額	198	150	347
生産誘発額 (誘発倍率、倍)	248 (1.25)	141 (0.94)	389 (1.12)
第1次波及効果	221	123	344
うち直接効果	174	101	275
うち第1次間接効果	47	22	69
第2次波及効果	27	17	44
付加価値誘発額	141	84	225

(注) 端数処理のため合計値と内訳の合計が合わないことがある。

(横浜開港 150 周年協会まとめ ※(株)浜銀総合研究所推計)

【用語解説】

需要発生額：事業における来場者および主催者側の消費支出や建設投資で消費されるもの

生産誘発額：1次波及効果と2次波及効果の総合効果（経済波及効果）

1次波及効果：消費・建設により生まれる直接の生産増加（直接効果）とそれに伴う生産額増加（間接波及効果）

2次波及効果：1次波及効果による所得増加やそれに伴う消費の増加を満たすための生産額増加

付加価値誘発額：経済波及効果のうち、生産活動の結果誘発された付加価値額

イ「開国博 Y150」を除く主な開港 150 周年記念事業開催による経済波及効果

横浜市が関与して開催された開港 150 周年記念事業のうち、特徴的な事業を対象に、市内経済に対する波及効果の把握を行いました。

効果推計にあたっては来場者数および投資額は主催者提供数字を利用し、来場者の消費額は横浜市観光動態・消費動向調査やアンケート調査の数値をもとにしました。また同時期に開催されていた複数のイベントに参加した来場者の重複分を整理しました。

(ア) 対象事業

① イベント系記念事業

- ・ H. I. S. 2009 年世界卓球選手権横浜大会
4月28日～5月5日 来場者数 64,829 人
- ・ 日本大通りフラワーアートフェスティバル
5月2日～4日 来場者数 520,000 人
- ・ 横浜開港 150 周年記念式典・「ヴィジョン！ヨコハマ」
5月31日 来場者数 11,278 人

- ・海のエジプト展
6月27日～9月23日 来場者数 697, 222 人
- ・海フェスタよこはま
7月18日～7月26日 来場者数 550, 000 人
- ・2009 トライアスロン世界選手権シリーズ横浜大会／
世界キッズトライアスロン大会・世界こどもスポーツサミット in 横浜
8月22日～23日 来場者数 272, 000 人

② 建設系記念事業

- ・日本丸メモリアルパークリニューアル
4月24日リニューアルオープン
- ・マリンタワー再整備
5月23日リニューアルオープン
- ・象の鼻パーク整備
6月2日オープン
- ・アメリカ山公園整備
8月7日オープン

(イ) 推計結果

開国博 Y150 を除く主な開港 150 周年記念事業開催による経済波及効果は、イベント系記念事業による経済波及効果(生産誘発額)が約 87 億円、建設系記念事業による効果が約 128 億円、全体で約 215 億円となりました。

また、これによる雇用誘発数は約 1,700 人、個人市民税・法人市民税の税収効果は約 2.5 億円となりました。

主な開港 150 周年記念事業による経済波及効果の推計結果

(単位：億円)

	イベント系記念事業	建設系記念事業	合計
需要発生額	69	92	161
生産誘発額	87	128	215
(誘発倍率、倍)	(1.26)	(1.39)	(1.34)
第 1 次波及効果	77	112	190
うち直接効果	60	90	151
うち第 1 次間接効果	17	22	39
第 2 次波及効果	10	16	25
付加価値誘発額	51	66	117

(注) 端数処理のため合計値と内訳の合計が合わないことがある。

(150 周年記念事業推進課まとめ ※(株)浜銀総合研究所推計)

① イベント系記念事業における経済波及効果

イベント系記念事業における来場者及び主催者側の総支出額計約 69 億円を需要発生額として経済波及効果（生産誘発額）を推計すると、約 87 億円と推計されました。

総来場者数 2,115,329 人

総消費支出（需要発生額） 約 69 億円

- ・ 来場者による消費支出（宿泊費、交通費、飲食費、買物等）
約 44 億円
- ・ 主催者による消費支出（企画費、制作費、設営費、運営費等）
約 25 億円

*ただしイベント来場者の消費支出については重複を含む

経済波及効果（直接効果・2次間接効果を含めた総合効果）約 87 億円

うち、来場者支出分 約 63 億円

主催者支出分 約 24 億円

② 建設系記念事業における経済波及効果

建設系記念事業の建設投資総額約 92 億円を需要発生額として経済波及効果を推計すると、約 128 億円と推計されました。

建設系総事業費（需要発生額） 約 92 億円

経済波及効果（直接効果・2次間接効果を含めた総合効果）約 128 億円

(2-2) 観光関連施設(観光・宿泊・商業施設等)対象アンケートによる効果検証

観光入込客数調査の対象施設である観光施設、観光交通機関、宿泊施設、商業施設に対し、開港 150 周年の影響を訊ねるアンケート調査を実施したところ、「効果があったと感じる」が 1～6 月は 31.8%、7～9 月は 36.1%でした。そのうちマザーポートエリア（横浜駅周辺～山手・山下地区）内の施設・観光交通機関では 1～6 月は 44.1%、7～9 月は 47.9% となっており、効果を感じる割合が高いという結果になりました。

効果があった内容としては「施設利用者が増えた」が最も多く、効果があったと回答した施設のうち 1～6 月は 66.7%、7～9 月は 69.2%が施設利用者の増加をあげています。

■ 効果があったと感じる観光関連施設は全体の 36.1%。施設利用者が増えたと評価

開港 150 周年の事業は、利用者数に影響がありましたか。

市内全域	1～6 月 n=192	7～9 月 n=219	
効果があったと感じる	31.8%	16.9%	36.1%
どちらかといえば効果があったと感じる	—	19.2%	
効果が感じられなかった	44.8%	48.9%	
わからない	23.4%	15.1%	

影響があったと感じた効果の内容(効果を感じた施設ベースの割合/全体に占める割合)

市内全域	1～6 月 n=60 / n=192	7～9 月 n=78 / n=219
施設利用者が増えた	66.7% / 20.8%	69.2% / 24.7%
売上げが増えた	15.0% / 4.7%	19.2% / 6.8%
施設の PR になった	36.7% / 11.5%	30.8% / 11.0%
問い合わせ件数が増えた	—	10.3% / 3.7%
HP のアクセス数が増えた	—	1.3% / 0.5%
その他	11.7% / 3.6%	6.4% / 2.3%

マザーポートエリア	1～6 月 n=102	7～9 月 n=119	
効果があったと感じる	44.1%	22.7%	47.9%
どちらかといえば効果があったと感じる	—	25.2%	
効果が感じられなかった	43.1%	43.7%	
わからない	12.7%	8.4%	

影響があったと感じた効果の内容(効果を感じた施設ベースの割合/全体に占める割合)

マザーポートエリア	1～6 月 n=44 / n=102	7～9 月 n=57 / n=119
施設利用者が増えた	65.9% / 28.4%	75.4% / 36.1%
売上げが増えた	13.6% / 5.9%	21.1% / 10.1%
施設の PR になった	36.4% / 15.7%	26.3% / 12.6%
問い合わせ件数が増えた	—	12.3% / 5.9%
HP のアクセス数が増えた	—	1.8% / 0.8%
その他	13.6% / 5.9%	5.3% / 2.5%

(出典)横浜開港 150 周年記念事業効果調査(母数は本設問に対する有効回答施設数)

■人の動きの変化としては、周遊範囲の広がりや客層の広がりなどがあると評価

7～9月の開港150周年記念事業による人の動きや客層の変化を訊ねたところ、「以前よりも周遊する範囲が広がった」19.4%（マザーポートエリアでは31.7%）、「以前よりも周遊するスポットの数が増えた」15.6%（マザーポートエリアでは20.2%）など行動範囲の広がりを挙げる施設が多くみられました。また、「これまでと異なる客層の来客が増えた」12.9%（マザーポートエリアでは11.5%）といった客層の変化を挙げる施設もありました。

開港150周年記念事業によって、人の動きは変化したと感じますか？（複数回答）

	市内全域 7～9月 n=186	マザーポートエリア 7～9月 n=104
以前よりも周遊する範囲が広がった	19.4%	31.7%
以前よりも周遊するスポットの数が増えた	15.6%	20.2%
これまであまり注目されていなかった場所も周遊されるようになった	11.3%	14.4%
これまでと異なる客層の来客が増えた	12.9%	11.5%
その他	48.9%	35.6%

（出典）横浜開港150周年記念事業効果調査（母数は本設問に対する有効回答施設数）

■好影響のあった事業としては、開国博 Y150 ベイサイドエリアがトップ

開港 150 周年の事業のなかで、好影響のあったものを聞いたところ、開国博 Y150 ベイサイドエリアが 1～6 月 37.4% (マザーポートエリアでは 53.0%)、7～9 月 37.5% (マザーポートエリアでは 50.5%) とトップでした。次に JRDC が 1～6 月 22.2% と 7～9 月 18.4% で一定の効果を示しました。また、1～6 月に比べ 7～9 月では「海のエジプト展」が増加しており、15.2% から 22.4% となりました。

開港 150 周年の事業のなかで、好影響のあったもの(複数回答)

	市内全域		マザーポートエリア	
	1～6 月 n=99	7～9 月 n=152	1～6 月 n=66	7～9 月 n=93
「開国博 Y150」 ベイサイドエリア	37.4%	37.5%	53.0%	50.5%
「開国博 Y150」 ヒルサイドエリア	7.1%	6.6%	4.5%	0%
世界卓球	16.2%	9.9%	9.1%	5.4%
海フェスタ	11.1%	5.3%	15.2%	5.4%
トライアスロン	6.1%	9.2%	7.6%	12.9%
海のエジプト展	15.2%	22.4%	22.7%	34.4%
象の鼻パーク整備	9.1%	5.3%	12.1%	8.6%
マリンタワー・氷川丸リニューアル	11.1%	3.9%	15.2%	6.5%
JRDC (JR デスティネーションキャンペーン) などの広報キャンペーン	22.2%	18.4%	16.7%	18.3%
それ以外	28.3%	29.6%	28.8%	20.4%

(出典) 横浜開港 150 周年記念事業効果調査 (母数は本設問に対する有効回答施設数)

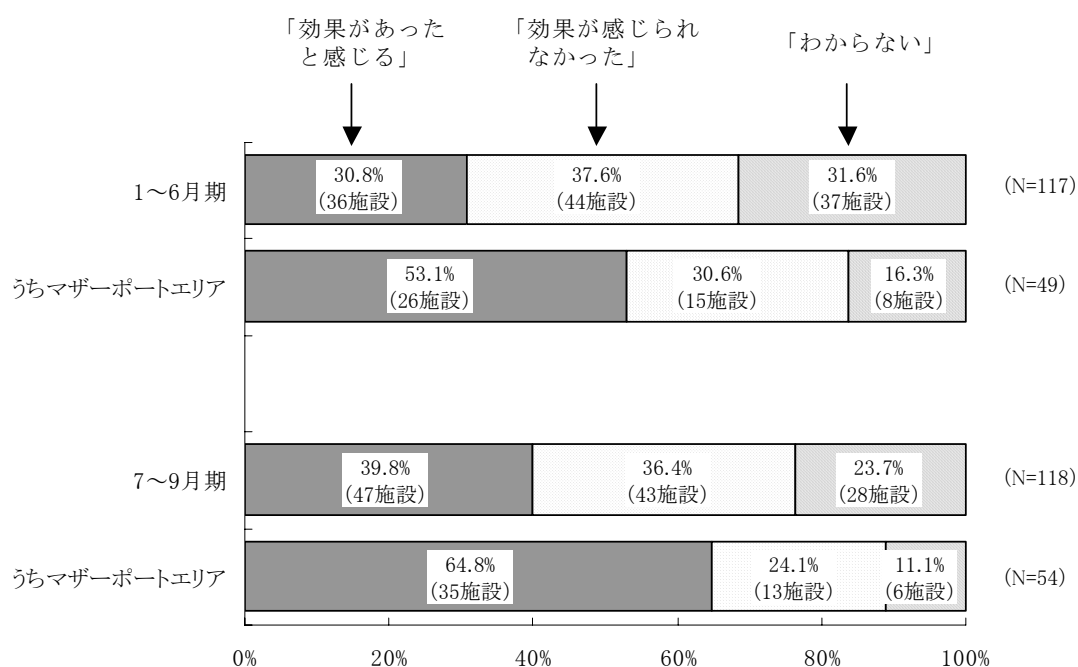
ア 分野別にみる開港 150 周年の影響

■ 観光施設はマザーポートエリアで好影響、入込客数も大幅に増加

特にマザーポートエリア内の観光施設では、半数以上の施設で客足への効果が観測されており、同エリアを中心に開港 150 周年記念事業実施の恩恵を受けた施設が多かったことがうかがえます。また実際に市内の主要な観光施設の入込状況をみると、平成 21 年に入ってからマザーポートエリア内の観光施設で利用者数が前年実績を上回っており、さらに 7 月以降は観光施設全体でも利用者数が増加傾向をたどったことがわかります。特にマザーポートエリアでは、開国博 Y150 ベイサイドエリアをはじめ、都心臨海部で展開された様々なイベントが集客に寄与しているものと考えられます。

地域の声では、「目に見えて効果があったと感じるのは 9 月で、開国博 Y150 並びに海のエジプト展開幕前の駆け込み需要に加え、シルバーウィーク効果が掛け合わされ、大きな集客効果を得ている感じがした。」（三菱地所ビルマネジメント）などのコメントが見られました。

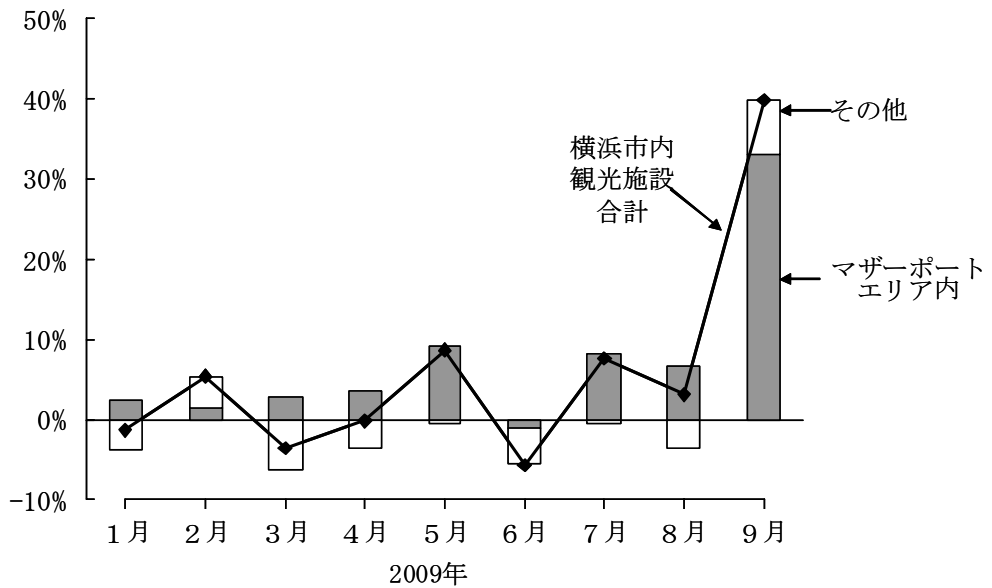
【横浜開港 150 周年記念事業実施による観光施設利用者数への影響】



(注 1) 「150 周年にあわせ、「開国博 Y150」「世界卓球」「海のエジプト展」「海フェスタ」ほか様々なイベントや事業が開催され、また JRDC (JR デスティネーションキャンペーン) などの広報キャンペーンも行われています。150 周年の事業は、利用者数に影響がありましたか。」という設問に対する回答を集計したものです。

(注 2) 「うちマザーポートエリア」と表示した集計は、1～6 月期、7～9 月期それぞれの調査結果から、開国博において「マザーポートエリア」と定義された横浜駅周辺～山手・山下地区に立地する施設、および観光交通機関（主に船舶）を抜き出したもの。
(横浜市「横浜開港 150 周年記念事業効果調査」)

前年比増減率、寄与度、%



(注)集計対象は2008年1月～9月と2009年1月～9月の入込客数が比較可能な118施設。
 なお、「マザーポートエリア内」とは、開国博 Y150 においてマザーポートエリアと定義された地域（横浜駅周辺～山手・山手地区）に立地する観光施設、および観光交通機関（主に船舶）の客数を集計したものである。
 (横浜市資料)

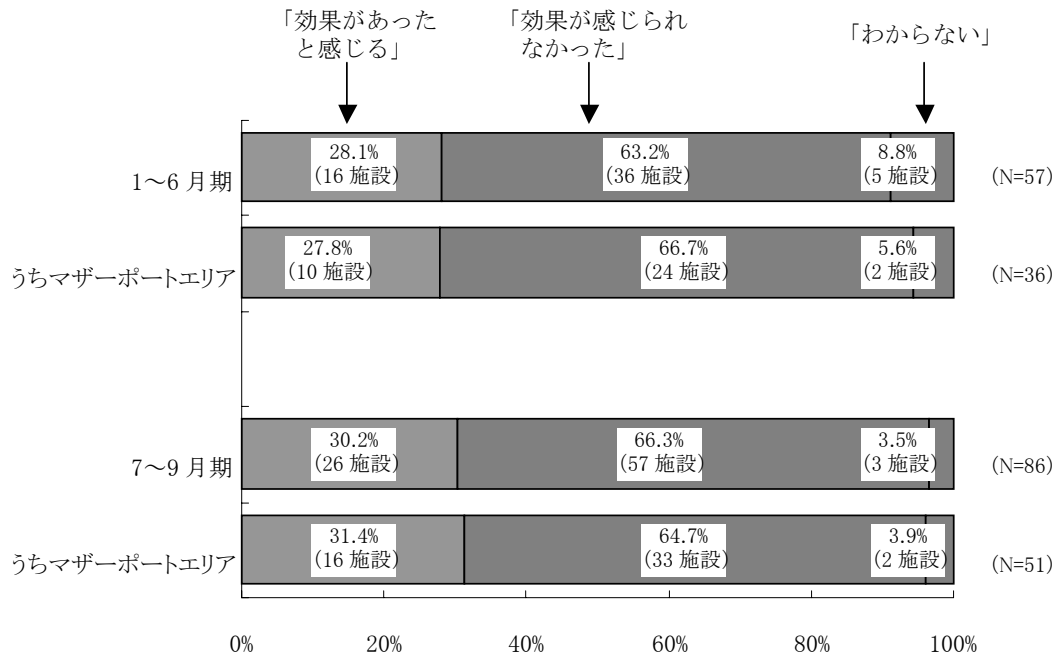
■ 宿泊施設では、ある程度の下支え効果は感じられるものの、効果にバラツキ

宿泊施設では「効果が感じられなかった」と回答した企業が全体の6割超を占めた一方で、両調査時ともに約3割の施設から客足への効果があったとの回答が得られました。

また観光入込客数調査の項目で述べたように、平成21年1～9月の横浜市の宿泊施設利用者数は各地区とも前年を下回る▲4.4%で14万人減となっています。しかし平成21年7月4日の日本経済新聞では、東阪の主要40ホテルの5月客室稼働率は東京が67.6%、大阪は61.7%と近年で最低水準となっていることや、東阪の主要ホテルの稼働率が前年同月比で10%以上落ち込んでいることが報道されるなど、全国的に宿泊施設が苦戦している時期と言えます。入込客数は利用者数、稼働率は客室と単位が異なるため単純には比較できませんが、同時期に市内宿泊施設の入込客数が▲4.4%で済んだことは、開港150周年記念事業が一定の下支え効果を示した結果とも考えられます。

以上を踏まえると、各施設に対する直接の横浜開港150周年記念事業実施の効果発現にはバラツキがあったものの、観光客数の増加が減退する宿泊需要をある程度は下支えしていた様子がうかがえます。

【横浜開港 150 周年記念事業実施による宿泊施設利用者数への影響】



(横浜市「横浜開港 150 周年記念事業効果調査」)

■商業施設、商店街等では、客数の増加がみられる一方、利用者の節約志向の強さにより売上増には直結せず

各地で厳しい状況が続くなか、マザーポートエリア内の幾つかの商業施設では、春先以降の来店客数が前年を上回ったとされています。

また横浜市が実施したヒアリング調査では、マザーポートエリア内の商店街においても

- ・「開国博 Y150 の開催により、飲食関係の売上は増加している。但し客単価は下がっている」(ワールドポーターズ)、
- ・「150 周年事業は、来街者の増加に効果はあったと思う。」(元町 SS 会)、
- ・「開国博の期間中は、様々なイベントを山下地区でも行われたので、平日でも例年の休日のような人出があった感じ。」(山下公園通り会事務局)

との声が聞かれました。ただし同時に、

- ・「売上げは喜ぶほどではない。景気が影響していた。150 が無ければもっと下がっていたと思う。」(元町 SS 会)

とのコメントもあり、客数の増加にはつながったが、節約志向が強いなかで売上増には結びつかなかったという実態が推察されます。

■ 外食産業では、記念事業の実施による効果が実感された模様

ヒアリングでは、

- ・「開国博の客が明らかに中華街へ流れてきていた。人数が増えた実感がある。前年比で言えば 10%~15%くらい。国内遠方からの客が多かった。10月になって人通りが明らかに減った。」(中華街発展会協同組合)、
- ・「客単価が落ちたため売上自体は 10%程度落ち込んでいるが、150周年事業がなかったら、景気動向から考えれば 30%程度は落ち込んでいたと思う。」(同)、
- ・「みなとみらいからのお客さんが少し流れているようだ。飲食は少し恩恵を受けているようだ」「飲食のお客は増えたと思う。ランチを食べたいお客さんの問い合わせが結構あったのが珍しかった。」(野毛地区街づくり会)

などといった声が聞かれました。

横浜市内の飲食店売上高や来店客数の動向を示すデータがないため市内の状況を俯瞰して見ることはできませんが、上記のヒアリング結果からは、一部の地域では、記念事業の実施による効果が実感された模様であることがわかります。

さらに、

- ・「一見の観光客が増えた」(横浜新都市サービス)、
- ・「土日の家族連れが増加した」(横浜新都市サービス直営「プロント横浜店」)
- ・「開国博 Y150 イベント前までの平日は近隣就業者を中心とした営業であったが開国博期間中は平日の一見様が多く来店され来客数増加に繋がった。開国博を見終えた後に近隣ショッピングセンターへ買い物と飲食をして帰宅する流れが出来ていた。開国博の集客効果により土日祝の家族連れの集客が非常に大きく伸びた。」(横浜新都市サービス直営「カフェソラーレ横浜店」)

など、利用者の増加に加え、客層が広がったことが確認されました。

(2-3) 商店街ヒアリング

開国博 Y150 の観光や売上げへの効果について、定性的な評価を得るため、マザーポートエリアの各商店街に状況をヒアリングしました。

開港 150 周年の記念事業を通して来街者の数は増えていることが実感されているが、景気動向もあり、売上げについては期待していたほどではなかった様子が伺えます。ただし景気悪化によるマイナスの程度を和らげた効果については認められるコメントが聞かれました。

また、開港 150 周年を契機に他地域の商店街と連携してイベントを行うなど、今回の開港 150 周年が地域間の連携強化のきっかけとなった面も明らかになりました。

■伊勢佐木町 1・2 丁目商店街

伊勢佐木町商店街への来街者については、開国博 Y150 開催期間中若干ではあるが増加していることが伺えました。商店街加盟店舗からも客数は落ちていないとの声が届いている、とのことで、昨秋からの急激な不況の影響を受けながらも客足が伸びている手応えも感じているようです。

また、観光案内所の開設に関して、伊勢佐木町が、近隣吉田町、野毛へ共同 PR(各町案内パンフの配布等)を呼び掛けたことによって、新たなネットワークが構築されました。

今後、3 地域合同での事業展開も検討されるなど、開国博 Y150 をきっかけに地域間の新たな連携ネットワークが生まれたことも成果の一つであると評価されています。

- 伊勢佐木町商店街への来街者は数%くらい増加していそう。商店街の店舗の意見を聞いても、客足は意外と落ちていないと回答があった。
- 来街者調査を実際に行ってはいないので、具体的な数字は積算できないが、観光案内所等で配布していたマップや新聞等の配布状況から想定はできる。
- 観光案内所での配布物である
 - ・開港新聞の伊勢佐木町特集号は、途中で配布制限をかけ、2000 部を配布
 - ・イセザキマップに関しては 8000 部を配布
- 観光案内所の開設により、ポスター等の掲出、リーフレットの配布等の場ができ、地元の伊勢佐木町だけでなく、他の地域と連携しながら各地域の事業をPR。地域間の新たな連携、伊勢佐木ー吉田町ー野毛のネットワークができてきた。
- 開国博 Y150 閉幕後においても地域間のネットワークが継承されており、地域で連携し合同の事業開催も検討中。市歌を題材とした関連イベントを来年開催予定。
- 観光案内所の撤収後も、松坂屋前の仮囲いをPRコーナーとし、3地域が連携しながら、ポスター等を掲載し活用している。

■横浜中華街

中華街では開国博 Y150 (バイサイドエリア) と JRDC の影響で来街者数が増加 (10～15%程度) したことが実感されており、開国博 Y150 の周遊効果が認められました。

なお、景気動向によって客単価は下がっており、売上げ自体は減ったものの、その落ち込み具合は開港 150 周年記念事業によってかなり軽減されているとの実感が持たれていました。また、開港 150 周年を機にはじめたイベントにも手ごたえを感じておられ、来年も継続するとのことでした。さらに、元町、山下、中華街、関内、馬車道など各地区が連携して盛り上げようという機運も高まっていました。

○シティセールスでは、150 周年事業の特にどれというわけではなく、全体としてのアナウンス効果を感じた。影響が大きかったと考えられるのは開国博バイサイドエリアと JRDC。象の鼻パーク整備は、(開国博と比べて)150 周年らしい意義があり、やってよかった事業だ。

○開国博の客が明らかに中華街へ流れてきていた。開国博により、周辺へ 700 万人を呼び込んだのは大きな効果。人数が増えた実感がある。前年比で言えば 10%～15%くらい。国内遠方からの客が多かった。人通りが増えたと感じたのは開国博開始前から 9 月ごろまでの半年くらい。その間のいつが特に増えたというのはない。10 月になって人通りが明らかに減った。

○客単価が落ちたため売上自体は 10%程度落ち込んでいるが、150 周年事業がなかったら、景気動向から考えれば 30%程度は落ち込んでいたと思う。

○150 周年事業は、シティセールスに大きな効果があった。2009 年は全国で他に大きなイベントもなかったので絶好のタイミングでもあり、投資額 100 億以上の効果があったのではないかと。

○各地域はもっと祝うべきだった。回りは「何をしてくれるの」と期待し待ち受けていたが、中華街は 150 周年事業を利用しようと考え、近隣商店街、元町、山下公園と積極的に参加し取組を行った。その成果が現れた。

○今年、150 周年連携の独自企画として取り組んだランタン祭りは、お客様にも喜ばれた。来年も継続する。(春節の頃を予定)

○(今回のことをきっかけとして)元町、山下、中華街、関内、馬車道など各地区が連携して新しい祭りを立上げようと計画している。

■山下公園通り会

山下公園通り会では来街者の増加を「平日でも例年の休日のような人出」と表現しています。特に後半の夏場から効果を感じたとのことであり、これは開国博 Y150 だけでなく、開港 150 周年のさまざまなイベントの効果であったと感じていることが伺えました。

また、YMC協議会（山下公園通り会、元町 SS 会、横浜中華街発展会）で主催した「祝賀パレード」や、「開港五都市景観会議横浜大会」、馬車道商店街と実施した共同イベントなど、地域間の連携についても活性化している様子が分かりました。

- 開国博の期間中は、様々なイベントを山下地区でも行われたので、平日でも例年の休日のような人出があった感じ。スタート当初より、後半の夏場は人出は多かった。
- 開国博のほか、海フェスタ、トライアスロン、マリンタワー、JRDC、YMC 記念パレード、ワールドフェスタ、カッターレース等、いろいろとイベントがあったので効果があった。
- ガス灯スタンプラリーを馬車道商店街と共同で今週末に行う。

■元町 SS 会

元町ショッピングストリートでも「売上げは前年対比でみると 6 月、9 月を除くとマイナスであり喜ぶほどではない」が来街者は増加したのではと分析していました。東京や他都市と比較すると横浜はマイナスの程度が少なく、集客面でも良かったのではないかとの評価がされていました。

なお、元町では開国博 Y150 の影響より、JRDC の効果を強く感じており、今後もタイアップ企画を検討しているとのことでした。

独自セールを企画、実施して成果を上げるなど、開港 150 周年をきっかけとしたキャンペーンでは効果も出ていると伺いました。

- 150 周年事業は、来街者の増加に効果はあったと思う(微増)。
- 売上げは喜ぶほどではない。景気が影響していた。150 が無ければもっと下がっていたと思う。6 月、9 月はチャージングセールのときは 1 日 1000 人増えたが、その他は減っている。
- 東京や他都市と比べて横浜は良かったのではないか。景気が底に向っている中で、マイナスの程度が低かった。
- JRDC の取組で旅行会社と連携して、ノベルティを考えた企画を実施し好評だった。実施していなければ新規開拓できなかった。JR 東日本とは、来年以降もタイアップしていこうという話が出ている。
- 元町としては、JRDC の効果が大きいと思っている。開国博開催にともなう集客の効果はあまり感じていない。周遊会場に 700 万人来ていることも初めて聞いた。周遊会場の効果はあまり感じていないが、150 と連携した取組に含まれていたかも。
- HP アクセス数や知名度アップの影響はない。
- 独自プランとしては、YMC パレード、チャージングセール、ラ・ベル・ザンガ、6 月の開港特別セール(3 日間)を行ったが、来街者が増えた。チャージングセールは売上げにも貢献した。
- 来街者が増えた効果を感じたのは 9 月のシルバーウィーク。チャージングセールにはじめてくるお客さんが多く、ストリートも人であふれていた。

■野毛地区

野毛地区では飲食に少し好影響があったようで、みなとみらい地区からの流れがあった様子が伺えました。またランチ目当ての問い合わせが増えるなど、新しい客層へのアプローチに影響があったことも伺えました。

- みなとみらいからのお客さんが少し流れているようだ。飲食は少し恩恵を受けているようだ。
- 海のエジプト展からのお客の流れは無かったと思う。
- 旅フェアのように毎年パシフィコでイベントをやっている関係者が来てくれる。(MMは高いので野毛が好まれる)
- 飲食のお客は増えたと思う。
- 野毛山動物園や県立音楽堂を案内するお客さんが多かった。
- ランチを食べたいお客さんの問い合わせが結構あったのが珍しかった。グルメ雑誌に紹介された店を聞かれた。
- 飲ん兵衛ラリーや鯨フェアを珍しがって、店の紹介を求められた。
- マザーポートではいろいろと話をもってきてくれたが、大道芸のほかは大きなイベントができなかった。

(2-4) 150 円商店街

開港 150 周年を記念した民の自主的な取組として、様々な商店街の自発的な事業が実施されました。

例えば、市内 114 商店街が参加し、“150” にちなんだ値付けや割引等を行った「横浜開港 150 円商店街」、馬車道商店街協同組合と山下公園通り会が共同で実施した「ガス灯スタンプラリー」や山下公園通り商店街、元町商店街、横浜中華街で構成されたセントラルベイ YMC 協議会による「YMC パレード」など、複数の地域や商店街が共同で取り組んだ事業、横浜中華街の「横浜中華街文化フェア～燈籠會（ランタン祭り）」や元町商店街の「開港特別セール」など開港 150 周年をきっかけとしたセールなど、様々な事業が自発的に実施され、集客に一定の効果を生み出したとともに、市内の開港 150 周年を祝う機運を盛り上げました。

■市内の 3 分の 1 以上の商店街が「横浜開港 150 円商店街」に参加

市内の 3 分の 1 を超える商店街が連携し、「横浜開港 150 円商店街」を実施しました。このイベントは、商店街を「150 円ショップ」に見立てたもので、150 円の商品や 1500 円の商品、15%引き、150 円引きなどの「150」にちなんだセールや、共通のポイントカードを発行して開港 150 周年にちなんだプレゼントが当たる抽選会の実施などで、6 月から翌年 2 月までの隔月第 2 土曜日に開催されました。

開催概要

主催	(社) 横浜市商店街総連合会
開催日	平成 21 年 6 月～平成 22 年 2 月までの偶数月第 2 土曜日
会場	開催商店街 各店舗店頭
開催商店街数	第 1 回 113 商店街 (6 月 13 日) 第 2 回 115 商店街 (8 月 8 日) 第 3 回 116 商店街 (10 月 10 日) 第 4 回 117 商店街 (12 月 12 日) 第 5 回 (2 月 13 日予定) (※市商連加盟商店街数：317 商店街)
開催店舗数	第 1 回 参加 2,848 店/構成 4,949 店=57.5% 第 4 回 3,023 店/5,230 店=57.8%
内容	同一日に、市内商店街各店舗が一斉に、「開港 150 周年」にちなんだ「150 円」の商品やサービスを店頭で陳列、販売を実施。 同時に、「150 円」商品をお買いあげのお客様にポイントカードを発行し、開港 150 周年にちなんだプレゼントが当たる抽選会を実施。

■「横浜開港 150 円商店街」の来街者アンケート結果

横浜開港 150 円商店街の来街者アンケートでは、初めて利用したことのある店があったとの回答が 4～5 割近くを推移するなど、普段あまり商店街を利用していない人が商店街を利用するきっかけとなっている様子が伺えました。

またこのイベントによって、開港 150 周年関連の対象商品以外の購買行動にも波及したことが確認されたとともに、リピート意向も 9 割程度と、非常に高い評価が得られました。

(回答数：第1回 1,054、第2回 1,044、第3回 1,265)

Q) 普段商店街をよく利用されていますか

	よく 利用している	あまり 利用していない	これまで 利用したことがない	無回答
第1回	77.3%	8.6%	0.5%	13.6%
第2回	84.6%	10.7%	0.4%	4.3%
第3回	77.3%	13.7%	1.0%	8.0%

Q) 今回初めてご利用になったお店はありましたか

	あった	なかった	無回答
第1回	37.5%	46.5%	16.0%
第2回	47.1%	48.2%	4.7%
第3回	41.3%	49.4%	9.3%

Q) 対象商品以外の商品をお買い求めになりましたか

	買った	買わなかった	その他	無回答
第1回	72.0%	12.4%	0.4%	15.2%
第2回	79.6%	15.8%	0.6%	4.1%
第3回	75.4%	15.3%	0.8%	8.5%

Q) 今後も「横浜開港 150 円商店街」を開催する予定ですが、また来てみたいと思いますか

	来てみたい	来たくない	わからない	無回答
第1回	82.5%	0.4%	3.1%	14.0%
第2回	91.9%	0.6%	3.6%	3.9%
第3回	84.8%	0.2%	6.9%	8.1%

■「横浜開港 150 円商店街」の開催店舗アンケート結果

売上げの増加があったとの回答が 33.7%

開催した店舗のアンケート結果からは、普段の土曜と比較して客足の増加があったという回答が 42.9%、顔なじみ以外の来店があったという回答が 60.8%、売上げの増加があったとの回答が 33.7%と、一定の効果があったことが示されました。

(第 1 回 : 回答 715 店)

Q) 当日の販売価格 (複数回答)

	150 円	1500 円	150 円引き	15%引き	その他
全数	63.1%	12.2%	12.0%	7.4%	9.8%

Q) 普段の土曜日と比べて客足はどうでしたか

	増えた	変わらない	減った	無回答
全数	42.9%	53.0%	2.1%	2.0%

Q) 顔なじみ以外のお客様は来店されましたか

	いた	いない	わからない	無回答
全数	60.8%	23.9%	14.0%	1.3%

Q) 普段の土曜日と比べて売上はどうでしたか

	増えた	かわらない	減った	無回答
全数	33.7%	59.3%	4.2%	2.8%

(3) 開港 150 周年記念事業の市民力向上効果

開港 150 周年記念事業の一つの特長が「多様な市民参加」でした。プロジェクト参加者へのアンケート結果から、参加者の 70%以上が満足し、80%以上が今後も参加したいと回答するなど、評価の高さを伺うことができ、「市民参加型イベント」というコンセプトへの一定の評価がなされたと考えられます。

またマザーポートエリア来訪者に対し街頭アンケートを行った結果、市民においては横浜への愛着の高まりなど、開港 150 周年記念事業を通じた意識の変化が見られました。

横浜の魅力を再発見し、外部の人にも知ってもらいたいという気持ちが強くなったことに加えて、横浜の歴史への興味・関心が強くなるなど、自分たちの住む地域を改めて見つめる機会になったことが伺えます。

また全ての項目について、開国博 Y150 の訪問経験者の方が、評価が高く、参加することによって市民意識・関心が高まる傾向が見られました。

一方で、市民モニターを対象とした e アンケートの結果では、横浜市民全体から見た厳しい評価もなされています。開国博については、料金設定やコンテンツの魅力不足、不十分でわかりにくかった広報・PR 等を指摘する意見などが寄せられました。

なお、e アンケートを開国博 Y150 の参加経験の有無で比較すると、未参加者の評価が低く、参加経験者の評価は高めとの傾向がありました。

(3-1) 市民参加者の人数

ア 市民参加プロジェクトの活動参加人数

■市民の参加は、34,005 人

横浜開港 150 周年記念事業の主な市民参加プロジェクトには、34,005 人の市民が参加しました。延べ参加人数では 87,793 人という、多くの市民がボランティアや市民参加プロジェクトに参加しました。(同一人物が複数のプロジェクトに登録している場合はそれぞれカウントしました)

開国博 Y150 に関しても、「会場運営ボランティア」が 2,587 人、ベイサイドエリア「市民協催」が 7,511 人、ヒルサイドエリア「市民創発プロジェクト」が 10,868 人、「FUNЕ プロジェクト」が 8,000 人など、多くの市民が活動や運営に参加しました。

開国博 Y150 関係市民参加事業 参加者数 (再掲)

事業別参加者数

[単位：人]

事業名	実人数	延べ人数	実人数の積算
会場運営ボランティア	2, 587	16, 484	実人数：参加登録者数
ベイサイド市民協催	7, 511	11, 047	140 団体参加者数+18 区紹介デー
ヒルサイド市民創発	10, 868	18, 628	182 プロジェクト ID 発行数+竹伐採イベント参加者
横浜 FUNE プロジェクト	8, 000	18, 248	パスポート発行部数
DORAMA YOKOHAMA 150	500	18, 674	活動登録者数
横濱・開港キャンドルカフェ	208	208	ボランティア登録者数
マザーポート	615	615	
道志村間伐材プロジェクト	166	339	プラットフォーム推進委員会事業
イベントをエコにするネットワーク	750	750	プラットフォーム推進委員会事業
地域 SNS 「ハマっち！」	2, 800	2, 800	プラットフォーム推進委員会事業
合計	34, 005	87, 793	

(出典) 横浜開港 150 周年協会まとめ

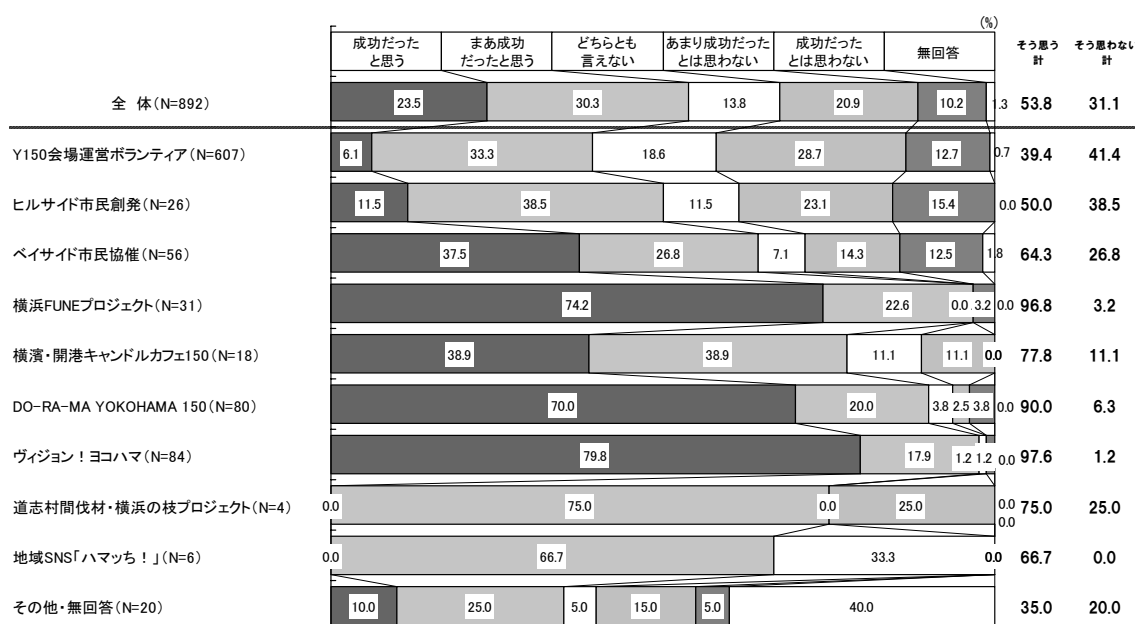
(3-2)市民参加プロジェクト参加者の評価・感想

ア 市民参加プロジェクト参加者へのアンケート結果

■参加したイベントの評価：成功だったと思う 53.8%

開国博 Y150 会場運営ボランティアや市民参加プロジェクト参画者へのアンケートで、あなたが参加した事業は成功だったと思いますか？と質問したところ、「成功だったと思う」人は「成功だった」23.5%と「まあ成功だった」30.3%で合計 53.8%となり、「成功だったとは思わない」の 31.1%よりも多い結果となりました。

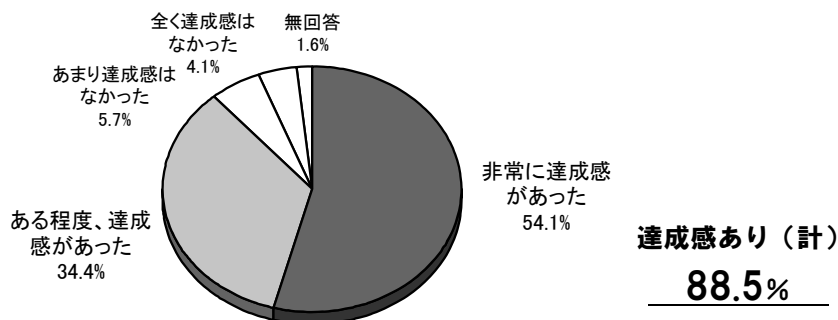
なお、「横浜 FUNE プロジェクト」や「DO-RA-MA YOKOHAMA 150」、「ヴィジョン！ヨコハマ」はいずれも 9 割以上成功だったと評価しているのに対し、「開国博 Y150 会場運営ボランティア」では 4 割程度という結果が出ました。



(出典)「市民参加プロジェクト参画者アンケート」n=892

■達成度：90%が達成感を感じている

今回の市民参加プロジェクトに参加して達成感があったかを聞いたところ、「非常に達成感があった」が 54.1%で、「ある程度達成感があった」の 34.4%を加えると 88.5%が達成感があったと回答している。

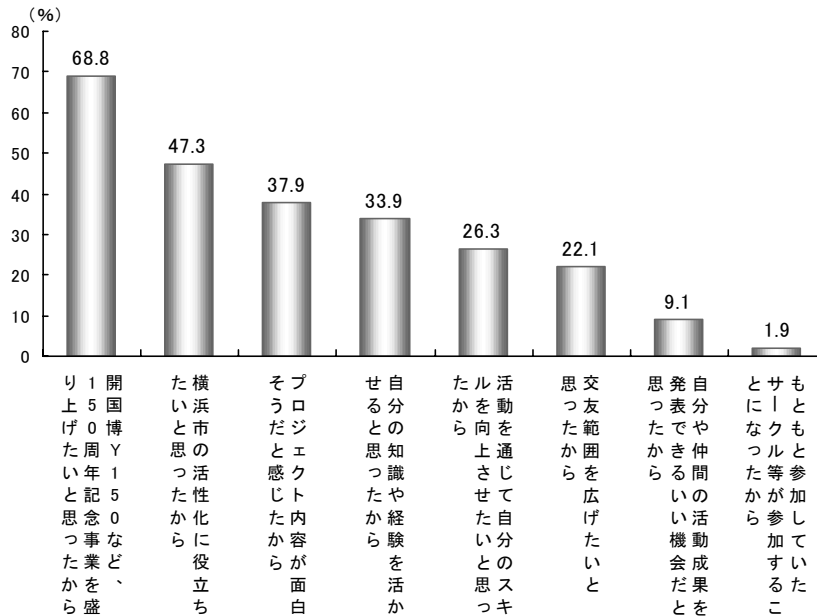


(出典)「市民参加プロジェクト参画者アンケート」n=122

※本質問はアンケート期間の途中で追加したため、この質問に関しては母数が 892 件より小さくなっています。

■参加した理由：「150周年記念事業を盛り上げたいと思ったから」が7割

今回の事業に参加した理由・目的では、1位が「開国博 Y150 など、150周年記念事業を盛り上げたいと思ったから」が68.8%と非常に多く、2位が「横浜市の活性化に役立ちたいと思ったから」47.3%と、上位に横浜市を盛り上げたい旨の項目が続きました。

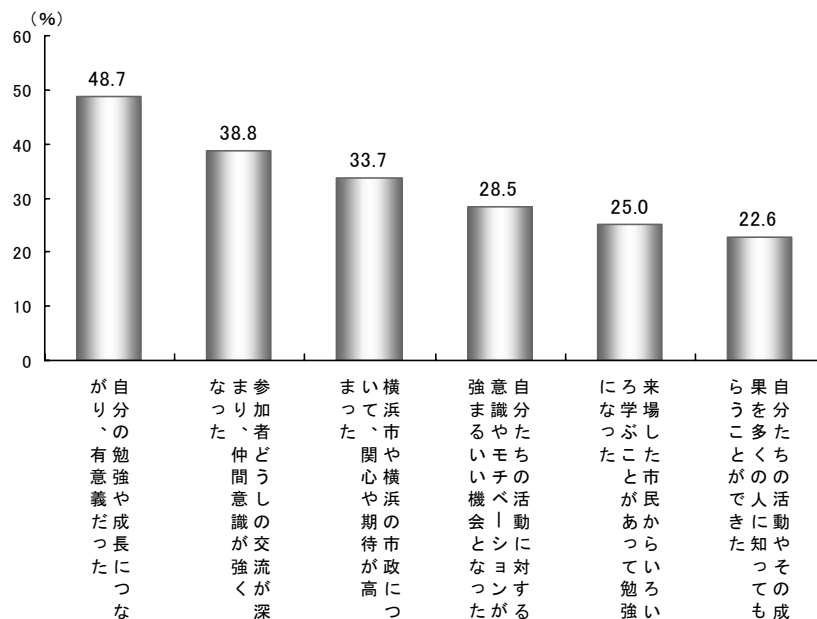


(出典)「市民参加プロジェクト参画者アンケート」n=892

■参加した感想：「自分の勉強や成長につながり、有意義だった」が48.7%

参加した感想は「自分の勉強や成長につながり、有意義だった」が1位で48.7%でした。次いで「参加者どうしの交流が深まり、仲間意識が強くなった」38.8%といった、交流や仲間意識の強化を上げる声が入り、結果として上位に来る結果となりました。

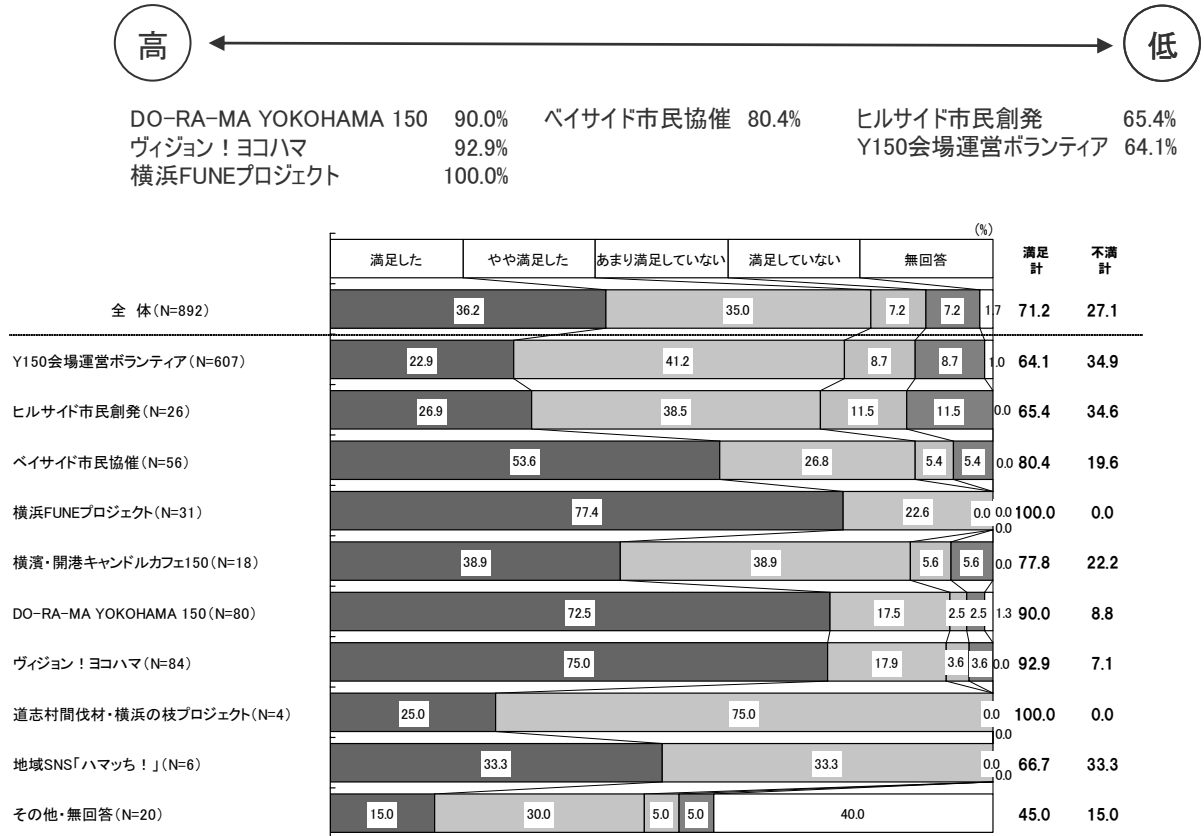
「横浜市や横浜の市政について、関心や期待が高まった」は33.7%で3位でした。



(出典)「市民参加プロジェクト参画者アンケート」n=892

■参加満足度：71.2%が満足

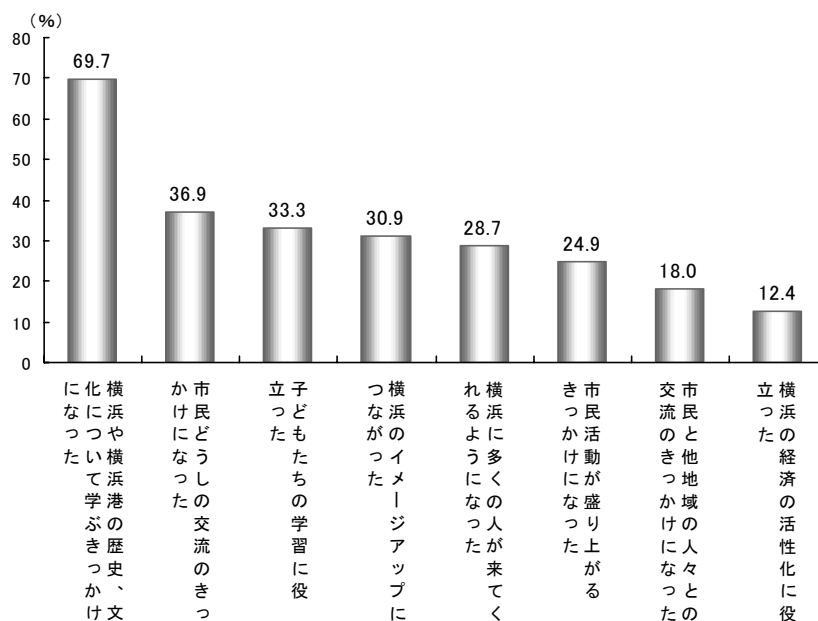
参加満足度では「満足した」が36.2%で「やや満足した」が35.0%となり、合計71.2%が満足したと回答しました。



(出典)「市民参加プロジェクト参画者アンケート」n=892

■記念事業の効果：「歴史・文化を学ぶキッカケになった」が約7割

今回の開国博 Y150 や開港 150 周年記念式典など一連の開港 150 周年記念事業によって、どのような効果があったと思いますか？との質問には「横浜や横浜港の歴史、文化について学ぶきっかけになった」が 69.7%と非常に多く、次いで「市民どうしの交流のきっかけになった」36.9%、「子どもたちの学習に役立った」33.3%、「横浜のイメージアップにつながった」30.9%、「横浜に多くの人が来てくれるようになった」28.7%と続きました。



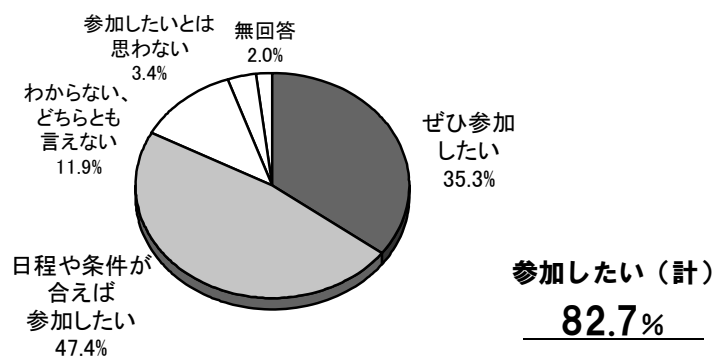
(出典)「市民参加プロジェクト参画者アンケート」n=892

■再参加意向：「参加したい」が82.7%

今後、同じような市民参加事業に再び参加してみたいと思うか？の質問に「ぜひ参加したい」と回答した人は35.3%で、「日程や条件が合えば」が47.4%となりました。あわせて82.7%が参加したいと回答しており、再参加意向は非常に高いことが分かりました。

関心のあるテーマとしては「文化・芸術」が48.0%でトップ、次に「国際交流・協力」40.4%、「イベント運営」37.7%、「観光」34.3%となりました。

また、希望する参画形態としては「当日の運営スタッフ等で参加」が最も多く67.4%で、「企画・準備段階から参加」が43.8%、「出展者、出演者として参加」が30.6%となりました。



関心のあるテーマ：

1位	文化・芸術	48.0%
2位	国際交流・協力	40.4%
3位	イベント運営	37.7%
4位	観光	34.3%

希望する参画形態：

1位	当日の運営スタッフ等で参加	67.4%
2位	企画・準備段階から参加	43.8%
3位	出展者、出演者として参加	30.6%

(出典)「市民参加プロジェクト参画者アンケート」*n*=892

イ 市民参加プロジェクト参加者へのグループインタビュー

■積極的に参画しており、市民同士の交流を望む姿

参加目的と参加実態では、多様な目的・意識を持った多様な市民が参加しており、個人的な自己実現の期待から、なんとなく楽しそうだったから、グループ・サークルの活動・発表の機会を得たい、など参加の動機はさまざまでした。

満足度は非常に高く、市民同士の交流ができ、繋がりが生まれたことが高く評価されていました。また、今後とも横浜市を盛り上げていきたいという気持ちも強く持っていることが伺えました。

グループインタビューでのディスカッションでは、今回の市民参加プロジェクトの各グループが活動発表できる場として後夜祭のような企画を希望する声も出てくるなど、他の参加者の活動についても知りたい、応援したい、一緒に盛り上げたいという気持ちが強いことが改めて確認されました。

(対象者の参加プロジェクト)

- ベイスайд市民協催（女性・大学生）
- ヒルサイド市民創発（男性・会社員）
- ヒルサイド市民創発（女性・フリーライター）
- ヴィジョン！ヨコハマ（女性・俳優業）
- ヴィジョン！ヨコハマ（男性）
- 横浜FUN Eプロジェクト（男性・会社員）
- 横浜FUN Eプロジェクト（女性・学生）
- DO-RA-MAYOKOHAMA（女性・主婦）

●参加目的と参加実態

→多様な目的・意識を持った多様な市民が参加

- 市民参加プロジェクトは、多様な目的・期待、経験を持った市民が幅広く参加。演劇の舞台に立ちたいといった個人的な自己実現の期待から、市民活動への取組のきっかけにしたい、グループ・サークルの活動・発表の機会を得たい、横浜の自然保護などの横浜市民としてのメッセージを発信したい、市民として横浜に関わりたいなど、様々なレベルの期待を持った多様な市民が参加している。

●きっかけ

→市民同士による働きかけ、誘い

- 市民同士によるプロジェクト参加への働きかけも行われており、友人・知人に誘われたこともプロジェクト参加のきっかけになっている。

●満足度・評価

→市民同士の交流、つながりが生まれたことで高い満足度

- プロジェクト参加者の満足度は高く、プロジェクト参加により市民同士の交流、“つながり”が生まれたことを最も評価。プロジェクト終了後も、この“つながり”を発展させていきたいとの意向が強い。また、市民との交流や仲間との感動体験の共有、連帯感が、プロジェクトの達成感となり、満足感を生んでいる。

●参加効果

→市民意識の高まり

- また、プロジェクト参加により、開港 150 周年を盛り上げたい、横浜の歴史を知る・学ぶきっかけになったなど市民意識の高まりもみられる。

●プロジェクトの課題

→運営の改善、参加者同士の交流を促進する情報提供

- プロジェクトの課題としては、参加者の参加レベルに応じた運営の対応や期間中の情報フィードバックによる運営の改善、参加者間の交流を促進するような、他プロジェクトの情報提供の充実が望まれる。
- 横浜に対する意識はプロジェクト参加により向上。プロジェクト参加により、元々持っていた横浜に対する良いイメージを再認識。市民の横浜愛の強さや、環境の良さ、歴史などを再認識し、横浜への愛着・親しみが増している。

●今後の市民活動への取組意欲

→プロジェクトで得られた“つながり”を活用、高まる参加意欲

- 今後の市民活動への取組意欲は高い。高い取組意欲の理由には、プロジェクトで得られた“つながり”を発展させ今後も市民活動を行っていききたいとの希望がある。また、初めて市民活動に参加した人を中心に、プロジェクトの参加経験が自信となり、今後の市民活動への意欲が高まっている。

●行政への期待

→つながりのサポート、後夜祭など

- 行政に対しては、プロジェクトで得られた“つながり”のサポートが期待されている。具体的には、参加者間の交流ができる市民参加プロジェクトの「後夜祭」などの機会提供を期待。

(3-3) 来街者の開港 150 周年記念事業評価

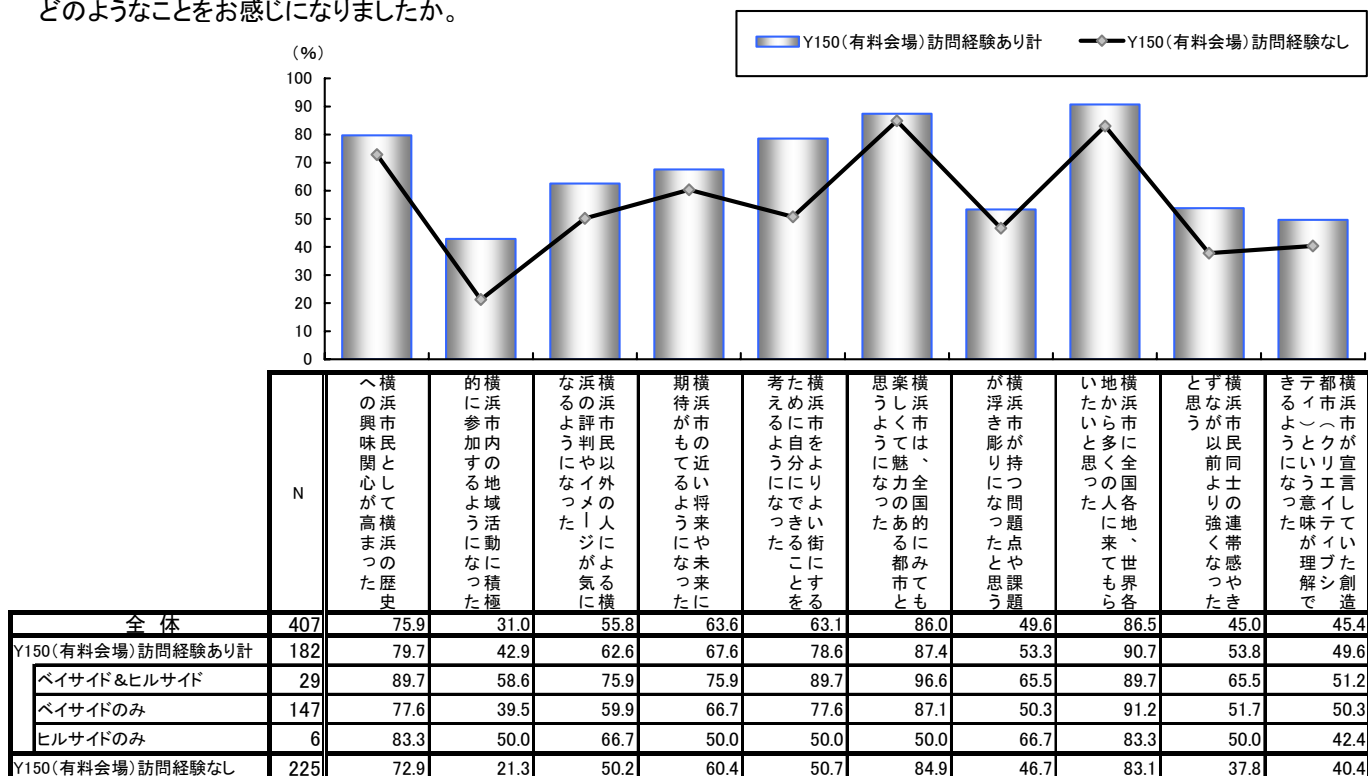
ア マザーポートエリアを訪れた市民の開港 150 周年記念事業に対する評価

■マザーポート来街者の開港 150 周年記念事業評価

マザーポートエリア来街者を対象に、街頭アンケートを実施しました。そのなかで市内在住者に、横浜開港 150 周年記念事業で展開されている「開国博 Y150」や様々なイベントを通じ、横浜についてどのようなことを感じたか、10 個の質問をしたところ、「横浜市に全国各地、世界各地から多くの人に来てもらいたいと思った」が 86.5%で最も高く、次いで「横浜市は、全国的にみても楽しくて魅力のある都市と思うようになった」が 86.0%、「横浜市民として横浜の歴史への興味関心が高まった」が 75.9%と、各項目で高い結果となりました。また、「横浜市の近い将来や未来に期待がもてるようになった」が 63.6%、「横浜市をよりよい街にするために自分にできることを考えるようになった」が 63.1%、「横浜市が持つ問題点や課題が浮き彫りになったと思う」49.6%など、市や街への関心が高まったことも伺えました。

下図では棒グラフが、「開国博 Y150」ベイサイドエリアまたはヒルサイドエリアの有料会場の訪問経験がある人の回答で、折れ線グラフが、どちらの有料会場にも訪問経験が無い市民の回答です。全般的に、開国博 Y150 のいずれかの有料会場を訪れた事のある市民ほど高い評価や関心を示している傾向が見られました。

Q18 あなたは、横浜開港 150 周年記念事業で展開されている【開国博 Y150】や様々なイベントを通じて、どのようなことをお感じになりましたか。



(出典)「来街者アンケート」マザーポートエリア・市内在住者に質問 n=407
 ※マザーポートエリア n=1148 のうち横浜市内在住の 407 人で集計

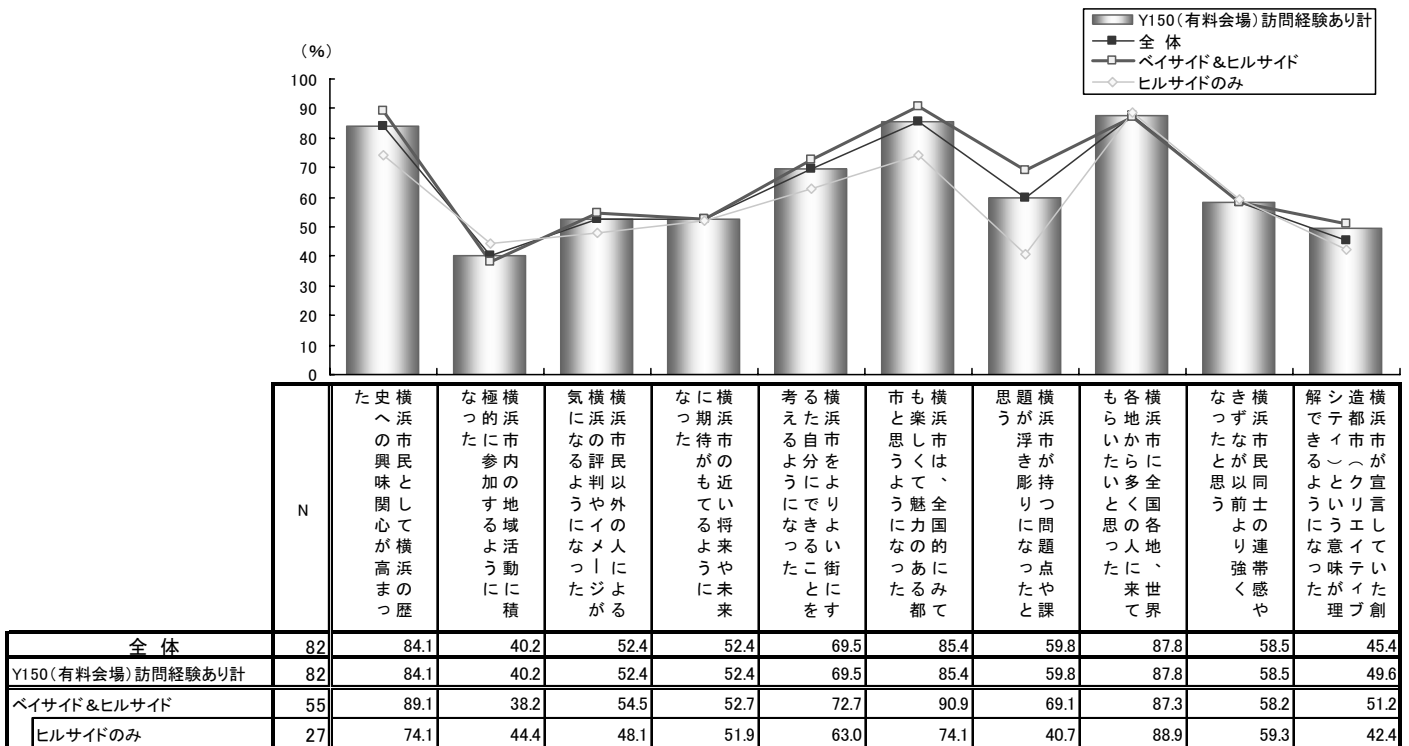
■ヒルサイドエリア(有料会場)来場者の開港 150 周年記念事業評価

ヒルサイドエリア（有料会場）来場者で市内在住者への開港 150 周年記念事業評価に関するアンケートの結果は、概ねマザーポートエリア来街者の回答と傾向は似ているものの、全体的にスコアが高めの傾向が見られました。

もっともスコアの高かったものは「横浜市に全国各地、世界各地から多くの人に来てもらいたいと思った」が 87.8%で、次いで「横浜市は、全国的にみても楽しくて魅力のある都市と思うようになった」が 85.4%、「横浜市民として横浜の歴史への興味関心が高まった」が 84.1%となりました。

横浜の魅力を再発見し、外部の人にも知ってもらいたいという気持ちが強くなったことに加えて、横浜の歴史への興味・関心が強くなるなど、自分たちの住む地域を改めて見つめる機会になったことが伺えます。

Q19. あなたは、横浜開港150周年記念事業で展開されている「開国博Y150」や様々なイベントを通じて、どのようなことをお感じになりましたか。

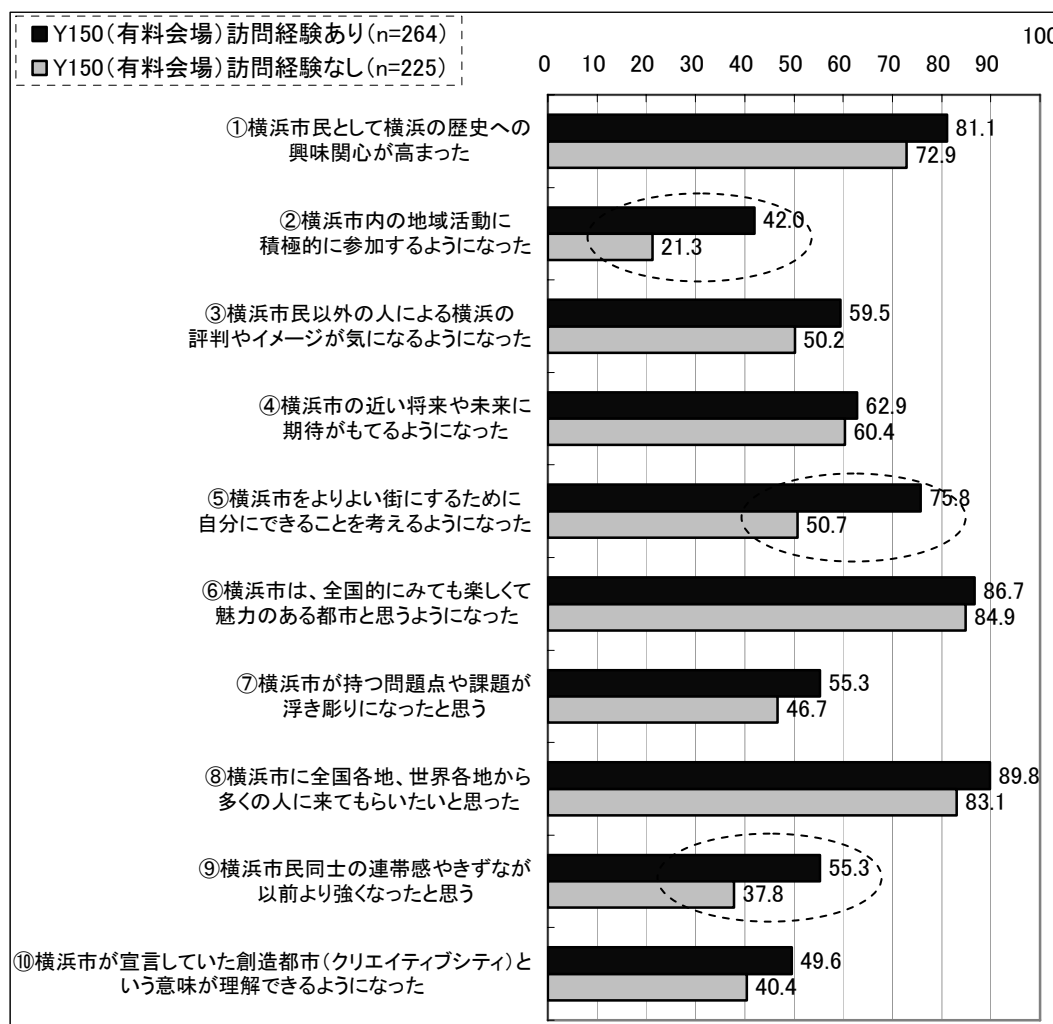


(出典)「来街者アンケート」
※開国博 Y150 ヒルサイドエリア（有料会場）n=113 人のうち横浜市内在住の 82 人で集計

■会場訪問経験の有無で、市民活動や地域活動・地域貢献に対する意識に大きな差が見られた

「来街者アンケート」でアンケートに回答した大人 1261 名（マザーポートエリア 1148 名/ヒルサイドエリア 113 名）のうち、横浜市民は 489 名でした。その 489 名のうちベイサイドエリア（有料会場）かヒルサイドエリア（有料会場）のいずれかに訪問済みの場合と、ベイサイドエリア（有料会場）とヒルサイドエリア（有料会場）の両方とも未訪問に分けて集計、比較しました。

その結果、全体的に開国博 Y150 に来場参加した人ほどスコアが高い結果となっていました。特に「②横浜市内の地域活動に積極的に参加するようになった」「⑤横浜市をよりよい街にするために自分にできることを考えるようになった」「⑨横浜市民同士の連帯感やきずなが以前より強くなったと思う」といった市民活動や地域活動・地域貢献に対する意識で大きな差が出ることを確認されました。



(出典)「来街者アンケート」

※マザーポートエリア n=1148 および開国博 Y150 ヒルサイドエリア（有料会場）n=113 人のうち横浜市民内在住の 489 人で集計

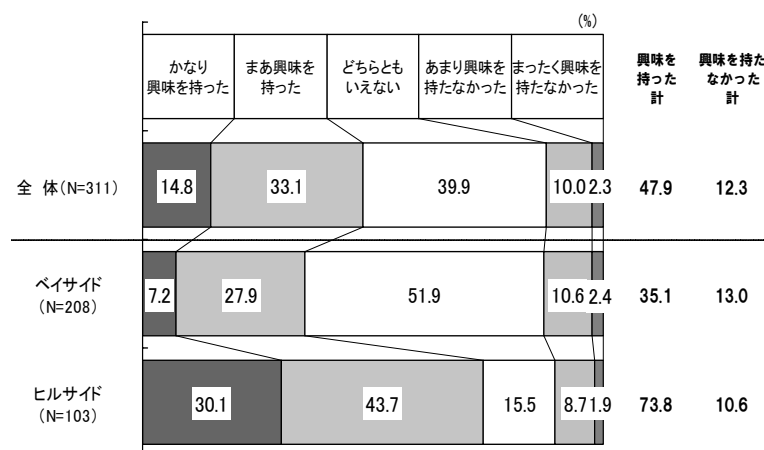
イ 子どもの開港 150 周年記念事業に対する評価

■ ボランティア活動や市民活動への興味

開港 150 周年記念事業を通じてボランティア活動や市民活動に興味を持った割合は、「かなり興味を持った」「まあ興味を持った」をあわせると、ベイサイドエリアで 35.1%、ヒルサイドエリアで 73.8%となりました。

特にヒルサイドエリアでは「かなり興味を持った」が 30.1%と多くの子どもたちが興味を持っていることが示されました。

Q10. あなたはこのようなボランティア活動や市民活動に興味を持ちましたか？



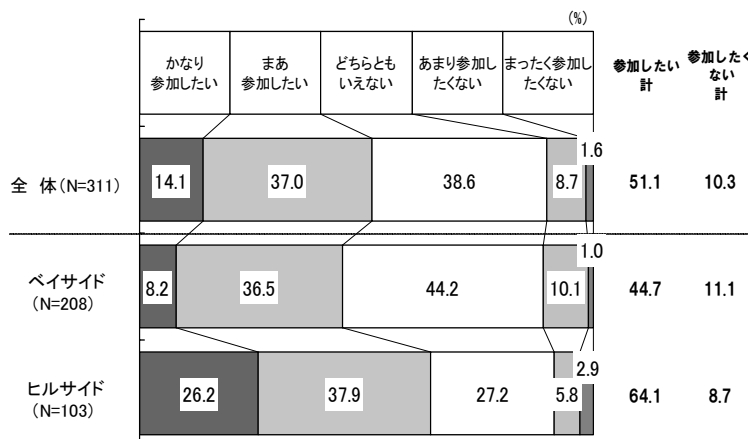
(出典)「来街者アンケート」

※開国博 Y150 ベイサイドエリア子ども n=208、開国博 Y150 ヒルサイドエリア子ども n=103

■ 半数以上がボランティア活動や市民活動に「参加したい」と回答

ボランティア活動や市民活動に「かなり参加したい」が 14.1%、「まあ参加したい」が 37.0%で、合計で過半数を超える 51.1%が参加したいと回答。特にヒルサイドエリアでは「かなり参加したい」が 26.2%と高く、合計も 64.1%と非常に多い結果が出ました。全体的に市民参加に対する子どもの評価は高く、市民活動への参加意識が高まったことが示されました。

Q11. あなたはこのようなボランティア活動や市民活動に、自分も参加してみたいと思いますか？



(出典)「来街者アンケート」

※開国博 Y150 ベイサイドエリア子ども n=208、開国博 Y150 ヒルサイドエリア子ども n=103

(3-4) 市民の開港 150 周年記念事業への評価

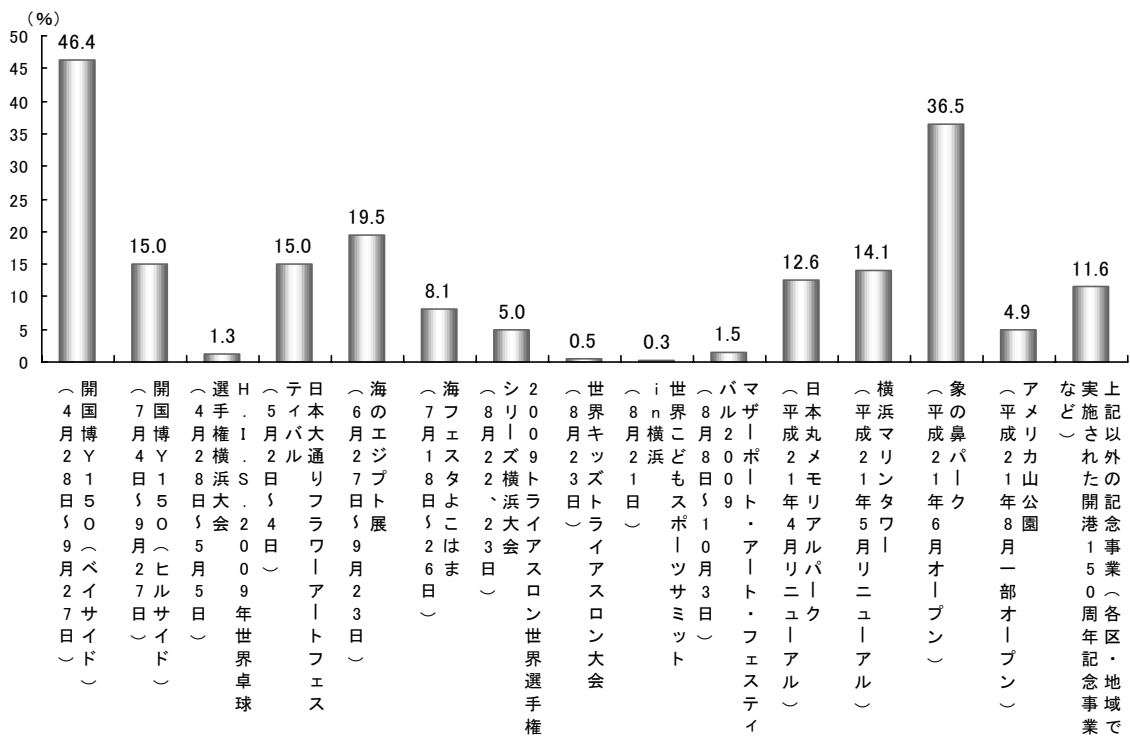
ア ヨコハマ e アンケート

ヨコハマ e アンケートは「e アンケートメンバー」に登録した市民が回答する、横浜市の施策や事業についての WEB アンケートです。平成 21 年 10 月 14 日から 28 日まで開港 150 周年記念事業についてアンケートを実施し、595 件の回答がありました。

■参加・訪問経験で上位は「開国博 Y150(ベイサイドエリア)」46.4%と「象の鼻パーク」36.5%

e アンケートメンバーの参加や訪問経験のある事業では、「開国博 Y150 (ベイサイドエリア)」が 46.4%で最も多く、次いで「象の鼻パーク」36.5%、「海のエジプト展」19.5%となりました。

Q1. 次のイベント等は、開港 150 周年記念事業として実施されたものです。あなたご自身が参加したり訪れたことがあるものを全て選んでください。(複数選択可)



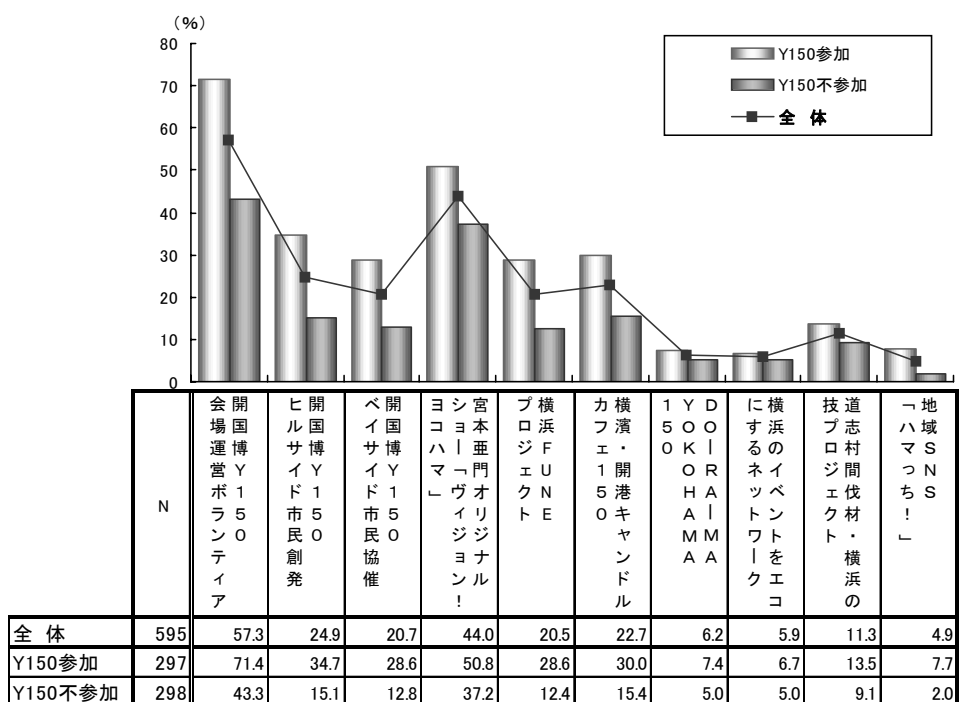
(出典)ヨコハマeアンケート n=595

■認知度は「開国博 Y150 会場運営ボランティア」が 57.3%、「ヴィジョン！ヨコハマ」が 44.0%

開港 150 周年関連の市民参加プロジェクトの中で、e アンケートメンバーの認知度が最も高かったものは「開国博 Y150 会場運営ボランティア」で 57.3%でした。次いで「宮本亜門オリジナルショー『ヴィジョン！ヨコハマ』」で 44.0%となりました。

開国博 Y150 への参加の有無で比較すると、参加者の方が総じて認知度が高い傾向が見られました。

Q2. 開港 150 周年記念事業として、市民参加プロジェクトも盛んに行われ、大勢の市民が参加しました。次の開港 150 周年関連の市民参加プロジェクトの中で、あなたが知っていたものを全て選んでください。（複数選択可）



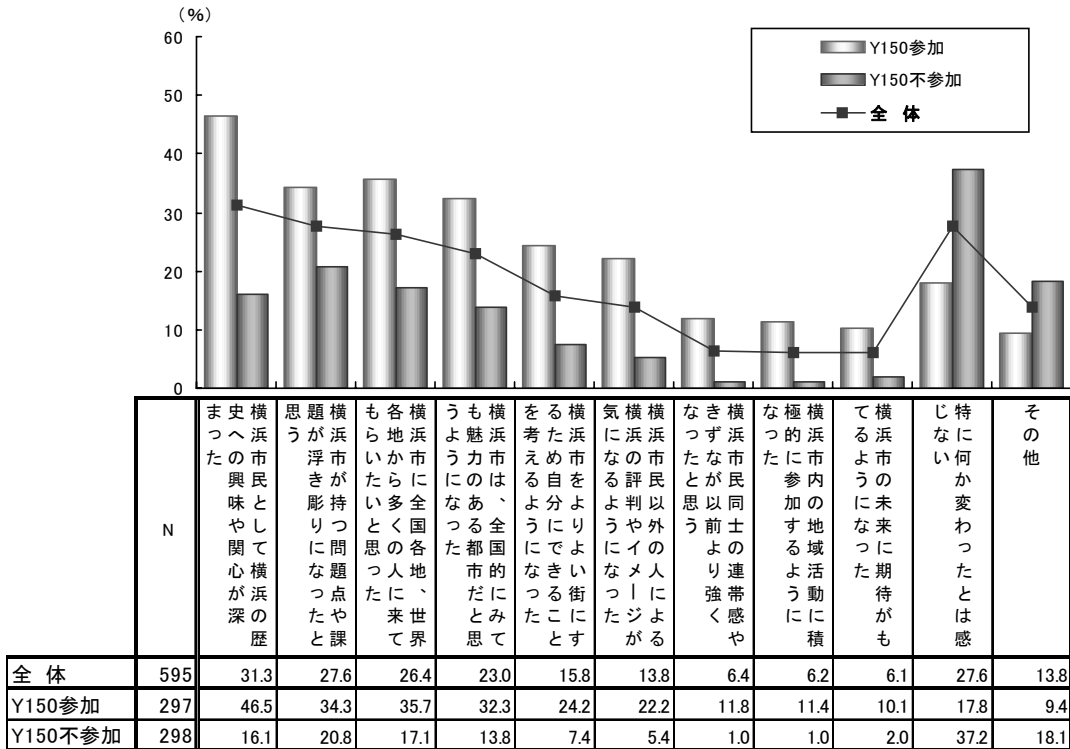
(出典)ヨコハマeアンケート n=595

■「歴史への興味や関心が深まった」が 31.3%

開港 150 周年記念事業を通じて感じたこととしては、「横浜市民として横浜の歴史への興味や関心が深まった」が 31.3%で最も多かった一方、「特に何か変わったとは感じない」、「横浜市が持つ問題点や課題が浮き彫りになったと思う」はともに 27.6%でした。

開国博 Y150 への参加の有無で比較すると、参加者の方が不参加者よりも評価が高く、各項目ともに大きな差が見られました。

Q3. あなたは、開港 150 周年記念事業を通じて、どのようなことをお感じになりましたか。あてはまるものを全て選んでください。(複数選択可)



(出典)ヨコハマeアンケート n=595

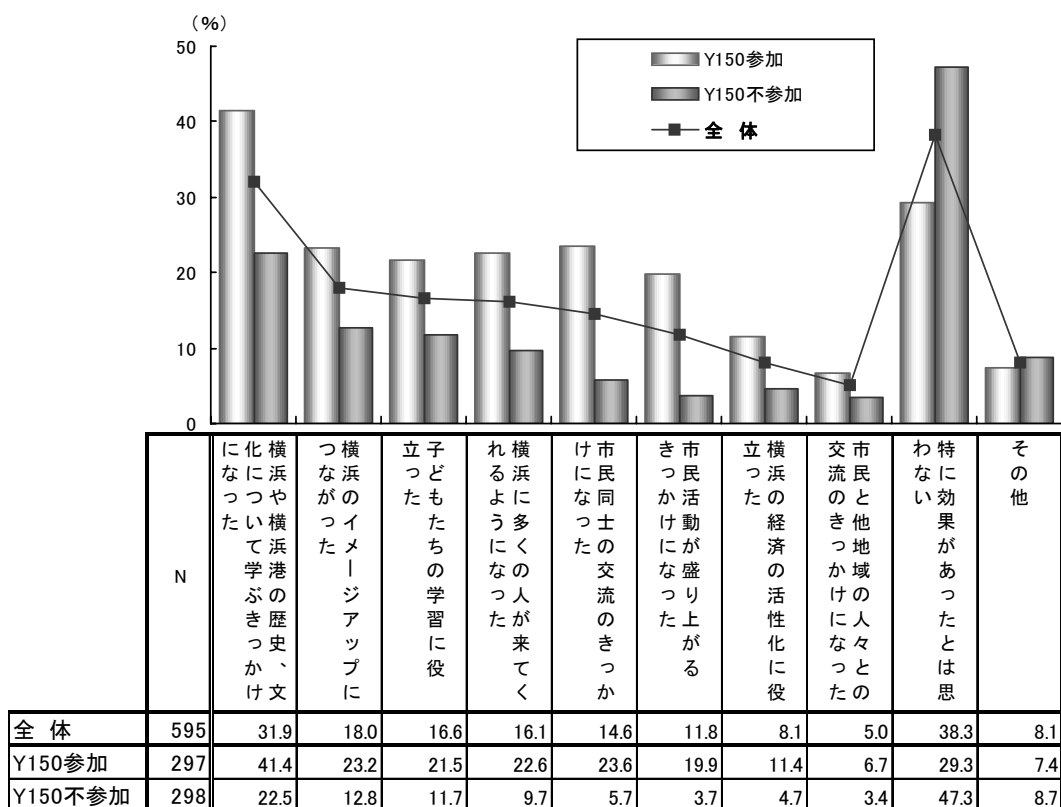
■「効果があったと思わない」が 38.3%

開港 150 周年記念事業が実施され、多くの市民が参加したことなどによって、横浜全体に対してどのような効果があったと思いますか？との質問に対し「特に効果があったとは思わない」が 38.3%で最も高く、効果があったという感想では「横浜や横浜港の歴史、文化について学ぶきっかけになった」が 31.9%で最も高い結果となりました。

開国博 Y150 への参加の有無で比較すると、各項目ともに参加者の方が高く、特に「市民同士の交流のきっかけになった」「市民活動が盛り上がるきっかけになった」など市民参加に関する項目での差が大きく開いていることが確認されました。

また、不参加者が「特に効果があったとは思わない」が 47.3%であるのに対し、参加者は 29.3%と 18.0%の大きな差がありました。

Q4. あなたは、数多くの開港 150 周年記念事業が実施され、多くの市民が参加したことなどによって、横浜全体に対してどのような効果があったと思いますか。あてはまるものを全て選んでください。(複数選択可)

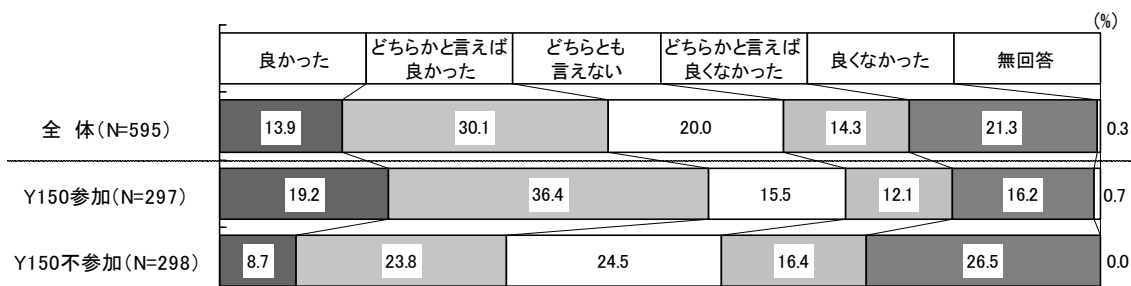


(出典)ヨコハマeアンケート n=595

■横浜全体で開港 150 周年をお祝いしたことについて「良かったと思う」が 44.0%

開港 150 周年記念事業で開港 150 周年を祝ったことについて「良かった」が 13.9%、「どちらかといえば良かった」が 30.1%で合わせて 44.0%が良かったと回答しました。
 なお、開国博 Y150 参加者では良かった（計）が 55.6%であるのに対し、不参加者は 32.5%と 23.1%も差が開く結果となりました。

Q5. 様々な開港 150 周年記念事業が実施され、横浜全体で開港 150 周年をお祝いしたことについて、どのように思いますか。

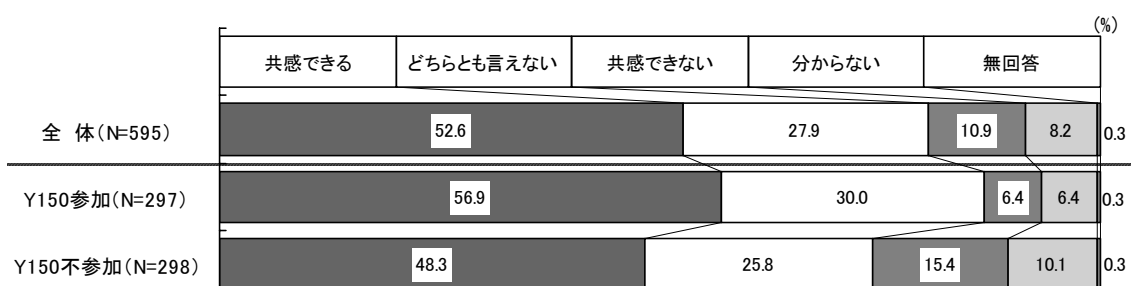


(出典)ヨコハマeアンケート n=595

■クリエイティブシティへの共感度は 52.6%

「文化芸術創造都市クリエイティブシティ・ヨコハマ」のコンセプトに対する共感では「共感できる」が 52.6%でした。（開国博 Y150 参加者 56.9%、不参加者 48.3%）

Q6. 横浜市は、開港 150 周年を契機に、横浜の特長を活かした新たな街づくりを進めるための重要な柱として「文化芸術創造都市クリエイティブシティ・ヨコハマ」を掲げています。クリエイティブシティとは、横浜らしい港を囲む風景や歴史的建造物を活用し、芸術や文化のもつ「創造性」を生かして都市の新しい価値や魅力を生み出そうとする新しい構想のことです。あなたは、この考え方についてどう思いますか。



(出典)ヨコハマeアンケート n=595

■自由記述意見では厳しい評価も

開港 150 周年記念事業について自由な感想を聞いたところ、全体的に厳しい意見が多く、開国博 Y150 について、企画内容や料金設定、広報・PR についての問題指摘、有料入場者数が目標を下回ったこと等に関する意見が多く寄せられました。

また、問題点の検証など今回の事業を総括し、今後の市政に反映させるよう望む意見も多く寄せられました。

【企画内容について】

- ・開国博 Y150 は期待外れだった。ベイサイドエリアだけでも、会場がいくつかに分かれていて、分かりにくかった。
- ・もう少し市民からのアイデアを取り入れて様々な世代が楽しめるイベント等を取り入れれば盛り上がったと思います。

【料金設定について】

- ・横浜市民には、市民価格のチケットを販売して欲しかった。
- ・小学 6 年生、中学 3 年生の 2 人の子どもが行ったが、2 人ともがっかりしていました。高すぎる入場料、陳腐な展示物。集客のためにはどうすることが必要だったかを考えて反省してほしい。私は当然行きませんでした。

【費用対効果について】

- ・税金の無駄遣い
- ・全体に魅力に欠けるものだった。財政的に厳しいとは思いますが、もっと盛大にやるべきだったのでは？

【広報・PR について】

- ・市外・県外の人から PR 不足では？とか、それって何？などの声が聞かれ、このイベントの「売り」を自分でも説明できなかった。
- ・宣伝・広報不足。市民の理解なき行政主導の空回り事業である。

【有料入場者数について】

- ・目標未達で各方面に迷惑をかけたのではないか。
- ・目標を達成できなかった責任をなすり付けあうのは見苦しい。

【検証・今後のフィードバックについて】

- ・今回の開港 150 周年事業に多くの市民が関れたのは意味がある。その経験をどう生かすかが課題。
- ・総括が単なる反省でなく、未来へ向けての提言であることを期待したい。

【その他】

- ・期間中みなとみらい地区に人が多く驚いた。
- ・私は開国博 Y150 のボランティアに参加しました。終わってから関係ない人たちからの批判のようなものはありますが、実際に訪れた人たちは満足していました。この食い違いは何だろうと疑問でなりません。

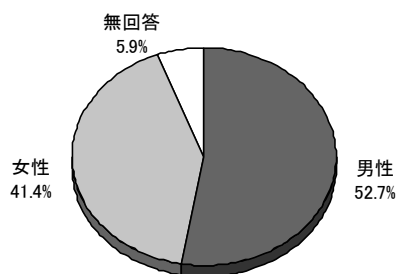
イ よこはま大学開港塾アンケート

「よこはま大学開港塾」は、市内大学を中心に、各大学が連携し、10回にわたって開港150周年を題材とする一般市民を対象とする特別講座を開催したものです。受講生を対象に、来街者アンケートと同様、開港150周年記念事業を通じて横浜についてどのようなことを感じたかを聞きました。

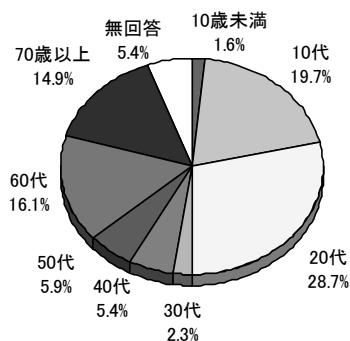
■回答者属性・学生が50.5%と多数

講座の性質上、回答者の多くは市内の大学生が中心を占めました。

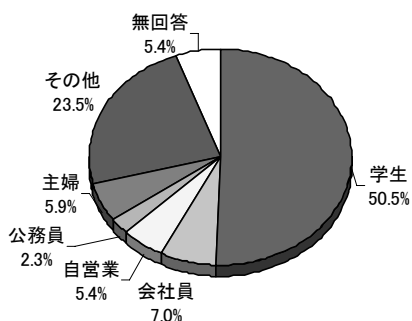
【性別】



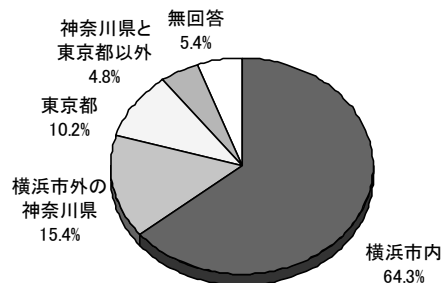
【年代】



【職業】



【住所】



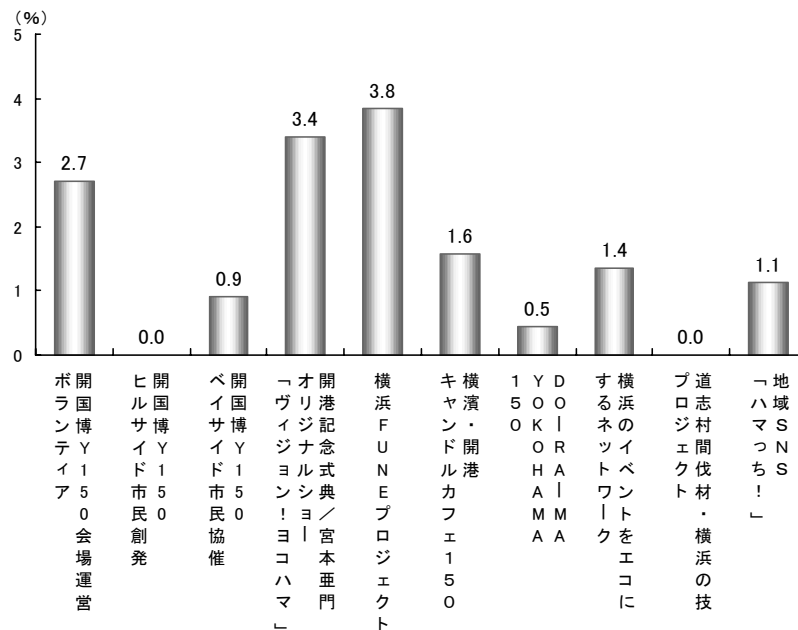
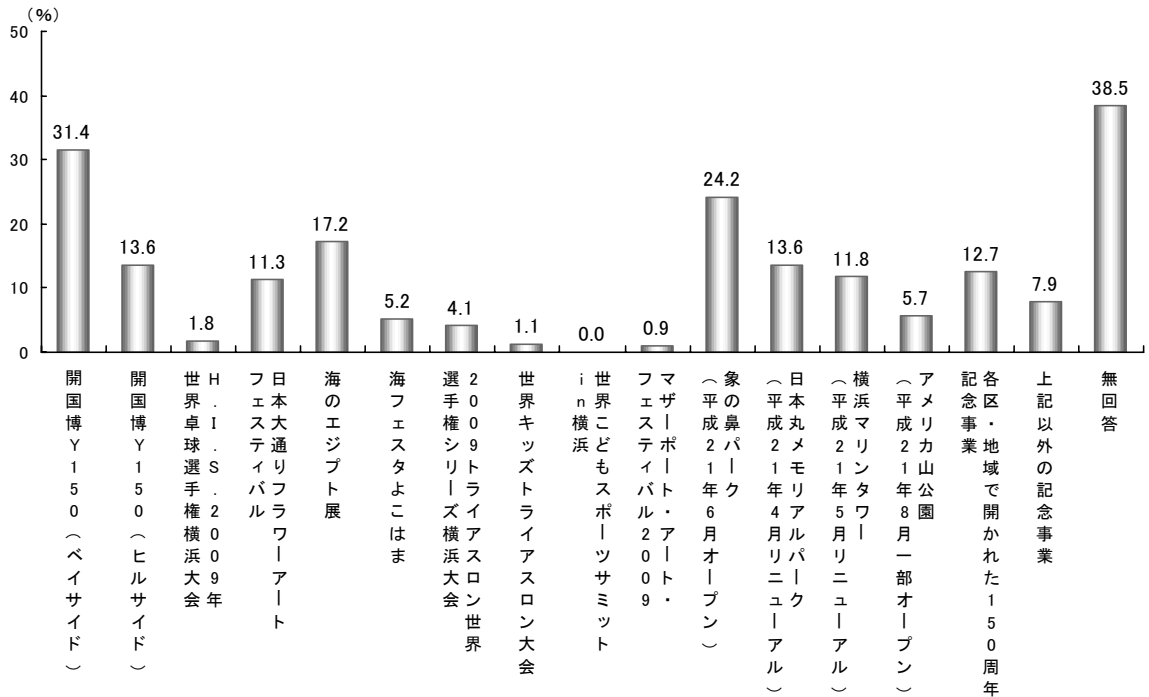
(出典)横浜開港150周年記念事業についてのアンケート(開港塾参加者アンケート)n=442

■よこはま大学開港塾参加者の開国博 Y150(ベイサイドエリア)参加は 29.1%

よこはま大学開港塾参加者へのアンケート結果では、開国博 Y150 への参加が、ベイサイドエリアで 31.4%、ヒルサイドエリアで 13.6%となりしました。

市民参加プロジェクトに関しては最も高い項目でも「FUNE プロジェクト」の 3.8%と低く、よこはま大学開港塾参加者は、その他の市民参加プロジェクトの参加者層とは、ほぼ重なっていないことが分かりました。

Q1. 次のイベント等は「横浜開港 150 周年記念事業」として実施されたものですが、これらのイベント等について、あなたご自身が参加したり訪れたことがあるものはありますか？(複数回答)

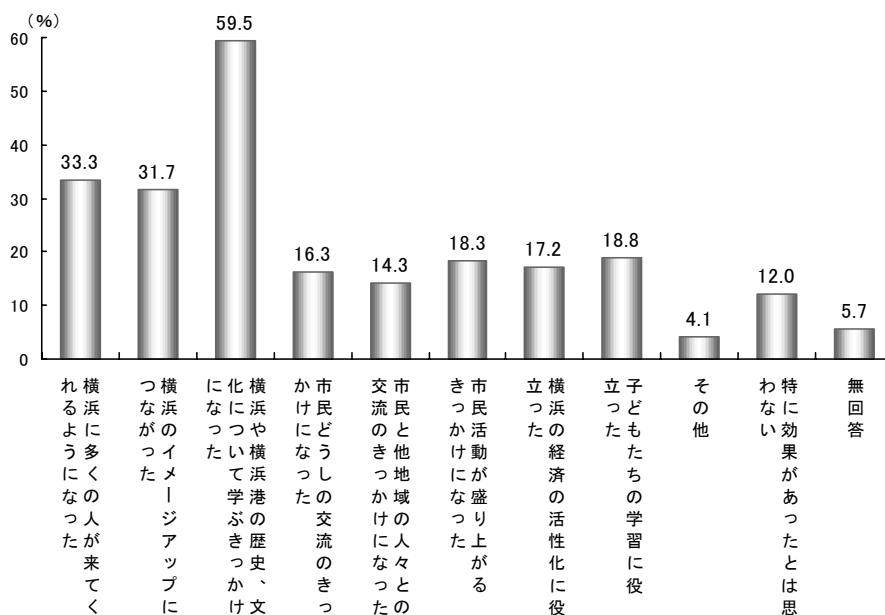


(出典)横浜開港 150 周年記念事業についてのアンケート(開港塾参加者アンケート)n=442

■市全体への効果としては「歴史、文化について学ぶきっかけになった」が 59.5%

今回の開港 150 周年記念事業では、横浜市全体に対してどのような効果があったと思うか？との問いに対し「横浜や横浜港の歴史、文化について学ぶきっかけになった」が最も高く 59.5%でした。次いで「横浜に多くの人に来てくれるようになった」が 33.3%、「横浜のイメージアップにつながった」 31.7%となりました。

Q2.あなたは、横浜開港 150 周年を記念して、上記のように数多くの事業が実施され、多くの市民が参加したことなどによって、横浜市全体にどのような効果があったと思いますか？（複数回答）

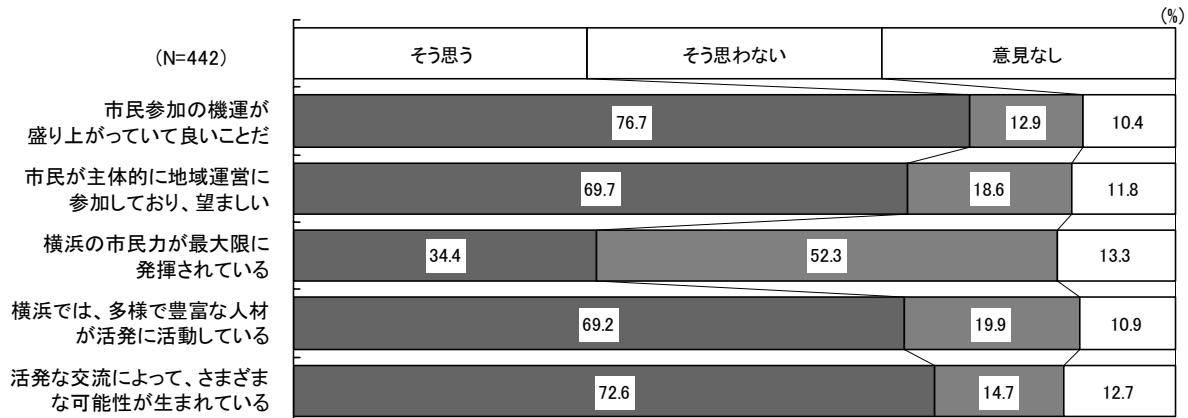


(出典)横浜開港 150 周年記念事業についてのアンケート(開港塾参加者アンケート)n=442

■市民参加の機運が盛り上がっていることを評価

市民参加に関しては、「市民参加の機運が盛り上がっていて良いことだ」が 76.7%で最も高く、次に「活発な交流によって、さまざまな可能性が生まれている」が 72.6%、「市民が主体的に地域運営に参加しており、望ましい」が 69.7%と、市民が主体的に活発な交流を通じて市を盛り上げていることへの評価が高い結果となりました。

Q3. 今回の「よこはま大学開港塾」のように、地域や市民が自主的に開港 150 周年をお祝いし、様々な記念イベントや展示などを開催しています。このような動きについてどのように思われますか？



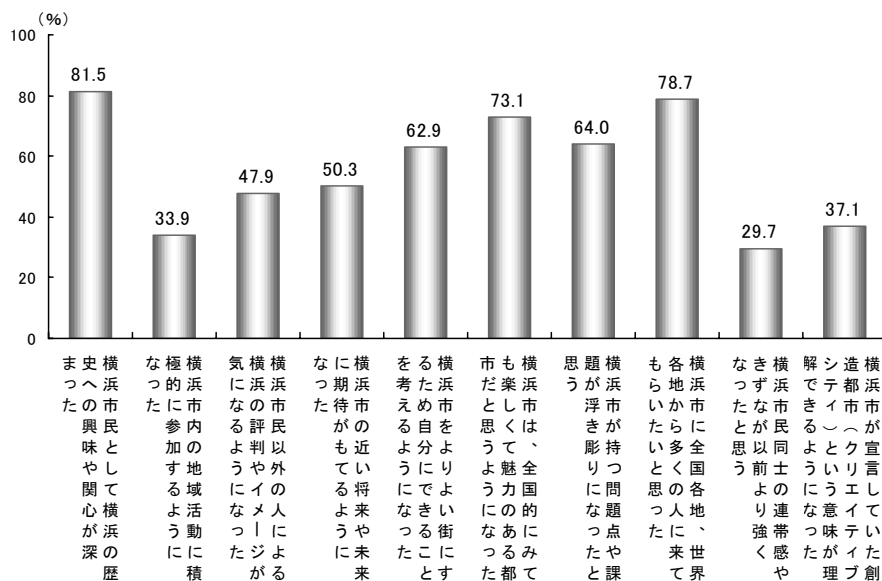
(出典) 横浜開港 150 周年記念事業についてのアンケート(開港塾参加者アンケート)n=442

■「歴史への興味・関心の深まり」「各地から多くの人に来てもらいたい」等が高め

他のアンケートと同様の 10 の指標による質問では、「横浜市民として横浜の歴史への興味や関心が深まった」が 81.5%で最も高い結果となりました。

次に高いものとしては「横浜市に全国各地、世界各地から多くの人に来てもらいたいと思った」の 78.7%や「横浜市は、全国的にみても楽しくて魅力のある都市だと思うようになった」の 73.1%でした。

Q4. あなたは、横浜開港 150 周年記念テーマイベント(開国博Y150)など、様々なイベントを通じて、どのようなことをお感じになりましたか。(横浜市民のみ対象)



(出典) 横浜開港 150 周年記念事業についてのアンケート(開港塾参加者アンケート)n=442 のうち回答者 286 人を対象に集計

(4) 開港 150 周年記念事業による横浜市のイメージ向上効果

開港 150 周年のさまざまな取組を通じて横浜の魅力を発信し、都市イメージをあげていくことが、開港 150 周年記念事業に期待された一つの役割でした。

一連の事業実施により、今年、横浜が開港 150 周年であることの認知度は、市民ではほぼ 100%、全国で見ても 6 割超と、大幅に向上しました。

この間、開国博 Y150 だけでもメディアへの掲載件数は 6,871 件、広告媒体に換算すると約 110 億円に相当する効果があったことが分かりました。

都市イメージについては、開港 150 周年記念事業の前後で大幅な変化はなく、「国際的」「おしゃれ」「歴史がある」とのイメージが定着していることが分かりました。

一方でこの間、他地域から横浜を訪れた人については、「活気がある」などの動的なイメージや、また歴史的なイメージも上昇したことが確認できました。

さらにマザーポートエリア来街者に、横浜の好感度を聞いたところ、いずれも 80%以上が横浜をまた訪れたい、印象が「良くなった」とするなど、良いイメージを持たれたことが確認できました。

さらに同アンケートで開国博 Y150 の評価について聞いたところ、来場経験者の 70%以上が「楽しかった」と評価、特に子どもでは「楽しかった」約 90%、「横浜を好きになった」約 80%など、一定の評価がされたことが分かりました。

(4-1)開港 150 周年記念事業の認知度

ア 「横浜開港 150 周年」「開国博 Y150」の認知度

今年が横浜開港 150 周年であることの認知について把握するため 3 月と 10 月に全国のネットモニターに対する WEB 調査を実施しました。

10 月の調査結果からは、横浜市民が 3 月時点の 93.3%から 6.0%増の 99.3%と、ほぼ全ての市民が開港 150 周年であることを認知していることが確認されました。

なお、横浜市の別の調査「横浜市民意識調査」によれば、市民の開港 150 周年の認知度は平成 18 年度で 36.8%、平成 19 年度で 50.8%、平成 20 年度で 71.2%であったため、市民の認知度は順調に伸びていることが確認できました。(参考:「平成 18 年度～平成 20 年度横浜市民意識調査」)

また、関東地区では 48.0%から 78.7%へ 30.7%の増加、全国では 31.7%から 61.7%と 30.0%増加しており、全国で見ても 6 割超の人が、今年が横浜開港 150 周年であるということを認知していることも確認できました。

	平成 21 年 3 月	平成 21 年 10 月	増減
横浜市 (n=601/601)	93.3%	99.3%	+6.0%
関東 (n=202/404)	48.0%	78.7%	+30.7%
全国 (n=605/605)	31.7%	61.7%	+30.0%

(出典)「横浜開港 150 周年に伴うイメージ調査」※

次に、開港 150 周年記念事業のテーマイベントである「開国博 Y150」の開催についての認知では、横浜市民で 3 月時点から 37.9%増加の 96.0%と圧倒的多数となっており、関東地区で 44.8%増の 63.6%、全国で 34.5%増の 46.4%と、それぞれ認知度が上昇していること、メインイベントである開国博 Y150 は全国レベルでも一定の認知を得ていることが確認できました。

なお、横浜市の別の調査「横浜市民意識調査」によれば、市民の開港 150 周年記念事業の認知度は平成 18 年度で 56.3%、平成 19 年度で 54.7%、平成 20 年度で 59.2%であったため、市民の認知度は順調に伸びていることが分かりました。

(参考:「平成 18 年度～平成 20 年度横浜市民意識調査」)

	平成 21 年 3 月	平成 21 年 10 月	増減
横浜市 (n=601/601)	58.1%	96.0%	+37.9%
関東 (n=202/404)	18.8%	63.6%	+44.8%
全国 (n=605/605)	11.9%	46.4%	+34.5%

(出典)「横浜開港 150 周年に伴うイメージ調査」

イ 開港 150 周年記念事業の各事業の認知度

テーマイベント「開国博 Y150」以外の各事業の認知度について、10 月時点で市民の認知度の高いものは「横浜マリンタワーのリニューアル」(74.7%)、「海のエジプト展」(67.2%)、「象の鼻パークのオープン」(48.8%)などがあります。

全国での認知では「海のエジプト展」と「横浜マリンタワーのリニューアル」がそれぞれ 18.9%、「海フェスタよこはまの開催」が 16.6%と上位になっており、全国的にもそれなりの注目を集め、認知度の高い事業であったことがうかがえます。

※(株)サーベイリサーチセンター調査(以下同)

		平成 21 年 3 月	平成 21 年 10 月	増減 (単位%)
横浜開港 150 周年記念式典・ 宮本亜門オリジナルショー の実施	横浜市 (n=601/601)	73.5	41.4	-32.1
	関東 (n=202/404)	33.2	13.1	-20.1
	全国 (n=605/605)	23.1	10.7	-12.4
横浜マリンタワーの リニューアルオープン	横浜市 (n=601/601)	54.7	74.7	+20.0
	関東 (n=202/404)	24.3	25.0	+0.7
	全国 (n=605/605)	13.7	18.9	+5.2
象の鼻パークのオープン	横浜市 (n=601/601)	21.8	48.8	+27.0
	関東 (n=202/404)	5.4	9.4	+4.0
	全国 (n=605/605)	4.3	5.5	+1.2
横浜サイエンスフロンティア 高等学校の開校	横浜市 (n=601/601)	20.1	36.1	+16.0
	関東 (n=202/404)	6.4	8.9	+2.5
	全国 (n=605/605)	5.1	5.8	+0.7
日本大通りフラワーアート フェスティバルの開催	横浜市 (n=601/601)	17.8	29.6	+11.8
	関東 (n=202/404)	9.4	8.2	-1.2
	全国 (n=605/605)	7.9	5.2	-2.7
H.I.S.2009 年世界卓球選手 権横浜大会の開催	横浜市 (n=601/601)	21.8	23.3	+1.5
	関東 (n=202/404)	11.9	8.4	-3.5
	全国 (n=605/605)	9.8	6.4	-3.4
海のエジプト展の開催	横浜市 (n=601/601)	7.7	67.2	+59.5
	関東 (n=202/404)	6.4	29.0	+22.6
	全国 (n=605/605)	5.5	18.9	+13.4
2009 トライアスロン世界選 手権シリーズ横浜大会の開 催	横浜市 (n=601/601)	13.1	25.8	+12.7
	関東 (n=202/404)	11.4	6.4	-5.0
	全国 (n=605/605)	8.9	6.9	-2.0
第 20 回全国「みどりの愛護」 のつどいの横浜開催	横浜市 (n=601/601)	6.2	9.3	+3.1
	関東 (n=202/404)	6.9	4.2	-2.7
	全国 (n=605/605)	5.1	3.4	-1.7
海フェスタよこはまの開催	横浜市 (n=601/601)	18.5	28.1	+9.6
	関東 (n=202/404)	10.9	18.1	+7.2
	全国 (n=605/605)	9.4	16.6	+7.2
日本丸メモリアルパークの リニューアル	横浜市 (n=601/601)	32.1	42.1	+10.0
	関東 (n=202/404)	14.9	18.1	+3.2
	全国 (n=605/605)	10.4	13.6	+3.2

(出典)「横浜開港 150 周年に伴うイメージ調査」

(4-2) 開国博 Y150 にかかるメディア露出調査（再掲）

（財）横浜開港 150 周年協会では、平成 20 年度より「開国博 Y150」の広報宣伝活動を開始し、各種媒体への広告の掲出を行うほか、広報事務局を設置し、各種メディアへの取材誘致等を行いました。

その結果メディアへの掲載数は 6,871 件、広告媒体に換算すると約 110 億円に相当する効果があったことが分かりました。

【メディア掲載数】

(件)

	平成 20 年度	平成 21 年度	合計
新聞・フリーペーパー	2,128	2,987	5,115
雑誌	259	478	737
テレビ	232	321	553
ラジオ	34	90	124
WEB	28	238	266
その他	17	59	76
合計	2,698	4,173	6,871

【広告媒体換算金額】

(千円)

	平成 20 年度	平成 21 年度	合計
新聞（フリーペーパー含）	922,268	1,502,533	2,424,801
雑誌	104,061	340,730	444,791
テレビ	937,441	5,191,985	6,129,426
ラジオ	90,213	365,234	455,447
WEB	32,151	177,497	209,648
交通広告	454,905	633,815	1,088,720
その他	17,395	244,887	262,282
合計	2,558,434	8,456,681	11,015,115

*算定期間は本格的に広報・宣伝活動を開始した平成 20 年 4 月から「開国博 Y150」が閉幕した平成 21 年 9 月まで

(4-3) 横浜市のイメージ

ア 横浜市のイメージ

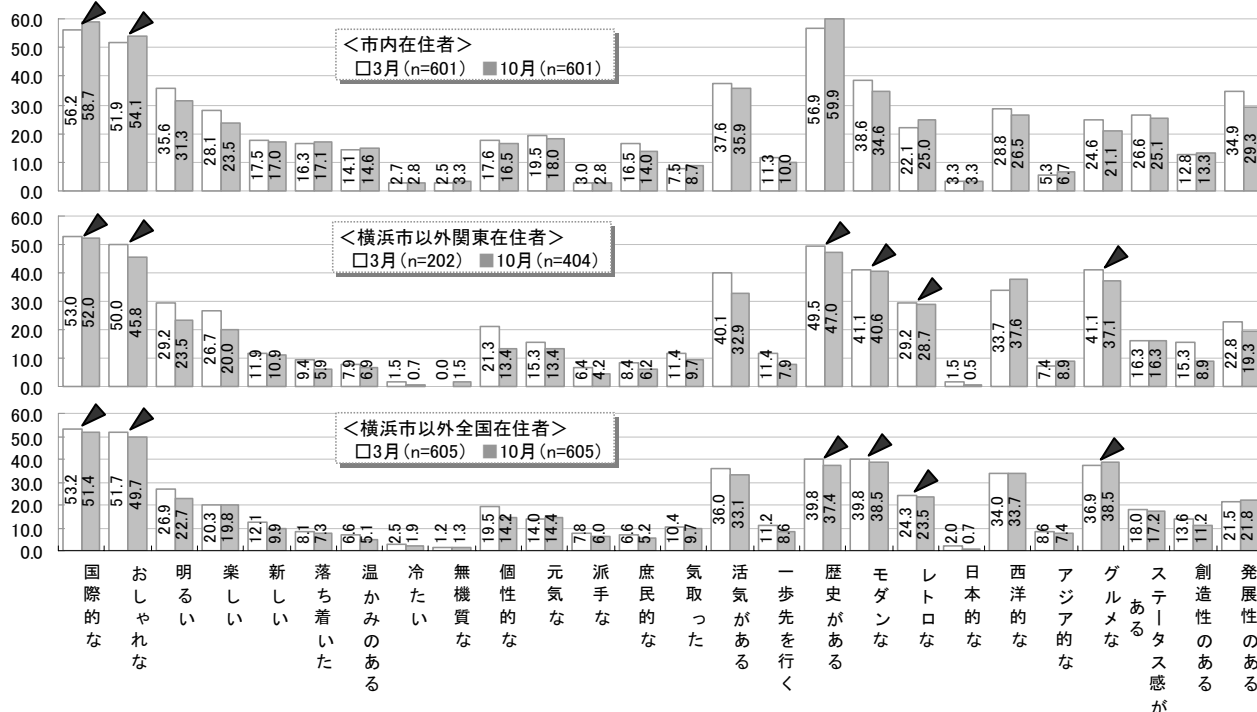
横浜市に対するイメージが、開港 150 周年記念事業を通じてどのように変化したか、平成 21 年 3 月と 10 月の時点で、WEB アンケートにより比較しました。

都市のイメージとして大きく変わった点はなく、調査時期や居住地にかかわらず「国際的な」「おしゃれな」イメージが強く定着し、加えて市外在住者では市内在住者に比べて「モダン」や「グルメ」のイメージが強い傾向があることが分かりました。

3 月と比べた変化では、「活気がある」「明るい」「発展性のある」といった動的なイメージが下降する傾向が見られました。しかし他地域から横浜を訪れた人について見ると、これらの動的なイメージが逆に上昇している点に加え、「歴史がある」「レトロな」「モダンな」といった歴史的な項目も上昇していることが分かりました。

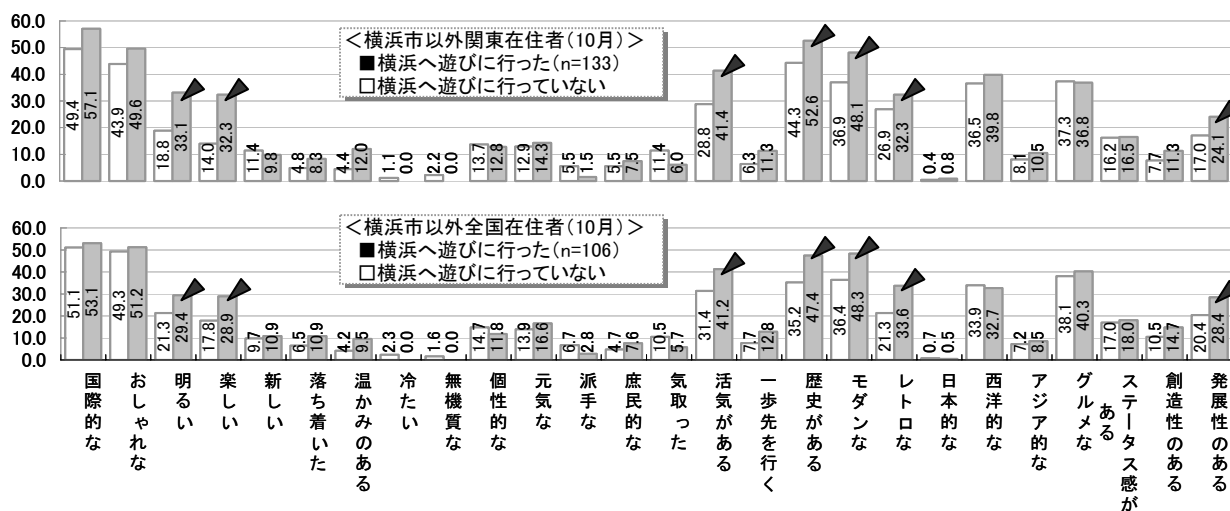
このことから、横浜市訪問者に対しては、動的なイメージに加え、歴史的な街とのイメージを与えることができたことが確認できました。

Q6. 横浜市に対するイメージ (MA)



(出典)「横浜開港 150 周年に伴うイメージ調査」

Q6.横浜市に対するイメージ(MA) -横浜市訪問経験別比較



(出典)「横浜開港 150 周年に伴うイメージ調査」

■具体的都市イメージ 全体的に開国博 Y150 参加者、開港 150 周年を知っている人が高めの傾向が見られる

横浜市に対する具体的都市イメージについて、3月時点の調査と、10月時点の調査で比較しました。なお10月調査では、横浜市内在住者では「開国博 Y150 有料会場に行った」「開国博 Y150 有料会場に行っていない」別の集計結果を、横浜市以外の関東および全国在住者では「開港 150 周年を知っている」「開港 150 周年を知らない」別の集計結果をあわせて記載しました。

全体的に、「開国博 Y150 有料会場に行った」人や「開港 150 周年を知っている」人の方が各都市イメージに「あてはまる」と回答する割合が高い傾向が見られました。

横浜開港 150 周年に伴うイメージ調査・各条件ごとのサンプル数

(P6～P14 までは下記サンプル数での集計結果)

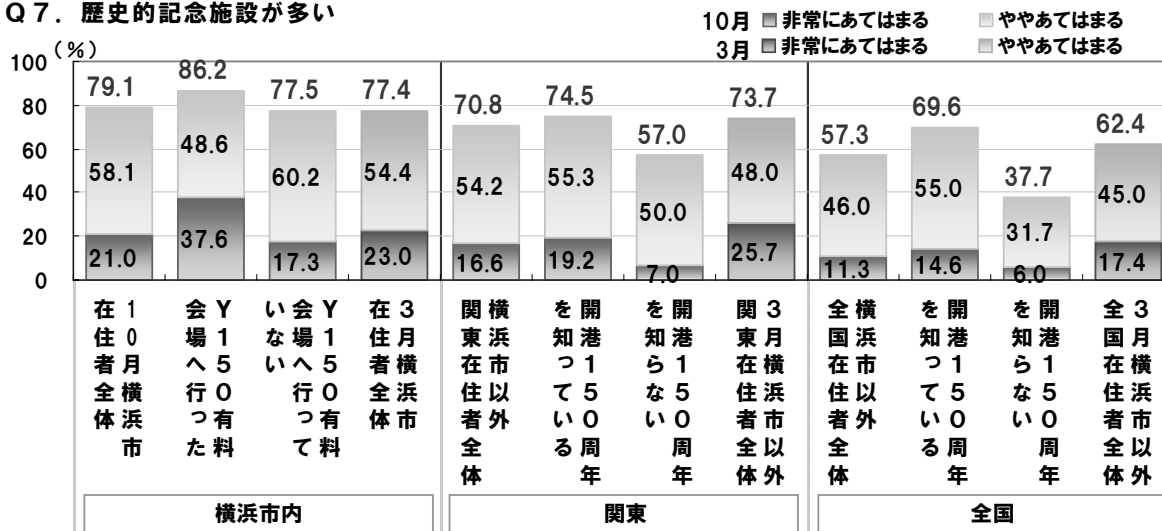
10月調査	横浜市内在住	全体	n=601
		開国博 Y150 有料会場に行った	n=109
		開国博 Y150 有料会場に行っていない	n=492
	横浜市以外関東在住	全体	n=404
		開港 150 周年を知っている	n=318
		開港 150 周年を知らない	n=86
横浜市以外全国在住	全体	n=605	
	開港 150 周年を知っている	n=373	
	開港 150 周年を知らない	n=232	
3月調査	横浜市内在住	n=601	
	横浜市以外関東在住	n=202	
	横浜市以外全国在住	n=605	

(出典)「横浜開港 150 周年に伴うイメージ調査」

「歴史的記念施設が多い」というイメージでは、3月調査と比較して10月調査では、市内在住者で77.4%から79.1%に増加しているものの、関東や全国在住者では3~5ポイント程度、低下しています。

ただし、開港150周年を知っている人と知らない人で分けて見ると、関東・全国ともに3月時点よりも10月時点のほうが高い傾向が見られました。(関東73.7%→74.5%、全国62.4%→69.6%)

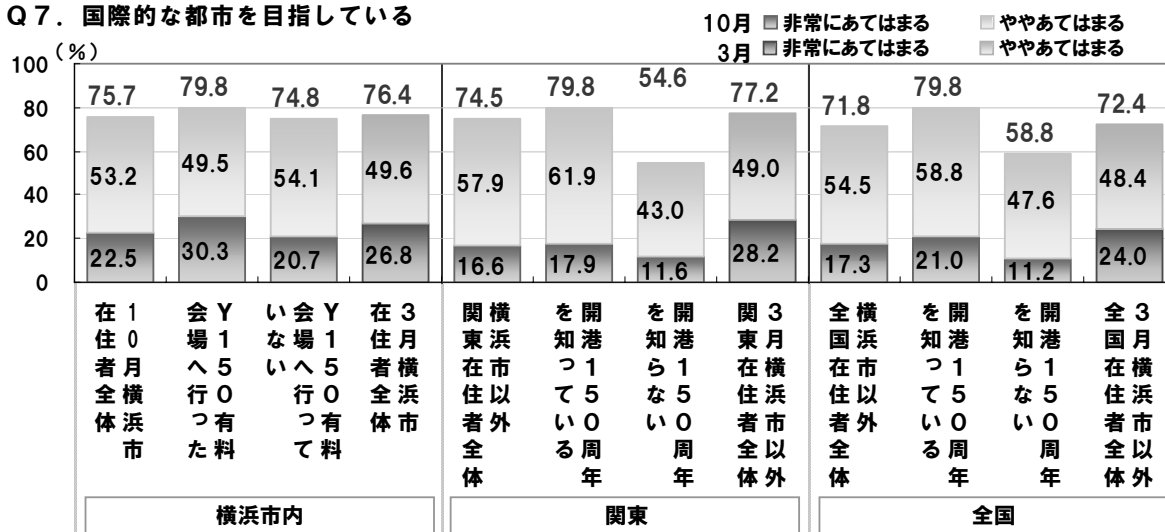
Q7. 歴史的記念施設が多い



(出典)「横浜開港150周年に伴うイメージ調査」

「国際的な都市を目指している」というイメージについて、全体ベースでの比較では、3月調査と10月調査では、大きな傾向の違いは見られませんでした。なお、関東・全国在住者では、開港150周年を知っている人と知らない人で差が大きく、20~25%程度の差がみられました。横浜への関心の高さや情報接触がこのイメージに繋がっていることが伺えました。

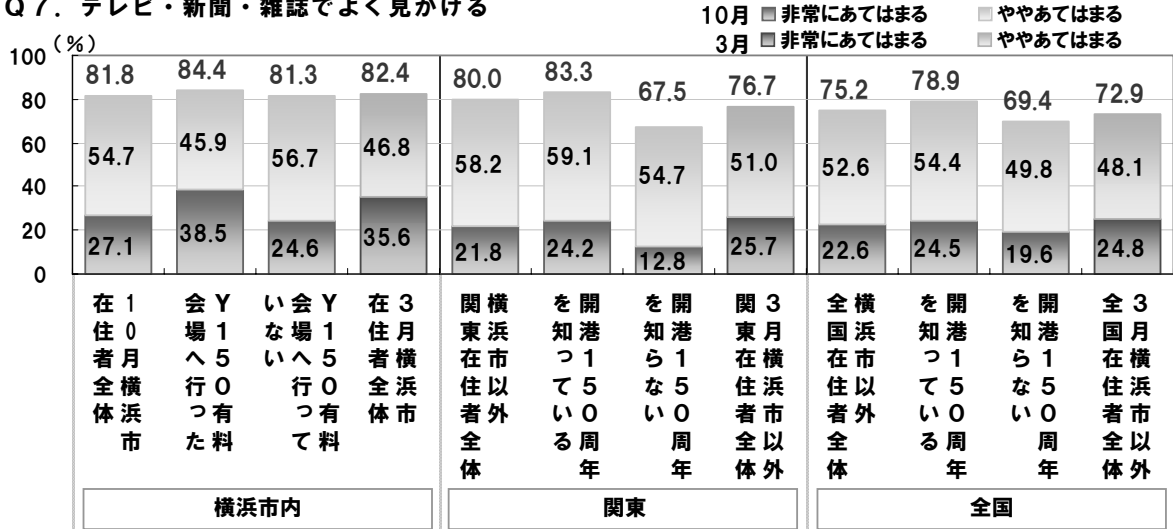
Q7. 国際的な都市を目指している



(出典)「横浜開港150周年に伴うイメージ調査」

「テレビ・新聞・雑誌でよく見かける」については、「非常にあてはまる」「ややあてはまる」の合計ではほぼ同じくらいで変化はありませんが、「非常にあてはまる」でみると全体的に低下している傾向がみられました。

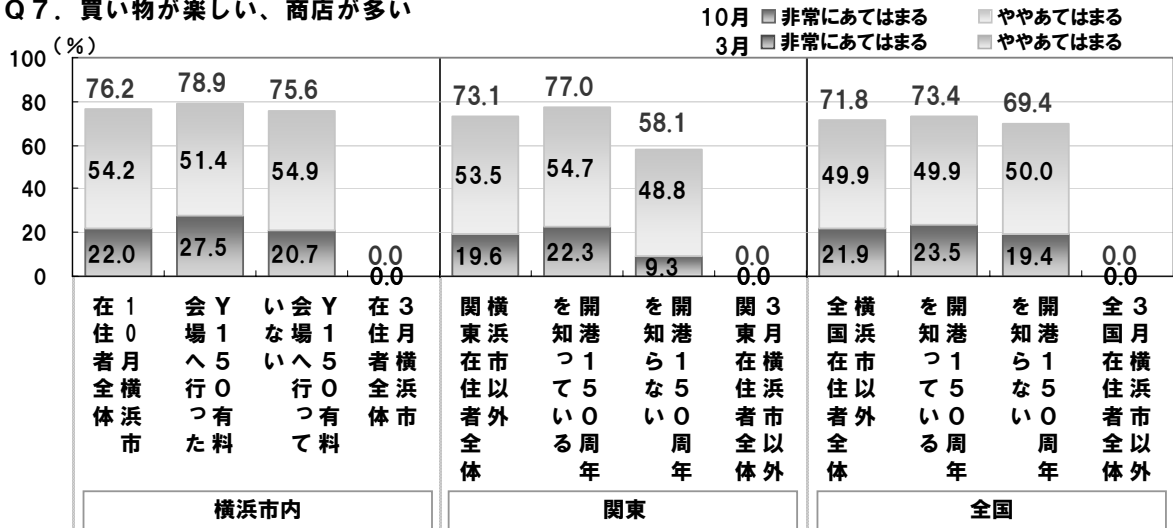
Q 7. テレビ・新聞・雑誌でよく見かける



(出典)「横浜開港 150 周年に伴うイメージ調査」

次は 10 月調査で新たに追加した設問のため 3 月の数値はありませんが、横浜市内在住者で 76.2%、市外の関東在住者で 73.1%、全国在住者では 71.8%と、全体的に「買い物が楽しい、商店が多い」というイメージをもたれていることが確認されました。

Q 7. 買い物が楽しい、商店が多い



(出典)「横浜開港 150 周年に伴うイメージ調査」

(4-4)マザーポートエリア来街者にみる横浜のイメージ変化

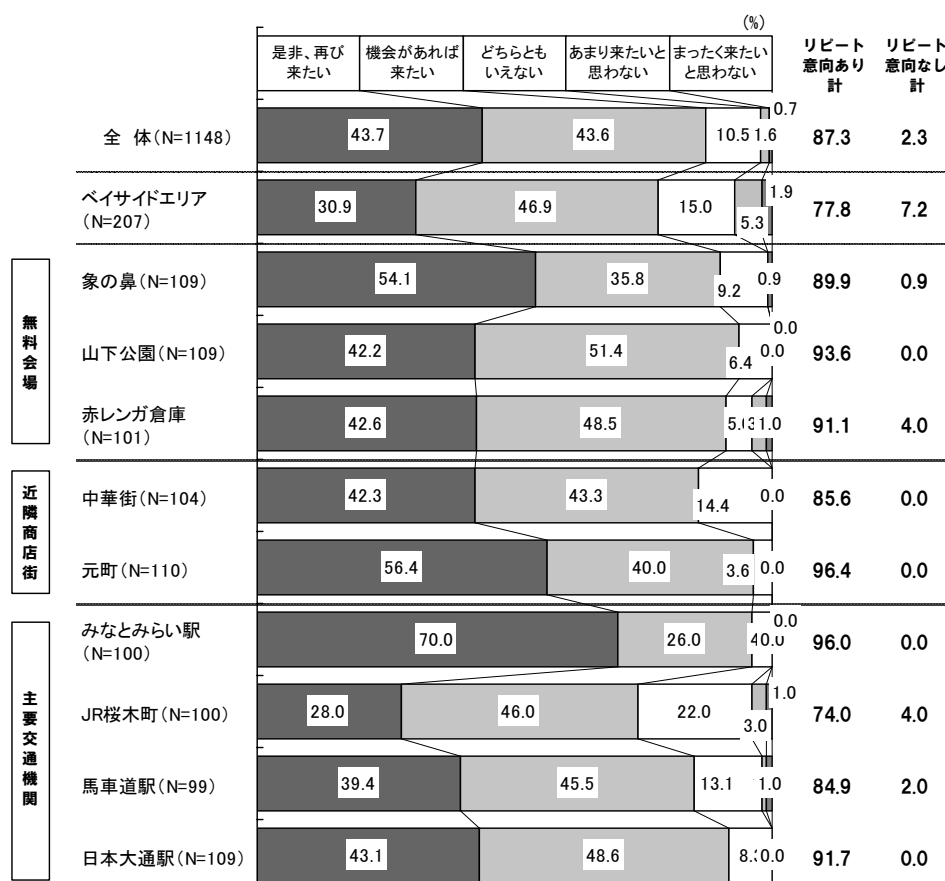
9月に行った来街者に対する路上アンケートで、横浜への再来訪希望やイメージ変化を聞いたところ、再来訪希望は87.3%、また横浜に対する好感度が「良くなった」85.6%と、いずれも高い回答結果でした。(4-3)に見たWeb調査と同様、開港150周年記念事業などをきっかけに実際に横浜を訪れた人にとって、その経験が横浜の魅力を再確認する結果となったことが、ここから読み取れます。

■マザーポートエリア全体のリピート意向(また来たい計 87.3%)

マザーポートエリア全体についてのリピート意向として「今日マザーポートエリアを訪れて、また来たいと思いましたが」と質問したところ、全体では43.7%が「是非、再び来たい」と回答。「機会があれば来たい」43.6%とあわせて87.3%と非常に多くの訪問者がマザーポートエリアへのリピート意向を示しました。

地点別に見ると、「みなとみらい駅」がもっとも高く、70.0%が「是非、再び来たい」と回答しました。「みなとみらい駅」と「元町」は「機会があれば～」をあわせると、ほぼ全ての回答者がリピート意向を示しました。

Q16. 今日、マザーポートエリアを訪れて、また来たいと思いましたが。



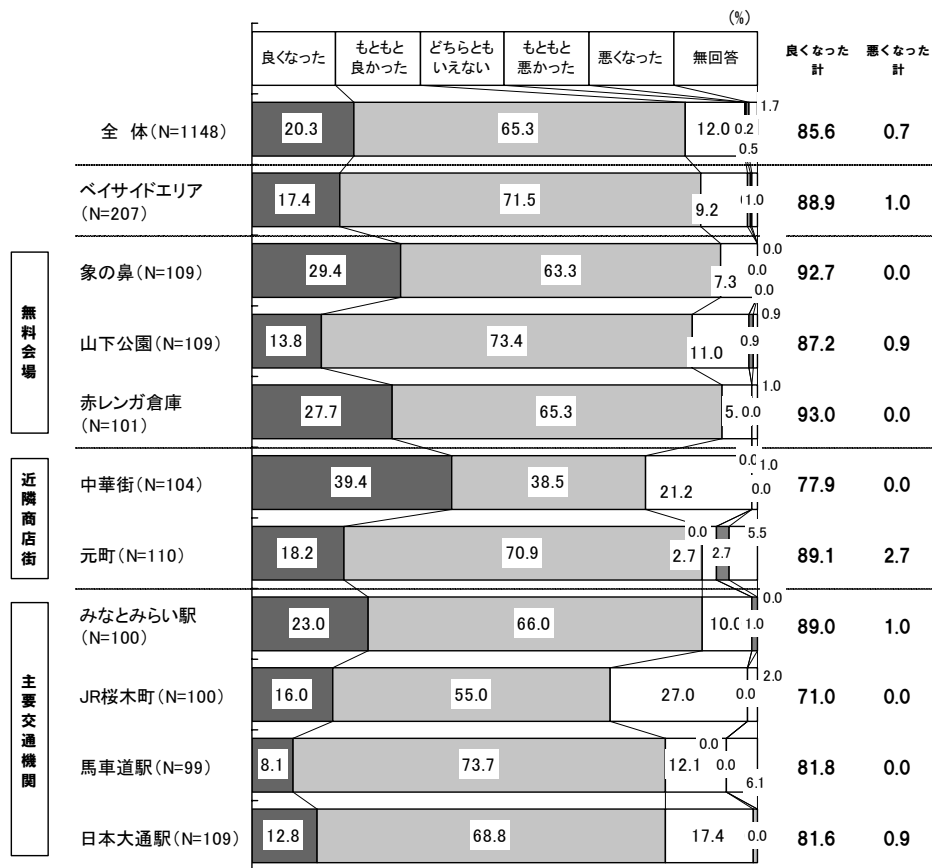
(出典)「来街者アンケート」マザーポートエリア n=1148

■マザーポートエリア訪問によるイメージ変化

マザーポートエリアを訪れたことで横浜に対する印象（好感度）が変化したかを質問したところ、多くの地点で「もともと良かった」が7割前後を占めており、イメージが良くなったとする人とあわせると7割～9割が良いイメージを持っていると回答されました。また、「悪くなった」「もともと悪かった」との回答はほぼ皆無であり、横浜の魅力が再確認される結果となりました。

なお、中華街や赤レンガ倉庫で「良くなった」が高いのは、市外からの来訪者の比率が高いからだと考えられます。

Q17. 今日、マザーポートエリアを訪れたことで、横浜に対する印象（好感度）は変化しましたか？

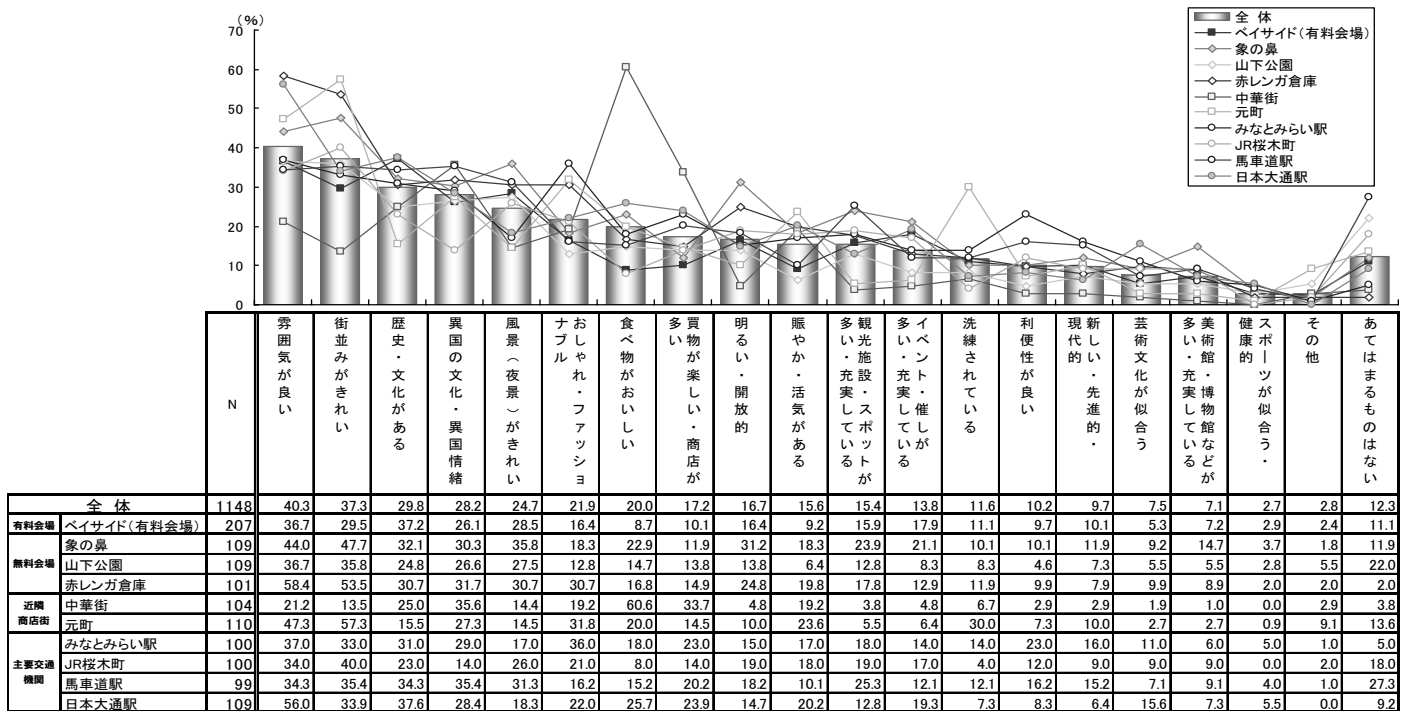


(出典)「来街者アンケート」マザーポートエリア n=1148

■マザーポートエリア訪問によるイメージ変化

今回マザーポートエリアを訪れて、何か新たな発見があったり新たな印象を持ったことがあるかを聞いたところ、「歴史・文化がある」37.2%、「雰囲気が良い」36.7%、などのイメージ変化が多く挙げられました。また「街並みがきれい」「風景(夜景)がきれい」など街の景観に関するイメージもポジティブに変化していました。

Q14. 今日、マザーポートエリアにいらして、横浜に対して何か新たな発見をしたり、新たな印象を持ったことはありましたか？あれば、あてはまるものを全てお答え下さい。



(出典)「来街者アンケート」マザーポートエリア n=1148

(4-5) 開国博 Y150 の来場者による評価

開国博 Y150 の総来場者数は 716 万 6,300 人で、うち有料入場者数は 123 万 9,325 人でした。有料入場者の内訳ではベイサイドエリアが 111 万 3,403 人、ヒルサイドエリアが 12 万 5,922 人でした。また教育プログラムや修学旅行など、学校団体割引入場券の利用が 25 万 4,425 人となっており、多くの小中学校生、高校生が来場しました。

ベイサイドエリア（有料会場）の来場者アンケートでは 72.3%が「楽しかった」と回答しました。良かったコンテンツとその理由では、「ラ・マシン」の珍しさや迫力などが挙げられました。

開国博 Y150 のようなイベント・催しへのリピート意向は 62.2%、マザーポートエリアへのリピート意向は 87.3%など、リピート意向からも一定の評価を受けていたことが確認されました。

なお、ベイサイドエリア（有料会場）を訪問していない人の“行かない理由”としては「興味関心が無い」（29.2%）、「入場料金が低い・有料」（22.0%）、「機会がない」（18.3%）などが挙げられました。

ヒルサイドエリア（有料会場）の来場者アンケートでは 75.3%が「楽しかった」と回答。自然とのふれあいが多くことや色々な体験ができたことが、良かった理由として挙げられました。

ヒルサイドエリア（有料会場）は市民創発プロジェクトを中心とした市民参加型のイベントであり、来場者と市民との交流も活発に行われました。来場者アンケート結果では 56.6%が市民との交流ができたと回答しました。また市民参加型といったコンセプトにも 89.3%が共感すると回答しました。

子どもの評価では、ベイサイドエリア（有料会場）・ヒルサイドエリア（有料会場）ともに、9割以上が楽しかったと回答しました。また、今回の開国博 Y150 は勉強になったと答えた子どもも多く、ベイサイドエリア（有料会場）で 65.8%、ヒルサイドエリア（有料会場）で 81.6%の子どもが勉強になったと回答しました。

また開国博 Y150 によって「横浜を好きになった」と答える子どもが約 80%あり、そのうち約 50%が「前から好きだったが、さらに好きになった」、約 30%が「今回のイベントで好きになった」と回答しました。

来場者アンケートの結果からは、実際に来場し参加した人は開国博 Y150 に対して一定の評価をしていることがうかがえる結果となりました。

ア 開国博 Y150 への来場者

財団法人横浜開港 150 周年協会が発表した、平成 21 年 4 月 28 日（火）の開幕から 9 月 27 日（日）までの 153 日間の「開国博 Y150」の総来場者数は 716 万 6,300 人、うち有料入場者数は 123 万 9,325 人となりました。

その内訳では、ベイサイドエリアが 111 万 3,403 人、ヒルサイドエリアが 12 万 5,922 人、プレイベント動員数が 62 万人となっています。

開国博 Y150 来場者数	
総来場者数	716 万 6,300 人
・うち有料入場者数	123 万 9,325 人
（内訳）ベイサイドエリア	111 万 3,403 人
ヒルサイドエリア	12 万 5,922 人
・うちプレイベント動員数	62 万人

(出典)横浜開港 150 周年協会発表(平成 21 年 9 月 28 日)

イ 開国博 Y150 への修学旅行等での学校団体来場者数

■開国博 Y150 への修学旅行等は約 43,800 人と推計

開国博 Y150 への小中学生、高校生の参加状況では、「学校団体割引入場券」の販売実績は小・中学生で 220,462 枚、高校生 33,963 枚で、合計 254,425 枚となりました。

ここから教育プログラム参加者数を引いたものが、修学旅行など遠方からの団体来場であると考えことができ、その数字は小中学生で 17,931 人、高校生で 25,940 人、合計 43,871 人と推計できます。

開国博 Y150 学校団体割引入場券の販売実績

		小中学生	高校生	特別支援学校	合計
A	ベイサイド会場	198,667	33,919	—	232,586
	ヒルサイド会場	21,795	44	—	21,839
	合計	220,462	33,963	—	254,425
B	うち教育プログラム参加	202,531	8,023	324	210,878
A-B	修学旅行等の団体（推定）	17,931	25,940	—	43,871

(出典)横浜開港 150 周年協会まとめ

教育プログラム参加状況（再掲）

		横浜市立	町田市立	相模原市立	八王子市立	横浜市内 私学	合計
小学校	校数	345	12	3	8	2	370
	人数	130,620	1,144	342	588	604	133,298
中学校	校数	144		4	3	4	155
	人数	67,291		512	336	1,094	69,233
高等学校	校数	10				5	15
	人数	6,291				1,732	8,023
特別支援 学校	校数	9					9
	人数	324					324
校数計		508	12	7	11	11	549
人数計		204,526	1,144	854	924	3,430	210,878

(出典)横浜開港 150 周年協会まとめ

ウ ベイサイドエリア(有料会場)来場者による評価・感想

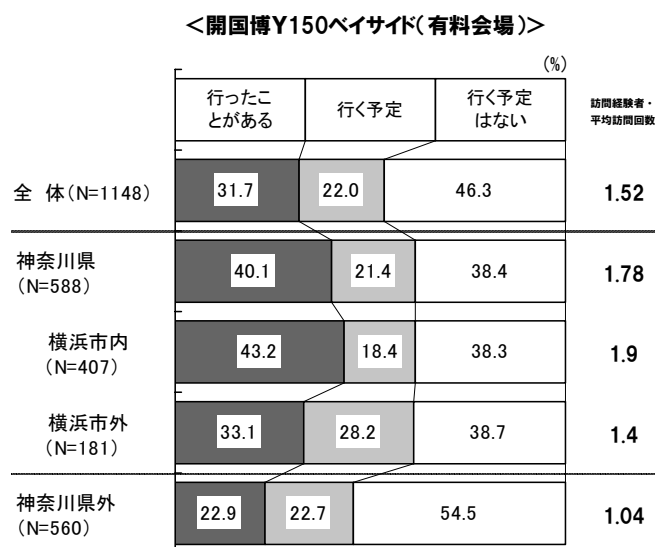
■楽しかった(計 72.3%)

9月12日(土)、13日(日)に実施した、マザーポートエリアへの来街者アンケートで、開国博 Y150 ベイサイドエリア(有料会場)を訪問したことがある人の割合は全体の31.7%でした。なお、「行く予定」までを含めると53.7%と約半数程度がベイサイドエリア(有料会場)を訪れることになります。

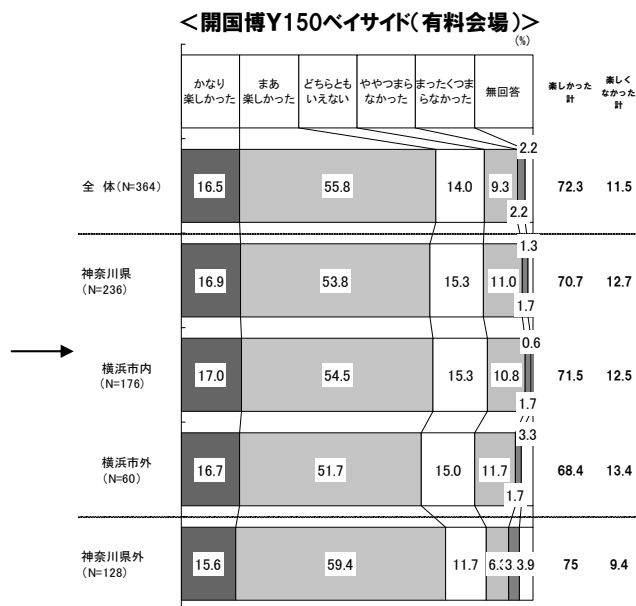
ベイサイドエリア(有料会場)に行ったことのある人に限定して感想を聞いたところ、「かなり楽しかった」が16.5%、「まあ楽しかった」が55.8%となり、あわせて72.3%の人が開国博 Y150 を楽しかったと評価しました。

一方で、行く予定がない理由としては、「興味・関心がない」が29.2%で一番に挙げられました。なおマザーポートエリア来街者がヒルサイドエリアに行かない理由としては、「遠い・交通が不便」が24.9%で一番に挙げられました。

Q8. 「開国博Y150」は主にベイサイドエリア(横浜・赤レンガ倉庫周辺)とヒルサイドエリア(よこはま動物園ズーラシア隣接地区)の2つの会場で行われています。それぞれの会場に行ったことがありますか？行ったことがある場合は回数もお答えください。



Q9. あなたは、「開国博Y150」に実際行かれてみて、どのように感じましたか？



ベイサイドエリアに行かない理由 (n=531)		ヒルサイドエリアに行かない理由 (n=798)	
興味・関心がない	29.2%	遠い・交通が不便	24.9%
入場料が高い・有料	22.0%	興味・関心がない	21.9%
機会がない	18.3%	機会がない	21.3%
内容が分からない・知らない	15.1%	内容が分からない・知らない	13.3%
その他	8.3%	入場料が高い・有料	5.4%

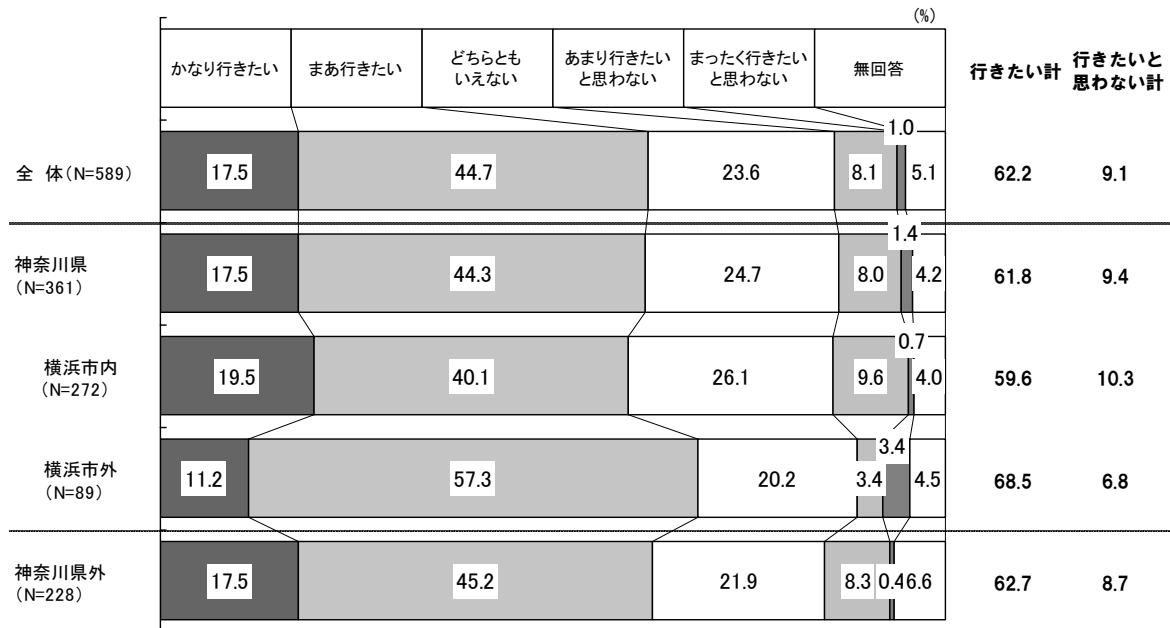
(出典)「来街者アンケート」マザーポートエリア n=1148

■リピート意向(また行きたい計 62.2%)

「また開国博Y150のようなイベント・催しがあれば、行ってみたいと思いますか？」という形で質問をしたところ、「かなり行きたい」との回答が 17.5%で、「まあ行きたい」の 44.7%とあわせて 62.2%がまた行きたいと答えました。

特に市内在住者では約 2 割が「かなり行きたい」と強い回答をしており、一定のリピート意向が確認できました。

Q11. また開国博Y150(バイサイド)のようなイベント・催しがあれば、行ってみたいと思いますか。



(出典)「来街者アンケート」

※マザーポートエリア n=1148 のうち開国博 Y150 に行ったことのある 589 人を対象に集計

■良かった会場・コンテンツ(ラ・マシン、スーパーハイビジョンシアターなど)

開国博 Y150 バイサイドエリア (有料会場) を訪問した人に良かったと思う会場やコンテンツを自由意見として聞いたところ、もっとも多かったのが「ラ・マシン」で 23.1%で、「大きくてびっくりした」「巨大クモから水しぶきがあがって子供も楽しめて良かった」「日本では見られないものが見れて良かった」「開国博 Y150 の為に初上陸したので、実際に見てすばらしかった」などが理由として挙げられています。

次は「NISSAN Y150 ドリームフロント&スーパーハイビジョンシアター」が 21.5%で、「ハイビジョンが映像がキレイ」「地球について改めて考えました」「エコのことが考えさせられて良かった。思いやりを感じた」「未来のこと、エコのことでわくわくした」など映像や音響への評価だけでなく、エコをテーマとしたコンテンツ自体も評価の理由として挙げられています。

次いで「赤レンガ」が 15.3%、「象の鼻パーク」が 6.3%、アンケート期間中に特別公開していた「かいよう」が 3.7%と続いています。

■表：良かった会場・コンテンツと主な感想（抜粋）

1位	<p>ラ・マシ 23.1%</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ クモが大きくてびっくりした。子供が大喜びだった。[男性/30～34才/会社員] ▶ 巨大クモから水しぶきがあがって子供も楽しめて良かった。[女性/40～44才/主婦] ▶ 現物を生で見れたので。テレビで見ただけだったので。日本では見られないものが見れて良かった。[女性/20～24才/会社員] ▶ 今迄見た事もない大きさに圧倒した。驚いた。前に来て感動した。[男性/16～19才/学生] ▶ 開国博Y150の為に初上陸したので、実際に見てすばらしかった。[男性/35～39才/公務員]
2位	<p>NISSAN Y150 ドリームフロント&スーパーハイビジョンシアター 21.5%</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ハイビジョンが映像がキレイ。地球温暖化について考えさせられた。[男性/50～54才/会社員] ▶ 地球について改めて考えました。映像・音が素晴らしかった。はっばにメッセージを書くアイデアが楽しかった。[女性/40～44才/主婦] ▶ エコのことが考えさせられて良かった。思いやりを感じた。[男性/60才以上/無職] ▶ 映像がきれいだった。未来の子供達へのメッセージを感じられた。[女性/45～49才/主婦] ▶ おもしろい。未来のこと、エコのことでわくわくした。[男性/50～54才/会社員]
3位	<p>赤レンガ 15.3%</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 異国文化を感じられてとても良い！[男性/55～59才/公務員] ▶ 横浜のグッズやお土産が揃っていて良かった。[女性/40～44才/会社員] ▶ ゆったりしていて自由に人が歩けるところが魅力。海が見えて気持ちの良い風が横浜港町らしい。[女性/25～29才/公務員] ▶ 色々な模様が横浜らしく良かった。[女性/50～54才/会社員] ▶ 開国博Y150にちなんで、色々なイベントをやっていて良かった。[女性/20～24才/パート・アルバイト]
4位	<p>象の鼻パーク 6.3%</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 野外イベントが楽しかった。[女性/60才以上/主婦] ▶ いろんなバンドの方が参加されていて楽しかった。[女性/25～29才/会社員] ▶ 今後も、市民のいこいの場になる。良い作り。石で作った段がありゆったりくつろげる。[女性/50～54才/公務員] ▶ 象の鼻会場にあった鳥の巣のオブジェなど子供が楽しめてよかった。[女性/40～44才/自由業] ▶ トリックアートとか色々やっていて楽しかった。[女性/25～29才/主婦]
5位	<p>かいよう 3.7%</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 勉強になった。[女性/25～29才/公務員] ▶ 無料であり見学できない船舶が見れました。[女性/35～39才/主婦] ▶ 中の見学が出来て良かった。[女性/45～49才/主婦] ▶ 船の一般こうかい。かいようの中に入れたこと。[女性/40～44才/会社員] ▶ 船の中がよく見れて一般公開して良かった。(かいよう) [女性/30～34才/会社員]

(出典)「来街者アンケート」

※マザーポートエリアn=1148のうち開国博Y150に行ったことのある589人を対象に集計

エ ヒルサイドエリア(有料会場)来場者による評価・感想

■楽しかった(計 75.3%)

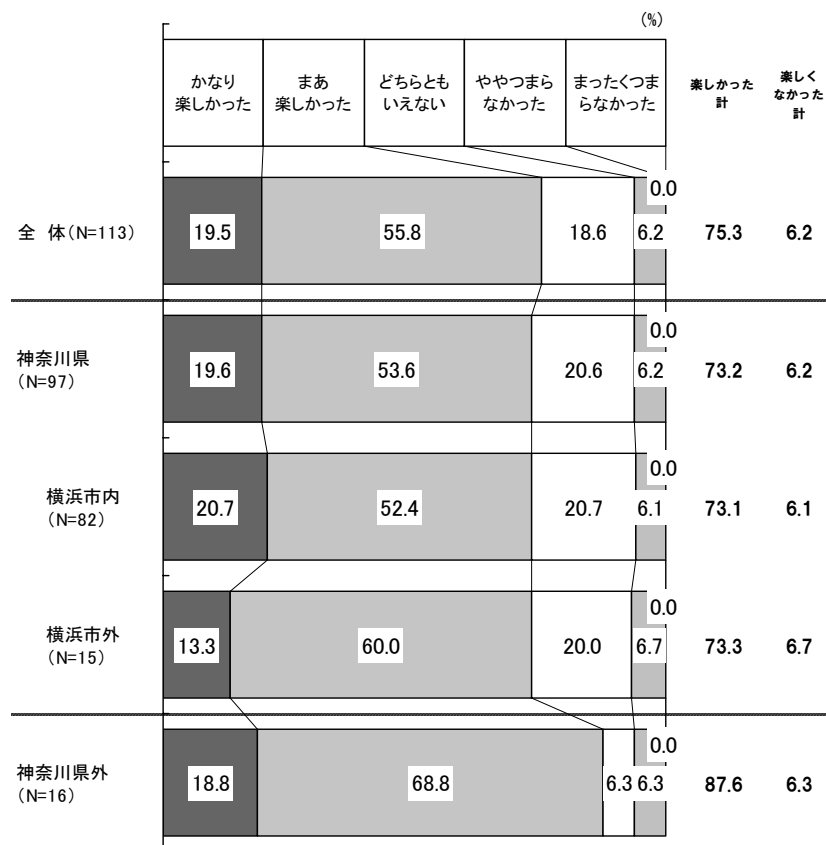
ヒルサイドエリア(有料会場)を訪れた人の感想では、「かなり楽しかった」が19.5%、「まあ楽しかった」が55.8%で、あわせて75.3%の人が楽しかったと回答しました。ネガティブな反応は「ややつまらなかった」が6.2%と少ない結果となりました。

内訳を見ると、市内在住者が「かなり楽しかった」と回答した割合が20.7%と高めになっています。また、サンプル数は少ないものの神奈川県外からの来場者の「楽しかった(計)」が87.8%と高い結果となりました。

ヒルサイドエリア(有料会場)を訪れた理由としては「おもしろそうだったから」が最も多く、46.9%となりました。

Q7. あなたは、「開国博Y150」に実際行かれてみて、どのように感じましたか？
 ベイサイド(有料/無料)、ヒルサイドそれぞれの会場についてお答え下さい。

<開国博Y150ベイサイド(ヒルサイド)>



ヒルサイドエリアを訪れた理由		
1位	おもしろそうだったから	46.9%
2位	話題になっているから	16.8%
2位	楽しそうだったから	16.8%
4位	誘われたから	12.4%

(出典)「来街者アンケート」開国博Y150 ヒルサイドエリア(有料会場)n=113

■良かった理由は「自然とのふれあいが多い」「色々な体験ができた」

ヒルサイドエリア（有料会場）の来場者に、何がどのように良かったかを自由回答で質問したところ、「自然とのふれあいが多い」との意見が最も多く、次いで「いろいろな体験ができた」、「子どもが楽しめる内容だった」といった意見が並びました。

「自然と一体となり、とても居心地が良かった」など自然と調和した会場の評価が高いことに加え、「体験出来る催しが多くて良かった」「特に体験出来ることが良かった」など体験型のイベント・催しを中心であることを評価する意見も目立ちました。

また、特に親子連れの来場者からは「体験がたくさん出来て子供たちが大変楽しんでいます」「子供達が体験出来るゾーンが多くて良かった」「子供と一緒に楽しめる」など、子どもがさまざまな体験ができた点が評価されました。

■表：何がどのように良かったと思ったか・自由意見回答（抜粋）

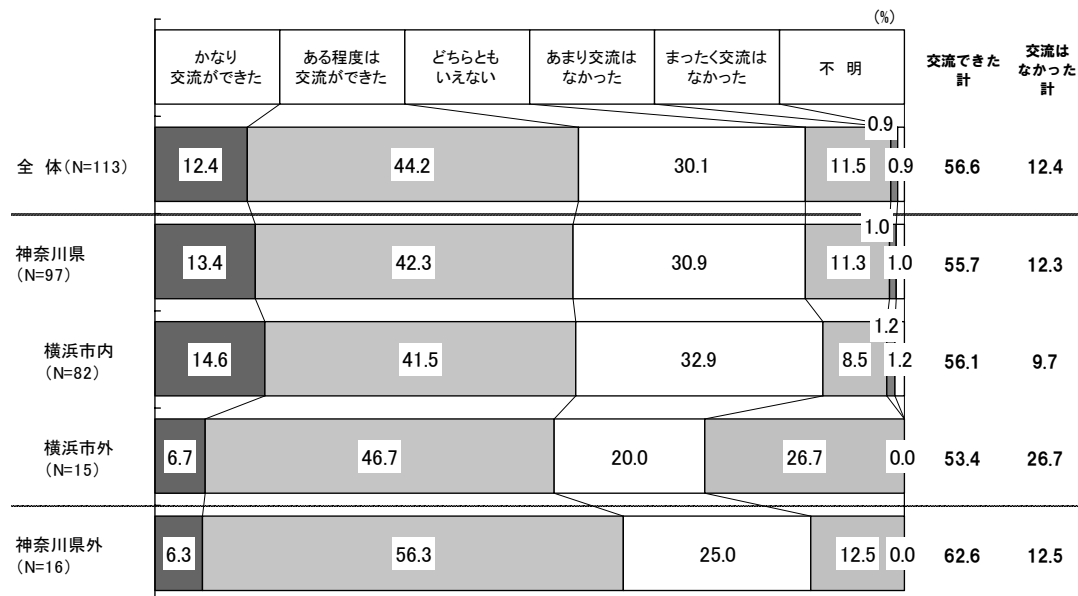
1位	<p>自然とのふれあいが多い 35.4%</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 自然体験できるところのんびりできて良いと思います。[女性/30～34 才/会社員] ▶ もともと、自然な物や身近なものを使った作品が好きだから、すごく楽しめた。特に森の中は良かった。[女性/16～19 才/学生] ▶ <u>自然と一体となり、とても居心地が良かった</u>です。スタッフの方々も本当に感じよく、リフレッシュしつつ楽しめた。[女性/40～44 才/会社員] ▶ まず、自然を通常より身近なものと感じたこと。世界には貧しい子供達がいるということ、子供が知ったこと。[男性/40～44 才/公務員] ▶ 自然の恵み、豊かさを分かりやすく伝えていていると思う。農村の方のメッセージを見て、都会の若者が少しでも興味を持ってくれれば…と思った。[女性/30～34 才/公務員]
2位	<p>色々な体験ができた 23.0%</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ <u>体験出来る催しが多くて良かった</u>。お花、お茶、しおり、金魚作り、クイズ等、親子で楽しめた。[女性/40～44 才/主婦] ▶ ワークショップが沢山あり、楽しめました（作品を作ることが出来た）。[女性/35～39 才/主婦] ▶ イベントが多く、<u>特に体験出来ることが良かった</u>（畑の説明、収穫祭などが良かった）。[女性/35～39 才/主婦] ▶ 気軽に参加出来るものが多く、自然やエコについての体験が、子供と一緒に出来て良かったです。[女性/35～39 才/主婦] ▶ ベイサイドより身近なエコを扱っているのと、体験ブースが多いので誰でも楽しめる。[女性/20～24 才/学生]
3位	<p>子供が楽しめる内容だった 9.7%</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ <u>体験がたくさん出来て子供たちが大変楽しんでいます</u>。あと 2 週間と残り少ない日数のなかで、もう一度家族で来たいと思っています。[女性/35～39 才/主婦] ▶ 子供が参加出来て楽しいと言っていました。[女性/35～39 才/主婦] ▶ <u>子供達が体験出来るゾーンが多くて良かった</u>。[女性/35～39 才/会社員] ▶ 子供と一緒に楽しめる。<u>市民の協力で楽しいイベントになった</u>。[男性/40～44 才/会社員] ▶ 本日で 3 回目なのですが、<u>毎回子供達が参加出来るイベントなどがたくさんあって、楽しい</u>です。夏休みに本当にいい体験が出来ました。[女性/40～44 才/主婦] ▶ 開国博 Y150 にちなんで、色々なイベントをやっていて良かった。[女性/20～24 才/パート・アルバイト]

(出典)「来街者アンケート」開国博 Y150 ヒルサイドエリア(有料会場)n=113

■市民交流評価:「交流できた」が 56.6%

今回のヒルサイドエリア（有料会場）に参加している市民の方々と交流ができたと思いますか？との質問に対し、「かなり交流ができた」と回答した人は 12.4%で、「ある程度は交流ができた」が 44.2%、あわせて 56.6%と過半数を超える来場者が参加している市民と交流ができたと回答しました。

Q11. あなたは、今回のヒルサイドエリアに参加している市民の方々と交流ができたと思いますか？

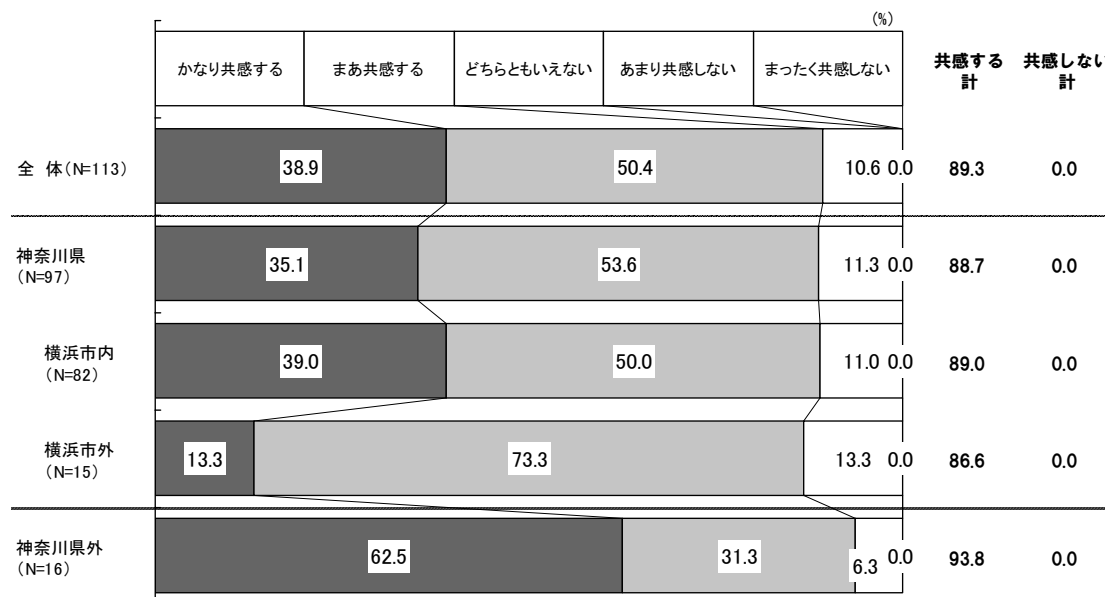


(出典)「来街者アンケート」開国博 Y150 ヒルサイドエリア(有料会場)n=113

■市民交流評価:コンセプトに共感する人が 89.3%

今回の“市民参加型”イベントというコンセプトに対しては、「かなり共感する」が 38.9%、「まあ共感する」が 50.4%となっており、合計 89.3%と圧倒的多数の来場者がコンセプトに共感を示しており、高く評価されていることが伺えます。

Q10. ヒルサイドエリアでは、公募で集まった市民スタッフが中心となって創った「Y150 つながりの森」が展開されています。あなたは、このような市民参加型のイベントというコンセプト(考え方)について、どう思いますか？



(出典)「来街者アンケート」開国博 Y150 ヒルサイドエリア(有料会場)n=113

■スタッフの対応が良かった、参加型なので楽しめたとの感想

ヒルサイドエリア（有料会場）の市民参加事業に触れてどのような感想を持たれましたか？と自由意見で感想やご意見を聞いたところ、「スタッフの対応が良かった」など市民が一体となってイベントを盛り上げるために一生懸命に取り組んでいる様子を評価する意見や、参加型のイベントであることを評価する意見が多く挙がりました。

スタッフの対応が良かった
<ul style="list-style-type: none"> ▶ 市民の方たちが横浜を良く知ってもらおう、良くしようと一生懸命に活動している事が良いことだと思います。今後もいろいろなイベントに参加していただきたいと思います。[女性/50～54才/主婦] ▶ みなさん笑顔が良く、<u>連帯感</u>があってこちらも気持ちが良いです。[女性/35～39才/主婦] ▶ <u>市民が手作り</u>でイベントを作っているのが良い。[男性/45～49才/会社員] ▶ 幅広い年齢層の方がスタッフとして参加されていて、交流している様子が良かった。[男性/30～34才/会社員]
参加型なので楽しめた
<ul style="list-style-type: none"> ▶ 押し付けの企画よりも子供は大変喜んだと思います。子供からすると、自分の興味に従って好きに参加出来たのが良かったのだと思います。[男性/40～44才/公務員] ▶ 自主参加型で、熱心さに感動した。[男性/35～39才/公務員] ▶ 楽しみにしていました。大勢の方と一緒に同じ楽しみを味わい、参加する大切さを知りました。[女性/60才以上/主婦]

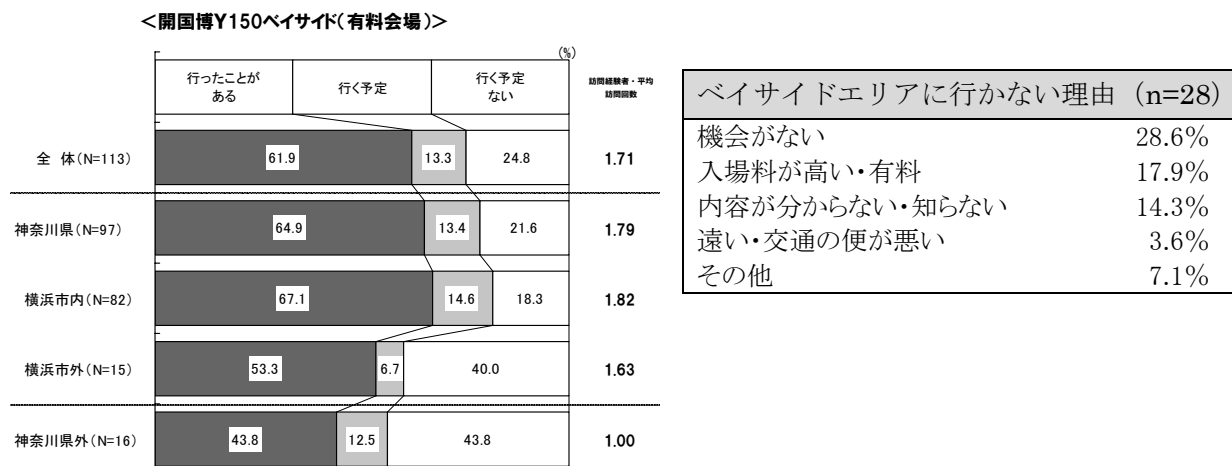
(出典)「来街者アンケート」ヒルサイド n=113

■ベイサイドエリア(有料会場)への訪問経験は6割程度

ヒルサイドエリア（有料会場）の来場者で、すでにベイサイドエリア（有料会場）に「行ったことがある」人は61.9%で、今後「行く予定」が13.3%となっており、合わせると75.2%（市内在住者では81.7%）の人がベイサイドエリア・ヒルサイドエリアの両会場を訪れています。

ベイサイドエリア（有料会場）に行かない理由では「機会がない」がトップで28.6%となりました。

Q6.「開国博Y150」は主にベイサイドエリア(横浜・赤レンガ倉庫周辺)とヒルサイドエリア(よこはま動物園ズーラシア隣接地区)の2つの会場で行われています。それぞれの会場に行ったことがありますか？行ったことがある場合は回数もお答えください。



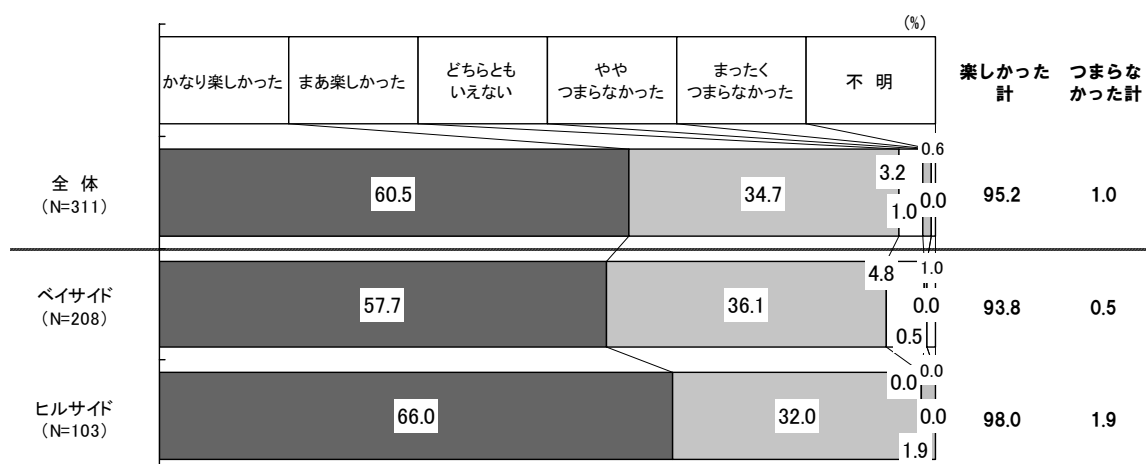
(出典)「来街者アンケート」開国博 Y150 ヒルサイドエリア(有料会場) n=113

オ 子どもの評価・感想

■圧倒的多数の子どもが「楽しかった」と評価

子どもの来場者の感想では、ベイサイドエリア（有料会場）で「かなり楽しかった」が 57.7%、「まあ楽しかった」が 34.7%となっており、あわせて 93.8%が楽しかったと回答しました。参画性の強い企画が中心のヒルサイドエリア（有料会場）では「かなり楽しかった」が 66.0%と非常に高く、「まあ楽しかった」の 32.0%を加えると 98.0%と圧倒的多数の子どもたちが楽しかったと評価しました。

Q3. 今日、「開国博Y150」(ベイサイド/ヒルサイドエリア)に来て、楽しかったですか？



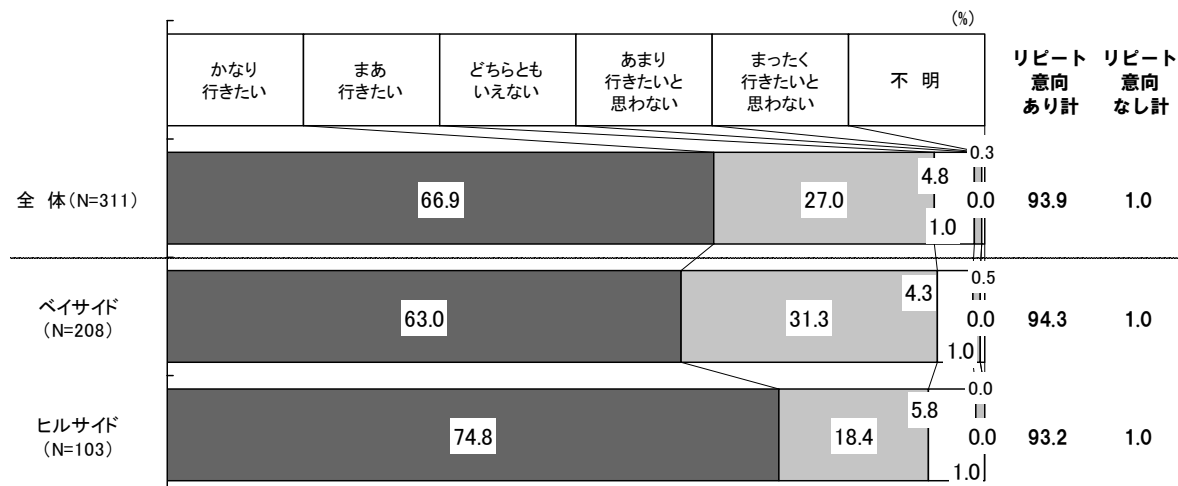
(出典)「来街者アンケート」開国博 Y150 ベイサイドエリア子ども n=208、開国博 Y150 ヒルサイドエリア子ども n=103

■リピート意向は両会場とも 9 割以上

ベイサイドエリア（有料会場）、ヒルサイドエリア（有料会場）ともに、また今回のようなイベントがあれば行ってみたいと思うか？の質問に対して 9 割以上の圧倒的多数がリピート意向を示しました。

ベイサイドエリア（有料会場）では 63.0%、ヒルサイドエリア（有料会場）では 74.8%と多くの子どもが「かなり行きたい」と回答しました。

Q12. また今回のようなイベントがあれば、行ってみたいと思いますか？



(出典)「来街者アンケート」開国博 Y150 ベイサイドエリア子ども n=208、開国博 Y150 ヒルサイドエリア子ども n=103

■ベイサイドエリアで面白かったと評価されたものは「ラ・マシン」「横浜ものがたり」など

ベイサイドエリア(有料会場)で子どもたちに支持されたイベントは「ラ・マシン」がトップでした。次いで「横浜ものがたり」や「黒船トリックアート」が挙がりました。

1位	ラ・マシン 75.0%
	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 大きくて動くし、すごい技術を使っているから。[男性/10才/小学4年生] ▶ 水をかけられた事が、びっくりしたけど楽しかった。[女性/9才/小学3年生] ▶ くもが機械というのがすごかった。[男性/8才/小学3年生] ▶ 選ばれて上にのぼって、マイクとゴーグルをつけて係の人と同じ格好で乗れたこと。[女性/11才/小学5年生]
2位	横浜ものがたり 7.7%
	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 歴史がわかる。[女性/9才/小学4年生] ▶ 昔の事がわかったので、おもしろい。[女性/9才/小学3年生] ▶ ボタンを押せたり電話したりできた。[女性/10才/小学4年生]
3位	黒船トリックアート 3.8%
	<ul style="list-style-type: none"> ▶ トリックアートは普通の絵なのに、虫眼鏡で見て迫力がある所。[女性/11才/小学5年生] ▶ 浮かんで見えるのがとても楽しかった(自分が立体的)。[女性/7才/小学2年生] ▶ 目の前にあるのか近くにあるかのように見えた。[男性/8才/小学2年生]

(出典)「来街者アンケート」ベイサイドエリア子ども n=208

■ヒルサイドエリアで面白かったと評価されたものは「クイズ・スタンプラリー」「押し花に学ぶ創造の世界」など

ヒルサイドエリア(有料会場)では、「クイズ・スタンプラリー」のほか、「押し花に学ぶ創造の世界」や「ぞうさん(糞)からのメッセージ」など、実際に作品を作ってみる“ものづくり体験”系のコンテンツが上位に挙がりました。

そのほか「かみなり大王ゴロゴロ」(6.8%)や「巨木体感プロジェクト」(5.8%)などの体感型のコンテンツも楽しかったと評価されました。

1位	クイズ・スタンプラリー 14.6%
	<ul style="list-style-type: none"> ▶ いろいろな体験ができたり、クイズがあって面白かった。[女性/11才/小学6年生] ▶ 普段のクイズとちがってあまりむずかしくないけどいいと思った。色々な所をまわる。[男性/10才/小学5年生] ▶ 場所を探してスタンプを押してもらう。地図を見ながら探るのが面白かった。[男性/11才/小学5年生]
2位	押し花に学ぶ創造の世界 13.6%
	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 自分で色々考えて作れる。作った作品は持ち帰れる。[女性/10才/小学5年生] ▶ 自分で作れたのでよかった。色々な物を使って。[男性/11才/小学6年生] ▶ きれいに作る様に工夫した事。[女性/9才/小学4年生] ▶ 自分でアレンジして好きな詩織を作った。[女性/10才/小学5年生]
3位	ぞうさん(糞)からのメッセージ 7.8%
	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ぞうのうちを水に浮かばすのが楽しかった(手にふれる事もできた)。[女性/8才/小学2年生] ▶ ぞうさんのふんではがきを作ったことが面白かった。[女性/8才/小学3年生] ▶ ぞうさんのふんで紙が出来た事。[女性/8才/小学2年生]

(出典)「来街者アンケート」開国博 Y150 ヒルサイドエリア・子ども n=103

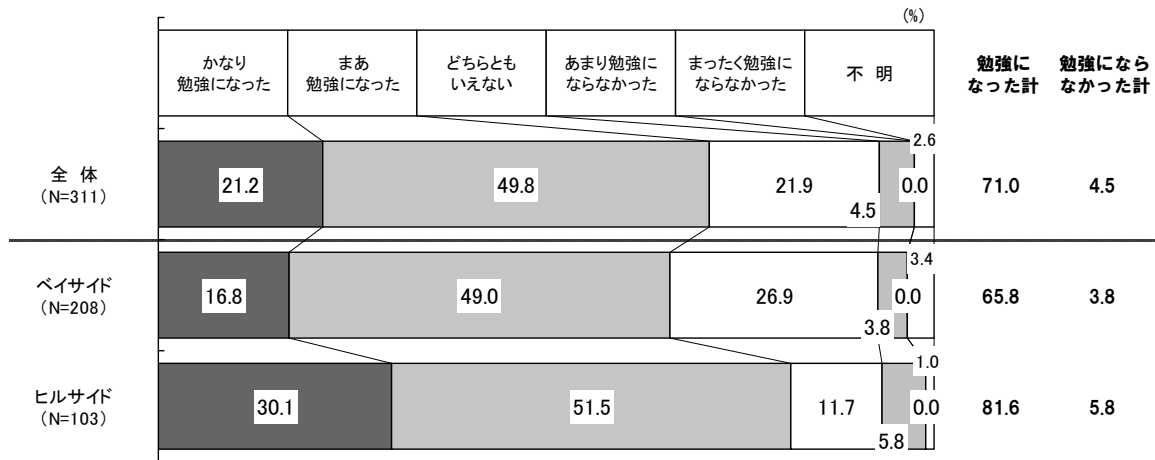
■勉強になった(71.0%)

今回の開国博Y150に参加したことで、何か勉強になったか？との質問に対しては、「かなり勉強になった」がベイサイドエリア（有料会場）で16.8%、ヒルサイドエリア（有料会場）で30.1%、「まあ勉強になった」がベイサイドエリア（有料会場）で49.0%、ヒルサイドエリア（有料会場）で51.5%と、多くの子どもたちが勉強になったと回答しました。

ベイサイドエリア（有料会場）よりも、参画性の強いヒルサイドエリア（有料会場）の方が勉強になったという割合が多い結果となりました。

Q6. 今回の開国博Y150を見たり参加したことで、何か勉強になったと思いますか？

Q6. 今回のヒルサイドのイベントを見たり参加したことで、何か勉強になったと思いますか？



(出典)「来街者アンケート」開国博 Y150 ベイサイドエリア子ども n=208、開国博 Y150 ヒルサイドエリア子ども n=103

■ベイサイドエリアでの発見や学びは「横浜の歴史」や「エコロジー、環境問題」

ベイサイドエリア（有料会場）のイベントで何か発見や気づき、学びなどがあつたかを自由意見で聞いたところ、横浜の歴史に関して学べた点を上げる子どもが約3割程度で最も多い結果となりました。特に開港当時の様子をビジュアル的に見ることができた点が評価されており、「歴史があるすごさを感じた」「横浜の昔のことがより詳しく分かった」など横浜の歴史を改めて勉強できたことが挙げられました。

次に多かった意見はエネルギー問題に関する内容で、「日産車のエコカーについて、勉強になった」「エネルギー館でエコや今の地球の現状がよく分かった」「未来館の二酸化炭素の温暖化問題の実験が勉強になった」「エネオスのところで、二酸化炭素を出しているので生活に注意しようというところ」といったエネルギー問題を扱った企業展示の内容に関心を持ったことも伺えました。

■表：ベイサイドエリア（有料会場）での発見や気づき、学び・自由意見回答（抜粋）

1位	<p>横浜の歴史 28.8%</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 横浜が出来た歴史がよくわかった。<u>歴史があるすごさを感じた</u>。[女性/10才/小学4年生] ▶ 横浜ものがたり。自分で思っていた<u>横浜の昔のことがより詳しく分かった</u>。[女性/11才/小学6年生] ▶ 横浜の昔のことが分かった。開港の時のようす。[男性/12才/小学6年生] ▶ 開港していろいろなことがあり、今の横浜があることが横浜物語で分かった。[男性/13才/中学1年生] ▶ 社会科で横浜開港150周年のことを勉強している。まだ知らないことがいっぱいある。[男性/8才/小学3年生]
2位	<p>エコロジー、環境問題 12.0%</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 日産車のエコカーについて、勉強になった。[女性/12才/小学6年生] ▶ エネルギー館で<u>エコや今の地球の現状がよく分かった</u>。[男性/11才/小学5年生] ▶ 未来館の二酸化炭素の<u>温暖化問題の実験が勉強になった</u>。[女性/12才/中学1年生] ▶ エネオスのところで、二酸化炭素を出しているので生活に注意しようというところ。[女性/9才/小学4年生]

(出典)「来街者アンケート」開国博 Y150 ベイサイドエリア子ども n=208

■ヒルサイドエリアでの発見や学びは「エコロジー、環境問題」「自然の良さ」

「ワークショップ」

ヒルサイドエリア（有料会場）ではエコロジーや環境問題について勉強になったという意見が多いほか、自然環境のすばらしさや大切さを実感したという声も目立ちました。

また、ワークショップ関連でいろいろものづくり体験したことを受けて、ものづくりの楽しさを知り、自分たちで何かを作ることの面白さを感じた様子も、感想から伝わってきました。

■表：ヒルサイドエリア(有料会場)での発見や気づき、学び・自由意見回答（抜粋）

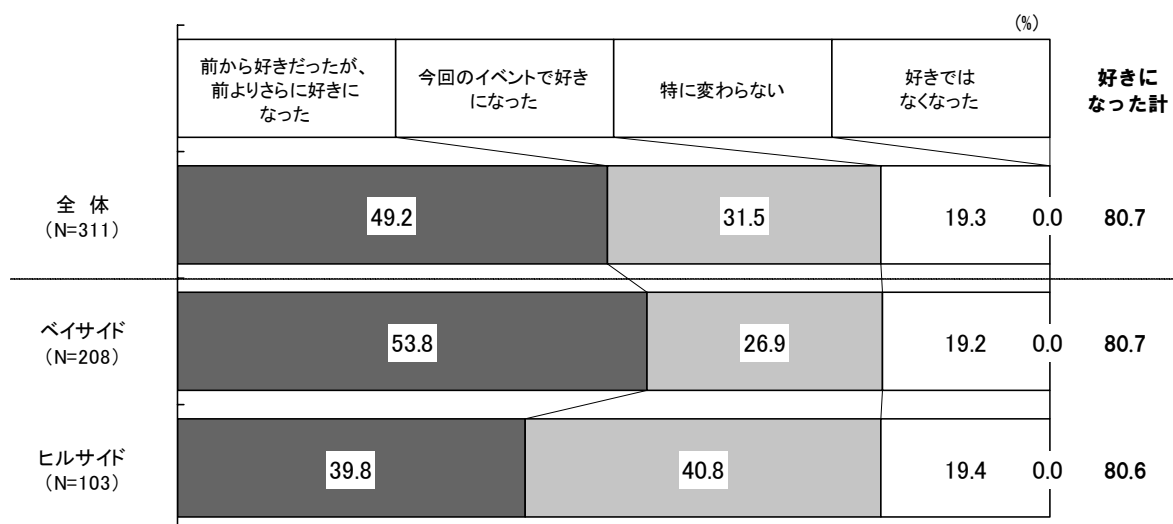
1位	エコロジー、環境問題 26.2% <ul style="list-style-type: none"> ▶ これから<u>地球を緑を大切に</u>残そうとしないとだめだと思った。[男性/8才/小学3年生] ▶ (エコや環境について) キャップ(ペットボトル)で世界中の子供達にワクチンを取れる事が勉強になった。[女性/10才/小学4年生] ▶ <u>エコや自然環境が大切だ</u>と思う事がよくわかった。[男性/11才/小学5年生] ▶ ベルサイド、ヒルサイド見て、環境に気をつけていると思った。[男性/12才/中学1年生]
2位	ワークショップ関連 21.4% <ul style="list-style-type: none"> ▶ <u>かんたんな道具</u>できれいな物が作れる楽しさを学びました。[女性/7才/小学2年生] ▶ クイズのもんだい内容がとてもよかった。50円で何か買えるかとか1日働くとお金をいくら稼げるかなど。[女性/10才/小学4年生] ▶ タメ池の所にヤゴのぬけがらを見つけた事。くじらの骨にどんな生き物や虫がいるのか、勉強になった。[男性/10才/小学4年生] ▶ 学校の理科でも丁度いねかりを勉強しているので、早くいろいろわかってよかった。[女性/10才/小学5年生]
3位	自然の良さ 19.4% <ul style="list-style-type: none"> ▶ 自然のたのしさ、物作りの面白さを発見した。[男性/11才/小学6年生] ▶ <u>自然の大切さ</u>、ecoについて学んだ。[女性/11才/小学6年生] ▶ 竹で作った会場がすごいと思った。[男性/7才/小学2年生] ▶ 物作りの大切さ、<u>自然のすばらしさ</u>、美しさを知りました。[女性/15才/中学2年生]

(出典)「来街者アンケート」開国博 Y150 ヒルサイドエリア・子ども n=103

■ 8割の子どもたちが「横浜を好きになった」と回答

開国博 Y150 によって横浜を好きになったか？という質問に対して、80.7%の子どもたちが好きになったと回答しました。そのうち 49.2%が「前から好きだったが、前よりさらに好きになった」で、31.5%が「今回のイベントで好きになった」と回答しました。

Q8. 今回の開国博Y150 を見たり参加したことで、「横浜」を好きになりましたか。



(出典)「来街者アンケート」開国博 Y150 ベイサイドエリア子ども n=208、開国博 Y150 ヒルサイドエリア子ども n=103

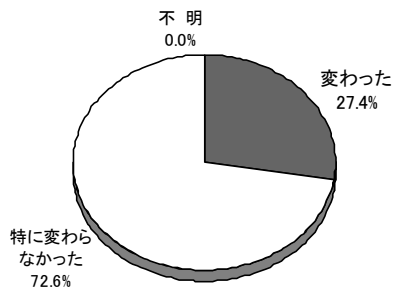
■イメージ変化では、ベイサイドエリアで「歴史がある」、ヒルサイドエリアで「自然が多い・大切にしている」

今回のイベントを見たり、参加したことで何か「横浜」のイメージは変わりましたか？との質問に対しては、ベイサイドエリア（有料会場）で27.4%、ヒルサイドエリア（有料会場）で21.4%が「変わった」と回答しました。

ベイサイドエリア（有料会場）では「楽しい」「歴史がある」などの変化が、ヒルサイドエリア（有料会場）では「自然が多い、自然を大切にしている」「楽しい」「明るい」「いろいろな物がある街」といった意見がありました。

また、「新しくなっていくだけが横浜じゃなくて、古い歴史も大切にしていると思った」「横浜にはこんなに広くて自然を学べる所がある」「横浜っていっぱいすごい所があるんだなと思った」といった新しい発見が、イメージが良くなった理由として挙げられました。

<ベイサイド (N=208)>



<変わった(N=57)>

• 楽しい	18.2%
• 歴史がある	18.2%
• 良くなった	10.9%
• エコに取り組んでいる	7.3%
• イベントが多い	7.7%

楽しくなった

- ▶ 横浜ってすごい楽しい。いろいろ楽しいところがいっぱいある。[女性/9才/小学4年生]
- ▶ 昔より楽しいイメージになった。[男性/10才/小学4年生]

歴史がある

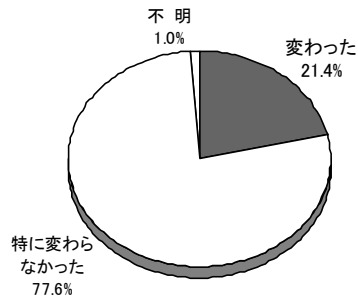
- ▶ 住んでいる町が150周年なんてすごいな、と思った。[男性/9才/小学3年生]
- ▶ 新しくなっていくだけが横浜じゃなくて、古い歴史も大切にしていると思った。[女性/10才/小学4年生]

良くなった、イメージアップ

- ▶ これから先、横浜がいい方向に発展すると思う。[男性/9才/小学3年生]
- ▶ 何も知らなかった横浜だったが、今回のイベントでとてもよくなった。[男性/8才/小学2年生]

(出典)「来街者アンケート」開国博 Y150 ベイサイドエリア子ども n=208

<ヒルサイド(N=103)>



<変わった(N=22)>

- | | |
|-----------------|-------|
| • 自然が多い、大切にしている | 40.9% |
| • 楽しい | 13.6% |
| • 明るい | 13.6% |
| • 色々なものがある | 13.6% |

自然が多い、自然を大切にしている
<ul style="list-style-type: none"> ▶ 横浜にはこんなに広くて自然を学べる所があるから。楽しくなった。[女性/12才/小学6年生] ▶ 自然を大切に。58才になったら、Y200になったら自分も参加したい。[女性/8才/小学3年生]
楽しくなった
<ul style="list-style-type: none"> ▶ いろんな、楽しい事が出来る。[女性/9才/小学4年生] ▶ ふつうの街だと思ったけど、楽しい感じ。[女性/8才/小学3年生]
明るいイメージになった
<ul style="list-style-type: none"> ▶ あかるい感じがした。[女性/8才/小学3年生] ▶ あかるくたのしい感じ。[女性/8才/小学2年生]
いろいろな物がある街
<ul style="list-style-type: none"> ▶ いろんな物を見て、気持ちが豊かになった。[女性/8才/小学2年生] ▶ 横浜っていっぱいすごい所があるんだなと思った。[男性/8才/小学3年生]

(出典)「来街者アンケート」開国博 Y150 ヒルサイドエリア子ども n=103

4 開港 150 周年記念事業の総括

開港 150 周年記念事業について、「横浜開港 150 周年～市政 120 周年～基本ビジョン（平成 17 年 6 月 2 日公表）」では、次のように示されています。

○基本理念

開港 150 周年を契機に、港や先人たちが果たしてきた役割について改めて評価し直すとともに、「横浜ならではのフロンティアスピリッツ」など、これまで培ってきた独創性や進取性といった、横浜の誇れるものを、改めて今日の横浜の様々な面に活かすことにより、次世代の横浜が、夢や希望の持てる、そしてチャンスあふれるまちであるための礎を築くこと

○記念事業の構成

- 1 開港 150 周年記念式典、お祭りやパレードなど各種記念イベント
- 2 理念に賛同して自主的に企画・実施される、市民活動団体等や企業が主催する様々な事業
- 3 港やまちづくり、歴史など広範な分野にわたる横浜市の関連戦略事業

○基本的な考え方

「民が主役の開港 150 周年記念事業」

○5 つの契機（目標）

- 1 港の先人の業績への感謝及び賞賛
- 2 市民であることの一体感の醸成
- 3 夢や希望にあふれるまちへの礎をつくり、その魅力を発信しながら再発展を図る
- 4 「横浜らしさ・ならでは」へのこだわりと創造
- 5 大きな盛り上がり創出とプロモーション活動強化による集客力向上

横浜市は、以上あげたことを基本的な指針として開港 150 周年記念事業に取り組んできました。

本総括は、基本ビジョンに定められた基本理念等が実際にどのような形で事業に反映され、それがどのような効果を生み出したかを、「5 つの契機（目標）」ごとにまとめたものです。

(1) 港と先人の業績への感謝及び賞賛

横浜及び港の歴史を、改めて振り返り、評価し直す様々な事業が実施されるとともに、多くのメディアにも取り上げられました。

これにより、市民はもとより、市外の人々にとっても、「横浜の開港」＝「日本の近代への開国」であることが実感される1年となりました。

特に、次世代を担う子どもたちが「Y150 教育プログラム」等を通じて歴史を学ぶ機会を得たことには、非常に大きな意義があります。

さらに、「象の鼻パーク」「横浜みなと博物館」等の施設や記念出版物等の発行により、横浜と港の歴史に触れることのできる環境が更に整備されたことは、将来に向けた大きな財産となります。

ア. 横浜開港 150 周年記念式典

～天皇皇后両陛下の御臨席をはじめ、国内外から約 1,690 人の来賓が出席～

平成 21 年 5 月 31 日パシフィコ横浜で開催された「横浜開港 150 周年記念式典」には、天皇皇后両陛下の御臨席をはじめ、三権の長、開港 5 か国の大使、姉妹友好都市の首長など国内外からの 1,690 人の来賓とともに、1,788 人の市民が参加しました。

式典の中で上演された「ヴィジョン！ヨコハマ」は、開港以来の横浜の歴史と、これから紡ぎ出していく未来をテーマに、横浜ゆかりの俳優やタレントなどのメインキャストにオーディションで選考された約 500 人もの市民が加わったオリジナルショーであり、感動のフィナーレでは会場全体が大きな拍手で包まれました。

この式典の様子は、テレビ中継され、映像を通じて、数多くの市民が先人の業績に感謝するとともに、未来への希望を共有することとなりました。

イ. 横浜開港 150 周年記念のテーマイベント「開国博 Y150」

～多くの子どもが横浜の歴史や港の恩恵を学ぶ～

開国博 Y150 では、開国・開港の横浜を体験できるコンテンツ「横浜ものがたり」が展示され、開港 150 周年の歴史や、日本の近代化における

横浜の果たした役割、先人たちの足跡などを楽しく知る機会となりました。

また、市内小中学校を対象に設定した「Y150 教育プログラム」では、「開国博 Y150」と「歴史・港」「生命・アート」「環境・科学技術」「経済・国際」の4つのテーマを組み合わせた全38コースに549校、約21万人の小中高生等が参加し、開港150周年の歴史や港の恩恵を学ぶとともに横浜における様々なテーマでの体験、学習が行なわれ、高い評価を得ました。

(P161～P162 開国博 Y150 への修学旅行等での学校団体来場者数、P170～P177 子どもの評価・感想 より)

ウ. 海フェスタ・象の鼻地区再整備・日本丸メモリアルパーク再整備

～横浜と港の結びつきやその歴史を再認識～

港の重要性や海の大切さを正しく理解するとともに、横浜港が日本の発展に大きく貢献してきたことを再認識し、市民の誇れる財産として次世代へ継承していく絶好の機会として「海フェスタよこはま」が開催されました。

記念式典やセミナー、大型帆船の総帆展帆、船舶一般公開などに約55万人が訪れ、横浜と港の結びつき、その歴史等を実感することとなりました。

また、横浜港発祥の地「象の鼻地区」をその歴史性を生かしながら、文化・観光・交流の拠点として再整備した「象の鼻パーク」が、日本丸メモリアルパークをリニューアルし、港の歴史や仕組みなどをテーマとした初めての博物館として「横浜みなと博物館」が、それぞれオープンしました。両施設は、横浜と港の歴史に触れることのできる新たな観光交流拠点として、今後の集客が期待されます。

エ. 各種企画展・記念出版物・講演他

～多くの人々が横浜の歴史とその先人たちの業績に触れる機会に～

市内の博物館、美術館、資料館等が連携した「横浜グランドミュージアム」をはじめとして、市内各文化施設等で行なわれた記念企画展、講演会、横浜市内の大学が連携してリレー形式でシンポジウムを実施した「よこはま大学開港塾」、横浜開港の歴史を振り返る様々な記念出版物、各メディアの横浜開港に関する特集などは、市民はもとより、市外の多くの人々が日本の近代化を牽引してきた横浜の歴史とその先人たちの業績を再認識する機会となりました。

オ. 市歌再評価

～市民への愛着が広がる～

開港 50 年祭の際に制定された「横浜市歌」は今年制定 100 周年を迎え、現在でも市民に非常に親しまれています。

今年は、開港 150 周年記念式典の他、横浜開港祭や各区の盛り上げイベント等の中でも、市歌の斉唱、合唱が盛んに行なわれ、市民が開港の歴史を再認識し、横浜への愛着が広がる機会となりました。

これら多くの記念事業の展開により、市民はもとより、数多くの人々が開港 150 周年を認知することとなりました。

(P149～P151 開港 150 周年の認知 より)

(2) 市民であることの一体感の醸成

多くの市民が各種記念事業へ自発的に参加し、その活動を通じて、横浜市が直面する様々な課題を再認識するとともに、課題解決に向けた取組を考える機会を持つことができました。

特に、市民や市民団体間の新たなネットワークが構築されたことは、横浜市にとって今後の大きな財産となりました。

ア. 各区盛り上げイベント

～祝祭感が市域全体に広がる～

各区においては、273 あまりの盛り上げイベントが開催され、延べ約 262 万人もの参加者がありました。

市域全体で開港 150 周年の盛り上げを図り、港だけではない横浜の魅力や地域の資源を内外に発信する取組がなされました。

イ. 横浜開港 150 周年記念式典オリジナルショー「ヴィジョン!ヨコハマ」

～シナリオからパフォーマンスまで、市民参加、色濃く～

アンケートで寄せられた市民の「横浜に対する想い」をもとにシナリオがつくられました。

そして、上演に際しては、横浜ゆかりの俳優やタレントなどのメインキャストに加え、オーディションで選考された約 500 人の市民の歌、ダンス、パフォーマンスが披露されました。

ウ. 「開国博 Y 150」市民参加事業

～多様な市民参加、参加者に満足感～

「開国博 Y 150」では、多様な市民参加に取り組みました。

ヒルサイド市民創発やベイサイド市民協催での事業の企画・出展・出演や会場運営ボランティアとしての来場者の誘導案内や環境美化活動、横浜 FUNE プロジェクトワークショップへの参加、DO-RA-MA YOKOHAMA 150 への出演など、10 もの様々な事業に約 34,000 人延べ約 88,000 人が参加しました。

中でも市民自ら参加し、様々な市民イベントの展開を応援する仕組みとし

て「Y150 市民参加プラットフォーム推進委員会」が設置され、様々な事業展開を行なった他、開国博 Y150 の多様な市民参加の情報と参加機会をワンストップで提供する窓口として情報提供を行ないました。

事業参加者へのアンケート結果では、満足度や評価の高さ、横浜への愛着の高まりなどが伺えます。

(P126～P134 市民参加者の人数、活動参加者の評価・感想)

エ. ボランティア

～大型集客イベントに多くの市民の力が～

開国博 Y150 や日本大通りフラワーアートフェスティバル、H. I. S. 2009 年世界卓球選手権横浜大会や 2009 横浜国際トライアスロン大会・世界キッズトライアスロン大会をはじめ、集客イベントや各区で展開された盛り上げイベントには、数多くの市民がボランティアとして参加しました。

(3) 夢や希望にあふれるまちへの礎をつくり、その魅力を発信し

ながら再発展を図る。

市民・団体・企業が、開港 150 周年に併せて、様々な分野で、将来の横浜発展につながる取組を精力的に進めました。

事業の中には、長期的な取組が必要となるものも多くありますが、今年を取組は、事業推進上の大きな節目となりました。

ア. 横浜クリエイティブシティ国際会議2009

～テーマは「創造性が都市を変える」、多様な創造の担い手が集結～

横浜市は、クリエイティブシティとして海外(特にアジア)からの評価が高く、台北市、ソウル市、インチョン(仁川)市、北京市、シンガポールとの交流やフランス、オーストラリア等アジア以外の海外からも毎年数か国のアーティストを受け入れ、地域と協働で活動(作品作りなど)を進めるなど、具体的な交流が進めてきました。

これまでの5か年にわたる横浜市の創造都市の取組を踏まえ、国内外、様々な分野から多くの参加者(延べ約2,000人)が集い、創造都市の次の方向性、戦略を検討した国際会議を開催しました。

最終日には市長から、会議のまとめとして、「横浜宣言」を発表しました。その中では、創造性による文化芸術・まちづくり・産業のバランスの取れた展開を図り、横浜独自の都市文化を創造することが必要で、そのために、横浜都心臨海部を再生していくとともに、郊外部にも展開し、横浜を創造性を持った人々にとってチャンスのある街にしていくこと。行政と市民やNPO・企業等との協働の新たな展開を模索していくこと。アジアをはじめとする内外の都市との人材交流、創造界隈拠点を中心とした国際的な交流を進め、横浜が提案する創造都市を世界に発信し、世界における創造都市の推進において役割を担うことが宣言されました。

イ. 商店街の新たな取組

～回遊性の向上、賑わいの創出へ～

市内の多くの商店街が連携し、「開港 150 周年」にちなみ、150 円の商品等の販売やサービスを実施する「150 円商店街」が実施され、多くの買物客で賑わいました。

また、マザーポートエリアや創造界限周辺の商店街、商業地域・施設では、イベントの共同開催やウォークラリーなど地域を越えた新たな連携も始まり、より一層、回遊性が向上し、賑わいが創出されました。

(P117～P122 商店街ヒアリング より)

ウ. 150万本植樹行動と開港150周年の森づくり

～横浜の自然や環境を次世代へ～

平成18年度から4ヵ年で取り組んだ植樹行動は、平成21年度末には、目標とした150万本に到達する見込みです。

また、150万本植樹行動の一貫として行なわれた「開港150周年の森づくり」は、緑豊かな自然環境を次世代に継承するため、市内各所で大小様々な森づくりを市民参加により行うもので、公募で寄せられドングリのうち小学校や地元農家の協力によって育てられた約10万本の苗木を活用し、現在までに市内9か所で市民参加による森づくりが行なわれ、約14,000本の苗木が植樹されました。

エ. 横浜サイエンスフロンティア高等学校の整備、小中一貫英語教育の推進

～将来を担う人材の育成～

先端科学技術の知識を活用して、世界に幅広く活躍する人間の育成を目指す横浜サイエンスフロンティア高等学校の開校や国際都市・横浜の未来を担う国際性を持った人材の育成を目指す小中一貫英語教育の推進等、様々な分野での次世代の育成がなされました。

オ. 市内米軍施設の返還と跡地利用の推進

～跡地利用に多くのアイデアが～

日米間で返還の方針が合意されていた富岡倉庫地区について、返還が実現したのをはじめ、深谷通信所提案公募事業（アイデアコンペ）が実施され、国内外から様々な跡地利用のアイデアが寄せられました。

また、旧小柴貯油施設では、「開港150周年の森」植樹祭として、地元小学生他による植樹等が行なわれました。

カ. 横浜駅周辺大改造計画、戸塚駅周辺地区整備

～まちの将来像、実現に向けて～

横浜駅周辺大改造計画素案のとりまとめを行い、市民、駅利用者と将来像について共有すべくシンポジウムが行なわれました。

また、戸塚駅西口においては、道路や交通広場などの基盤施設及び区役所や区民文化センターなどの公益施設の整備を行なうとともに商業機能強化を図るための第二種市街地再開発事業が行なわれました。

(4)「横浜らしさ・ならでは」へのこだわりと創造

横浜港ゆかりの歴史的資産等が再整備され、横浜の新たな魅力が創造されるとともに、様々な地域資源を活かした文化芸術活動が地域と一体となって展開されました。

記念事業は港周辺だけでなく、横浜市内全域で展開され、市内の各地域では、自由で独創的なアイデアによるイベントが繰り広げられました。

ア. 観光交流拠点の整備

～横浜の新しい顔がオープン、新たな観光交流拠点に～

横浜ならではの歴史的資産を活かしながら新たな港の顔、市民の憩い場、交流の場として「象の鼻パーク」をはじめ「マリンタワー」「アメリカ山」「日本丸メモリアルパーク」の整備・再整備が行なわれました。

これらは、横浜駅周辺から元町山手地区へ続くマザーポートエリア内の各地域の観光交流拠点として、回遊性の向上と賑わいの創出に大きく貢献しています。

イ. 創造界隈の形成

～文化芸術活動を通したまちづくりがひろがる～

関内、馬車道や桜木町、野毛といった都心部の歴史的建造物や倉庫、空き店舗等の地域資源を活用し、アーティストやクリエイターが創造・発表・居住する創造界隈の形成が進められ、多くのアーティスト、クリエイターが拠点を横浜に移すなど、地域と一体となった活性化の取組がなされました。

特に、黄金町地区では、文化と芸術による都市の再生を進め、違法な風俗店が集積する街から芸術の街へと着実に動き始めました。「芸術まち歩き」の開催など、まちなかに取組が広がっており、街と一体となってクリエイティブシティを目指す、日本で最先端を行く都市として認められています。

ウ. 映像文化都市・横浜の新たな取組「ヨコハマ国際映像祭 2009」の開催

～最先端の映像表現を横浜から世界に～

美術やメディアアートだけでなく映画やドキュメンタリー、音楽といった多ジャンルにまたがった、映像が開放的な空間で楽しめるフェスティバル「ヨコハマ国際映像祭 2009」が開催されました。

15 か国 36 作家のアーティストや映画監督が都心臨海部の会場で様々な映像作品の展示や上映を行い、新しい映像表現の可能性を国内・外に発信しました。

さらに、作家による展示・上映だけでなく、市民が参加する映像プロジェクトやイベント、パフォーマンスなども実施されるなど、「映像文化都市・横浜」の新たな取組につながる展開が行われました。

エ. 18 区紹介デー・区民デー

～地域の魅力、市内外へ発信～

開国博 Y150 において、18 区紹介デー・区民デーが実施されました。これにより、各区が持つ歴史的資産や伝統芸能、芸術活動等、港だけではない横浜の魅力を市内外に発信することができました。

さらに、全区が開国博 Y150 に主体的に参加することにより、市域全体での開港 150 周年の盛り上がりにつながりました。

オ. 各区関連イベント

～開港 150 周年事業、各区で展開～

市内 18 区のすべてに、開港 150 周年記念事業を推進する組織が設置されました。

そして、この組織を中心に、各区ならではの個性的で元気あふれるイベントや記念事業が区制制定を祝う周年行事などと併せて共同で展開されました。

カ. 2009 トライアスロン世界選手権シリーズ横浜大会、世界キッズトライアスロン大会、世界こどもスポーツサミット in 横浜

～トップアスリート、キッズアスリートが横浜へ集結～

2009 トライアスロン世界選手権シリーズ横浜大会は、横浜の代表的な観光名所が連なる臨港都心部を舞台に世界のトップアスリートの競い合いが繰り広げられました。

併せて世界初となる世界キッズトライアスロン大会が開催され、世界13の国と地域から257人のキッズアスリートが参加しました。

また、国際性を持った次世代の育成の一貫として、世界こどもスポーツサミット in 横浜が開催され、16の国と地域から927人が参加しました。

(5) 大きな盛り上がり創出とプロモーション活動強化による集客

力向上

「開国博Y150」には、会期中合わせて約717万人が来場しました。

特に、開国博会場周辺のマザーポートエリアには、JRデスティネーションキャンペーンなど数多くの旅行商品の開発など、県外からの観光誘致も積極的に行われたほか、観光モデルコースの設定や臨時観光案内所の設置など、「おもてなし」と「回遊性」の取組により、多くの来街者が訪れました。さらに、関内地区やみなとみらい21地区など“まちなか”を会場に創造都市の取組を来街者に体感してもらう「マザーポートアートフェスティバル2009」など多彩なイベントを開催しました。

これらの取組により、約622億円の経済効果や観光入込客数が増加するなど、世界的な景気低迷や新型インフルエンザの発生といった厳しい環境の中、景気を下支えする一定の効果がありました。

ア. 各種記念イベントの実施

～大型集客イベント、続々登場～

「横浜開港150周年記念式典」、「開国博Y150」をはじめとして、日本初の西洋式街路であり横浜の歴史と文化の象徴である日本大通をキャンバスにして行なわれた「日本大通りフラワーアートフェスティバル」、エジプトの海底遺跡の遺物を日本初公開した「海のエジプト展」、が開催されました。

この他、フランスのアートスペクタクル劇団「ラ・マシ」が横浜の街を舞台に繰り広げた「開国博Y150プレイイベント」、世界トップクラスのアスリートたちが競い合った「H. I. S. 2009年世界卓球選手権横浜大会」「2009横浜国際トライアスロン大会」など多くの集客イベントが行なわれました。

また、市民にはすでになじみのある「大道芸」、「ザよこはまパレード」、「横浜開港祭」等も横浜開港150周年記念として、より一層、祝祭感に華を添えました。

イ. マザーポートアートフェスティバル 2009

～まちを舞台に創造都市を体感～

開港 150 周年を契機として、まち全体の賑わいを創出するとともに、文化芸術創造都市・横浜の魅力を内外に発信するフェスティバルを開催し、開国博 Y150 の会場外でも、横浜を楽しんでいただきました。

このフェスティバルでは、「街からアートがあふれ出す！ アートは社会のソコヂカラ！」をテーマに、みなとみらい 21 地区や関内、日本大通、元町など、マザーポートエリアの各地で、横浜の「場の魅力」を活かして、まち全体をアート空間として内外のアーティストや市民等によるパフォーマンスを展開し、横浜を訪れていただいたお客様に、街の魅力とともにさまざまなアートを楽しんでいただきました。

ウ. JR デスティネーションキャンペーン

～日本全国に向けた集客の取組～

JR 東日本をはじめとする JR 6 社と横浜市、横浜開港 150 周年協会、横浜観光コンベンション・ビューロー、近隣 5 都市、さらに観光関連事業者等が一体となって、観光客の誘客を図る大型のプロモーション「横浜・神奈川デスティネーションキャンペーン」を展開しました。

全国の旅行関係事業者・メディア事業者を対象に横浜観光の魅力を提案し、横浜向け旅行商品開発を促す「全国宣伝販売促進会議」の開催や JR グループの各種プロモーションに合わせたポスター、リーフレットの掲出、主要駅へのガイドブックの配置や全国キャラバン展開など、横浜の観光資源を全国に向けて集中的に発信する取組がなされました。

また、旅行関係事業者においては、開港 150 周年に合わせた事業展開が進み、数多くの旅行商品が開発され、観光モデルコースが設定されました。

その結果、びゅう旅行商品の売り上げは、前年比 177.7% を計上し、多くの観光客が横浜を訪れました。

(P94 JR デスティネーションキャンペーンによる周遊効果 より)

エ. 来街者の増加、回遊性の向上

～観光入り込み客数が増加～

開国博 Y150 をはじめとする多くの各種イベントや J R デスティネーションキャンペーンなどの観光誘致の取組により、観光施設の入込客数は、前年同時期比で 9.3% 増加しました。

また、象の鼻パークやアメリカ山公園、マリンタワーや日本丸の観光交流拠点のオープン、リニューアルに加え、開国博 Y150 チケットでのマザーポートエリア内施設の優待サービスや商店街連携によるイベント展開等の取組は、来街者の回遊性を向上させる効果をもたらしました。

(P88～P105 開港 150 周年記念事業の誘客効果 より)

カ. 経済波及効果

～マザーポートエリアを中心に一定の効果～

開国博 Y150 を含む記念事業全体による、市内への経済波及効果は約 622 億円と推計されました。うち開国博 Y150 による波及効果額はプレイメントを含め約 407 億円と推計されました。

世界的な景気低迷や新型インフルエンザの発生といった厳しい状況の中、マザーポートエリアを中心に景気の低迷を和らげる一定の下支え効果を果たしました。

(P106～P110 経済波及効果 より)

キ. 広告宣伝効果

～横浜の魅力を日本全国に発信～

また、開国博 Y150 の広告宣伝効果額は 110 億円以上となり、各種広告媒体への露出をとおして、市内のみならず、日本全国へ横浜開港 150 周年が発信されました。

(P152 開国博 Y150 にかかるメディア露出調査 より)

まとめ ～開港200周年にむけて～

2009年のわが国経済は、失業率の上昇や給与の減少など、家計を取り巻く環境は厳しい状態が続きました。特に観光需要は、新型インフルエンザの流行という不運も重なり、主要旅行業者の取扱額が前年を1～2割程度下回って推移するなど総じて減退を余儀なくされました。

こうした厳しい社会経済状況の中で、横浜の開港150周年記念事業は、市民、企業、行政の3者が力を合わせ、それぞれが独創性やチャレンジ精神を発揮して、基本ビジョンに定めた5つの契機（目標）の実現を目指し推進してきました。多くの市民が記念事業に参加したこと、市民は記念事業を通じて開港150周年の意義や横浜への愛着や誇りを感じることができたこと、そして、将来の発展の礎となる人的・物的資産が形成されたことなどは、記念事業の成果として挙げられます。

しかし、今年どのような成果があろうと、記念事業での様々な取組を今後とも継続することなしには、基本ビジョンで目指した「チャンスあふれるまち 横浜」を創造していくことはできません。

そこで、開港150周年の総括を今後活かしていくために、開港200周年に向けて、重要と考えられる事項を次のようにまとめました。

（1）市民参加の拡大

開港150周年記念事業の中で、市民参加は、大きな柱の一つでした。

従来の運営等に関わるボランティアから事業を企画実施するものまで、様々な市民参加が行なわれ、参加者の意識にも変化が見られました。

市民としての一体感や市政への参加意識の向上を促し、市民同士や市民団体の連携の輪を広げるためにも、今後とも様々な分野へ市民参加を拡大して行くことが重要です。

（2）市民が参加しやすくなる仕組み作り

今回の記念事業の中では、市民参加プラットフォームのワンストップ窓口等、市民参加をしやすくする様々な取組がなされました。

今後、市民参加の拡大にあたり、様々な分野で市民が参加しやすくなる仕組み作りに取り組むことが必要です。

(3) 市域全体・広域的な取組

開国博 Y150 では、ベイサイド会場だけでなく、ヒルサイド会場を設けたことや市内各区の積極的な参加を促したことが市域全体に浸透する契機となりました。将来、実施される大型イベントでも市内各地の地域資源（伝統芸能、特産品等）を積極的に活用することが、「港」だけではない横浜の魅力を対外的に発信する機会になるとともに、イベントの盛り上げを市域全体に広げるために必要となります。

(4) 横浜らしさへのこだわり

多くの市民が今回の記念事業を通じて、横浜の魅力を再発見し、外部の人々にも知ってもらいたいという気持ちが強くなったとしています。

今後も「横浜らしさ」にこだわった様々な事業を進めていくことが市民の共感を得るとともに国内外に向けての「横浜」の発信力を高めていくことにつながります。

(5) 次世代にむけて横浜への親しみ、愛着の醸成

今回の記念事業において、横浜や港の歴史に触れることにより、市民、特に子どもたちの横浜への親しみや愛着等が向上したといえます。

次世代を担う子どもたちに開港記念日やその周辺の関連イベント、小中学生用副読本等、横浜の歴史や先人たちの業績に触れることのできる機会や場の提供を継続的に行なっていくことが重要です。

(6) 創造都市の一層の展開

市民やNPOの方々とは協働して、文化芸術の持つ創造性をまちづくりに活かしていく「創造都市」の取組は、まちなかへ広がりを見せてきています。開港150周年に関連して展開された様々な事業の多くは、この「創造都市」の考え方がベースにありました。

開港150周年を契機として、アーティストやクリエイターの活動する場所を一層増やし、アートの特徴創造性を積極的に活用することによって、経済の活性化や街を変えていくことにもチャレンジしていくことが必要です。また、横浜の次世代を担う子供たちが豊かな創造性を育むことなどを、郊外部も含めて広く展開していくことが重要です。

5 資料集

(1) 調査概要

① 横浜市観光入込客数調査

調査方法	アンケート用紙を郵送、返信用封筒又はファックスで回収
調査期間	①1～6月期 8月3日(月)～8月14日(金) ②7～9月期 10月1日(木)～10月9日(金)
サンプル数	①観光施設 78件、観光交通 13件、宿泊施設 62件 ②観光施設 83件、観光交通 11件、宿泊施設 85件
備考	本稿は、当該調査の中間・暫定値を利用したため、平成21年横浜市観光入込客数調査結果との間で整合が取れないことがあります。また観光イベントについては未集計のため、対象外としました。
調査実施	横浜市経済観光局

② 来街者アンケート

調査方法	街頭調査法(調査員による聞き取り) 調査員による聞き取りと対象者による自記入式を併用			
調査期間	2009/9/12(土)、13日(日) 2日間			
サンプル数	計 1572名			
		調査会場	回収目標数	結果
大人	ベイサイドエリア	ベイサイド(有料会場)	200名	207名
		象の鼻会場	100名	109名
		山下公園	100名	109名
		赤レンガ倉庫周辺	100名	101名
		中華街	100名	104名
		元町	100名	110名
		JR桜木町	100名	100名
		馬車道駅(みなとみらい線)	100名	99名
		日本大通り駅(みなとみらい線)	100名	109名
		みなとみらい(みなとみらい駅)	100名	100名
	ヒルサイドエリア	ヒルサイド(有料会場)	100名	113名
子ども	ベイサイドエリア	ベイサイド(有料会場)	200名	208名
	ヒルサイドエリア	ヒルサイド(有料会場)	100名	103名
		合計	1500名	1572名
調査実施	横浜市開港150周年・創造都市事業本部			

③横浜開港 150 周年記念事業経済波及効果

調査方法	各事業主催者からの情報収集を基本に、消費動向については横浜市観光動態・消費動向調査や一部イベントについて現地調査を実施した数値を使用して推計
調査実施	横浜市開港 150 周年・創造都市事業本部

④横浜開港 150 周年記念事業効果調査

調査方法	アンケート用紙を郵送、返信用封筒又はファックスで回収
調査期間	①1～6 月期 8 月 3 日（月）～8 月 14 日（金） ②7～9 月期 10 月 1 日（木）～10 月 9 日（金）
サンプル数	①観光施設 120 件、観光交通 11 件、宿泊施設 58 件、商業施設 7 件 ②観光施設 123 件、観光交通 10 件、宿泊施設 86 件、商業施設 6 件
調査実施	横浜市開港 150 周年・創造都市事業本部

⑤市民参加プロジェクト参加者アンケート

調査方法	アンケート用紙を各プロジェクト経由で配布 回収は WEB 経由（専用 HP）、または FAX、郵送のいずれか
調査期間	2009 年 8 月 12 日（水）～10 月 4 日（日）
サンプル数	合計 892 名（WEB：370 件、郵送および FAX：522 件） <ul style="list-style-type: none"> ・開国博 Y150 会場運営ボランティア 607 名 ・ヒルサイド市民創発 26 名 ・ベイサイド市民協働 56 名 ・横浜 FUNE プロジェクト 31 名 ・横濱・開港キャンドルカフェ 150 18 名 ・DO-RA-MA YOKOHAMA 150 80 名 ・ヴィジョン！ヨコハマ 84 名 ・横浜のイベントをエコにするネットワーク 0 名 ・道志村間伐材・横浜の枝プロジェクト 4 名 ・地域 SNS「ハマっち！」 6 名 ・その他・無回答 20 名
調査実施	横浜市開港 150 周年・創造都市事業本部

⑥市民参加プロジェクト参加者グループインタビュー

調査方法	フォーカスグループインタビュー
調査期間	2009年9月7日(月) 19:00~21:00 横浜市開港記念会館
参加者	8名 <ul style="list-style-type: none"> ・ベイサイド市民協催(女性・大学生) ・ヒルサイド市民創発(男性・会社員) ・ヒルサイド市民創発(女性・フリーライター) ・ヴィジョン!ヨコハマ(女性・俳優) ・ヴィジョン!ヨコハマ(男性) ・横浜FUNESプロジェクト(男性・会社員) ・横浜FUNESプロジェクト(女性・学生) ・DO-RA-MA YOKOHAMA(女性・主婦)
調査実施	横浜市開港150周年・創造都市事業本部

⑦よこはま大学開港塾アンケート

調査方法	会場調査																								
調査期間	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>第3回</td> <td>桐蔭横浜大学</td> <td>9月12日(土)</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>神奈川大学</td> <td>10月3日(土)</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>神奈川大学</td> <td>10月4日(日)</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>横浜国立大学</td> <td>10月8日(木)</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>東京都市大学</td> <td>10月17日(土)</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>横浜商科大学</td> <td>10月31日(土)</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>フェリス女子学院大学</td> <td>11月16日(月)</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>横浜市立大学</td> <td>11月23日(月・祝)</td> </tr> </table>	第3回	桐蔭横浜大学	9月12日(土)	第4回	神奈川大学	10月3日(土)	第5回	神奈川大学	10月4日(日)	第6回	横浜国立大学	10月8日(木)	第7回	東京都市大学	10月17日(土)	第8回	横浜商科大学	10月31日(土)	第9回	フェリス女子学院大学	11月16日(月)	第10回	横浜市立大学	11月23日(月・祝)
第3回	桐蔭横浜大学	9月12日(土)																							
第4回	神奈川大学	10月3日(土)																							
第5回	神奈川大学	10月4日(日)																							
第6回	横浜国立大学	10月8日(木)																							
第7回	東京都市大学	10月17日(土)																							
第8回	横浜商科大学	10月31日(土)																							
第9回	フェリス女子学院大学	11月16日(月)																							
第10回	横浜市立大学	11月23日(月・祝)																							
サンプル数	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>第3回</td> <td>桐蔭横浜大学</td> <td>24名</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>神奈川大学</td> <td>45名</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>神奈川大学</td> <td>82名</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>横浜国立大学</td> <td>36名</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>東京都市大学</td> <td>105名</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>横浜商科大学</td> <td>26名</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>フェリス女子学院大学</td> <td>71名</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>横浜市立大学</td> <td>53名</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">(合計 442名)</p>	第3回	桐蔭横浜大学	24名	第4回	神奈川大学	45名	第5回	神奈川大学	82名	第6回	横浜国立大学	36名	第7回	東京都市大学	105名	第8回	横浜商科大学	26名	第9回	フェリス女子学院大学	71名	第10回	横浜市立大学	53名
第3回	桐蔭横浜大学	24名																							
第4回	神奈川大学	45名																							
第5回	神奈川大学	82名																							
第6回	横浜国立大学	36名																							
第7回	東京都市大学	105名																							
第8回	横浜商科大学	26名																							
第9回	フェリス女子学院大学	71名																							
第10回	横浜市立大学	53名																							
調査実施	横浜市開港150周年・創造都市事業本部																								

⑧ヨコハマeアンケート

調査方法	WEB 調査
調査期間	2009年10月14日(水)～10月28日(水)
サンプル数	eアンケートメンバー(登録者) 15歳以上の市内在住者 595名
調査実施	横浜市市民活力推進局

⑨横浜開港150周年に伴うイメージ調査

調査方法	WEB 調査
調査期間	①2009年3月6日(金)～3月11日(水) ②2009年10月2日(金)～10月7日(水)
サンプル数	16～69歳の男女(ネットモニター) ①関東除く全国403名 関東202名 横浜市601名 ②関東除く全国403名 関東404名 横浜市601名
備考	①、②いずれも人口統計に基づくサンプル割当てを行いました。 ②の全国(関東を含む)の集計については、関東のサンプル数(404名)を全国に対する人口比にあわせウェイトバック(×0.5)して集計しました。
調査実施	横浜市開港150周年・創造都市事業本部

(2)関連データ等

①主要ホテル稼働率データ（新聞記事）

主要ホテル低迷、5月、大阪、稼働率最低61%、東京も「採算割れ」。
2009/07/04, 日本経済新聞 朝刊, 11 ページ

ホテルの利用低迷が深刻だ。東阪の主要40ホテルの5月客室稼働率は東京が67・6%と採算ラインとされる70%を4カ月ぶりに割り込み、大阪は61・7%と近年で最低水準。外国人・ビジネス客離れが進み、大阪は「新型インフルエンザ」も響いた。ホテルオークラ東京（東京・港）などが50%を下回る一方、割安なネット販売に強い京王プラザホテル（同・新宿）は85%を維持、優劣が鮮明だ。値下げ競争も過熱し、客室単価も軒並み前年割れしている。

日本経済新聞社が東京22、大阪18の主要ホテル稼働率を調べた。稼働率は実際に宿泊した部屋を全客室数（改装中を含む）で割った数値で、一般に80%以上が健全経営の目安。70%を割ると、営業赤字に陥りやすいといわれる。東京の平均稼働率は前年同月に比べて6・2ポイント低下。大阪は前年比17・1ポイントも下がり、重症急性呼吸器症候群（SARS）が流行した近年最低の2003年5月の67・8%も大きく下回った。

外国人客が約4割を占めるホテルオークラ東京の稼働率は昨年12月から6カ月連続で前年比10ポイント以上下がった。「ゴールデンウィーク中は国内レジャー客が好調だったが、外国人客の減少を埋めきれない」（同社）

都内最大規模の1438室を持つ京王プラザは割安なネット販売が貢献した。全体の約2割を占めており、例えばツイン1万9000円（1室2人利用）からと正規の半額以下だ。

大阪のホテルの多くは外国人比率が1～3割と東京より低いため海外ビジネスマンの出張減少などの影響が小さく、稼働率の前年比下げ幅は4月まで1けただった。だが5月に関西を中心に新型インフルエンザ感染者が広がった影響で出張や修学旅行のキャンセルが相次いだ。クロスホテル大阪（大阪市）は稼働率が58・7%と前年比27・7ポイント下がり、「出張客も減り、経験したことのない落ち込み」と話す。

東阪の主要15ホテルの5月の客室単価も調べたところ、すべて前年を下回り、6ホテルの減少幅は10%を超えた。多くの客が低価格帯の部屋に流れているうえ、各ホテルが国内レジャー・家族客取り込みに向け、割安プランを競っているためだ。帝国ホテル東京（東京・千代田）はこのほど、バイキング形式の朝食を付けた宿泊プランを発売。価格は1室4人利用で4万8800円と通常より3、4割安い。

5月の訪日外国人数は前年比34%減った。業界では「ホテル需要の回復は来年以降」（帝国ホテルの小林哲也社長）との見方が多い。

【表】5月の主要ホテル客室稼働率と単価

単位は稼働率が%、客室単価が円。カッコ内は前年同月比ポイント

↓は低下、客室単価は%、▲は減

	稼働率	客室単価
▽東京		
○帝国ホテル東京	59.0 (↓19.1)	30,175 (▲3.8)
○ホテルオークラ東京	47.1 (↓13.5)	24,100 (▲4.7)
○ホテルメトロポリタン	69.6 (↓14.7)	13,102 (▲5.6)
○ロイヤルパークホテル	63.4 (↓12.7)	20,500 (▲6.8)
○パークハイアット東京	45.3 (↓18.2)	49,665 (▲11.7)
○第一ホテル東京	75.1 (↓10.9)	22,242 (▲8.3)
○セルリアンタワー東急ホテル	65.9 (↓13.6)	25,747 (▲10.1)
▽大阪		
○ホテル阪神	71.7 (↓13.5)	10,714 (▲3.8)
○天王寺都ホテル	59.8 (↓18.2)	10,278 (▲5.4)
○シェラトン都ホテル大阪	58.5 (↓13.4)	9,603 (▲10.3)

②2009年ゴールデンウィークの旅行者数データ

(表1) 2009年GWの旅行人数、平均旅行費用、旅行消費額

	2009年GW			2008年GW	
	推計値	前年比	前年増減	実績推計	発表値
総旅行人数	2,190.0万人	+3.0%	64.6万人	2,125.4万人	2,190.2万人
国内旅行人数	2,140.0万人	+2.9%	+60.0万人	2,080.0万人	2,144.4万人
海外旅行人数	50.0万人	+10.1%	+4.6万人	45.4万人	45.8万人
国内旅行平均費用	36,900円	▲5.6%	▲2,200円	39,100円	39,200円
海外旅行平均費用	216,800円	▲14.9%	▲37,900円	254,700円	254,700円
総旅行消費額	8,981億円	▲3.3%	▲308億円	9,289億円	9,573億円
国内旅行消費額	7,897億円	▲2.9%	▲236億円	8,133億円	8,406億円
海外旅行消費額	1,084億円	▲6.2%	▲72億円	1,156億円	1,167億円

- * 旅行人数は、延べ人数
- * 平均費用は一人1回あたりの費用
- * 国内旅行平均費用は、交通費・宿泊費・土産代・食費等の旅行中の諸費用を含む
- * 海外旅行平均費用は、旅行先での土産代等の現地支払費用は除く（燃油サーチャージは含む）
- * 文章中の（ ）内は、前年増減ポイントまたは前年増減比

出典： JTB ニュースリリース 2009 年第 43 号

http://www.jtbcorp.jp/scripts_hd/image_view.asp?menu=news&id=00001&news_no=1079

(3)開国博 Y150 関連資料

① 開国博 Y150 会場計画の変遷

ア. 基本計画（平成 18 年 6 月 2 日・横浜市）

- ・ベイサイドステージ（臨港部）
会場想定：みなとみらい地区、日本大通り、大さん橋・象の鼻地区、
山下公園などの臨港エリア
- ・ヒルサイドステージ（丘側）
会場想定：ズーラシア未整備地区(アフリカサバンナ予定ゾーン)など

イ 実施計画（平成 19 年 5 月 22 日・横浜市）

- ・テームステージ : ①みなとみらい 21 新港地区 8 街区
- ・ベイサイドステージ : ①パシフィコ横浜展示ホール、②赤レンガ倉庫イベント広場、
③大さん橋ホール
- ・特別エリア : ①横浜駅周辺から山手地区までのエリア（マザーポートエリア）
- ・ヒルサイドステージ : ①横浜動物の森公園(ズーラシア未整備地区)

ウ 実施設計概要発表時（平成 19 年 10 月 11 日・横浜開港 150 周年協会）

- ・ベイサイドエリア : ①新港地区 8 街区、②赤レンガ倉庫、③象の鼻地区、
④大さん橋ホール、⑤新港会場、⑥海上会場
- ・マザーポートエリア : ①横浜駅周辺～山下・山手地区
- ・ヒルサイドエリア : ①横浜動物の森公園(ズーラシア未整備地区)

エ 実施設計（平成 20 年 3 月 31 日・横浜開港 150 周年協会）

- ・ベイサイドエリア :
有料会場／①新港 8 街区、② 7 街区、③新港ふ頭施設
周遊会場／①赤レンガ倉庫、②象の鼻地区、③大さん橋ホール、④山下公園
- ・マザーポートエリア
- ・ヒルサイドエリア : 横浜動物の森公園(ズーラシア未整備地区)

② 開国博Y150企画内容の変遷

	実施計画プロポーザル提案 【平成18年11月】	実施計画 【平成19年5月】	実施設計プロポーザル提案 【平成19年7月】
来場者数	(公募条件 集客目標 ベイサイド300~350万人、 ヒルサイド50万人に対して) ベイサイド:動員目標450万人~550万人 (博報堂JV提案) ヒルサイド:動員目標:50万人 (ADK提案)	集客目標:500万人以上 (関連イベントを含む)	(公募条件 予測入場者数ベイサイド350万人、 ヒルサイド50万人に対して) ベイサイド:想定来場者数 約470万人(博報堂JV提案) ヒルサイド:予想入場者数 約50万人(ADK提案)
ベイサイド			
会期	4月25日~9月6日(135日間) 展示ホールのみ6月8日~9月4日 (89日間)	5月1日~9月27日(150日間) *コンテンツにより期間が異なる	4月29日~9月27日(152日間) *コンテンツにより期間が異なる
8街区	【横浜開港記念村】 ・横浜開港記念村ストリート ・開港150ハーバーステージ ・開港150周年オフィシャル グローバルテラス ・THE横濱座	・情報発信・歴史コンセプトを体感する エンターテインメント演出 ・フューチャーセイル150 ・交流&レスト、ワークショップ ・ホスピタリティ	・バーチャルシアター (浦沢直樹×手塚治虫) ・歴史ミュージアム ・フューチャーセイル ・メディアサテライトスタジオ ・ステージ ・ホスピタリティ
赤レンガ		・国際交流・港町イベント ワールドハーバーマーケット 世界港伝統芸能ステージ ・スポーツ系ミュージアム、スクール等 ・横浜音楽館(ライブハウス)	・ワールドポートマーケット(5月~) ・ナショナルポートステージ(5月~) ・ドリームアカデミー・オブ・スポーツ (7月~8月) ・ライブコンプレックス(6月)
大さん橋 ホール	【横浜クリエイティブ・アクト】 ・横浜ポセイドンシアター ・横浜ワールドクリエイターズ・ ワークショップ ・横浜アンデパンダン・パーティー ・横浜コンテンツポート ・横浜ナイトファンタジア ・横浜Artレストラン	・キッズ系イベント(体験学習型展示) ・環境系イベント(健康、バイオ、ハイテク 等テーマの企業参加型企画)	・キッズ・アドベンチャー (7月~9月上旬) ・アートプロムナード(5月~6月)
象の鼻	なし	なし	なし
新港会場	なし	なし	なし
海上会場	なし	なし	・ミュージック・エイド・コンサート (7月4日・5日)
7街区	なし	なし	なし
山下公園	なし	なし	なし
マザーポート エリア	なし	特別エリア	・携帯ナビゲーション ・エコバス回遊ツアー ・市民メッセージベンチ
パシフィコ 展示ホールC	【横浜芸術フェスティバル】 ・横浜アジア映画祭(14日間) ・横浜アジア音楽祭(3日間) ・YOKOHAMA GIRLS COLLECTION(7日間) ・シルク・ド・ヨコハマ(40日間)	・アート系イベント アート作品展、新進作家紹介等	・エコロジー・エンジン・エキシビジョン (6月~8月)
パシフィコ 展示ホールD		なし	なし
ヒルサイド			
会期	6月2日~9月27日(118日間)	7月4日~9月27日(75日間) (ズーラシア休園日は休業)	7月4日~9月27日(75日間) (ズーラシア休園日は休業)
内容	・テーマエンターテインメント ・シンポジウム、ダイアログ、 コンサート等 ・市民参加展示・ワークショップ	・竹の海原 ・市民創発イベント ・エンターテインメントショー ・デイリートーク&パフォーマンスショー	・竹の海原 ・市民創発イベント ・エンターテインメントショー ・デイリートーク&パフォーマンスショー

	平成19年10月11日発表 (600日前)	平成20年実施設計 【平成20年3月末】
来場者数	有料入場者数(予定):500万人	有料入場者数(予定):500万人
ベイサイド		
会期	4月28日～9月27日(153日間) * 赤レンガ5/9～、象の鼻6/2～	4月28日～9月27日(153日間) 象の鼻6/2～
8街区	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜物語(展示・シアター) ・文化交流ステージ ・森を使ったテーマ展示 ・ホスピタリティ ・大型スクリーン 	<ul style="list-style-type: none"> ・よこはま物語(展示・シアター) ・横浜企業の展示&出店 ・ラ・マシーンの展示&ショー ・ホスピタリティ
赤レンガ	<ul style="list-style-type: none"> ・ペリー饗応の間&ポーハタン号甲板の再現と接遇料理の提供(5月～) ・多文化国際交流ゾーン(5月～) 	<ul style="list-style-type: none"> ・5カ国・5都市等バザール(5月～) ・都市交流イベント ・オフィシャルショップ
大さん橋ホール	<ul style="list-style-type: none"> ・海洋都市Yシアター 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民参加イベント ・FUNEプロジェクト ・区民イベント
象の鼻	<ul style="list-style-type: none"> ・ステージイベント(6月～) 	<ul style="list-style-type: none"> ・アートワーク展示 ・トリックアート ・ホスピタリティスペース
新港会場	<ul style="list-style-type: none"> ・最先端映像シアター ・子どもエデュケーション企画 	<ul style="list-style-type: none"> ・最先端映像シアター ・子どもエデュケーション企画(企業出展)
海上会場	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマカフェ ・ライトアップ演出 	なし
7街区	なし	<ul style="list-style-type: none"> ・未来シアター(海洋都市Yシアター) ・アースバルーン ・ステージイベント
山下公園	なし	<ul style="list-style-type: none"> ・氷川丸との連携 ・黒船来航
マザーポートエリア	<ul style="list-style-type: none"> ・地域イベントとの連携 ・市民参加による回遊ルートマップの作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域イベントとの連携 ・市民参加による回遊ルートマップの作成
パシフィコ展示ホールC	なし	なし
パシフィコ展示ホールD	なし	なし
ヒルサイド		
会期	7月4日～9月27日 (日数記載なし)	7月4日～9月27日(86日間) (ズーラシア休園日も開催)
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・竹の海原 ・市民創発イベント ・エンターテイメントショー ・デイリートーク&パフォーマンスショー 	<ul style="list-style-type: none"> ・竹の海原 ・市民創発イベント ・集客コンテンツ

※グレーの網掛は周遊会場
※最終的に有料4会場、周遊4会場としました。

(4) 横浜開港150周年記念事業のあゆみ

年 月 日		出 来 事
平成15年	11月20日	近代日本開国・横浜開港150周年記念事業推進協議会設立
平成16年	2月17日	近代日本開国・横浜開港150周年記念事業推進協議会が開港150周年記念事業ロゴマーク制定
	4月3日	日米交流150周年記念式典開催
	6月2日	横浜市、開港150周年記念事業推進庁内プロジェクト設置
平成17年	1月6日	横浜開港150周年～市政120周年～基本ビジョン(素案)発表
	1月18日～3月18日	横浜開港150周年～市政120周年～基本ビジョン(素案)に対する市民アイデア・意見募集(8,155人から、14,493件の意見応募)
	1月26日	横浜開港150周年イベント創造プラットフォーム運営準備会設立(のちにY150市民参加プラットフォーム推進委員会へ移行)
	6月2日	横浜開港150周年～市政120周年～基本ビジョン策定
	7月8日	横浜市、庁内調整会議「第1回横浜開港150周年記念事業推進会議」開催
平成18年	1月6日	横浜開港150周年～市政120周年～基本計画(中間とりまとめ)発表
	1月20日～3月20日	横浜開港150周年～市政120周年～基本計画(中間とりまとめ)に対する市民意見募集(7,510人から22,198件の意見応募)
	4月1日	横浜市開港150周年・創造都市事業本部設置
	4月28日	近代日本開国・横浜開港150周年記念事業推進協議会が横浜開港150周年推進協議会へ改組
	6月2日	横浜開港150周年～市政120周年～基本計画策定
	9月6日	1,000日前イベント開催 横浜開港150周年記念イベントプロデューサー就任発表 宮本亜門<横浜開港150周年記念式典> 日比野克彦<記念イベント・ベイサイドエリア> 小川巧<記念イベント・ヒルサイドエリア>
	12月	「横浜市中期計画」に「横浜開港150周年記念式典及び記念イベント」の開催について掲載
平成19年	2月27日	財団法人横浜開港150周年協会設立
	5月22日	横浜開港150周年記念コアイベント実施計画策定
	6月2日	記念コアイベント FUNEプロジェクト キックオフイベント「HIBINO CUP YOKOHAMA」開催
	6月～7月	記念コアイベント ヒルサイドステージ 公募市民が市民参加テーマを検討する「市民ダイアログ」実施
	9月21日	横浜開港150周年記念式典実行委員会設立
	10月11日	横浜開港150周年記念テーマイベント「開国・開港Y+150」概要発表(テーマイベントの名称、イベントロゴタイプの決定、開催概要等)
	10月11日～10月13日	600日前カウントダウンイベント開催
	10月25日	公募により横浜開港150周年記念事業マスコットキャラクターのデザイン決定
平成20年	1月16日	公募により横浜開港150周年記念事業マスコットキャラクターの愛称が「たねまる」に決定 横浜開港150周年記念テーマイベント「開国・開港Y150」概要発表
	1月19日	500日前カウントダウンイベント開催 横浜開港150周年記念事業マスコットキャラクターのデザイン、愛称の表彰式と市民へのお披露目 市民創発プロジェクト開始(創発メンバー 308人)
	2月1日～3月24日	横浜開港150周年記念 宮本亜門作・演出オリジナルショー意見募集(12,710件の意見応募)
	4月26日～5月6日	「Y150」開幕1年前WEEK開催
	5月28日	横浜開港150周年記念テーマイベント「開国・開港Y150」概要発表
	5月28日～5月30日	第4回アフリカ開発会議横浜開催
	6月2日	横浜開港150周年記念テーマイベント「開国・開港Y150」前売り入場券販売開始
	6月14日～6月22日	ポート・タウン・フェスティバル～開港5都市 出航前夜祭～開催
	7月5日～7月6日	Y150つながりの森プレイイベント開催
	7月18日	横浜市、全庁的推進組織「横浜開港150周年記念事業推進本部」設置
	7月24日～9月30日	横浜開港150周年記念 宮本亜門作・演出オリジナルショー出演者募集(500人募集に対し1,478人が応募)
	9月11日～11月30日	黄金町バザール開催
	9月13日～11月30日	横浜トリエンナーレ2008開催
	10月～12月	Y150つながりの森「竹の海原」制作プロジェクト実施
	11月28日	横浜開港150周年記念テーマイベントの愛称「開国博Y150」発表

年 月 日	出 来 事
平成21年	
2月5日	横浜開港150周年記念テーマイベント「開国博Y150」コンテンツの詳細発表
3月9日	横浜開港150周年記念テーマソング「みらい」完成発表
4月17日～4月19日	巨大スペクタクルアート劇団「ラ・マシ」による開国博Y150プレイベント開催
4月18日～4月19日	ヨコハマ大道芸、みなとみらい21大道芸開催
4月19日	第20回全国「みどりの愛護」のつどい開催
4月24日	日本丸メモリアルパークリニューアルオープン
4月25日～4月26日	野毛大道芸開催
4月28日～5月5日	H.I.S. 2009年世界卓球選手権横浜大会開催
4月28日～9月27日	「開国博Y150」ベイサイドエリア開催
4月28日～9月27日	「開国博Y150」開催にあわせ、市民が贈る巨大花時計「花時計プロジェクト」、横浜ボランティアガイド協議会「ヨコハマまち歩き150」、「マザーポートクリーンアップ作戦」等実施
5月2日～5月4日	日本大通りフラワーアートフェスティバル開催
5月3日	ザよこはまパレード(国際仮装行列)開催
5月9日～6月21日	横浜18区紹介デー開催
5月23日	横浜マリニタワーグランドオープン
5月31日	横浜開港150周年記念式典開催、宮本亜門作・演出オリジナルショー「ヴィジョン！ヨコハマ」上演
6月1日～6月2日	横浜開港祭開催
6月1日～8月31日	横浜・神奈川デスティネーションキャンペーン実施
6月2日	象の鼻パークオープン
6月2日	横浜開港150周年記念副読本「わたしたちの横浜」(小学生用)、「わかるヨコハマ」(中学生用)発行
6月27日～9月23日	海のエジプト展開催
7月4日～9月27日	「開国博Y150」ヒルサイドエリア開催
7月18日～26日	海フェスタよこはま開催
8月7日	アメリカ山公園一部開園
8月8日～10月3日	マザーポート・アート・フェスティバル開催
8月21日～8月23日	2009トライアスロン世界選手権シリーズ横浜大会・世界キッズトライアスロン大会・世界こどもスポーツサミットin横浜開催
8月29日～8月30日	DO-RA-MA YOKOHAMA 150 「ファイナル・メガ・パフォーマンス」開催
9月4日～9月6日	横浜クリエイティブシティ国際会議2009開催
9月11日	横浜市歌制定100周年スペシャルライブ開催
9月11日～9月13日	開港5都市景観まちづくり会議2009横浜大会開催
9月26日～9月27日	「開国博Y150」閉幕・フィナーレイベント開催
10月31日～11月29日	ヨコハマ国際映像祭2009開催
12月12日	横浜開港150周年記念コンサート開催
12月16日～12月19日	SIGGRAPH ASIA 2009開催